

公第11卷 (通算第22卷)



公益財団法人日本生命済生会
日本生命病院年報
2022年4月～2023年3月

vol. 11

2022年度 日本生命病院年報の発刊にあたって



院長 立花 功

2022年度版年報(公第11巻：2022年4月～2023年4月)をお届けします。

新型コロナウイルス感染症は2022年度も第6～8波が周期的に感染拡大し、当院の診療体制は大きく影響を受けました。第7波では感染や濃厚接触が相次いだため最大で職員の1割が欠勤し、一部診療を制限せざるをえない状況に落ち入りました。第8波では大阪市からの要請を受け、西区の他病院と協力して日曜・祝日の発熱外来を実施しました。昨年度同様、一部の病棟をコロナ専用とし、1階の「あったかふれあいホール」を臨時外来に転用するなど、全職員が力を合わせて感染拡大期を乗り切りました。

コロナ対応の一方で、診療機能の向上にも継続して取り組みました。ニッセイ予防医学センターのドック等で「要精査」となった受診者の精査・治療を効率的に行うため、予防診療科を立ち上げました。がん放射線治療の計画装置を更新し、より多くの高精度放射線治療を行えるようになり、照射件数が増加しました。手術支援ロボット「ダヴィンチ」の対象を、産婦人科、泌尿器科に加え、消化器外科の結腸悪性腫瘍手術に拡大しました。ジャパンインターナショナルホスピタルズ(JIH)推奨病院の更新認証を取得し、日本語でのコミュニケーションに制限がある方のために、ビデオ通訳を導入しました。地域医療総合窓口「あったかサポートセンター」に看護師を配置し対応を迅速化し、紹介患者数が増加しました。

日本生命済生会は「済生利民」(生命や生活を救済し人々のお役に立つこと)を理念とし、時代のスピード・環境の変化に適応して地域・社会に貢献することを目標に掲げています。引き続き日本生命病院へのご理解とご支援をお願い申し上げます。

目 次

2022年度日本生命病院年報の発刊にあたって 院長 立花 功

第I章 軌跡

1. 日本生命病院理念と基本方針	4
2. 患者さんの権利と義務について	4
3. 施設概要	6
4. 学会認定状況	8
5. 主要医療機器	9
6. 日本生命済生会 組織図	10
7. 会議・委員会	11
8. 2022年度 業績概要	12
9. 日本生命済生会（日本生命病院）の沿革	13
10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日本生命病院歴代院長	16

第II章 病院統計

1. 全体統計	17
1) 一日平均外来患者数	17
2) 一日平均入院患者数	18
3) 患者年齢・診療圏構成	19
4) 病床稼働率	21
5) 救急患者数	22
6) 退院患者医療評価指標	23
①退院患者統計	23
②診療科別・月別・患者数	24
③診療科別・在院期間別・患者数	25
④疾病統計	26
⑤悪性新生物統計	28
⑥診療科別・月別・死亡（剖検）患者数	29
7) 手術件数	30
①診療科別・月別手術件数（手術室実施）	30
②診療科別・年間手術件数（総件数のうち、上位のみ）	31
2. 医事統計	34
1) 診療科別医療収入	34
2) 医療行為別医療収入	36
①外来	36
②入院	37
3. その他統計	38
1) 病院従業員数	38
2) セカンドオピニオン外来件数	38

第III章 部門別概要〈診療科・センター・部(室)〉

循環器内科	39
消化器内科	41
内分泌・代謝内科	43
呼吸器・免疫内科	45
血液・化学療法内科	47
脳神経内科	49
腎臓内科	51
消化器外科	53
呼吸器外科	55
乳腺外科	56

心臓血管外科	57
産婦人科	58
小児科	61
神経科・精神科	63
脳神経外科	66
整形外科	67
皮膚科	69
泌尿器科	72
眼科	74
耳鼻咽喉・頭頸部外科	75
形成再建外科	77
放射線診断・IVR科	78
放射線治療科	79
麻酔・緩和医療科	80
リハビリテーション科	82
救急総合診療科	84
検査診断科	85
病理診断科	86
予防診療科	87
救急総合診療センター	88
がん治療センター	89
女性骨盤底センター	90
糖尿病・内分泌センター	91
消化器内視鏡センター	93
血液浄化センター	94
脳機能センター	95
乾癬センター	97
臨床研修部	99
輸血管理室	100
化学療法室	101
リハビリテーション室	102
中央手術管理部	106
中央臨床検査部	107
中央放射線部	109
栄養管理室	110
薬剤部	113
臨床工学室	116
臨床研究管理室	117
医療安全対策室	118
感染対策室	119
あったかサポートセンター	121
ニッセイ訪問看護ステーション	130
ニッセイケアプランセンター	132
看護部	133
国際室	139
ニッセイ予防医学センター	141

第IV章 諸活動

1. 日本生命病院医学セミナーUpdate	143
2. 1年目研修医オリエンテーション	144
3. 実習生等受け入れ	145
4. 講演会・研修会	146
5. 日本生命病院医学賞・医学奨励賞	150
6. 地域活動	150
7. ボランティアについて	151
8. 広報関係(テレビ、雑誌等)	152
9. 院内行事	153

1. 日本生命病院理念と基本方針

理念

日本生命病院は公益財団法人日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者さんの立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 地域・社会のニーズに対応した変革を進め、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 地域から愛され信頼される、安全・安心な病院を目指します。
7. 上記6項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

2. 患者さんの権利と義務について

《患者さんの権利》

医療は患者さんと医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合って作り上げていくものです。日本生命病院では、患者さん中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者さんの権利を大切にします。

1. 患者さんは、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者さんは、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者さんは、十分な説明と情報提供を受けたうえで治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者さんは、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者さんは、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

《患者さんの義務》

日本生命病院では、ご来院・ご入院されるすべての患者さんに対し、安全・安心な環境において、良質な医療サービスを提供します。患者さんにおかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いします。

1. 患者さんには、自らの過去の病歴を含む健康に関する詳細な情報、診療中の変化を正確に伝える義務があります。
2. 患者さんには、治療や検査などの治療方針について、医療者から説明があった場合は、できるだけ明確な意思表示をする義務があります。
3. 患者さんには、医療が安全かつ効果的に実施されるよう、患者さんのご本人確認を含めた診療行為に積極的に参加し、協力する義務があります。
4. 患者さんには、病院内では、当院の規則および公共の場のルールを守って他の方の迷惑にならないよう行動する義務があります。
5. 患者さんには、医療費を支払う義務があります。
6. 患者さんには、医療は医学、社会、経済、倫理等の様々な要因により限界があることを認識する義務があります。

2019年4月 制定

3. 施設概要

1. 名称 公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院
2. 所在地 大阪府大阪市西区江之子島2丁目1番54号
3. 竣工年月日 2018年1月5日
工事期間 2015年10月～2017年12月
4. 開設年月日 2018年4月30日
5. 構造 鉄骨造（免震構造）
6. 延床面積 38,185.66㎡
7. 階数 地下1階、地上14階、塔屋2階
8. 高さ 67.99m
9. 設備概要 受変電：22kV特高スポットネットワーク受電（TR1.250kVA×3台）
発電機：非常用発電機（ガスタービン）高圧 1,500kVA
常用発電機（マイクロCGS）低圧 31kVA×10台
無停電電源：医療用100kVA、情報用100kVA
通信・信号：ナースコール、インターホン、テレビ共同受信、監視カメラ、入退室管理、
電話、LAN
熱源方式：ジェネリンク機、モジュールチラー、マイクロコージェネ
空調方式：空調機、ファンコイル、空冷パッケージエアコン、（放射空調）
給湯設備：ガス給湯ヒーター、ガス連結式瞬間型給湯器、貯湯式電気温水器
消火設備：スプリンクラー、連結送水管、泡消火、窒素ガス消火、フード消火
医療ガス：酸素、笑気、窒素、炭酸ガス、圧縮空気、吸引
エレベータ：一般乗用5台、寝台用1台、人荷用2台、非常用2台、小荷物専用3台
エスカレータ：6台
10. 許可病床数 350床

	14階 (1,604㎡)
	13階 (1,604㎡)
	12階 (1,604㎡)
一般病棟	11階 (1,604㎡)
	10階 (1,604㎡)
	9階 (1,611㎡)
	8階 (1,601㎡)
	7階 (1,859㎡)
女性病棟 (LDR室、新生児室)	
リハビリ庭園	リハビリテーション室／機械室／栄養管理室／厨房
	6階 (2,419㎡)
	5階 (3,577㎡)
	4階 (3,577㎡)
	3階 (3,577㎡)
	2階 (3,769㎡)
ニッセイ四季彩ガーデン	救急総合診療センター／リニアック治療室／訪問看護ステーション／ あったかふれあいホール／工房／コリドー／レストラン・カフェ／コンビニ
	1階 (3,534㎡)
	B1階 (3,811㎡)
	駐車場

- ・第8回みどりのまちづくり賞ランドスケープデザイン部門「大阪府知事賞」(最高賞) 受賞
- ・第39回大阪都市景観建築賞(愛称:大阪まちなみ賞)「緑化賞」 受賞



ニッセイ四季彩ガーデン



病院外観



コリドー

4. 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本循環器学会専門医研修施設
- ・高速回転式経皮経管アテレクトミー（Rotablator）施設認定
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本膵臓学会認定指導施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本超音波医学会専門医制度研修施設
- ・日本胆道学会指導施設
- ・日本内分泌学会認定教育施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本アレルギー学会専門医準教育施設
- ・日本血液学会血液研修施設
- ・日本血液学会専門研修認定施設
- ・日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本透析医学会認定医制度認定施設
- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
- ・日本呼吸器外科学会専門研修連携施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
- ・四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- ・日本ステントグラフト実施基準管理委員会
腹部ステントグラフト実施施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・日本産科婦人科学会専攻医指導施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術の関する委員会
ロボット支援下婦人科良性疾患手術実施施設
- ・日本産科婦人科学会腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る）登録施設
- ・日本精神神経学会専門医制度研修施設
- ・日本総合病院精神医学会
一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本皮膚科学会専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本形成外科学会専門医制度認定施設
- ・日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設
- ・日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
インプラント実施施設
- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医研修施設
- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・画像診断管理認証施設（MRI安全管理に関する事項）
- ・日本IVR学会専門医修練施設
- ・日本麻酔科学会認定病院
- ・日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本造血細胞移植学会
非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科）
- ・日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
- ・日本認知症学会専門医制度教育施設
- ・卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設
- ・日本国際ナショナルホスピタルズ

（2023年4月1日現在）

5. 主要医療機器 (取得金額1,000万円以上)

品名	設置部署	数量	品名	設置部署	数量
超音波内視鏡	消化器内視鏡センター	1	三次元放射線治療計画システム	中央放射線部	1
超音波内視鏡観測装置	消化器内視鏡センター	1	自動注射払出機 YS-APF	薬剤部	1
超音波診断装置 Aplio i600	予防医学センター	4	超音波診断装置 Aplio i600	中央臨床検査部	1
内視鏡本体・スコープ EVIS LUCERA ELITE	消化器内視鏡センター	6	超音波診断装置 超音波診断措置 ARIETTA850	中央臨床検査部	1
内視鏡本体・スコープ VP-7000	消化器内視鏡センター	1	血液検査分析器 HSトランスポートーション	中央臨床検査部	1
ステレオ定位乳腺バイオプシーシステム	乳腺外科	1	血液分析装置 XN-3000/XN-1000	中央臨床検査部	1
体外衝撃波結石破碎装置 Integra	泌尿器科	1	生化学分析装置 LABOSPECT008 a	中央臨床検査部	2
マルチカラーレーザー光凝固装置	眼科	1	微生物分類同定分析装置 バイテックMS	中央臨床検査部	1
走査型超広角眼底撮影装置 CLARUS	眼科	1	遠心型血液成分分離装置 スペクトラオプティア	中央臨床検査部	1
光干渉断層計 (OCT) シラスhd-oct prus	眼科	2	自動染色装置 ベンチマークULTRA	中央臨床検査部	1
キャビン型紫外線治療器 UV7002K-TL01	皮膚科	1	自動検体搬送装置 IDS-CLAS+X-1	中央臨床検査部	1
X線一般撮影装置	中央放射線部・予防医学センター	4	採血管準備装置 BC・ROBO8001RFID/P62T	中央臨床検査部	1
デジタルX線TVシステム	予防医学センター	5	眼科用手術顕微鏡	手術室	1
ポータブル撮影装置	中央放射線部	2	白内障手術装置 センチュリオンビジョンシステム	手術室	1
16列治療計画用CT Aquilion LB	中央放射線部	1	高圧蒸気滅菌器	手術室	2
320列全身用X線CT診断装置 Aquilion ONE	中央放射線部	1	過酸化水素ガス滅菌装置	手術室	1
320列全身用X線CT診断装置 Aquilion ONE/Genesis	中央放射線部	1	耳鼻咽喉・頭頸部外科用手術顕微鏡 M525 F40	手術室	1
放射線治療システム True Beam	中央放射線部	1	手術顕微鏡 OPMI LUMERA	手術室	1
大動脈内バルーンポンプ IABP	中央放射線部	1	手術室用FD搭載Cアーム Cios Alpha iV	手術室	1
X線テレビジョンシステム ZEXIRA	中央放射線部	1	手術室用X線透視診断装置 CALNEO CROSS	手術室	1
経皮の心肺補助装置 PCPS	中央放射線部	1	透視下内視鏡用Cアーム VersiFlex VISTA	手術室	1
1.5テスラ全身用磁気共鳴装置 (MRI) MAGNETOM SYMPHONY	中央放射線部	1	ライカ脳神経外科手術顕微鏡 M530-OHX	手術室	1
3.0テスラ磁気共鳴断層装置 (MRI) MAGNETOM Skyra	中央放射線部	1	超音波手術装置 CUSA C37-1005	手術室	1
デジタルガンマカメラ	中央放射線部	1	超音波診断装置 Aplio i600	手術室	1
PET-CT装置 Discovery IQ.e	中央放射線部	1	ロボット手術システム da Vinci Xi	手術室	1
心臓用アンギオグラフィ装置 Allura Clarity FD10/10	中央放射線部	1	腹腔鏡装置 VISERA ELITE II	手術室	6
汎用アンギオグラフィ装置 Allura Clarity FD20	中央放射線部	1	ストライカーナビゲーションNAV3i プラットホーム	手術室	1
マンモグラフィシステム AMULET	中央放射線部	2			

7. 会議・委員会

会 議

・常勤理事会

理事長所管の下、常勤の理事以上がメンバーとなり、原則として毎週開催し、済生会3部門（病院、予防医学センター、訪問看護ステーション・ケアプランセンター）の基本的運営方針を協議決定する。

この他、会長や外部の理事、監事を交えた定時理事会がある。

・予算理事会 → 3月

・決算理事会 → 事業年度終了後3ヵ月以内に開催される

また評議員会が6月に開催される。

・病院運営会議

理事長の委嘱により院長が主宰し、病院幹部をメンバーとして毎週開催され、日常的な病院運営のテーマについて討議・決定する。

ただし、予算・人員・規則の問題などに関しては、常勤理事会に付議する。

・病院管理診療会議

院長を中心に、病院各科・各部の部長・担当部長、病棟師長以上等をメンバーとし、診療や病院運営に関する事項について協議、意見交換、連絡を行う。

（運営会議、病院管理診療会議ともそれぞれが独立して存在するのではなく、所定の内規の下に、課題を共有し改善を分担してより良く病院機能が発揮されることを基本的精神としている。）

委員会

各種委員会は、理事長または理事長の委嘱を受けた院長の諮問機関として、検討結果を理事会・病院運営会議に答申している。

当年度の設置委員会は次の通り。

委員会名	委員長	開催回数	委員会名	委員長	開催回数
ACLS委員会	中川 厚	11	診療録管理委員会	橋本奈美子	11
安全衛生委員会	芳川 浩男	12	治験審査委員会	東山 真里	12
医療安全管理委員会	岸 正司	12	DPC・質向上委員会	鶴藺浩一郎	4
医療ガス安全管理委員会	小泉 敏三	1	当直・救急・集中治療室検討委員会	岸 正司	6
医療機器・ディスポ検討委員会	立花 功	6	透析機器安全管理委員会	宇津 貴	2
医療従事者業務検討委員会	立花 功	2	日本生命病院医学顕彰委員会	橋本久仁彦	3
院内感染対策委員会	西垣 敏紀	12	年報作成委員会	花田 留美	1
栄養・給食委員会	橋本久仁彦	7	病院機能向上委員会	宇津 貴	2
化学療法運営委員会	西田 幸弘	2	防災管理委員会	有坂 好史	4
教育委員会	橋本久仁彦	4	放射線安全および医療放射線安全委員会	丸岡真太郎	1
クリティカルパス委員会	垣本 健一	2	訪問看護運営委員会	二艘舟浩子	1
研修推進委員会	宇都 佳彦	3	薬事管理委員会	立花 功	4
研修管理委員会	立花 功	3	輸血療法委員会	川上 学	7
情報管理委員会	西原 俊作	5	臨床検査適正化委員会	岡部 太一	4
褥瘡対策委員会	大島 遥	3	臨床工学室運営委員会	宇津 貴	6
診療情報提供委員会	高橋 励	0	倫理委員会	水野 均	11

8. 2022年度 業績概要

総収入	13,172百万円 (12,190百万円*)		
新入院患者数	8,968人	平均在院日数	10.3日
入院患者数(1日平均)	278人	入院単価	71,812円
病床稼働率	79.6%		
外来延患者数	239,715人	外来単価	17,901円
外来患者数(1日平均)	982人		
紹介率	90.1%	逆紹介率	88.1%

* ()内は病院単独

9. 日本生命済生会(日本生命病院)の沿革

1924年 7月	財団法人「日本生命済生会」設立	1973 4	放射線学会「専門医修練機関」認定
1925 4	健康相談所(無料診療所)を開設 大地震に救護班派遣	1973 9	病歴図書部を新設
1930 6	緒方病院の土地、建物を譲り受け (大阪市西区新町)	1973 10	超音波検査部「超音波カラー診断装置」 開発で機械振興会賞を受賞
1931 6	日生病院(内科、外科、理学的診療科)開院	1974 7	創立50周年記念式典、50年史の編纂 (1979年発刊)
1932 4	看護婦養成所を設立	1976 1	RI検査室を新設
1932 7	産婦人科、小児科を新設	1978 3	「(新)病院建築基本構想委員会」設置
1942 1	耳鼻咽喉科を新設	1978 4	学校、高等看護学院から看護専門学校へ昇格
1947 1	眼科新設(その後皮膚泌尿器科、歯科、 整形外科新設)	1979 4	医療事務をコンピュータ化
1947 4	インターン制度の開始 (第1期生9名受入れ)	1982 4	新病院(現在地)の竣工、開院
1948 9	健康保険、労災保険病院の指定を受ける	1983 3	日本生命と第一回特別委員会 (5カ年計画策定)
1949 7	結核病棟を設置(1973年8月、閉鎖)	1984 3	全科で午後外来診療を開始
1955 12	第二種社会福祉事業(無料低額診療)を開始	1984 4	社会事業局を福祉事業部に改組
1956 1	日生病院、本館、別館につづき新館竣工 (350床へ)	1985 4	病理部を再設置
1956 6	健康精密検査室(人間ドック)を開設	1987 12	HBS社(医療経営コンサルト)の診断を 受ける
1957 8	総合病院の認可を受ける	1988 10	横井先生、第5回世界超音波医学学術連合 会議からパイオニア賞を受賞
1958 4	済生会組織、三部門体制へ (現行体制スタート)	1989 2	夕食を午後6時配膳
1958 10	甲表採用、三基準認可	1989 10	専門外来(10科)開始
1959 10	神経科新設	1989 11	自動再診受付機を設置
1960 4	学校、准看護学院から高等看護学院 (正看護婦養成)へ	1990 10	学校、創立30周年記念式典
1961 6	日本生命済生会労働組合の結成	1991 4	4週6休体制試行開始
1965 8	各診療科に部長制採用	1991 10	地域の「健康講座」に講師派遣
1967 10	中央検査室を「臨床検査センター」へ 拡大、充実	1992 6	外科、世界内視鏡外科学会で受賞
1968 8	第1回「社会福祉カウンセリング講座」開講	1993 2	「病院運営会議」を再開
1969 4	沖中重雄氏(虎の門病院長)を顧問委嘱	1993 4	MRIの稼働開始
1970 9	第1回「篤志解剖者慰霊祭」執行	1993 6	全病棟「特Ⅲ類基準看護」の資格獲得
1971 4	給与体系、退職金規定改正、60才定年制施行	1993 10	内科、産婦人科、人間ドックの外来領域 リフォーム工事完成
1972 4	臨床研修指定病院の認定を受ける	1994 3	内科外来等で予約診療開始
1973 2	「日生病院医学雑誌」第1巻第1号を刊行	1994 7	創立70周年記念式典、諸行事実施 (7~11月)、70年史の編纂開始
1973 3	紀要「地域福祉研究」第1集刊	1994 10	脳ドック検診開始
		1994 10	新看護体系「2:1(A)」の承認

1994	11	無菌治療室設置、使用開始	2007	11	がん治療センター、低侵襲医療センター開設
1995	2	保温保冷配膳車導入	2008	4	ニッセイ総合健診クリニックオープン
1995	8	日生医学賞・医学奨励賞創設、 第1回表彰式実施	2008	7	生活習慣病センター開設
1995	8	山本前院長、和漢医薬学会から学会賞受賞	2008	10	乳腺外科新設
1996	5	総合案内・看護相談の試行実施	2009	3	第1回日生病院市民公開講座開催
1996	10	「歯科口腔外科」標榜	2009	4	大阪府がん診療拠点病院に指定
1997	2	経営改善推進本部・部会の発足	2010	8	無料乳がん検診開始
1997	3	歯科臨床教育病院の新規指定	2011	4	消化器内視鏡センター開設
1997	3	疾病分類包括支払研究プロジェクト (医療経済研究機構)に選ばれ、参加 (全国17モデル病院)	2012	1	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子宮体 がん根治手術」(産婦人科)が承認される
1998	2	「日生病院だより」創刊号発行	2012	4	公益財団法人へ移行
1998	5	総合診療科機能発足	2012	4	地域医療総合窓口 あったかサポートセンター創設
1998	7・8	DRG/PPS分析結果報告会開催	2012	4	生活習慣病センターから糖尿病センターへ 組織名称変更
1998	11	院外処方箋発行開始	2012	4	厚生労働省より先進医療「前眼部三次元画 像解析」(眼科)が承認される
1998	11	薬剤管理指導料全科算定認可	2012	8	320列マルチスライスCT導入
1999	3	医療材料院外SPD(物品管理システム)始動	2013	4	新病院新設準備室の新設
1999	7	インフラ工事開始 (2000年4月:3階新病棟オープン)	2013	4	予防医学センターで「統合健診システム」 の稼働
2000	3	日生訪問看護ステーションを開設	2013	5	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下仙骨隆 固定術」(産婦人科)が承認される
2000	4	日生ケアプランセンター設置	2013	12	ニッセイ緑の財団との共催イベント「自然 に学ぶ!自然に遊ぶ!健康キッズ」開催
2001	4	病院機能評価認定証取得	2014	1	広報誌「日生病院あったかサポート通信 『Saisei Rimin(済生利民)』」を発刊
2001	4	「日生病院の理念」制定、 「患者様の権利」院内掲示	2014	1	「金融コンシェルジュ」相談窓口開設
2001	6	公開学術講演会開催 (講師:北村国立循環器病センター総長)	2014	4	「変革4ヵ年計画」がスタート
2001	7	第1回日生病院病診連携フォーラム開催	2014	4	病院業務改革推進本部、外来・病床運営管 理部、女性骨盤底センター、救急診療セン ター、中央放射線部、事務管理部の新設
2002	1	開放型病院資格取得	2014	4	日本産科婦人科内視鏡学会 施設認定
2003	4	医療安全対策室設置	2014	5	新電子カルテシステムが全面稼働
2003	4	予防医学センター設置	2014	7	日本生命済生会 創立90周年「90年小史」作成
2004	2	内科二次救急指定病院取得	2014	9	「ウィークエンド糖尿病精査入院」開始
2005	3	電子カルテシステム稼働	2015	1	日本呼吸器内視鏡学会 施設認定
2006	4	血液・化学療法内科新設	2015	4	中央手術管理部の新設
2006	7	DPC導入(入院医療費)	2015	6	胃がんのESD(内視鏡的粘膜下層剥離術) を再開
2007	2	土曜日閉院 4週8休制開始			
2007	3	7対1入院基本料算定開始			
2007	3	日生看護専門学校閉校			

2015	7	新病院開設許可受ける	2018	6	ダヴィンチによる手術開始
2015	9	休日診療の試験実施（9月23日、11月23日）	2018	10	みどりのまちづくり賞・大阪府知事賞を受賞
2015	10	新病院着工	2018	11	神経内科を脳神経内科に改組
2015	11	食道がんのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を再開	2018	12	「スマートフォン診察呼出アプリ」の運用開始
2016	1	呼吸器外科新設	2019	1	日本痔臓学会 施設認定
2016	3	日本産科婦人科学会の倫理委員会で承認された、不妊治療の臨床研究に係る卵巣ミトコンドリア採取手術を開始	2019	4	乾癬センターの新設、総合入院体制加算の算定開始、日本超音波医学会 施設認定
2016	4	耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科に改組	2019	5	大阪府「外国人患者受入地域拠点医療機関」に選定される
2016	4	内科統括・外科統括職制の新設	2019	10	国際室の新設
2016	6	日本総合病院精神医学会 施設認定	2020	1	「帰国者・接触者外来」の設置
2016	7	腎臓・透析センター、腎臓内科を新設	2020	3	JCEPの臨床研修評価を受審し認定を受ける
2016	7	「入退院支援センター」をあったかサポートセンター内に設置	2020	4	救急総合診療科の改組新設、「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」の認証を受ける
2016	10	日本大腸肛門病学会 施設認定	2020	7	アミロイドPET検査開始、「糖尿病予防プログラム」の有償サービス開始、日本造血細胞移植学会 施設認定
2016	11	日本消化管学会 施設認定	2020	12	10階病棟をコロナ専用として運用開始
2016	12	新病院上棟式	2021	3	「大阪市西区消防記念日表彰」（救急業務運営協力医療機関）を受ける
2017	3	日本胆道学会 施設認定	2021	4	日本肝臓学会、日本神経学会、日本認知症学会 施設認定
2017	4	形成再建外科、リハビリテーション科、心臓血管外科、放射線治療科を新設	2021	9	電子カルテシステム更新
2017	4	日本腎臓学会 施設認定	2021	10	総合内科を内分泌・代謝内科、呼吸器・免疫内科に改組
2017	5	日本婦人科腫瘍学会 施設認定	2022	1	あったかふれあいホールを「臨時外来」に転用し、発熱患者の診察やPCR検査を実施
2018	1	日本呼吸器外科学会 施設認定	2022	3	放射線治療システムを增強
2018	2	「地域医療支援病院」として大阪府より承認			
2018	4	日本ペインクリニック学会 施設認定			
2018	4	「日本生命病院」に改称し、江之子島へ移転・開院			

(2022年度沿革)

2022年4月1日	予防診療科の新設
2022年5月6日	化学療法室の増床
2022年11月1日	タブレット端末導入等による訪問看護システムのリニューアル
2022年11月28日	オンライン資格確認の運用開始
2022年12月17日	集中出版による「癒しと安らぎの環境賞2022」受賞
2023年3月29日	外来フロアの案内表示をリニューアル

10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日本生命病院歴代院長

設立時の常任理事	小河 滋次郎	1924年～1925年
日本生命済生会 会 長	弘世 現	1960年～1991年
	川瀬 源太郎	1991年～2000年
	小林 幹司	2000年～2005年
	宇野 郁夫	2005年～2016年
	岡本 圀衛	2016年～
日本生命済生会 理 事 長	手塚 太郎	1925年～1932年
	弘世 助太郎	1932年～1936年
	成瀬 達	1936年～1951年
	弘世 現	1951年～1960年
	若林 源蔵	1960年～1968年
	浜田 勝巳	1968年～1980年
	浅井 啓三	1980年～1986年
	鳥井 静夫	1986年～1992年
	弟子丸 兆生	1992年～1994年
	平島 一	1994年～1996年
	沼田 輝夫	1996年～2002年
	小林 三紘	2002年～2008年
	野崎 篤彦	2008年～2018年
	三木 章平	2018年～
	日本生命病院 院 長	長雄 勝馬
清水 寛一		1937年～1946年
勝部 育郎		1946年～1948年
新海 輝一		1948年～1971年
諏訪 信吾		1971年～1974年
上野 元男		1974年、1976年～1977年
乾 久朗		1974年～1976年
中井 俊夫		1977年～1990年
山本 昌弘		1990年～2000年
佐藤 文三		2000年～2004年
宗田 滋夫		2004年～2008年
寺川 直樹		2008年～2013年
笠山 宗正		2013年～2021年
立花 功		2021年～



会長 岡本 圀衛



理事長 三木 章平



院長 立花 功

1. 全体統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	55 (51)	56 (58)	51 (50)	54 (53)	54 (50)	55 (52)	53 (50)	56 (52)	56 (55)	55 (52)	56 (54)	55 (55)	54 (53)
消化器内科	70 (74)	76 (71)	72 (70)	72 (67)	65 (68)	76 (71)	75 (67)	79 (67)	74 (72)	76 (64)	76 (66)	74 (66)	74 (69)
内分泌・代謝内科	91 (-)	89 (-)	91 (-)	85 (-)	84 (-)	96 (-)	93 (89)	87 (91)	98 (99)	88 (87)	87 (91)	93 (91)	90 (92)
呼吸器・免疫内科	62 (-)	62 (-)	61 (-)	66 (-)	61 (-)	69 (-)	69 (66)	68 (68)	69 (36)	66 (58)	68 (64)	72 (64)	66 (64)
血液・化学療法内科	33 (31)	37 (35)	34 (30)	36 (32)	35 (31)	36 (35)	38 (32)	38 (35)	36 (36)	35 (34)	37 (35)	36 (33)	36 (33)
脳神経内科	28 (31)	29 (29)	30 (29)	30 (31)	31 (28)	30 (31)	30 (32)	31 (30)	32 (30)	29 (28)	30 (29)	28 (31)	30 (30)
腎臓内科	27 (24)	28 (25)	26 (24)	29 (27)	28 (24)	29 (25)	27 (25)	27 (25)	31 (26)	30 (27)	28 (24)	27 (26)	28 (25)
内科(計)	365 (375)	376 (377)	366 (359)	371 (366)	357 (356)	391 (377)	385 (360)	385 (369)	396 (382)	380 (349)	381 (364)	384 (370)	378 (367)
消化器外科	19 (20)	20 (21)	21 (19)	17 (21)	19 (19)	19 (21)	19 (19)	19 (21)	19 (20)	17 (18)	20 (19)	18 (20)	19 (20)
呼吸器外科	4 (3)	3 (3)	4 (4)	3 (4)	4 (3)	3 (3)	4 (3)	4 (3)	3 (4)	3 (3)	4 (3)	3 (3)	3 (3)
乳腺外科	19 (17)	20 (18)	18 (19)	19 (18)	17 (16)	19 (20)	19 (18)	19 (20)	20 (20)	20 (19)	20 (19)	18 (19)	19 (19)
心臓血管外科	7 (5)	6 (4)	8 (6)	7 (5)	5 (5)	7 (6)	6 (5)	6 (5)	8 (7)	7 (5)	6 (5)	7 (6)	7 (5)
外科(計)	49 (45)	46 (39)	50 (47)	45 (45)	45 (43)	48 (49)	48 (45)	48 (49)	50 (51)	47 (45)	49 (47)	46 (48)	48 (46)
産婦人科	81 (83)	87 (88)	81 (82)	83 (86)	77 (86)	88 (87)	81 (86)	85 (87)	80 (86)	79 (77)	78 (84)	80 (80)	82 (84)
小児科	29 (27)	29 (27)	31 (30)	30 (30)	28 (28)	30 (27)	30 (27)	28 (30)	32 (30)	31 (26)	32 (28)	31 (31)	30 (28)
神経科・精神科	57 (58)	65 (61)	54 (57)	59 (67)	58 (55)	62 (64)	61 (63)	63 (59)	59 (62)	65 (57)	62 (57)	61 (60)	61 (60)
脳神経外科	5 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (5)	6 (4)	4 (4)	4 (5)	5 (5)	5 (4)	4 (4)	4 (4)
整形外科	47 (46)	54 (48)	50 (43)	45 (45)	48 (46)	53 (48)	55 (48)	53 (47)	50 (50)	55 (45)	51 (46)	56 (53)	51 (47)
皮膚科	103 (88)	104 (95)	99 (93)	104 (99)	103 (94)	108 (96)	106 (96)	104 (101)	105 (94)	107 (91)	107 (104)	102 (98)	105 (96)
泌尿器科	45 (44)	44 (45)	39 (43)	45 (43)	38 (42)	42 (43)	44 (42)	39 (41)	42 (44)	46 (43)	41 (41)	44 (41)	42 (43)
眼科	47 (48)	47 (51)	51 (49)	50 (48)	42 (47)	53 (47)	49 (45)	48 (49)	50 (53)	47 (44)	47 (46)	48 (49)	48 (48)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	34 (34)	35 (36)	36 (36)	32 (35)	30 (29)	35 (38)	33 (34)	34 (36)	34 (38)	35 (32)	32 (36)	34 (37)	33 (35)
形成再建外科	11 (9)	15 (11)	14 (9)	14 (9)	12 (9)	12 (10)	13 (12)	14 (13)	13 (14)	13 (11)	13 (11)	12 (12)	13 (11)
放射線診断科	4 (5)	5 (4)	5 (4)	4 (4)	4 (3)	5 (4)	4 (5)	6 (5)	5 (4)	5 (3)	4 (5)	6 (4)	5 (4)
放射線治療科	12 (12)	8 (13)	8 (14)	9 (7)	9 (6)	11 (8)	9 (13)	11 (14)	13 (16)	14 (11)	16 (9)	15 (10)	11 (11)
麻酔・緩和医療科	16 (13)	16 (14)	16 (13)	17 (14)	16 (15)	15 (14)	16 (14)	16 (17)	14 (15)	14 (16)	15 (16)	14 (16)	15 (15)
リハビリテーション科	15 (15)	17 (17)	15 (16)	18 (14)	17 (12)	18 (13)	7 (14)	6 (14)	7 (13)	5 (14)	6 (16)	6 (16)	12 (14)
救急総合診療科	20 (22)	23 (36)	19 (31)	40 (23)	30 (28)	21 (29)	18 (18)	19 (15)	24 (18)	28 (31)	18 (29)	17 (24)	24 (25)
糖尿病・内分泌センター	7 (7)	8 (8)	7 (7)	8 (7)	7 (7)	7 (8)	8 (7)	7 (7)	9 (8)	7 (7)	7 (8)	7 (8)	7 (7)
血液浄化センター	10 (10)	11 (10)	11 (11)	12 (11)	12 (11)	13 (11)	13 (10)	12 (10)	13 (12)	13 (10)	12 (8)	13 (10)	12 (10)
その他	0 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
合計	959 (944)	996 (993)	959 (948)	991 (962)	940 (923)	1,017 (976)	988 (944)	983 (968)	1,003 (995)	998 (919)	980 (960)	982 (969)	983 (958)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入

[医事サービス部]

2. () 内は前年同月

2 一日平均入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	22 (22)	19 (22)	20 (23)	17 (28)	15 (20)	19 (19)	20 (19)	25 (24)	23 (21)	27 (23)	22 (27)	21 (27)	21 (23)
消化器内科	20 (23)	15 (17)	25 (23)	25 (26)	30 (22)	30 (20)	25 (21)	27 (22)	22 (20)	26 (17)	31 (17)	21 (19)	25 (20)
内分泌・代謝内科	16 (-)	16 (-)	14 (-)	16 (-)	18 (-)	15 (-)	13 (18)	10 (16)	13 (14)	15 (18)	14 (16)	18 (18)	15 (17)
呼吸器・免疫内科	44 (-)	40 (-)	43 (-)	43 (-)	47 (-)	35 (-)	38 (50)	46 (52)	47 (46)	45 (42)	48 (56)	49 (56)	43 (50)
血液・化学療法内科	30 (28)	24 (27)	28 (29)	29 (28)	30 (31)	29 (20)	29 (26)	27 (22)	30 (20)	34 (21)	26 (24)	26 (24)	29 (25)
脳神経内科	5 (2)	7 (2)	9 (3)	10 (3)	11 (3)	9 (5)	12 (3)	11 (3)	9 (3)	12 (2)	12 (3)	10 (3)	10 (3)
腎臓内科	20 (11)	18 (11)	15 (12)	15 (13)	15 (13)	12 (12)	11 (10)	8 (13)	15 (11)	15 (14)	10 (14)	12 (13)	14 (12)
内科(計)	157 (152)	139 (138)	153 (158)	155 (169)	166 (158)	150 (142)	148 (146)	154 (151)	159 (136)	174 (137)	164 (157)	157 (159)	156 (150)
消化器外科	17 (13)	14 (13)	14 (16)	17 (18)	14 (18)	16 (15)	13 (19)	15 (18)	13 (14)	14 (12)	15 (14)	15 (14)	15 (16)
呼吸器外科	2 (2)	3 (1)	2 (5)	2 (4)	3 (2)	4 (2)	3 (1)	4 (2)	2 (4)	1 (5)	2 (3)	2 (3)	2 (3)
乳腺外科	4 (3)	3 (3)	5 (4)	6 (5)	7 (6)	4 (3)	6 (4)	6 (5)	7 (5)	4 (3)	3 (5)	4 (4)	5 (4)
心臓血管外科	4 (5)	3 (6)	4 (9)	4 (4)	2 (4)	3 (4)	3 (3)	4 (5)	2 (4)	3 (4)	4 (4)	3 (4)	3 (5)
外科(計)	26 (23)	24 (25)	25 (34)	30 (32)	26 (32)	27 (24)	26 (28)	29 (31)	25 (29)	23 (25)	22 (24)	25 (26)	26 (28)
産婦人科	24 (33)	28 (28)	29 (31)	30 (32)	25 (32)	28 (29)	33 (34)	28 (30)	30 (30)	27 (28)	28 (27)	32 (29)	28 (30)
小児科	2 (5)	3 (4)	5 (5)	3 (4)	3 (5)	5 (3)	7 (3)	5 (3)	4 (2)	4 (4)	3 (5)	5 (3)	4 (4)
神経科・精神科	4 (8)	5 (6)	7 (5)	10 (6)	7 (5)	11 (7)	8 (5)	8 (8)	6 (7)	10 (6)	6 (6)	8 (6)	8 (6)
脳神経外科	2 (4)	3 (3)	2 (3)	3 (1)	3 (2)	1 (1)	2 (1)	5 (1)	5 (4)	6 (2)	2 (4)	1 (2)	3 (2)
整形外科	18 (20)	14 (17)	17 (18)	19 (17)	15 (11)	18 (15)	18 (12)	18 (17)	19 (19)	14 (19)	19 (17)	17 (19)	17 (17)
皮膚科	8 (4)	5 (8)	8 (8)	10 (7)	7 (5)	7 (8)	9 (8)	11 (7)	9 (5)	8 (10)	7 (9)	6 (9)	8 (7)
泌尿器科	8 (8)	8 (6)	10 (11)	10 (10)	12 (10)	7 (8)	11 (9)	10 (9)	10 (8)	7 (6)	12 (9)	12 (8)	10 (8)
眼科	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	1 (2)	1 (1)	1 (2)	1 (2)	2 (2)	1 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	7 (9)	3 (9)	6 (6)	8 (4)	7 (5)	10 (3)	11 (6)	12 (6)	8 (6)	6 (7)	8 (8)	6 (7)	8 (6)
形成再建外科	1 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (2)	1 (1)
放射線診断科	0 (0)												
放射線治療科	0 (0)												
麻酔・緩和医療科	0 (0)												
リハビリテーション科	0 (0)												
救急診療センター	8 (8)	10 (10)	8 (6)	8 (8)	7 (7)	10 (6)	6 (7)	5 (6)	11 (7)	10 (10)	8 (11)	11 (8)	8 (8)
合計	269 (279)	245 (255)	274 (287)	288 (293)	281 (274)	277 (248)	280 (261)	287 (275)	288 (256)	290 (257)	284 (280)	281 (280)	278 (271)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入
2. ()内は前年同月

[医事サービス部]

3 患者年齢・診療圏構成

外来 年齢階級	年度	総数	大阪市内訳(主要区)										
			他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0~9	2013	2,255	85	47	2,123	1,456	310	58	68	63	23	43	102
	2014	2,161	61	51	2,049	1,397	278	62	62	72	22	46	110
	2015	2,092	75	48	1,969	1,293	293	52	82	76	30	42	101
	2016	1,894	56	47	1,791	1,190	271	44	103	59	30	29	65
	2017	1,771	55	44	1,672	1,144	216	37	118	50	28	21	58
	2018	1,909	68	42	1,799	1,147	234	38	155	69	30	37	89
	2019	2,010	83	64	1,863	1,151	228	33	154	68	50	51	128
	2020	1,422	42	56	1,324	735	151	35	79	56	45	50	173
	2021	1,586	60	72	1,454	811	175	25	107	65	58	41	172
	2022	1,546	44	65	1,437	767	198	27	113	64	63	45	160
10~19	2013	601	27	29	545	307	93	44	28	23	5	8	37
	2014	587	32	30	525	301	80	42	24	26	9	7	36
	2015	635	33	35	567	324	73	42	42	23	9	4	50
	2016	604	31	32	541	289	97	48	35	20	8	6	38
	2017	600	39	43	518	271	91	44	29	22	9	9	46
	2018	647	30	56	561	299	92	33	37	24	17	6	53
	2019	792	49	67	676	337	98	46	50	25	12	10	98
	2020	705	37	60	608	251	86	39	40	20	19	7	146
	2021	795	39	68	688	252	115	44	51	25	25	6	170
	2022	829	30	64	735	295	105	43	60	23	22	14	173
20~29	2013	2,280	264	302	1,714	838	207	91	65	113	82	58	260
	2014	2,235	270	303	1,662	818	207	89	61	108	85	47	247
	2015	2,254	255	303	1,696	791	222	88	61	112	105	44	273
	2016	2,444	317	365	1,762	792	235	88	67	115	106	49	310
	2017	2,293	284	334	1,675	809	181	73	77	139	89	38	269
	2018	2,246	281	334	1,631	788	182	88	60	108	73	55	277
	2019	2,307	275	314	1,718	800	183	96	69	122	83	49	316
	2020	2,123	203	295	1,625	702	148	67	67	127	119	52	343
	2021	2,064	187	283	1,594	680	153	78	48	130	104	48	353
	2022	2,032	207	299	1,526	652	145	66	46	113	98	69	337
30~39	2013	4,259	381	588	3,290	1,645	377	173	125	167	142	115	546
	2014	4,137	403	578	3,156	1,562	362	157	133	171	146	127	498
	2015	4,221	420	604	3,197	1,528	369	155	148	168	171	121	537
	2016	4,363	436	638	3,289	1,573	360	184	168	199	199	110	496
	2017	4,289	454	640	3,195	1,522	352	156	125	193	183	120	544
	2018	4,122	421	605	3,096	1,404	324	159	143	222	173	124	547
	2019	4,016	390	551	3,075	1,438	302	133	120	232	173	113	564
	2020	3,592	286	491	2,815	1,231	289	132	124	225	191	97	526
	2021	3,400	270	463	2,667	1,166	262	127	123	215	198	105	471
	2022	3,269	265	436	2,568	1,147	238	126	92	186	169	111	499
40~49	2013	4,997	612	1,020	3,365	1,233	544	276	155	135	126	126	770
	2014	5,077	653	1,000	3,424	1,229	549	269	134	133	139	137	834
	2015	5,541	718	1,152	3,671	1,340	561	328	153	162	161	123	843
	2016	5,806	722	1,245	3,839	1,385	607	341	169	162	156	140	879
	2017	5,870	689	1,283	3,898	1,417	568	288	181	180	197	149	918
	2018	5,695	671	1,147	3,877	1,427	575	296	183	171	192	150	883
	2019	5,656	613	1,039	4,004	1,575	526	303	203	183	212	170	832
	2020	5,006	470	922	3,614	1,352	492	257	172	196	214	134	797
	2021	4,802	458	845	3,499	1,309	466	235	176	213	191	122	787
	2022	4,637	409	798	3,430	1,340	462	221	157	184	177	143	746
50~59	2013	4,218	646	881	2,691	949	431	277	148	119	104	72	591
	2014	4,555	719	980	2,856	990	453	279	164	122	114	71	663
	2015	4,722	748	985	2,989	988	504	309	175	127	104	92	690
	2016	4,978	782	1,014	3,182	1,063	522	288	202	131	120	110	746
	2017	5,103	772	1,068	3,263	1,025	559	301	196	135	127	107	813
	2018	5,377	817	1,120	3,440	1,134	597	309	185	140	144	117	814
	2019	5,922	875	1,230	3,817	1,259	632	369	202	160	181	122	892
	2020	5,522	786	1,164	3,572	1,176	609	318	182	152	169	107	859
	2021	5,670	781	1,188	3,701	1,251	625	321	197	161	164	101	881
	2022	5,775	773	1,198	3,804	1,288	664	327	182	180	160	111	892
60~69	2013	5,769	816	1,090	3,863	1,482	556	263	201	102	75	684	
	2014	5,725	798	1,068	3,859	1,451	589	495	278	207	105	69	665
	2015	5,789	784	1,061	3,944	1,441	600	511	308	196	113	71	704
	2016	5,883	771	1,072	4,040	1,423	654	524	330	200	116	79	714
	2017	5,633	761	1,046	3,826	1,333	618	475	330	194	129	70	677
	2018	5,512	747	986	3,779	1,300	646	435	327	177	121	76	697
	2019	5,435	814	1,002	3,619	1,249	584	384	302	164	132	77	727
	2020	5,012	700	894	3,418	1,168	576	362	275	154	129	65	689
	2021	4,954	691	915	3,348	1,141	552	347	263	161	122	73	689
	2022	5,082	689	911	3,482	1,155	622	361	271	157	122	82	712
70~79	2013	5,085	472	832	3,781	1,416	700	361	180	215	77	70	608
	2014	4,990	464	794	3,732	1,376	713	511	200	193	86	65	588
	2015	4,891	446	721	3,724	1,322	717	533	233	203	87	66	563
	2016	5,143	473	736	3,934	1,371	796	554	276	199	87	64	587
	2017	5,466	553	788	4,125	1,398	826	572	292	207	119	81	630
	2018	5,947	560	862	4,525	1,525	915	598	354	253	128	93	659
	2019	6,615	634	971	5,010	1,685	1,067	608	436	272	123	105	714
	2020	6,210	545	871	4,794	1,620	993	578	421	259	130	101	692
	2021	6,238	521	848	4,869	1,679	969	584	442	255	131	107	702
	2022	6,279	487	812	4,980	1,741	951	609	475	251	125	103	725
80~89	2013	2,539	171	309	2,059	801	356	265	82	121	74	32	328
	2014	2,574	179	280	2,115	798	388	276	86	120	66	43	338
	2015	2,718	184	275	2,259	852	414	275	96	130	73	50	369
	2016	2,834	186	294	2,354	901	450	296	117	125	73	47	345
	2017	2,887	194	328	2,365	891	482	285	109	117	56	56	369
	2018	3,094	213	308	2,573	950	573	295	138	114	81	59	363
	2019	3,527	236	376	2,915	1,032	700	348	180	123	88	60	384
	2020	3,281	208	343	2,730	971	642	302	170	130	84	45	386
	2021	3,473	215	332	2,926	1,038	712	346	187	135	72	50	386
	2022	3,535	188	325	3,022	1,112	711	364	201	141	76	58	359
90以上	2013	328	16	24	288	143	46	30	3	16	8	7	35
	2014	377	19	25	333	138	58	45	10	18	16	8	40
	2015	432	19	25	388	153	69	47	10	33	18	9	49
	2016	485	20	31	434	176	87	43	21	32	22	12	41
	2017	473	25	35	413	184	70	40	13	28	24	13	41
	2018	519	31	35	453	195	79	48	18	25	23	13	52
	2019	647	36	54	557	225	102	70	18	30	26	15	71
	2020	527	25	35	467	187	78	51	14	33	22	13	69
	2021	566	25	44	497	207	88	53	19	29	25	10	66
	2022	590	28	35	527	204	109	66	13	36	21	11	67
総計	2013	32,331	3,490	5,122	23,719	10,270	3,620	2,229	1,117	1,173	743	606	3,961
	2014	32,418	3,598	5,109	23,711	10,060	3,677	2,225	1,152	1,170	788	620	4,019
	2015	33,295	3,682	5,209	24,404	10,032	3,822	2,340	1,308	1,230	871	622	4,179
	2016	34,434	3,794	5,474	25,166	10,163	4,079	2,410	1,488	1,242	917	646	4,221
	2017	34,385	3,826	5,609	24,905	9,994	3,963	2,271	1,470	1,265	958	664	4,365
	2018	35,068	3,839	5,495	25,734	10,169	4,217	2,299	1,600	1,303	982	730	4,434
	2019	36,927	4,005	5,668	27,254	10,751	4,						

入院 年齢階級	年度	総数	大阪市内訳(主要区)										
			他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	2013	168	9	1	158	101	27	27	4	10	3	5	4
	2014	319	16	9	294	165	70	70	12	10	9	5	17
	2015	481	21	17	443	285	84	9	16	14	7	7	21
	2016	433	16	11	406	228	100	7	27	12	7	13	12
	2017	374	19	5	350	199	87	1	39	4	6	2	12
	2018	374	19	8	347	196	61	9	36	13	4	8	20
	2019	296	8	4	284	170	53	5	27	3	11	3	12
	2020	195	13	5	177	90	26	4	11	11	9	9	17
	2021	265	18	17	230	132	27	3	16	16	11	8	17
	2022	278	14	13	251	128	36	2	21	11	18	13	22
10～19	2013	52	3	2	47	19	12	12	7	2	2	2	2
	2014	56	1	3	52	22	7	7	8	5	2	1	7
	2015	74	4	4	66	25	11	12	3	5	1	0	9
	2016	74	6	6	62	26	14	5	4	5	4	1	3
	2017	65	9	4	52	21	13	7	3	2	1	0	5
	2018	64	4	6	54	28	6	4	3	1	1	2	9
	2019	66	4	2	60	30	6	7	3	5	1	2	6
	2020	46	3	4	39	16	6	5	2	3	2	1	4
	2021	50	2	5	43	17	8	6	3	3	1	0	5
	2022	54	2	4	48	19	12	5	4	4	0	0	4
20～29	2013	367	38	39	290	114	51	51	22	14	15	16	42
	2014	433	48	50	335	135	50	50	23	18	28	13	52
	2015	410	49	44	317	109	54	23	10	30	20	11	60
	2016	466	61	75	330	107	54	17	21	22	22	15	72
	2017	454	78	87	289	100	37	16	19	27	18	11	61
	2018	465	56	67	342	140	35	23	23	27	18	16	60
	2019	442	61	81	300	115	37	21	12	28	20	9	58
	2020	389	44	54	291	111	35	13	8	27	25	17	55
	2021	404	37	50	317	127	29	19	14	38	19	8	63
	2022	331	34	50	247	81	33	11	9	26	19	11	57
30～39	2013	867	84	99	684	290	115	115	39	36	33	36	99
	2014	840	68	111	661	324	87	87	28	29	27	36	97
	2015	925	91	120	714	303	105	38	27	44	31	34	132
	2016	869	83	134	652	265	84	35	42	52	42	32	100
	2017	802	87	135	580	257	65	23	22	38	37	37	101
	2018	914	85	122	707	295	86	24	40	46	41	35	140
	2019	879	74	104	701	317	68	32	24	52	51	37	120
	2020	849	53	101	695	295	74	27	28	54	50	32	135
	2021	832	46	103	683	287	73	28	32	51	62	28	122
	2022	727	48	79	600	270	57	15	26	51	45	27	109
40～49	2013	785	78	162	545	164	96	96	52	23	23	23	136
	2014	903	113	180	610	195	92	92	63	27	24	25	161
	2015	907	104	191	612	191	87	77	28	29	38	27	135
	2016	823	91	196	536	167	85	45	21	29	26	27	136
	2017	870	99	189	582	172	82	54	38	32	47	22	135
	2018	828	85	185	558	180	90	41	30	24	35	17	141
	2019	877	71	156	650	222	81	53	38	36	43	34	143
	2020	824	58	137	629	209	81	50	35	48	44	26	136
	2021	816	48	145	623	223	81	39	33	33	46	12	156
	2022	747	55	135	557	172	73	47	29	35	34	22	145
50～59	2013	584	78	128	378	129	55	55	41	22	16	18	85
	2014	655	86	130	439	146	67	68	47	30	19	20	100
	2015	618	77	109	432	151	78	45	25	19	15	15	84
	2016	534	63	95	376	110	71	43	25	17	14	10	86
	2017	567	59	97	411	110	93	46	27	25	21	9	79
	2018	620	72	117	431	141	84	44	27	20	15	19	81
	2019	730	84	108	538	168	108	52	32	26	22	11	119
	2020	737	65	125	547	159	79	68	35	24	29	17	136
	2021	740	57	133	550	188	103	47	32	22	24	14	120
	2022	765	77	125	563	166	105	49	31	33	24	14	141
60～69	2013	1,050	118	223	709	229	104	104	106	60	18	40	141
	2014	1,037	139	167	731	257	129	125	87	49	46	25	131
	2015	967	97	152	718	223	127	110	62	41	19	10	126
	2016	857	89	109	659	217	124	86	63	36	15	11	107
	2017	874	73	132	669	221	121	86	66	31	16	12	116
	2018	866	83	127	656	212	130	74	57	36	17	11	119
	2019	879	101	111	667	211	136	75	64	34	11	9	127
	2020	864	69	118	677	213	114	77	57	28	31	11	146
	2021	820	78	107	635	192	106	70	49	27	24	12	155
	2022	882	84	123	675	187	137	79	56	40	24	10	142
70～79	2013	1,271	105	234	932	118	191	191	121	41	13	60	169
	2014	1,275	79	187	1,009	350	194	196	147	62	54	27	158
	2015	1,191	82	145	964	299	201	131	74	69	19	20	151
	2016	1,042	73	110	859	277	191	123	68	52	12	10	126
	2017	1,221	73	139	1,009	304	218	161	61	71	28	17	149
	2018	1,335	90	155	1,090	336	264	146	82	58	29	21	154
	2019	1,468	99	148	1,221	385	312	135	108	59	26	33	163
	2020	1,501	90	160	1,251	363	277	147	108	76	29	26	225
	2021	1,510	72	146	1,292	413	261	174	116	68	27	25	208
	2022	1,525	75	156	1,294	397	283	180	115	71	27	21	200
80～89	2013	790	47	103	640	230	106	106	84	34	24	42	111
	2014	845	38	84	723	243	125	126	102	36	52	22	126
	2015	857	41	79	737	255	129	110	31	55	24	14	119
	2016	810	33	72	705	260	133	97	41	44	21	11	98
	2017	897	47	75	775	279	161	92	43	48	25	15	112
	2018	973	45	77	851	314	192	96	60	34	29	19	107
	2019	1,054	46	86	922	300	254	104	55	50	27	22	110
	2020	1,013	45	64	904	300	227	89	54	50	28	8	148
	2021	1,067	42	79	946	328	236	90	63	42	22	12	153
	2022	1,136	41	73	1,022	342	240	105	80	50	19	24	162
90以上	2013	128	5	10	113	53	14	14	12	3	6	8	14
	2014	177	12	12	153	61	17	27	20	6	12	6	20
	2015	188	6	9	173	57	32	24	8	20	6	1	25
	2016	200	8	7	185	72	33	19	13	18	11	2	17
	2017	217	11	11	195	89	32	19	10	12	9	1	23
	2018	216	14	8	194	83	29	18	8	13	12	1	30
	2019	278	10	18	250	95	45	32	13	14	13	8	30
	2020	224	9	14	201	62	31	22	7	18	8	5	48
	2021	238	8	18	212	88	28	27	6	10	7	3	43
	2022	260	12	11	237	76	38	31	13	13	3	8	55
総計	2013	6,062	565	1,001	4,496	1,647	771	771	488	245	153	250	803
	2014	6,540	600	933	5,007	1,898	719	848	537	272	273	180	869
	2015	6,618	572	870	5,176	1,898	908	579	284	326	180	139	862
	2016	6,108	523	815	4,770	1,729	889	477	325	287	174	132	757
	2017	6,341	555	874	4,912	1,753	909	505	328	290	208	126	793
	2018	6,655	553	872	5,230	1,925	977	479	366	272	201	149	861
	2019	6,969	558	818	5,593	2,013	1,100	516	376	307	225	168	888
	2020	6,642	449	782	5,411	1,818	950	502	345	339	255	152	1,050
	2021	6,742	408	803	5,531	1,995	952	503	364	310	243	122	1,042
	2022	6,705	442	769	5,494	1,838	1,014	524	384	334	213	150	1,037

[診療情報管理室]

4 病床稼働率

		定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均	前年度累計平均
7階	1日平均患者数(人)	41	32	32	36	37	34	36	41	37	38	36	34	38	36	34
	稼働率		78.3%	78.4%	86.6%	90.6%	83.4%	87.4%	101.1%	90.0%	91.5%	87.0%	82.1%	92.8%	87.4%	81.8%
8階	1日平均患者数(人)	44	38	33	34	39	39	40	36	37	41	41	42	35	38	33
	稼働率		86.7%	74.6%	76.6%	88.4%	89.7%	90.6%	80.9%	83.6%	93.5%	93.5%	95.1%	80.4%	86.1%	75.0%
9階	1日平均患者数(人)	43	40	35	37	40	41	38	39	36	37	39	38	34	38	33
	稼働率		92.5%	82.3%	85.2%	92.0%	95.2%	88.4%	90.0%	84.7%	85.6%	89.7%	88.2%	79.4%	87.8%	76.8%
10階	1日平均患者数(人)	42	1	8	33	19	16	10	17	27	13	12	8	32	16	33
	稼働率		1.3%	19.2%	78.8%	44.2%	38.3%	23.9%	41.6%	64.6%	31.2%	27.5%	18.8%	77.3%	38.9%	79.6%
11階	1日平均患者数(人)	43	38	35	34	40	39	39	37	38	40	41	40	36	38	34
	稼働率		89.2%	81.9%	80.0%	92.6%	90.5%	89.6%	86.9%	89.3%	92.4%	94.7%	93.4%	83.1%	88.7%	78.3%
12階	1日平均患者数(人)	44	41	36	32	38	35	41	36	35	41	41	41	34	37	35
	稼働率		92.3%	81.2%	72.8%	86.1%	79.0%	93.3%	82.3%	78.9%	92.2%	92.4%	93.7%	78.1%	85.2%	79.2%
13階	1日平均患者数(人)	43	37	29	31	36	32	36	35	36	37	38	39	34	35	34
	稼働率		85.7%	67.9%	73.0%	84.5%	74.6%	83.8%	82.3%	83.3%	86.4%	89.3%	91.5%	79.7%	81.8%	78.1%
14階	1日平均患者数(人)	42	39	33	33	37	39	33	35	36	38	39	38	34	36	32
	稼働率		92.5%	79.6%	78.6%	87.1%	93.9%	79.7%	82.9%	85.9%	89.3%	92.7%	90.8%	80.2%	86.1%	77.4%
小計	1日平均患者数(人)	342	265	242	270	285	276	273	277	282	284	286	280	278	275	268
	稼働率		77.6%	70.8%	78.9%	83.3%	80.7%	79.8%	81.0%	82.5%	82.9%	83.5%	81.9%	81.3%	80.4%	78.2%
集中治療室	1日平均患者数(人)	8	3	3	4	3	5	4	3	4	4	4	4	2	4	2
	稼働率		42.5%	40.7%	47.5%	40.7%	57.7%	50.8%	42.7%	52.5%	54.4%	51.2%	45.1%	30.6%	46.4%	25.0%
計	1日平均患者数(人)	350	269	245	274	288	281	277	280	287	288	290	284	281	278	270
	稼働率		76.8%	70.1%	78.2%	82.3%	80.2%	79.1%	80.1%	81.9%	82.3%	82.8%	81.1%	80.1%	79.6%	77.0%

[医事サービス部]

5 救急患者数

	人 数														累計	(内、入院数)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	入院計			
循環器内科	16 (7)	20 (8)	12 (3)	17 (4)	17 (6)	11 (5)	20 (8)	24 (10)	18 (8)	17 (7)	13 (6)	19 (6)	204 (78)	15 (6)	18 (6)	12 (3)	15 (4)	16 (5)	11 (5)	20 (8)	22 (10)	16 (6)	15 (6)	13 (6)	19 (6)	192 (71)			
消化器内科	43 (9)	29 (3)	33 (7)	44 (7)	40 (2)	34 (6)	35 (3)	31 (3)	30 (2)	45 (4)	43 (0)	36 (6)	443 (52)	42 (9)	28 (3)	32 (6)	42 (7)	38 (1)	34 (6)	34 (2)	31 (3)	30 (2)	45 (4)	42 (0)	36 (6)	434 (49)			
内分泌・代謝内科	11 (12)	14 (4)	13 (5)	13 (5)	14 (6)	34 (1)	11 (5)	11 (6)	15 (7)	9 (6)	12 (5)	15 (6)	172 (68)	30 (12)	13 (4)	11 (5)	9 (4)	13 (6)	6 (1)	10 (5)	7 (3)	14 (7)	9 (6)	10 (5)	12 (5)	62 (31)			
呼吸器・免疫内科	31 (6)	30 (9)	32 (13)	23 (6)	34 (11)	34 (9)	26 (9)	31 (10)	40 (16)	32 (9)	39 (15)	32 (10)	384 (123)	10 (5)	29 (9)	30 (11)	20 (7)	29 (9)	21 (9)	24 (8)	29 (9)	38 (16)	30 (9)	38 (15)	30 (9)	189 (66)			
血液・化学療法内科	7 (2)	16 (4)	16 (7)	25 (9)	18 (3)	22 (4)	18 (5)	15 (3)	29 (6)	11 (2)	11 (1)	10 (1)	198 (47)	7 (2)	15 (4)	15 (6)	21 (9)	15 (3)	19 (4)	16 (5)	13 (3)	27 (5)	10 (2)	11 (1)	10 (1)	179 (45)			
脳神経内科	3 (1)	6 (1)	2 (2)	12 (7)	4 (0)	4 (3)	9 (3)	5 (3)	9 (5)	4 (2)	5 (3)	5 (3)	68 (33)	3 (1)	6 (1)	2 (2)	12 (7)	4 (0)	4 (3)	8 (3)	5 (3)	9 (5)	4 (2)	5 (3)	5 (3)	67 (33)			
腎臓内科	5 (2)	8 (4)	10 (3)	7 (2)	12 (3)	13 (3)	9 (2)	8 (3)	15 (6)	8 (3)	5 (0)	8 (2)	108 (33)	5 (1)	8 (1)	10 (2)	6 (7)	10 (0)	13 (3)	9 (3)	8 (3)	14 (5)	8 (2)	5 (3)	8 (3)	104 (33)			
内科 (計)	116 (39)	123 (33)	118 (40)	141 (40)	139 (31)	152 (31)	128 (35)	125 (38)	156 (50)	126 (33)	128 (30)	125 (34)	1,577 (434)	112 (36)	117 (28)	112 (35)	125 (45)	125 (24)	108 (31)	121 (34)	115 (34)	148 (46)	121 (31)	124 (33)	120 (33)	1,448 (410)			
消化器外科	11 (2)	8 (3)	4 (0)	2 (2)	10 (1)	7 (4)	4 (0)	5 (1)	8 (1)	8 (2)	6 (0)	6 (3)	79 (19)	10 (2)	7 (3)	4 (0)	2 (2)	9 (1)	6 (3)	4 (0)	5 (1)	7 (0)	7 (2)	5 (0)	6 (3)	72 (17)			
呼吸器外科	0 (0)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	8 (3)	0 (0)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (3)	0 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (3)			
乳腺外科	2 (1)	4 (1)	2 (0)	1 (0)	3 (1)	3 (0)	3 (0)	4 (0)	5 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	31 (4)	2 (1)	3 (1)	2 (0)	1 (0)	3 (1)	3 (0)	4 (0)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	28 (4)			
心臓血管外科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	3 (1)	3 (3)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	13 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	9 (5)			
外科 (計)	13 (3)	13 (5)	8 (0)	5 (2)	14 (2)	13 (5)	10 (3)	13 (3)	14 (3)	9 (2)	8 (1)	11 (3)	131 (32)	12 (3)	11 (5)	8 (0)	4 (2)	13 (2)	11 (4)	10 (3)	12 (3)	11 (1)	8 (2)	7 (1)	10 (3)	117 (29)			
産婦人科	61 (5)	77 (6)	70 (6)	124 (11)	104 (6)	97 (11)	121 (7)	112 (9)	112 (6)	122 (3)	83 (8)	108 (4)	1,191 (82)	25 (1)	40 (1)	35 (1)	36 (1)	15 (1)	44 (1)	45 (1)	33 (1)	26 (1)	37 (1)	25 (1)	44 (1)	405 (12)			
小児科	6 (0)	9 (0)	10 (0)	25 (2)	8 (1)	12 (0)	15 (0)	10 (2)	11 (0)	10 (0)	7 (1)	7 (0)	130 (6)	4 (0)	7 (0)	9 (0)	7 (0)	3 (0)	11 (0)	15 (0)	8 (0)	8 (0)	2 (0)	4 (0)	6 (0)	84 (0)			
神経科・精神科	2 (0)	1 (0)	6 (3)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (2)	3 (0)	2 (1)	4 (0)	30 (7)	2 (0)	1 (0)	5 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	27 (0)			
脳神経外科	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	0 (0)	3 (1)	1 (0)	3 (1)	3 (1)	0 (0)	2 (1)	17 (5)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	3 (1)	2 (0)	0 (0)	2 (1)	14 (3)			
整形外科	2 (1)	14 (9)	5 (3)	11 (3)	9 (5)	13 (5)	13 (5)	5 (3)	8 (3)	5 (4)	7 (2)	3 (2)	95 (50)	2 (1)	11 (7)	4 (2)	5 (1)	5 (3)	6 (5)	6 (1)	3 (1)	5 (2)	5 (4)	4 (1)	3 (2)	59 (30)			
皮膚科	16 (0)	11 (0)	11 (0)	16 (1)	11 (3)	13 (2)	15 (0)	15 (0)	13 (0)	5 (1)	5 (0)	14 (0)	152 (4)	16 (1)	11 (0)	9 (0)	13 (0)	11 (1)	12 (0)	15 (0)	13 (0)	4 (1)	12 (0)	10 (0)	137 (2)				
泌尿器科	6 (1)	6 (1)	5 (1)	2 (0)	0 (0)	4 (1)	4 (0)	4 (1)	4 (0)	1 (0)	5 (1)	7 (1)	48 (7)	4 (1)	5 (1)	4 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	4 (0)	4 (1)	4 (0)	0 (0)	5 (0)	7 (1)	41 (5)			
眼 科	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
耳鼻咽喉・頭頸部外科	9 (3)	8 (1)	9 (4)	7 (0)	5 (0)	5 (3)	9 (1)	5 (2)	5 (2)	8 (4)	4 (1)	6 (2)	80 (23)	6 (1)	7 (0)	9 (4)	4 (0)	4 (0)	4 (2)	7 (1)	3 (0)	2 (1)	3 (1)	4 (1)	3 (1)	56 (12)			
形成再建外科	0 (0)	1 (1)	0 (0)	5 (2)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	11 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)			
放射線診断・IVR科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)															
放射線治療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)															
麻酔・緩和医療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)															
救急診療センター	255 (158)	275 (157)	259 (173)	534 (210)	384 (192)	279 (152)	239 (159)	261 (176)	347 (213)	406 (183)	227 (131)	275 (158)	3,741 (2,062)	63 (52)	64 (48)	55 (45)	77 (54)	63 (50)	60 (36)	47 (34)	60 (43)	93 (74)	74 (54)	49 (35)	76 (57)	781 (582)			
合 計	486 (210)	539 (213)	502 (231)	874 (271)	680 (238)	591 (215)	558 (211)	553 (235)	676 (281)	699 (231)	484 (177)	563 (205)	7,205 (2,718)	246 (95)	275 (90)	250 (88)	277 (103)	243 (80)	261 (80)	270 (75)	255 (83)	315 (126)	259 (94)	235 (72)	286 (99)	3,172 (1,085)			

(注) 1. 各欄下段の()の数値は救急車で搬送された患者数 [医事サービス部、救急・当直・集中治療室検討委員会]

6 退院患者医療評価指標

① 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。
2016年退院患者から、厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10(2013年版)準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。
2016年退院患者から、日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計した。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計した。

	算定式	2012年度 (2012.4 -2013.3)	2013年度 (2013.4 -2014.3)	2014年度 (2014.4 -2015.3)	2015年度 (2015.4 -2016.3)	2016年度 (2016.4 -2017.3)	2017年度 (2017.4 -2018.3)	2018年度 (2018.4 -2019.3)	2019年度 (2019.4 -2020.3)	2020年度 (2020.4 -2021.3)	2021年度 (2021.4 -2022.3)	2022年度 (2022.4 -2023.3)
病床数 (床)		350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均 在院患者数 (人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	273	277	291	284	281	293	291	301	289	270	279
病床稼働率 (%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	78.0	79.1	83.1	81.1	80.3	83.7	83.1	86.0	82.6	77.1	79.7
平均在院日数 (日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	12.3	12.6	12.1	12.8	12.6	12.5	11.2	10.9	10.7	10.0	10.3
実退院患者数 (人)		7,490	7,435	8,119	8,244	7,573	7,963	8,736	9,282	9,011	8,967	8,983
転科数		208	192	241	278	870	791	396	426	808	880	803
総退院患者数		7,698	7,627	8,360	8,522	8,443	8,754	9,132	9,708	9,819	9,847	9,786
実退院患者 平均在院日数 (日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	13.2	13.5	13.2	12.3	13.6	13.6	12.2	12.0	11.7	11.2	11.3
院内粗死亡率 (%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.3	2.8	2.8	2.4	2.8	3.2	2.2	2.5	2.3	2.4	2.1
院内精死亡率 (%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.1	2.4	2.5	2.3	2.4	2.8	2.0	2.3	2.1	2.4	1.8
剖検率 (%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	8.1	9.3	6.2	7.5	5.7	5.5	2.6	4.3	2.3	4.1	2.1
術後死亡率 (%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	-	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	0.01	-
帝王切開率 (%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	14.2	16.6	15.7	16.8	19.4	19.1	21.2	23.0	19.3	22.3	20.4
分娩死亡率 (%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新生児死亡率 (%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
紹介入院率 (%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	39.3	41.5	39.8	40.1	41.6	37.9	38.4	39.1	34.2	36.4	36.8
対診率 (%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	45.2	47.3	40.6	43.0	49.1	49.8	51.9	51.7	50.0	53.9	46.1

[診療情報管理室]

② 診療科別・月別・患者数

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検	
総数	計	8,983	720	677	797	802	743	767	752	743	798	680	703	801	191	4
	男	4,117	326	312	370	391	338	358	316	337	362	313	332	362	125	3
	女	4,866	394	365	427	411	405	409	436	406	436	367	371	439	66	1
循環器内科	計	646	59	46	66	57	48	50	50	52	60	51	55	52	17	1
	男	400	31	27	52	34	28	28	29	28	40	33	37	33	11	1
	女	246	28	19	14	23	20	22	21	24	20	18	18	19	6	-
消化器内科	計	1,283	88	95	116	107	120	115	119	105	108	85	108	117	16	-
	男	719	52	56	70	60	68	55	60	62	61	51	65	59	10	-
	女	564	36	39	46	47	52	60	59	43	47	34	43	58	6	-
内分泌・代謝内科	計	382	34	23	35	36	40	36	26	25	30	32	25	40	8	1
	男	181	10	13	13	17	22	19	15	14	8	18	13	19	5	-
	女	201	24	10	22	19	18	17	11	11	22	14	12	21	3	1
呼吸器・免疫内科	計	1,040	88	83	83	89	89	83	66	84	109	85	80	101	73	2
	男	667	59	53	43	63	51	54	39	62	69	52	55	67	53	2
	女	373	29	30	40	26	38	29	27	22	40	33	25	34	20	-
血液・化学療法内科	計	421	25	30	33	36	40	40	38	37	43	37	31	31	26	-
	男	255	12	18	18	23	28	27	20	21	28	23	19	18	17	-
	女	166	13	12	15	13	12	13	18	16	15	14	12	13	9	-
脳神経内科	計	132	10	7	7	9	13	13	10	16	13	12	8	14	5	-
	男	65	4	3	6	4	6	7	3	5	6	7	4	10	3	-
	女	67	6	4	1	5	7	6	7	11	7	5	4	4	2	-
腎臓内科	計	300	28	25	19	31	26	28	21	17	22	37	19	27	7	-
	男	179	20	16	9	21	16	21	9	9	8	22	9	19	5	-
	女	121	8	9	10	10	10	7	12	8	14	15	10	8	2	-
消化器外科	計	375	43	27	25	33	34	30	25	30	33	28	38	29	7	-
	男	212	27	17	12	18	18	21	15	17	18	15	25	9	5	-
	女	163	16	10	13	15	16	9	10	13	15	13	13	20	2	-
呼吸器外科	計	102	7	8	10	5	9	10	9	13	10	5	7	9	1	-
	男	72	2	5	9	3	4	9	6	9	8	3	7	7	1	-
	女	30	5	3	1	2	5	1	3	4	2	2	-	2	-	-
乳腺外科	計	208	16	12	18	18	21	14	18	20	24	16	10	21	5	-
	男	3	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	205	16	12	18	18	20	12	18	20	24	16	10	21	5	-
心臓血管外科	計	134	11	7	16	18	9	11	7	10	10	15	10	10	-	-
	男	92	8	6	11	14	6	6	4	4	7	10	7	9	-	-
	女	42	3	1	5	4	3	5	3	6	3	5	3	1	-	-
産婦人科	計	1,622	117	132	141	136	125	132	153	144	140	120	133	149	2	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,622	117	132	141	136	125	132	153	144	140	120	133	149	2	-
小児科	計	320	16	20	34	26	22	32	44	27	30	26	18	25	-	-
	男	162	11	12	12	15	9	16	27	10	15	13	9	13	-	-
	女	158	5	8	22	11	13	16	17	17	15	13	9	12	-	-
神経科・精神科	計	88	6	5	8	11	4	11	12	4	5	8	8	6	-	-
	男	22	1	1	2	3	1	2	5	1	2	1	2	1	-	-
	女	66	5	4	6	8	3	9	7	3	3	7	6	5	-	-
脳神経外科	計	62	4	6	5	4	6	6	2	9	4	7	6	3	1	-
	男	33	3	4	3	2	3	4	1	3	3	3	2	2	1	-
	女	29	1	2	2	2	3	2	1	6	1	4	4	1	-	-
整形外科	計	298	27	24	23	29	25	24	28	21	31	16	22	28	-	-
	男	105	7	6	8	13	10	9	11	10	10	2	10	9	-	-
	女	193	20	18	15	16	15	15	17	11	21	14	12	19	-	-
皮膚科	計	235	26	15	19	30	16	20	21	20	16	14	21	17	-	-
	男	126	11	8	11	19	7	11	9	12	8	8	11	11	-	-
	女	109	15	7	8	11	9	9	12	8	8	6	10	6	-	-
泌尿器科	計	457	39	34	48	38	41	39	34	41	36	27	37	43	5	-
	男	385	33	29	41	33	33	31	30	34	31	23	30	37	3	-
	女	72	6	5	7	5	8	8	4	7	5	4	7	6	2	-
眼科	計	288	26	26	34	32	17	20	26	17	25	21	18	26	-	-
	男	148	11	15	24	18	7	8	14	9	13	13	6	10	-	-
	女	140	15	11	10	14	10	12	12	8	12	8	12	16	-	-
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計	238	25	17	19	23	17	22	17	25	20	15	16	22	2	-
	男	129	15	7	7	9	10	12	8	15	11	6	11	18	2	-
	女	109	10	10	12	14	7	10	9	10	9	9	5	4	-	-
形成再建外科	計	90	5	12	11	7	6	7	7	11	5	6	7	6	-	-
	男	42	2	6	5	4	3	3	5	4	4	3	2	1	-	-
	女	48	3	6	6	3	3	4	2	7	1	3	5	5	-	-
救急総合診療科	計	246	20	22	24	24	12	20	19	15	23	16	26	25	16	-
	男	106	7	9	11	15	4	10	6	8	12	6	8	10	9	-
	女	140	13	13	13	9	8	10	13	7	11	10	18	15	7	-
予防医学センター	計	16	-	1	3	3	3	4	-	-	1	1	-	-	-	-
	男	14	-	1	3	3	3	3	-	-	1	-	-	-	-	-
	女	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

[診療情報管理室]

③ 診療科別・在院期間別・患者数

診療科	総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	32～61日	62～91日	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
総数	計 8,983	5,521	1,674	780	414	419	124	48	3	-	-	11.3
	男 4,117	2,341	813	433	217	220	62	28	3	-	-	12.1
	女 4,866	3,180	861	347	197	199	62	20	-	-	-	10.6
循環器内科	計 646	350	127	100	33	26	5	5	-	-	-	11.9
	男 400	235	78	53	16	11	3	4	-	-	-	11.3
	女 246	115	49	47	17	15	2	1	-	-	-	12.9
消化器内科	計 1,283	953	203	62	31	22	11	1	-	-	-	7.1
	男 719	537	109	37	18	11	6	1	-	-	-	7
	女 564	416	94	25	13	11	5	-	-	-	-	7.1
内分泌・代謝内科	計 382	125	164	50	23	18	2	-	-	-	-	13.4
	男 181	52	84	24	11	9	1	-	-	-	-	13.8
	女 201	73	80	26	12	9	1	-	-	-	-	13
呼吸器・免疫内科	計 1,040	438	221	173	78	102	24	4	-	-	-	15.8
	男 667	283	137	112	50	70	13	2	-	-	-	15.5
	女 373	155	84	61	28	32	11	2	-	-	-	16.3
血液・化学療法内科	計 421	72	81	91	76	69	25	7	-	-	-	25.3
	男 255	47	45	64	48	35	13	3	-	-	-	23.9
	女 166	25	36	27	28	34	12	4	-	-	-	27.5
脳神経内科	計 132	23	43	19	8	28	5	6	-	-	-	26.8
	男 65	9	21	9	5	14	4	3	-	-	-	28.7
	女 67	14	22	10	3	14	1	3	-	-	-	24.9
腎臓内科	計 300	125	77	30	20	29	13	6	-	-	-	17.5
	男 179	75	43	18	17	14	7	5	-	-	-	17.7
	女 121	50	34	12	3	15	6	1	-	-	-	17.1
消化器外科	計 375	206	84	32	18	22	7	4	2	-	-	14.6
	男 212	117	45	20	9	13	3	3	2	-	-	15.7
	女 163	89	39	12	9	9	4	1	-	-	-	13.3
呼吸器外科	計 102	38	56	7	-	1	-	-	-	-	-	9.4
	男 72	28	36	7	-	1	-	-	-	-	-	9.7
	女 30	10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	8.6
乳腺外科	計 208	125	56	16	6	3	2	-	-	-	-	8.8
	男 3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
	女 205	123	56	15	6	3	2	-	-	-	-	8.8
心臓血管外科	計 134	90	27	8	3	4	1	1	-	-	-	9.1
	男 92	60	18	8	2	3	1	-	-	-	-	9.3
	女 42	30	9	-	1	1	-	1	-	-	-	8.6
産婦人科	計 1,622	1,417	186	12	2	4	1	-	-	-	-	6.4
	男 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女 1,622	1,417	186	12	2	4	1	-	-	-	-	6.4
小児科	計 320	306	12	2	-	-	-	-	-	-	-	4.6
	男 162	158	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4.5
	女 158	148	8	2	-	-	-	-	-	-	-	4.6
神経科・精神科	計 88	18	11	11	18	21	6	3	-	-	-	30.6
	男 22	5	2	4	6	4	-	1	-	-	-	29.8
	女 66	13	9	7	12	17	6	2	-	-	-	30.9
脳神経外科	計 62	30	18	4	1	6	-	3	-	-	-	17.4
	男 33	14	12	3	-	3	-	1	-	-	-	15.6
	女 29	16	6	1	1	3	-	2	-	-	-	19.5
整形外科	計 298	54	49	91	61	36	6	1	-	-	-	20.4
	男 105	25	19	32	14	13	2	-	-	-	-	18.2
	女 193	29	30	59	47	23	4	1	-	-	-	21.6
皮膚科	計 235	106	94	21	4	3	5	2	-	-	-	12.3
	男 126	55	48	12	3	3	3	2	-	-	-	13.5
	女 109	51	46	9	1	-	2	-	-	-	-	11
泌尿器科	計 457	314	94	23	15	10	-	1	-	-	-	7.8
	男 385	261	84	21	9	9	-	1	-	-	-	7.7
	女 72	53	10	2	6	1	-	-	-	-	-	8.3
眼科	計 288	286	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2.1
	男 148	148	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	女 140	138	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2.3
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計 238	188	23	5	4	6	8	3	1	-	-	12
	男 129	99	11	4	2	5	5	2	1	-	-	14.1
	女 109	89	12	1	2	1	3	1	-	-	-	9.4
形成再建外科	計 90	77	8	3	-	1	1	-	-	-	-	5.8
	男 42	37	4	1	-	-	-	-	-	-	-	4.7
	女 48	40	4	2	-	1	1	-	-	-	-	6.7
救急総合診療科	計 246	164	39	19	13	8	2	1	-	-	-	9
	男 106	80	13	3	7	2	1	-	-	-	-	7.3
	女 140	84	26	16	6	6	1	1	-	-	-	10.4
予防医学センター	計 16	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	男 14	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	女 2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

[診療情報管理室]

④ 疾病統計

疾病別・診療科別・患者数（大分類）

コード	国際分類大項目分類	総数	循内	消内	内分泌	呼免内	血液内	神内	腎内	消外	呼外	
	総数	計	8,983	646	1,283	382	1,040	421	132	300	375	102
		男	4,117	400	719	181	667	255	65	179	212	72
		女	4,866	246	564	201	373	166	67	121	163	30
I	感染症及び寄生虫症	計	228	1	21	10	49	5	7	7	-	-
		男	117	-	12	5	27	1	3	5	-	-
		女	111	1	9	5	22	4	4	2	-	-
II	新生物（腫瘍） （悪性新生物（腫瘍））	計	3,310	2	790	5	577	300	-	1	178	78
		男	1,606	2	480	1	415	182	-	-	90	51
		女	1,704	-	310	4	162	118	-	1	88	27
III	血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	計	72	2	8	1	3	35	1	2	3	-
		男	35	1	3	-	1	23	-	1	2	-
		女	37	1	5	1	2	12	1	1	1	-
IV	内分泌、栄養及び 代謝疾患	計	282	-	2	225	6	1	1	9	-	-
		男	135	-	1	114	3	-	1	4	-	-
		女	147	-	1	111	3	1	-	5	-	-
V	精神及び行動の障害	計	119	-	-	1	-	1	-	1	-	-
		男	36	-	-	-	-	-	-	1	-	-
		女	83	-	-	1	-	1	-	-	-	-
VI	神経系の疾患	計	138	3	1	11	-	3	48	-	-	-
		男	66	2	1	6	-	-	23	-	-	-
		女	72	1	-	5	-	3	25	-	-	-
VII	眼及び付属器の疾患	計	315	-	-	-	-	-	2	-	-	-
		男	163	-	-	-	-	-	2	-	-	-
		女	152	-	-	-	-	-	-	-	-	-
VIII	耳及び乳様突起の疾患	計	53	-	-	1	1	-	1	-	-	-
		男	24	-	-	-	1	-	-	-	-	-
		女	29	-	-	1	-	-	1	-	-	-
IX	循環器系の疾患	計	821	583	12	4	12	4	33	12	-	-
		男	504	361	4	-	6	2	19	4	-	-
		女	317	222	8	4	6	2	14	8	-	-
X	呼吸器系の疾患	計	577	17	20	36	239	16	13	20	-	23
		男	345	11	15	15	151	12	8	14	-	20
		女	232	6	5	21	88	4	5	6	-	3
XI	消化器系の疾患	計	629	1	389	14	4	5	-	6	182	-
		男	330	1	187	5	3	4	-	5	116	-
		女	299	-	202	9	1	1	-	1	66	-
XII	皮膚及び 皮下組織の疾患	計	129	-	1	2	2	-	-	2	-	-
		男	68	-	-	-	1	-	-	1	-	-
		女	61	-	1	2	1	-	-	1	-	-
XIII	筋骨格系及び 結合組織の疾患	計	280	3	1	7	56	-	4	6	1	-
		男	115	2	1	5	21	-	2	3	-	-
		女	165	1	-	2	35	-	2	3	1	-
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	計	799	8	17	29	29	6	3	143	4	-
		男	200	5	3	12	8	-	-	89	1	-
		女	599	3	14	17	21	6	3	54	3	-
XV	妊娠、分娩及び 産じょく	計	460	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		女	460	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVI	周産期に発生した病態	計	142	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		男	74	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		女	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVII	先天奇形、変形及び 染色体異常	計	37	-	-	-	-	-	-	3	-	-
		男	16	-	-	-	-	-	-	2	-	-
		女	21	-	-	-	-	-	-	1	-	-
XVIII	症状、徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で他 に分類されないもの	計	5	-	-	1	2	1	-	-	-	-
		男	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-
		女	3	-	-	1	1	-	-	-	-	-
XIX	損傷、中毒及び その他の外因の影響	計	320	2	3	2	9	6	2	53	4	1
		男	134	1	3	-	1	2	1	29	2	1
		女	186	1	-	2	8	4	1	24	2	-
XXI	健康状態に影響を 及ぼす要因及び 保健サービスの利用	計	28	-	-	-	-	11	-	-	1	-
		男	24	-	-	-	-	10	-	-	-	-
		女	4	-	-	-	-	1	-	-	1	-
XXII	特殊目的用コード	計	239	24	18	33	51	27	17	35	2	-
		男	123	14	9	18	28	18	6	21	1	-
		女	116	10	9	15	23	9	11	14	1	-

乳腺外	心 外	産婦科	小児科	神 経	脳 外	整 形	皮膚科	泌尿器	眼 科	耳鼻科	形 成	救 急	予 防
208	134	1,622	320	88	62	298	235	457	288	238	90	246	16
3	92	-	162	22	33	105	126	385	148	129	42	106	14
205	42	1,622	158	66	29	193	109	72	140	109	48	140	2
1	-	2	8	-	-	-	99	2	-	2	-	14	-
-	-	-	6	-	-	-	50	1	-	1	-	6	-
1	-	2	2	-	-	-	49	1	-	1	-	8	-
181	-	704	-	1	1	-	8	345	-	85	46	8	-
2	-	-	-	1	1	-	4	301	-	50	22	4	-
179	-	704	-	-	-	-	4	44	-	35	24	4	-
7	-	3	1	-	-	-	2	-	-	-	-	4	-
-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-
7	-	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-
2	-	-	18	-	-	-	-	3	2	6	1	6	-
-	-	-	4	-	-	-	-	2	-	2	-	4	-
2	-	-	14	-	-	-	-	1	2	4	1	2	-
1	-	-	1	79	-	-	-	-	-	-	-	35	-
-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	17	-
1	-	-	1	61	-	-	-	-	-	-	-	18	-
-	-	-	6	7	34	-	1	-	-	9	-	15	-
-	-	-	-	3	14	-	1	-	-	4	-	12	-
-	-	-	6	4	20	-	-	-	-	5	-	3	-
-	-	-	1	-	-	-	-	-	285	-	26	1	-
-	-	-	1	-	-	-	-	-	148	-	12	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	137	-	14	1	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35	-	15	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	6	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	9	-
2	130	-	-	-	17	-	4	1	-	-	-	7	-
1	89	-	-	-	12	-	3	-	-	-	-	3	-
1	41	-	-	-	5	-	1	1	-	-	-	4	-
5	-	2	55	1	-	-	-	-	-	82	-	48	-
-	-	-	32	-	-	-	-	-	-	48	-	19	-
5	-	2	23	1	-	-	-	-	-	34	-	29	-
-	-	4	5	-	-	-	-	2	-	4	-	13	-
-	-	-	2	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-
-	-	4	3	-	-	-	-	-	-	3	-	9	-
1	-	1	5	-	-	-	106	-	-	2	7	-	-
-	-	-	3	-	-	-	58	-	-	1	4	-	-
1	-	1	2	-	-	-	48	-	-	1	3	-	-
-	-	-	3	-	1	181	4	1	-	-	4	8	-
-	-	-	2	-	-	69	3	1	-	-	2	4	-
-	-	-	1	-	1	112	1	-	-	-	2	4	-
4	-	426	9	-	-	-	1	98	-	4	3	15	-
-	-	-	3	-	-	-	-	73	-	2	-	4	-
4	-	426	6	-	-	-	1	25	-	2	3	11	-
-	-	460	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	460	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	142	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	1	26	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-
-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
-	-	1	15	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1	3	12	40	-	8	114	8	3	1	1	3	44	-
-	2	-	23	-	6	36	5	3	-	-	2	17	-
1	1	12	17	-	2	78	3	-	1	1	1	27	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
3	1	6	-	-	1	2	2	2	-	2	-	13	-
-	1	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	4	-
3	-	6	-	-	1	2	1	-	-	2	-	9	-

[診療情報管理室]

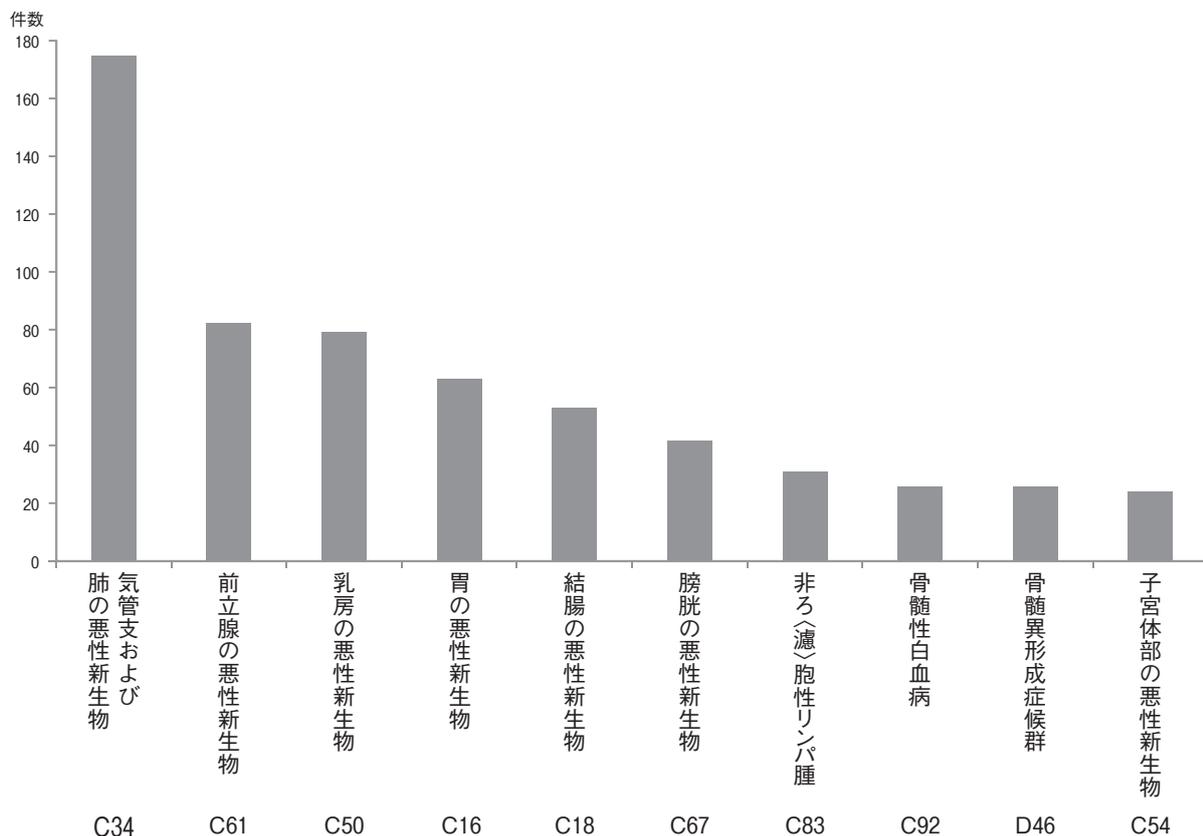
⑤ 悪性新生物統計

	算定式	平成25年度 (2013.4- 2014.3)	平成26年度 (2014.4- 2015.3)	平成27年度 (2015.4- 2016.3)	平成28年度 (2016.4- 2017.3)	平成29年度 (2017.4- 2018.3)	平成30年度 (2018.4- 2019.3)	2019年度 (2019.4- 2020.3)	2020年度 (2020.4- 2021.3)	2021年度 (2021.4- 2022.3)	2022年度 (2022.4- 2023.3)
悪性新生物：比率 (%)	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	16.0	14.5	14.6	16.2	16.4	16.2	19.5	22.3	23.5	24.3
悪性新生物：新発患者数		423	403	447	519	547	593	752	765	819	874

○ 2022年4月～2023年3月ー初発がん統計トップ10（件数・平均在院日数）

ICD-10	疾患名	件数	在院日数計	平均在院日数
C34	気管支および肺の悪性新生物	174	2,234	13
C61	前立腺の悪性新生物	82	430	5
C50	乳房の悪性新生物	79	819	10
C16	胃の悪性新生物	63	888	14
C18	結腸の悪性新生物	53	570	11
C67	膀胱の悪性新生物	42	279	7
C83	非ろ（濾）胞性リンパ腫	31	524	17
C92	骨髄性白血病	26	890	34
D46	骨髄異形成症候群	26	618	24
C54	子宮体部の悪性新生物	24	260	11

[診療情報管理室]



⑥ 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数

診療科	死亡 剖検	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	兼科 患者数	退院 患者数	粗死亡率	精死亡率	剖検率
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
総数	死亡 剖検	191 (4)	16 (-)	22 (-)	11 (-)	12 (-)	16 (-)	21 (1)	10 (1)	13 (-)	17 (-)	18 (-)	18 (-)	17 (2)	51 (2)	8,983 -	191 2.1	185 2.1	4 2.1
循環器内科	死亡 剖検	17 (1)	- (-)	- (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	4 (-)	1 (1)	1 (-)	646 -	17 2.6	17 2.6	1 5.9
消化器内科	死亡 剖検	16 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	3 (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	3 (-)	1,283 -	16 1.2	16 1.2	- -
内分泌・ 代謝内科	死亡 剖検	8 (1)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	2 (-)	3 (1)	382 -	8 2.1	8 2.1	1 12.5
呼吸器・ 免疫内科	死亡 剖検	73 (2)	8 (-)	11 (-)	5 (-)	6 (-)	5 (-)	5 (-)	2 (1)	7 (-)	3 (-)	8 (-)	5 (-)	8 (1)	17 (1)	1,040 -	73 7	70 6.7	2 2.7
血液・化学 療法内科	死亡 剖検	26 (-)	1 (-)	4 (-)	1 (-)	1 (-)	3 (-)	3 (-)	4 (-)	2 (-)	2 (-)	1 (-)	3 (-)	1 (-)	5 (-)	421 -	26 6.2	26 6.2	- -
脳神経内科	死亡 剖検	5 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	3 (-)	132 -	5 3.8	5 3.8	- -
腎臓内科	死亡 剖検	7 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	300 -	7 2.3	6 2	- -
消化器外科	死亡 剖検	7 (-)	3 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	6 (-)	375 -	7 1.9	7 1.9	- -
呼吸器外科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	102 -	1 1	1 1	- -							
乳腺外科	死亡 剖検	5 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	3 (-)	208 -	5 2.4	5 2.4	- -
心臓血管 外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	134 -	- -	- -	- -
産婦人科	死亡 剖検	2 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	1,622 -	2 0.1	2 0.1	- -
小児科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	320 -	- -	- -	- -
神経科・ 精神科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	88 -	- -	- -	- -
脳神経外科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	62 -	1 1.6	1 1.6	- -								
整形外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	298 -	- -	- -	- -
皮膚科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	235 -	- -	- -	- -
泌尿器科	死亡 剖検	5 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	3 (-)	457 -	5 1.1	5 1.1	- -
眼科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	288 -	- -	- -	- -
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	死亡 剖検	2 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	238 -	2 0.8	2 0.8	- -									
形成再建 外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	90 -	- -	- -	- -
救急総合 診療科	死亡 剖検	16 (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	3 (-)	- (-)	2 (-)	246 -	16 6.5	14 5.7	- -
予防医学 センター	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	16 -	- -	- -	- -

[診療情報管理室]

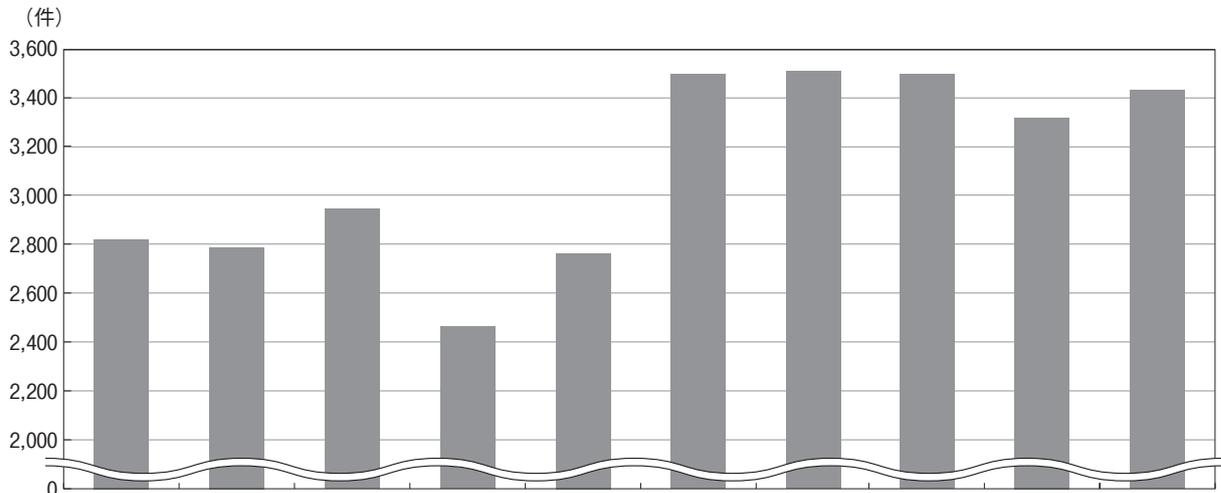
7 手術件数

① 診療科別・月別手術件数（手術室実施）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2022年度 合計	2021年度 合計
循環器内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内分泌・代謝内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器・免疫内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液・化学療法内科	0	3	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	6	3
全麻	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3
脳神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	36	26	30	28	36	24	26	28	19	26	27	23	329	361
全麻	29	22	25	24	29	21	21	26	18	23	21	22	281	291
呼吸器外科	7	11	8	5	10	10	10	12	7	6	9	6	101	88
全麻	7	11	8	5	10	10	10	12	7	6	9	6	101	88
乳腺外科	8	6	9	12	8	10	7	6	14	7	6	17	110	99
全麻	7	6	7	11	8	9	7	5	12	5	4	14	95	86
心臓血管外科	16	14	9	12	6	10	6	10	15	15	12	12	137	113
全麻	7	4	4	5	3	3	2	4	2	3	1	2	40	38
産婦人科	80	93	100	100	91	90	97	99	103	86	89	105	1,133	1,102
全麻	67	62	65	70	64	60	77	69	72	65	62	75	808	788
脳神経外科	1	6	2	3	3	1	3	2	6	4	0	2	33	18
全麻	1	1	2	1	2	0	3	1	4	4	0	0	19	11
整形外科	22	20	28	29	22	25	28	22	31	23	24	30	304	278
全麻	21	17	26	26	21	24	24	20	27	22	24	28	280	244
皮膚科	18	13	18	16	16	15	17	16	20	14	19	24	206	181
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	26	26	34	29	30	26	24	27	24	24	28	25	323	264
全麻	12	11	16	15	15	13	13	15	8	11	12	11	152	101
眼科	27	28	40	33	24	21	29	23	20	23	21	27	316	368
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉・頭頸部外科	16	10	13	15	17	15	13	17	11	9	17	15	168	184
全麻	13	7	10	12	15	14	10	14	8	8	14	12	137	147
形成再建外科	19	30	25	20	18	20	30	22	20	20	19	23	266	251
全麻	1	1	2	1	2	1	3	1	2	1	2	0	17	13
麻酔・緩和医療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	276	286	316	302	281	267	290	285	293	257	271	309	3,433	3,375
全麻	165	143	165	170	169	155	170	168	160	148	149	170	1,932	1,810

手術室以外での手術、麻酔は含まれない。

[手術室]



	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
手術件数	2,819	2,787	2,942	2,462	2,768	3,467	3,583	3,478	3,375	3,433

② 診療科別・年間手術件数（総件数のうち、上位のみ）

循環器内科

総件数	197
経皮的冠動脈ステント留置術(その他)	97
ペースメーカー移植術(経静脈電極)	21
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)(2日目以降)	15
経皮的冠動脈形成術(その他)	14
経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞)	10
経皮的冠動脈形成術 (高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテル)	10
経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症)	8
体外ペースメーカー移植術	7
植込型心電図記録計移植術	6
ペースメーカー交換術	5

消化器内科

総件数	768
内視鏡的大腸ポリープ・ 粘膜切除術(長径2cm未満)	455
内視鏡的胆道ステント留置術	74
内視鏡的消化管止血術	60
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・ 粘膜切除術(早期悪性腫瘍胃粘膜)	32
内視鏡的大腸ポリープ・ 粘膜切除術(長径2cm以上)	30
小腸結腸内視鏡的止血術	21
胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔 鏡下胃瘻造設術を含む)	9
内視鏡的胆道結石除去術(その他)	9
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・ 粘膜切除術(その他)	8
食道・胃静脈瘤硬化療法(内視鏡)	7
内視鏡的乳頭切開術(胆道碎石術を伴う)	7
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	7
下部消化管ステント留置術	6
内視鏡的膵管ステント留置術	6

内分泌・代謝内科

総件数	1
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	1

血液・化学療法内科

総件数	23
造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)(同種移植)	10
造血幹細胞採取(末梢血幹細胞採取)(同種移植)	8
造血幹細胞移植(臍帯血移植)	3
造血幹細胞採取(骨髄採取)(同種移植)	2

腎臓内科

総件数	50
経皮的シャント拡張術・血栓除去術(初回)	40
吸着式潰瘍治療法	6
血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等)(その他)	2

消化器外科

総件数	341
腹腔鏡下胆嚢摘出術	81
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	35
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテー テル設置(頭頸部その他)	30
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	29
腹腔鏡下虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	13
鼠径ヘルニア手術	12
腹腔鏡下直腸切除・切断術(低位前方切除術)	10
胃切除術(悪性腫瘍手術)	6
腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術)	6
腹腔鏡下虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴うもの)	6
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術)	5
創傷処理(筋肉、臓器に達する)(長径5cm未満)	4
腸吻合術	4
結腸切除術(全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術)	4
腹腔鏡下肝切除術(部分切除)(単回切除)	4
腹腔鏡下結腸切除術(小範囲切除、結腸半側切除)	4

脳神経外科

総件数	35
水頭症手術(シャント手術)	13
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	13
頭蓋内腫瘍摘出術(その他)	2

呼吸器外科

総件数	101
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超える)	26
胸腔鏡下肺切除術(肺嚢胞手術(楔状部分切除))	20
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(部分切除)	15
肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超える)	13
胸腔鏡下肺切除術(部分切除)	7
胸腔鏡下試験切除術	5
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)	5

乳腺外科

総件数	126
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(マンモグラフィー又は超音波装置)	20
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	18
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	18
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わない))	14
乳腺腫瘍摘出術(長径5cm未満)	12
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩部郭清を伴う))	11
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術・胸筋切除を併施しない)	9
乳腺腫瘍摘出術(長径5cm以上)	6

心臓血管外科

総件数	161
末梢動静脈瘻造設術(内シャント造設術)(単純)	39
下肢静脈瘤血管内焼灼術	26
四肢の血管拡張術・血栓除去術	21
ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	16
経皮的シャント拡張術・血栓除去術(初回)	12
動脈血栓内膜摘出術(その他)	8
血管移植術、バイパス移植術(その他の動脈)	7
大動脈瘤切除術(腹部大動脈(その他))	4
血管移植術、バイパス移植術(下腿、足部動脈)	4

産婦人科

総件数	1,222
子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(腹腔鏡)	225
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	215
腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	120
子宮内膜ポリープ切除術(電解質溶液利用)	106
子宮頸部(腔部)切除術	75
子宮鏡下子宮筋腫摘出術(電解質溶液利用)	52
帝王切開術(選択帝王切開)	41
帝王切開術(緊急帝王切開)	37
腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器使用)	32
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器使用)	28
膀胱脱手術(その他)	26
頸管裂創縫合術(分娩時)	25
流産手術(妊娠11週まで)(手動真空吸引法)	23
子宮脱手術(腔壁形成手術及び子宮全摘術)(腔式、腹式)	18
子宮附属器悪性腫瘍手術(両側)	17
子宮内膜搔爬術	17
卵管全摘除術(両側)(腹腔鏡)	15
子宮悪性腫瘍手術	13
子宮全摘術	13
腹腔鏡下仙骨腔固定術	10
異所性妊娠手術(腹腔鏡)	10

小児科

総件数	11
新生児仮死蘇生術(仮死第1度)	9
新生児仮死蘇生術(仮死第2度)	2

皮膚科

総件数	25
皮膚切開術(長径10cm未満)	6
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	5
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm未満)	3
創傷処理(筋肉、臓器に達しない)(長径5cm未満)	2
断端形成術(軟部形成のみ)(指)	2
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm未満)	2

整形外科

総件数	347
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(後方椎体固定)	48
人工関節置換術(膝)	37
人工関節置換術(股)	26
超音波骨折治療法	23
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓切除)	21
人工骨頭挿入術(股)	18
骨折観血の手術(大腿)	17
椎間板摘出術(後方摘出術)	12
骨切り術(指)	12
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓形成)	11
第一足指外反症矯正手術	10
関節形成手術(指)	10

麻酔・緩和医療科

総件数	18
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	18

泌尿器科

総件数	245
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道の手術)(電解質溶液利用)	71
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる)	38
経尿道の尿路結石除去術(レーザー)	37
腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	14
経尿道の尿管ステント留置術	12
経尿道の前立腺吊上術	9
経尿道の電気凝固術	9
膀胱腫瘍摘出術	6
膀胱悪性腫瘍手術(全摘(腸管等を利用して尿路変更を行わない))	4
腎(尿管)悪性腫瘍手術	4

眼科

総件数	314
水晶体再建術(眼内レンズを挿入)(その他)	305
硝子体切除術	2
網膜光凝固術(その他特殊)	2

耳鼻咽喉・頭頸部外科

総件数	183
口蓋扁桃手術(摘出)	41
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	15
リンパ節摘出術(長径3cm未満)	13
気管切開術	11
甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術(片葉のみ)	10
耳下腺腫瘍摘出術(耳下腺深葉摘出術)	10
頸部郭清術(片)	8
内リンパ嚢開放術	6
副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術(副甲状腺摘出術)	4
頸嚢摘出術	4

形成再建外科

総件数	127
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	17
眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	15
眼瞼下垂症手術(その他)	9
皮膚切開術(長径10cm未満)	7
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	6
断端形成術(軟部形成のみ)(指)	6
動脈(皮)・筋(皮)弁を用いた乳房再建術(乳房切除後)(一次的)	5
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm以上4cm未満)	5
リンパ節摘出術(長径3cm以上)	5

救急総合診療科

総件数	5
創傷処理(筋肉、臓器に達しない)(長径5cm未満)	5

[診療情報管理室]

2. 医事統計

1 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計																		
循環器内科	11,250	41,821	53,071	11,933	43,426	55,359	12,390	48,078	60,468	11,416	41,522	52,939	12,756	31,418	44,174	11,602	40,010	51,612	11,207	42,509	53,716
消化器内科	28,882	34,259	63,141	27,176	27,130	54,306	28,107	42,646	70,754	25,821	42,976	68,796	24,609	50,063	74,672	25,921	48,467	74,388	27,867	41,038	68,905
内分泌・代謝内科	23,571	21,510	45,082	21,860	21,262	43,122	25,094	18,376	43,469	22,111	23,238	45,349	23,699	29,968	53,667	23,827	20,739	44,565	23,584	18,838	42,422
呼吸器・免疫内科	62,640	71,610	134,250	62,315	62,589	124,904	67,051	69,903	136,954	62,444	75,553	137,997	74,523	81,486	156,010	69,705	62,536	132,241	67,274	59,574	126,848
血液・化学療法内科	43,519	69,509	113,029	44,388	56,837	101,225	50,694	63,940	114,633	36,805	72,308	109,113	48,466	67,857	116,323	38,636	71,989	110,625	44,839	70,571	115,411
脳神経内科	3,449	7,328	10,777	3,601	9,806	13,407	4,816	13,491	18,307	4,487	15,688	20,175	5,251	15,464	20,715	4,026	12,293	16,320	3,978	16,337	20,315
腎臓内科	6,265	30,993	37,259	6,732	26,227	32,959	6,778	20,677	27,455	7,310	20,592	27,902	7,932	23,419	31,350	7,487	21,681	29,169	7,405	15,812	23,217
内科(計)	179,577	277,030	456,608	178,005	247,277	425,282	194,928	277,111	472,040	170,394	291,877	462,271	197,236	299,675	496,912	181,204	277,715	458,919	186,154	264,679	450,833
消化器外科	12,977	41,342	54,318	10,944	29,761	40,706	11,818	36,693	48,510	7,370	37,686	45,056	10,794	36,609	47,403	10,979	37,237	48,216	10,109	33,005	43,114
呼吸器外科	1,538	10,769	12,307	1,177	14,569	15,746	1,442	10,757	12,199	1,237	7,588	8,825	1,851	16,487	18,338	1,289	15,900	17,189	1,867	15,664	17,531
乳腺外科	15,517	10,157	25,674	15,727	11,792	27,519	15,211	10,857	26,068	15,357	14,660	30,016	15,909	14,066	29,975	16,927	11,064	27,990	16,685	12,076	28,760
心臓血管外科	1,013	30,221	31,234	1,187	14,993	16,180	1,333	11,951	13,284	1,209	21,841	23,050	759	12,738	13,497	1,245	15,708	16,954	846	10,532	11,379
外科(計)	31,045	92,489	123,534	29,035	71,116	100,151	29,804	70,257	100,061	25,173	81,775	106,948	29,313	79,900	109,212	30,440	79,909	110,349	29,507	71,277	100,785
産婦人科	21,162	79,320	100,482	21,271	93,346	114,617	24,540	94,369	118,909	22,962	96,704	119,666	24,276	83,457	107,733	23,570	90,081	113,650	20,683	110,589	131,272
小児科	16,618	4,028	20,646	18,507	6,502	25,009	15,529	8,472	24,001	12,836	6,702	19,538	14,791	4,604	19,395	12,244	9,653	21,897	12,658	13,104	25,762
神経科・精神科	5,984	4,990	10,974	5,438	5,756	11,194	6,177	8,404	14,581	5,836	10,596	16,432	5,915	7,428	13,344	6,115	10,455	16,569	6,168	9,418	15,586
脳神経外科	1,177	3,989	5,167	1,068	6,532	7,600	1,319	4,169	5,488	952	4,145	5,097	952	5,261	6,213	1,046	1,353	2,399	2,025	5,021	7,046
整形外科	6,627	44,252	50,878	9,844	30,836	40,679	8,728	41,625	50,354	9,568	44,772	54,340	8,719	36,030	44,749	8,973	42,323	51,297	8,522	38,474	46,996
皮膚科	28,488	10,955	39,442	32,316	7,673	39,989	34,692	10,604	45,296	29,302	14,795	44,097	35,525	9,347	44,872	30,326	9,884	40,210	35,950	12,334	48,284
泌尿器科	16,484	20,289	36,774	14,189	22,051	36,240	14,266	26,792	41,058	15,288	23,980	39,268	16,274	27,965	44,239	14,242	22,659	36,900	15,616	28,529	44,145
眼科	8,001	5,677	13,678	7,247	6,238	13,484	9,707	8,149	17,856	8,431	7,317	15,748	7,658	4,808	12,466	9,658	4,369	14,027	8,948	6,237	15,185
耳鼻咽喉・頭頸部外科	6,305	12,551	18,856	7,321	7,826	15,147	7,324	12,135	19,459	6,236	15,180	21,416	7,557	15,766	23,323	7,225	17,620	24,845	6,120	19,238	25,358
形成再建外科	1,474	1,769	3,243	1,804	3,583	5,387	1,966	4,214	6,180	1,484	3,012	4,496	1,332	2,343	3,675	1,340	2,585	3,925	2,232	3,005	5,237
放射線診断科	2,170	5	2,175	2,776	0	2,776	3,459	0	3,459	2,312	0	2,312	2,561	0	2,561	2,784	0	2,784	2,619	2	2,621
放射線治療科	4,680	3,151	7,832	2,764	2,791	5,555	1,942	5,290	7,232	2,932	5,259	8,191	3,703	6,849	10,552	2,823	5,461	8,284	2,890	7,740	10,630
麻酔・緩和医療科	478	1,789	2,266	412	1,439	1,851	624	1,585	2,208	624	2,055	2,678	577	2,257	2,834	561	2,005	2,565	692	2,333	3,024
救急総合診療センター	6,632	17,117	23,749	7,411	21,033	28,444	7,634	15,530	23,164	15,189	22,713	37,903	11,510	21,320	32,831	7,652	20,951	28,602	6,811	13,300	20,110
糖尿病センター	500	0	500	540	0	540	533	0	533	522	0	522	508	0	508	480	0	480	540	0	540
リハビリテーション科	380	9,117	9,497	372	8,120	8,493	382	9,136	9,519	521	8,674	9,196	609	6,956	7,565	729	6,725	7,455	461	6,714	7,176
血液浄化センター	5,521	0	5,521	6,046	0	6,046	6,347	0	6,347	6,836	0	6,836	7,826	0	7,826	7,088	0	7,088	7,310	0	7,310
その他	230	0	230	301	0	301	489	0	489	329	0	329	418	0	418	337	0	337	339	0	339
計	343,533	588,517	932,050	346,667	542,119	888,787	370,390	597,841	968,231	337,726	639,557	977,284	377,259	613,966	991,225	348,835	603,746	952,582	356,244	611,994	968,239
百分率	37%	63%	100%	39%	61%	100%	38%	62%	100%	35%	65%	100%	38%	62%	100%	37%	63%	100%	37%	63%	100%

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度 累計	対前年 差額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
11,577	46,022	57,600	12,234	46,735	58,970	11,271	50,479	61,751	11,242	44,585	55,828	12,593	39,974	52,567	141,473	516,581	658,054	722,042	▲ 63,988
32,996	42,923	75,920	26,325	39,866	66,191	22,273	45,171	67,444	28,463	44,117	72,580	34,904	36,938	71,842	333,344	495,592	828,936	751,527	77,410
22,965	15,194	38,159	26,075	22,526	48,601	21,718	22,512	44,230	21,579	19,168	40,747	25,170	24,775	49,945	281,253	258,107	539,360	281,367※	---
64,521	80,265	144,786	69,754	83,309	153,063	61,314	80,882	142,196	66,856	77,941	144,797	78,104	85,187	163,291	806,502	890,833	1,697,336	881,936※	---
44,231	70,276	114,507	49,403	76,625	126,028	41,341	83,626	124,967	46,241	74,303	120,545	45,193	85,835	131,029	533,757	863,677	1,397,434	1,231,206	166,227
4,288	14,032	18,320	4,580	16,419	20,999	3,331	16,662	19,993	3,824	13,557	17,381	4,059	13,854	17,913	49,689	164,932	214,621	97,766	116,855
6,958	13,297	20,255	9,102	23,941	33,044	7,453	24,890	32,342	6,670	14,714	21,384	7,679	21,349	29,028	87,771	257,593	345,364	300,576	44,788
187,537	282,010	469,547	197,474	309,422	506,896	168,700	324,222	492,922	184,876	288,385	473,261	207,702	307,913	515,615	2,233,789	3,447,316	5,681,105	5,462,705	218,400
11,331	33,215	44,546	8,222	29,811	38,033	9,554	36,550	46,104	11,714	30,044	41,758	11,568	33,922	45,490	127,379	415,875	543,254	584,425	▲ 41,171
1,800	16,957	18,757	1,199	8,120	9,320	1,234	7,961	9,195	1,315	10,488	11,803	1,100	9,124	10,225	17,049	144,385	161,434	154,793	6,641
14,466	14,729	29,195	14,982	17,735	32,717	16,298	8,366	24,664	17,390	6,202	23,592	15,088	13,767	28,855	189,557	145,469	335,026	309,778	25,248
998	16,814	17,813	1,632	6,529	8,161	1,332	17,857	19,189	735	14,510	15,245	1,254	10,511	11,765	13,544	184,205	197,749	190,124	7,625
28,595	81,716	110,310	26,035	62,195	88,230	28,418	70,733	99,151	31,154	61,244	92,398	29,011	67,324	96,335	347,529	889,935	1,237,464	1,239,121	▲ 1,657
22,110	94,213	116,322	20,298	97,103	117,401	20,943	88,467	109,409	20,701	82,136	102,837	22,591	104,888	127,480	265,107	1,114,671	1,379,777	1,436,694	▲ 56,917
14,541	7,932	22,473	11,486	7,494	18,980	13,276	6,434	19,710	12,988	4,811	17,799	13,631	8,954	22,585	169,105	88,690	257,795	202,157	55,637
6,165	8,298	14,463	5,589	6,909	12,498	6,257	10,551	16,808	6,365	5,892	12,257	6,276	8,640	14,916	72,285	97,337	169,622	153,491	16,131
1,668	7,390	9,057	1,722	11,000	12,722	1,677	9,345	11,022	1,236	2,303	3,539	959	2,241	3,200	15,801	62,749	78,550	63,932	14,617
8,396	41,579	49,975	8,820	49,361	58,182	8,489	37,661	46,150	8,085	40,769	48,854	9,463	44,826	54,289	104,234	492,508	596,742	571,978	24,764
36,524	14,552	51,077	31,588	12,265	43,853	32,402	11,238	43,639	30,453	9,530	39,982	32,306	8,375	40,681	389,871	131,551	521,422	469,188	52,235
16,094	24,435	40,529	18,553	22,290	40,843	18,766	20,237	39,003	18,109	23,614	41,723	20,226	27,234	47,460	198,107	290,075	488,182	426,492	61,689
8,286	4,490	12,776	9,509	5,415	14,924	8,234	5,430	13,665	8,738	5,387	14,126	9,473	5,960	15,433	103,891	69,477	173,368	176,252	▲ 2,885
7,247	21,414	28,661	6,653	12,988	19,641	6,620	10,388	17,008	6,966	13,772	20,737	7,711	11,653	19,364	83,284	170,531	253,815	241,396	12,418
1,555	3,645	5,199	1,683	1,359	3,042	1,479	1,792	3,270	1,342	3,521	4,863	1,867	2,019	3,886	19,557	32,846	52,403	42,333	10,069
2,807	0	2,807	3,091	0	3,091	2,941	0	2,941	2,562	7	2,569	4,402	4,975	9,377	34,484	4,988	39,472	29,645	9,827
4,133	2,800	6,933	4,168	3,136	7,304	4,056	4,870	8,926	5,251	5,127	10,377	6,101	0	6,101	45,445	52,474	97,918	91,631	6,287
696	1,866	2,562	657	1,938	2,595	594	1,422	2,015	632	1,719	2,351	733	2,011	2,744	7,277	22,418	29,695	23,976	5,719
6,934	14,659	21,592	10,057	28,939	38,995	10,741	26,978	37,719	5,843	13,942	19,785	6,790	19,157	25,947	103,203	235,639	338,843	343,069	▲ 4,227
471	0	471	591	0	591	425	0	425	475	0	475	516	0	516	6,103	0	6,103	6,015	87
380	7,247	7,627	372	8,164	8,535	329	7,535	7,865	362	8,252	8,615	477	9,354	9,831	5,376	95,996	101,372	121,669	▲ 20,296
6,977	0	6,977	7,212	0	7,212	7,170	0	7,170	6,746	0	6,746	7,117	0	7,117	82,196	0	82,196	75,345	6,851
414	0	414	402	0	402	322	0	322	436	0	436	424	0	424	4,439	0	4,439	266	4,173
361,529	618,245	979,774	365,961	639,978	1,005,939	341,837	637,301	979,139	353,321	570,410	923,731	387,777	635,523	1,023,301	4,291,082	7,299,199	11,590,281	11,055,114	535,167
37%	63%	100%	36%	64%	100%	35%	65%	100%	38%	62%	100%	38%	62%	100%	37%	63%	100%	-	-

2 医療行為別医療収入

① 外来

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
初診料	3,474	3,598	4,231	5,080	3,815	3,429	3,327	3,316	3,390	3,182	3,083	3,520	43,445	43,009	436
再診料	11,004	10,749	12,116	11,377	11,920	11,828	11,452	11,443	12,285	11,100	10,817	12,600	138,691	144,488	▲ 5,796
指導料	27,115	27,313	26,801	29,005	29,908	26,169	28,012	27,466	29,174	28,109	26,095	29,974	335,141	293,996	41,145
処方料	8,815	9,924	7,273	7,803	8,023	6,003	8,400	8,270	8,994	8,004	8,502	14,139	104,150	146,816	▲ 42,665
注射料	132,345	134,291	137,219	112,343	148,560	127,170	134,656	138,309	134,307	129,011	143,096	140,794	1,612,102	1,495,334	116,768
処置料	6,901	7,706	8,161	8,537	9,362	9,044	9,023	8,703	8,800	8,766	8,141	10,050	103,192	97,569	5,623
手術料	6,104	6,311	8,542	7,537	6,875	7,071	6,899	5,920	5,634	5,194	5,176	6,970	78,233	68,753	9,480
検体検査料	89,164	87,793	101,223	97,036	95,791	95,691	91,121	93,865	98,336	88,050	88,443	101,871	1,128,383	1,069,808	58,575
画像検査料	37,273	40,131	45,911	39,810	41,731	42,404	42,797	41,530	42,090	39,935	39,169	45,689	498,471	480,212	18,259
リハビリ その他	14,832	12,741	12,780	13,024	14,520	13,668	13,840	15,095	15,780	14,526	14,936	17,517	173,260	164,876	8,384
自費	6,505	6,111	6,133	6,175	6,755	6,357	6,716	7,612	7,172	5,961	5,865	4,651	76,013	80,729	▲ 4,716
計	343,533	346,667	370,390	337,726	377,259	348,835	356,244	361,529	365,961	341,837	353,321	387,777	4,291,082	4,085,589	205,493

[医事サービス部]

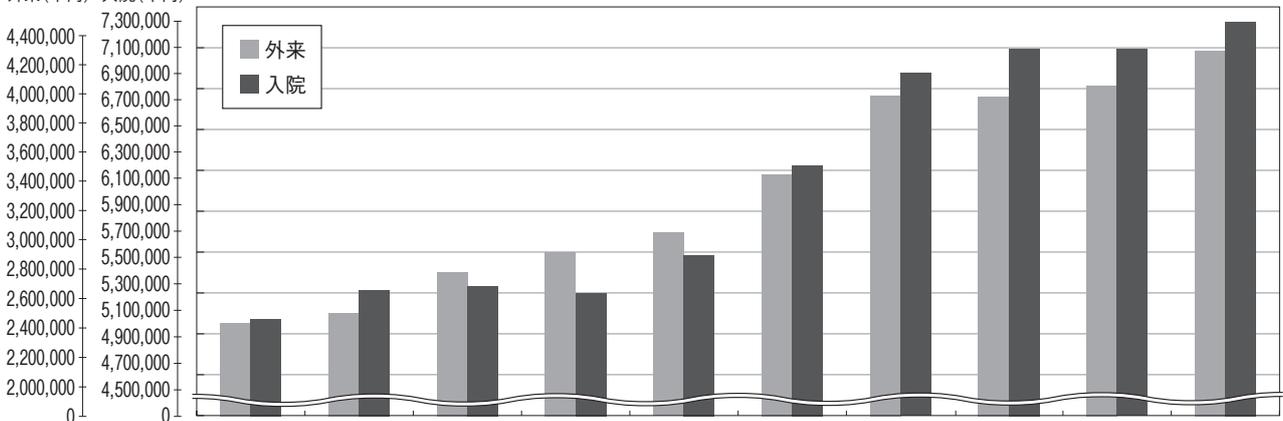
② 入院

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
診察料	288	304	301	377	296	265	265	241	382	228	303	231	3,480	4,509	▲ 1,029
指導料	8,002	6,845	7,973	7,779	7,056	7,510	7,171	6,996	7,574	7,861	6,874	11,180	92,820	81,136	11,683
処方料	5,356	4,721	5,987	5,422	7,823	9,244	4,982	6,563	7,701	8,501	8,640	6,256	81,196	76,640	4,556
注射料	14,036	12,488	9,597	23,259	25,669	15,793	14,579	17,345	25,102	24,270	29,939	25,670	237,748	297,249	▲ 59,501
処置料	4,154	5,278	4,400	3,878	5,101	4,177	3,205	3,262	4,853	5,180	4,836	5,145	53,470	37,405	16,065
手術料	159,669	134,010	153,273	155,828	135,953	145,259	143,725	146,805	138,310	132,124	127,770	140,858	1,713,584	1,692,060	21,524
検体検査料	12,313	11,679	13,848	13,876	15,902	14,789	14,194	14,141	14,756	15,888	12,732	13,811	167,927	162,856	5,071
画像検査料	1,532	1,191	1,182	1,983	2,145	1,565	1,638	1,540	2,147	2,197	1,510	1,419	20,051	24,508	▲ 4,457
リハビリ その他	12,209	10,812	14,336	13,794	13,762	12,170	14,506	10,144	11,252	12,471	13,430	14,239	153,127	165,172	▲ 12,046
入院料	54,603	52,826	49,074	64,912	83,334	67,898	77,827	72,355	85,824	88,210	60,436	66,973	824,271	853,986	▲ 29,714
DPC	265,932	251,274	285,828	290,522	262,893	270,301	269,558	282,425	284,055	279,097	256,037	295,095	3,293,018	3,019,540	273,477
食事療養費	13,189	12,220	13,258	14,272	13,932	12,869	13,821	13,628	14,673	14,660	12,592	13,889	163,005	159,339	3,666
自費	37,236	38,470	38,786	43,656	40,100	41,906	46,521	42,800	43,349	46,614	35,310	40,757	495,504	517,369	▲ 21,865
計	588,517	542,119	597,841	639,557	613,966	603,746	611,994	618,245	639,978	637,301	570,410	635,523	7,299,199	7,091,769	207,430

[医事サービス部]

外来(千円) 入院(千円)



	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	2,430,010	2,499,811	2,777,604	2,912,746	3,114,564	3,431,167	3,991,417	3,958,995	4,085,589	4,291,082
入院	5,032,855	5,250,034	5,283,258	5,232,252	5,578,012	6,266,133	6,901,386	7,096,119	7,091,769	7,299,199

3. その他統計

1 病院従業員数（2022年4月1日時点）

		職員	性別		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート	
			男	女					
医 師	2022年度	92	62	30	22	13	3	32	
	2021年度	90	58	32	22	12	2	41	
薬剤師	2022年度	21	8	13	0	0	0	2	
	2021年度	19	8	11	0	0	0	2	
放射線技師	2022年度	20	13	7	0	0	0	0	
	2021年度	21	14	7	0	0	0	0	
医学物理士	2022年度	0	0	0	0	0	0	1	
	2021年度	0	0	0	0	0	0	1	
臨床検査技師	2022年度	37	15	22	0	0	0	3	
	2021年度	35	13	22	0	0	0	3	
理学療法士	2022年度	11	10	1	0	0	0	0	
	2021年度	11	10	1	0	0	0	0	
作業療法士	2022年度	2	2	0	0	0	0	0	
	2021年度	4	4	0	0	0	0	0	
管理栄養士	2022年度	4	0	4	0	0	0	0	
	2021年度	4	0	4	0	0	0	0	
ケースワーカー	2022年度	8	0	8	0	0	0	0	
	2021年度	7	0	7	0	0	0	0	
視能訓練士・眼鏡士	2022年度	1	0	1	0	0	0	2	
	2021年度	1	0	1	0	0	0	2	
公認心理師	2022年度	0	0	0	0	0	1	2	
	2021年度	1	0	1	0	0	0	1	
臨床心理士	2022年度	0	0	0	0	0	0	0	
	2021年度	0	0	0	0	0	0	0	
臨床工学技士	2022年度	10	5	5	0	0	0	0	
	2021年度	10	5	5	0	0	0	0	
看護師	2022年度	359	18	341	0	0	0	18	
	2021年度	340	21	319	0	0	0	21	
准看護師	2022年度	0	0	0	0	0	0	5	
	2021年度	0	0	0	0	0	0	5	
看護助手	2022年度	0	0	0	0	0	0	4	
	2021年度	0	0	0	0	0	0	7	
事務員	2022年度	49	25	24	0	0	0	34	
	2021年度	48	25	23	0	0	0	33	
一般技能労務職	2022年度	4	2	2	0	0	0	2	
	2021年度	3	3	0	0	0	0	2	
小 計	2022年度	618	160	458	22	13	4	105	
	2021年度	594	161	433	22	12	2	118	
ニッセイ予防医学センター	医 師	2022年度	6	1	5	0	0	0	4
		2021年度	4	1	3	0	0	2	2
	放射線技師	2022年度	4	2	2	0	0	0	4
		2021年度	5	2	3	0	0	0	5
	臨床検査技師	2022年度	0	0	0	0	0	0	9
		2021年度	0	0	0	0	0	0	10
	公認心理士	2022年度	0	0	0	0	0	0	3
		2021年度	0	0	0	0	0	0	2
	看護師	2022年度	11	0	11	0	0	0	6
		2021年度	11	0	11	0	0	0	6
	事務員	2022年度	15	6	9	0	0	0	21
		2021年度	16	6	10	0	0	0	22
	一般技能労務職	2022年度	1	1	0	0	0	0	0
		2021年度	1	1	0	0	0	0	0
小 計	2022年度	37	10	27	0	0	0	47	
	2021年度	37	10	27	0	0	2	47	
訪問看護	看護師	2022年度	6	0	6	0	0	0	8
		2021年度	5	0	5	0	0	0	10
小 計	2022年度	6	0	6	0	0	0	8	
	2021年度	5	0	5	0	0	0	10	
総 計	2022年度	661	170	491	22	13	4	160	
	2021年度	636	171	465	22	12	4	175	

[総務人事G]

2 セカンドオピニオン外来件数（年間計）

消化器外科 1 件、呼吸器外科 1 件、産婦人科 4 件、計 6 件

[あったかサポートセンター]

循環器内科

スタッフ 部長：岡部太一（中央臨床検査部長）
 担当部長：中川 厚（救急総合診療センター副センター長）
 医 長：和田有希（～2022年9月）、吉川秀人、友瀨彰人
 専攻医：木下聡子（2022年4～7月、9～3月）

1. 診療内容

循環器内科では虚血性心疾患、心不全、各種弁膜症、高血圧症、脂質異常症、不整脈疾患、末梢血管疾患に加え、その危険因子である高血圧症、脂質異常症、糖尿病のについても診療を行っている。

循環器疾患のなかでも、特に大きな課題を抱えているのが心不全である。団塊の世代が全員75歳以上になる2025年問題が指摘、2030年には心不全患者が爆発的に増加する「心不全パンデミック」も懸念されており、当科も積極的に受け入れ対応を実施、心不全の進展についてステージDである高齢化に伴う心不全の緩和ケアの重要性が増すと共に、未病という考えから心不全に至る危険因子の管理も非常に重要であることから、外来においては積極的に他科やドックからの受け入れを行い、安定した後は、登録医の先生方への逆紹介を行っている。

待機的な冠動脈造影検査については近年、年間600件前後、経皮的冠動脈形成術（PCI）も150～200件前後で推移していたが、コロナ禍の影響で減少、362件、150件程度と減少したが、急性心筋梗塞などの緊急カテーテル検査などの救急疾患についても積極的に対応、大きな減少は認めなかった。

近年保険診療においてPCI実施については可能な限り虚血所見の証明を必要とされており、当院ではシンチ検査や運動負荷シンチ検査、心臓カテーテル検査中に冠血流予備量比測定（FFR・iFRなど）にて虚血評価を実施の上、カテーテル治療を実施している。

下肢閉塞性動脈硬化症治療については、現在は心臓血管外科に移行している（精査は継続）。

不整脈治療について、頻脈性不整脈に対するカテーテル心筋症焼灼術については心房粗動や上室性頻拍症など心房細動以外の不整脈に対しては大阪医科大学循環器内科出身の不整脈専門医の協力のもと当院にてアブレーション治療を可能な体制を構築、また心房細動症例については当院では定期的なアブレーション治療は実施していないが、薬物治療・アブレーション治療による治療の要否について循環器専門医が判断、必要と判断した症例については実施可能施設に紹介している（2022年は実施症例なし）。

徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）に対するペースメーカー治療（新規植込み・電池交換）については吉川医長が植込み手術を実施している。

また2016年9月より心臓リハビリテーションを当院

でも開始、主に入院患者を対象に急性心筋梗塞後のみならず心不全や閉塞性動脈硬化症などに対して実施、可能な症例に対しては入院から外来へと継続実施している（コロナ感染流行に伴い2021年度は外来リハは中止、5類移行後は再開検討）。心臓リハビリテーション実施に際して安全にかつ有効に実施するため心肺運動負荷試験（CPX）実施、嫌気性代謝閾値を相定、評価実施、運動処方を行っている。

虚血性心疾患・心不全を中心に診療を行っているが、循環器一般診療・内科一般疾患に対しても関連疾患の診療も他科と協力、幅広く診療を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

3) 検査スケジュール（表3）

- ・心臓カテーテル検査・冠動脈形成術：放射線部（火曜 全日、木曜・全日、尚、緊急時には随時対応）
- ・薬剤負荷心筋シンチ（火・木午前）
- ・トレッドミル負荷心電図検査（月曜 午後）
- ・経胸壁心臓超音波検査 頸動脈超音波検査（月～金曜 全日）
- ・経食道心臓超音波検査（午後適時）
- ・下肢静脈超音波検査（月～金曜 午後）
- ・ホルター心電図検査（月～木曜 午前）
- ・CPX：心肺運動負荷試験（午後適時）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2) 入院診療実績（表4、5）

3) 検査実績

心臓カテーテル検査件数：362件

PCI（冠動脈インターベンション治療）：168件（内、緊急20件）

ペースメーカー治療（新規/交換）：20/4件

冠動脈CT：363件

心臓超音波検査：4,230件

経食道心臓超音波検査：5件

トレッドミル負荷心電図：141件

負荷心筋シンチ：41件

冠血流予備量比測定：119件

ホルター心電図検査：216件

CPX件数：0件

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医

5名（岡部、中川、和田、吉川、友瀨）

日本内科学会総合内科専門医 1名（岡部）

循環器専門医 4名（岡部、中川、和田、友瀨）

日本心血管インターベンション治療学会

専門医・指導医（中川）

5. 業績

学会発表

1. 宮本紘子, 坂口健太, 友瀨彰人, 吉川秀人, 和田有希, 岡部太一：診断に苦慮した右心耳内血栓の1例, 第133回循環器学会近畿地方会, 2022年6月, 大阪 (Web)
2. 羽田基樹, 木下聡子, 友瀨彰人, 吉川秀人, 和田有希, 中川 厚, 岡部太一：冠動脈穿孔に対しカバードステントでペイルアウトしたが慢性期に閉塞を来した1例, 第39回日本インターベンション学会 近畿地方会, 2022年10月, 大阪 (Web)

研究会発表

1. 吉岡佑太, 岡部太一：洞不全症候群に対してペースメーカー植え込み後に心不全が増悪した1例, あわぎ循環器WEBセミナー, 2022年7月, WEB
2. 岡部太一：産業医が診るステージA・B心不全におけるリスク管理・治療, 第15回日本生命病院産業医セミナー, 2023年2月, 大阪 (Web)
3. 岡部太一：心血管病罹患予防のためのリスク管理：糖尿病を中心に, TMNとワーク勉強会, 2023年3月, 大阪
4. 岡部太一：心不全に併存する貧血病態, Expert Web Seminar～心臓 腎臓 貧血を再考する, 2023年3月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
吉川	友瀨	岡部	永田	中川	木下	岡部	宮本	友瀨	中川
中川				岡部/ 長谷川 (浩) (予約)※	吉川			和田/ 岡部	

※岡部は1・4・5週の予約再診、長谷川は2・3週の初診のみ

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス	カンファレンス 心臓カテーテル	合同カンファレンス (放科・心外)	カンファレンス 心臓カテーテル	カンファレンス
午後			部長回診	カンファレンス	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
心エコー	● 紹・予									
頸動脈エコー	● 紹・予									
ホルター心電図		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		
末梢血管エコー		● 紹・予								
トレッドミル		○ 診								
心臓カテーテル検査			○ 診	○ 診			○ 診	○ 診		
負荷心筋シンチ									○ 診	

●：紹介状・予約が必要 ○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	14,144	12,558	12,092	12,815	13,293
入院	8,470	6,896	6,345	8,301	7,640

表5 2022.4～2023.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症	329	5
心不全	148	22
COVID-19	24	23
急性心筋梗塞	17	15
房室ブロックおよび左脚ブロック	17	16
肺炎、病原体不詳	16	12
その他の不整脈	12	11
心房細動および粗動	10	10
尿路系のその他の障害	8	14
その他の肺性心疾患	7	11
その他の伝導障害	6	7
その他の急性虚血性心疾患	6	14

消化器内科

スタッフ 主任部長：有坂好史（消化器内視鏡センター長）
副部長：田中敏雄（部長待遇）、若原ちか、萩巣恭平
医 長：河田奈都子、北田隆起、板東正貴
専攻医：井口謙志、楠下 萌（2022年4～8月、2022年12月～2023年3月）、
森本祐太郎（2022年4～11月）
顧問：中村秀次

1. 診療内容

全人的な医療をモットーとして、消化器疾患全般に対する診療を行っている。外科合同カンファレンス、放射線科合同カンファレンスを継続して行い、外科・放射線科の連携のもと集学的診断治療に努めている。上部・下部消化管内視鏡検査では、NBI拡大内視鏡、色素内視鏡を用いて、食道癌、胃癌、大腸癌の早期診断など高い診断精度を目指す。胆膵疾患および消化管粘膜下腫瘍に対しては超音波内視鏡検査を駆使し、超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）も導入し、診断能の向上を図っている。治療の手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術に加えて、胃・食道の早期癌に対して粘膜下層剥離術（ESD）も積極的に実施しており、早期大腸癌のESDも行っている。膵・胆管領域では、総胆管結石や閉塞性黄疸に対して内視鏡的逆行性胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行っている。食道や胃の進行癌だけでなく膵癌、胆管癌に対しても、化学療法、放射線療法など集学的治療を行っている。肝疾患では、B型慢性肝炎に対するエンテカビル、テノホビル、TAF投与、C型慢性肝炎に対するIFN-free DAA経口療法を積極的に実施している。肝硬変に対しては肝癌の早期発見さらに発癌抑制も踏まえたきめ細かな診療を心がけ、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法、難治性腹水に対するCART療法など、QOLおよび生存率の向上を目指した治療を行っている。肝細胞癌に対しては、外科、放射線科との緊密な連携の下、外科切除、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE）等の局所治療を実施するとともに、局所コントロール不能例には分子標的治療薬も積極的に導入し、集学的治療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定医
5名（有坂、河田、北田、板東、中村）
日本内科学会総合内科専門医 2名（若原、萩巣）
日本内科学会認定指導医 3名（有坂、北田、中村）
日本消化器病学会認定専門医
6名（有坂、若原、河田、萩巣、北田、中村）
日本消化器病学会認定指導医
5名（有坂、若原、河田、萩巣、中村）
日本消化器内視鏡学会認定専門医
7名（有坂、若原、河田、萩巣、北田、板東、中村）
日本消化器内視鏡学会認定指導医
3名（有坂、若原、中村）
日本肝臓学会認定肝臓専門医
4名（河田、萩巣、北田、中村）
日本肝臓学会認定指導医 1名（中村）
日本胆道学会認定指導医 2名（有坂、萩巣）
日本膵臓学会認定指導医 2名（有坂、河田）
日本臨床腫瘍学会暫定指導医 1名（中村）
日本超音波医学会専門医 1名（河田）
日本がん治療認定医 1名（河田）

5. 業績

論文・著書

1. 北田隆起, 有坂好史, 石田哲朗, 萩巣恭平, 河田奈都子, 若原ちか, 田中敏雄, 中村秀次, 城光寺龍, 水野 均: 腹腔鏡下肝切除術を施行した肝外突出型の限局性結節性過形成の1例, 日本生命病院医学雑誌, 50: 42-47, 2022年

学会発表

1. 北田隆起, 中村秀次, 萩巣恭平, 河田奈都子, 若原ちか, 有坂好史: COVID-19における肝障害の検討, 第58回日本肝臓学会総会, 2022年6月, 横浜
2. 北田隆起, 中村秀次, 萩巣恭平, 河田奈都子, 若原ちか, 有坂好史: COVID-19罹患後に肺外病変として肝障害を認めた成人多系統炎症性症候群の1例, 第44回日本肝臓学会東部会, 2022年12月, 仙台
3. 中島七海, 萩巣恭平, 森本祐太郎, 楠下 萌, 板東正貴, 北田隆起, 河田奈都子, 若原ちか, 田中敏雄, 中村秀次, 有坂好史: セフトリアキソン（CTR）投与に伴う偽胆石の1例, 第239回日本内科学会近畿地方会, 2023年3月, 大阪
4. 白江惇人, 萩巣恭平, 森本祐太郎, 板東正貴, 北田隆起, 河田奈都子, 若原ちか, 田中敏雄, 中村秀次, 有坂好史: 急速な増大を呈した膵腺扁平上皮癌の1例, 第239回日本内科学会近畿地方会, 2023年3月, 大阪

研究会発表

1. 北田隆起：市民公開講座～肝臓病を知る～「肝がんの治療方法」，西部大阪肝疾患地域連携会，2022年3月，大阪
2. 有坂好史：慢性膵炎－臨床診断基準2019とガイドライン2021－，ヴィアトリス製薬社内講習会，2022年6月，大阪
3. 萩巣恭平，島津礼子，森本祐太郎，楠下 萌，井口謙志，石田哲朗，板東正貴，北田隆起，河田奈都子，若原ちか，田中敏雄，中村秀次，有坂好史：EUS-FNAによる悪性リンパ腫の診断，West Osaka GI Symposium，2022年6月，大阪（WEB）
4. 若原ちか：大腸ポリープ切除後のサーベイランス～Japan polyp studyと便通コントロールの意義～，第4回あわぎ消化器合同病診連携会，2022年7月，大阪（WEB）
5. 有坂好史：胆石症Up to date－胆石症診療ガイドライン2021－，興和株式会社社内講習会，2023年2月，大阪
6. 北田隆起：市民公開講座～肝臓病を知る～「肝炎の治療と予後」，西部大阪肝疾患地域連携会，2023年3月，大阪

表1 外来診察スケジュール（完全予約制）

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
有坂	萩巣	若原	北田	中村	中村	中村	中村	有坂	若原
北田		田中 (敬)	楠下	河田	河田	坂東	永瀬	田中 (敬)	井口
		坂東		萩巣					

表2 病棟スケジュール

月	火	水	木	金
肝生検	内視鏡 カンファレンス	肝生検 造影超音波検査	RFA 放射線科合同 カンファレンス 病棟患者 カンファレンス	回診

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内視鏡 胃	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	
内視鏡 大腸		○ 診		○ 診		○ 診				○ 診
EUS									○ 診	
ERCP			○ 診					○ 診		
膵精密エコー						● 紹・予				

●：紹介状・予約が必要 ○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	18,594	19,449	17,624	16,730	17,951
入院	8,741	10,461	9,424	7,484	9,025

表5 2022.4～2023.3－入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
結腸、直腸、肛門および 肛門管の良性新生物	410	2
結腸の悪性新生物	179	3
胆石症	68	10
胃の悪性新生物	57	8
腸の憩室性疾患	50	8
胆道のその他の疾患	43	11
膵の悪性新生物	32	12
直腸の悪性新生物	26	5
肝および肝内胆管の悪性新生物	22	10
腸の血行障害	22	10
潰瘍性大腸炎	20	12
肺炎、病原体不詳	18	18
COVID-19	18	14
急性膵炎	17	14
口腔および消化器の性状不詳または 不明の新生物	16	7

スタッフ 部 長：橋本久仁彦
 (副院長、糖尿病・内分泌センター長、栄養管理室長、あったかサポートセンター長)
 医 長：大畔健太
 医 員：住谷 哲 (2022年4～6月)
 専 攻 医：西岡美保、大西彩乃、松尾剛明、楠下 萌 (2022年9～11月)、
 森本尚喜 (2022年4～9月、12月～2023年3月)、森本祐太郎 (2023年2～3月)
 兼 任：笠山宗正 (名誉院長)、三木俊治 (予防医学センター)、宇都佳彦 (救急総合診療科)、
 松島 希 (予防医学センター)、高森啓成 (救急総合診療科)

1. 診療内容

内分泌・代謝内科は、内分泌・糖尿病疾患を主な対象疾患として診療を担当している。具体的には、①糖尿病の患者教育・支援、経口薬やGLP-1受容体作動薬・インスリンなどの注射薬による血糖コントロール、糖尿病性アシドーシス・高血糖高浸透圧症候群などの糖尿病救急に対する対応、糖尿病合併症治療および感染症治療など、②下垂体機能低下症を主体とする下垂体疾患、甲状腺機能亢進症・低下症・眼症、副甲状腺疾患、原発性アルドステロン症・クッシング症候群を主体とする副腎疾患などの内分泌疾患の診断・治療を精力的に行った。

2019年度より発生した COVID-19 に対しては、救急・総合診療科を含む各内科で入院治療を行ったが、多数の内科専攻医が所属する内分泌・代謝内科において多くの患者を担当した。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール (表1)
- 2) 病棟体制 (表2)

担当患者数は、主観患者は20名程度、共観患者は30名程度であり、病棟担当医は研修医1～2名、専攻医4～5名であり、部長および常勤医の指導の下、研修医と専攻医・常勤医により症例によっては複数主治医体制で診療を行った。

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績 (表3)

2022年度外来述べ患者数は、21,985人であった。2021年10月から内分泌・代謝内科として専門分化したことから外来延べ患者数の経年比較は単純には難しいが、2022年度中に多数の外来患者を診察していた医師が退職したため定期通院患者の一部は転医したことが推測される。

- 2) 入院診療実績 (表3、4)

2022年度入院述べ患者数は、5,457人であった。2021年10月から内分泌・代謝内科として専門分化したことから入院延べ患者数の経年比較は単純には難しいが、これまでの総合内科としての入院患者は各内科に分散していることから人数としては少し減少していることが推測される。内分泌・代

謝内科における入院患者内訳については2021年と同様に疾患別では2型糖尿病が第1位、COVID-19が第2位であり、内分泌疾患では下垂体疾患が最も多かった。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医

5名 (橋本、大畔、住谷、三木、笠山)

日本内科学会認定指導医

5名 (橋本、大畔、住谷、三木、笠山)

日本内科学会総合内科専門医 3名 (橋本、住谷、三木)

日本内分泌学会指導医 3名 (橋本、住谷、笠山)

日本内分泌学会専門医 3名 (橋本、住谷、笠山)

日本糖尿病学会指導医 3名 (橋本、住谷、笠山)

日本糖尿病学会専門医 4名 (橋本、大畔、住谷、笠山)

日本高血圧学会指導医 1名 (笠山)

日本人間ドック学会認定医 1名 (橋本)

日本人間ドック学会専門医・指導医 1名 (住谷)

日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1名 (橋本)

5. 業績

論文・著書

1. 笠山宗正：第50巻発刊に寄せて., 日本生命病院医学雑誌, 50:2, 2022年

学会発表

1. 森 栄作, 姜 信午, 村田佳織, 岡野理江子, 大西正芳, 吉内和富, 安田哲行, 久米田靖郎, 庄司繁市, 谷口敏雄, 川岸隆彦, 谷本吉造, 徳田好勇, 北川良裕, 小杉圭右, 馬屋原豊, 橋本久仁彦, 武呂誠司：大阪市南部地区における病診連携の試み (第23報) 糖尿病の眼合併症に関するアンケート調査より, 第65回日本糖尿病学会年次学術集会, 2022年5月, 神戸 ハイブリッド
2. 落合 進, 大西彩乃, 田村有里, 佐本 彩, 高森啓成, 高島大幸, 松島 希, 林 令子, 宇都佳彦, 住谷 哲, 笠山宗正, 橋本久仁彦：当院で新規導入したリラグルチドとデュラグルチド症例における患者背景と治療効果の比較, 第66回日本糖尿病学会年次学術集会, 2022年5月, 神戸 ハイブリッド
3. 片上直人, 三田智也, 吉井秀徳, 白岩俊彦, 安田哲行, 岡田洋希, 黒住 旭, 馬屋原豊, 金藤秀明, 遅野井健, 山本恒彦, 栗林伸一, 前田和久, 横山宏樹, 小杉圭右, 林 功, 住谷 哲, 津川真美子, 良本佳代子, 加藤 研, 中村 正, 川嶋 聡, 佐藤泰憲, 綿田裕孝, 下村伊一郎：トホグリフロジンによる糖尿病大血管症の進展抑制効果の検討：UTOPIA Extension study, 第67回日本糖尿病学会年次学術集会, 2022年5月, 神戸 ハイブリッド

- 田村有里, 松島 希, 大西彩乃, 落合 進, 佐本 彩, 高森啓成, 高島大幸, 林 令子, 宇都佳彦, 住谷 哲, 笠山宗正, 橋本久仁彦: COVID-19に関連した抗利尿ホルモン不適切分泌症候群; 当院でのCOVID-19入院患者における低ナトリウム血症の調査, 第95回日本内分泌学会総会, 2022年6月, 別府 ハイブリッド
- 林 令子, 永田沙織, 梅下光子, 泉由紀子, 大山摩佐子, 浅野彰彦, 住谷 哲, 三木俊治, 中村秀次, 笠山宗正, 橋本久仁彦, 栗並仁美: 飲酒習慣のない非肥満者における脂肪肝の程度と空腹時血糖値・HbA1cは相関する, 第96回日本内分泌学会総会, 2022年6月, 別府 ハイブリッド
- 西岡美保, 森本尚喜, 大西彩乃, 松尾剛明, 高森啓成, 松島 希, 大畔健太, 宇都佳彦, 住谷 哲, 笠山宗正, 橋本久仁彦: セマグルチド皮下注射による肝障害が疑われた自己免疫性肝炎合併糖尿病の一例, 第59回日本糖尿病学会近畿地方会, 2022年11月, 神戸
- 松島 希, 森本尚喜, 大西彩乃, 松尾剛明, 西岡美保, 高森啓成, 大畔健太, 宇都佳彦, 住谷 哲, 笠山宗正, 橋本久仁彦: SGLT2阻害薬内服中に尿路感染症を契機に腎出血・腎周囲膿瘍を発症した2型糖尿病の1例, 第59回日本糖尿病学会近畿地方会, 2022年11月, 神戸
- 森本尚喜, 大西彩乃, 松尾剛明, 西岡美保, 高森啓成, 松島 希, 大畔健太, 宇都佳彦, 住谷 哲, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 当院におけるCOVID-19患者の臨床経過に与える耐糖能の影響, 第59回日本糖尿病学会近畿地方会, 2022年11月, 神戸
- 大西彩乃, 森本尚喜, 落合 進, 松尾剛明, 西岡美保, 高森啓成, 大畔健太, 宇都佳彦, 住谷 哲, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 感染症やMMIによる副作用を経ながらステロイド療法を継続し甲状腺眼症の軽快を認めた1例, 第23回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 2022年11月, 奈良
- 浅井啓亮, 森本尚喜, 落合 進, 松尾剛明, 大西彩乃, 西岡美保, 大畔健太, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 少量のヒドロコルチゾンにより軽快傾向を認めた下垂体炎の1例, 第238回日本内科学会近畿地方会, 2022年12月, 大阪
- 橋本紘宣, 森本尚喜, 松尾剛明, 大西彩乃, 西岡美保, 大畔健太, 笠山宗正, 橋本久仁彦: 基礎疾患の無い50歳男性に発症した化膿性椎間板炎の1例, 第238回日本内科学会近畿地方会, 2022年12月, 大阪
- 白江惇人, 大畔健太, 長濱圭佑, 中江吉希, 加藤るり, 橋本久仁彦, 川上 学: 骨髄異形成症候群の病勢進行下において尿素窒素による浸透圧利尿に伴う高ナトリウム血症を来した1例, 第239回日本内科学会近畿地方会, 2023年3月, 大阪 ハイブリッド
- 本郷卓英, 川上 学, 笠山宗正, 橋本久仁彦: SARS-CoV-2ワクチン接種後に発症した亜急性甲状腺炎の1例, 第239回日本内科学会近畿地方会, 2023年3月, 大阪 ハイブリッド
- 井上健太, 大西彩乃, 西岡美保, 森本尚喜, 松尾剛明, 大畔健太, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦, 中川 厚: 尿路感染症を契機にたこつぼ感染症を発症した相対的副腎不全の2例, 第239回日本内科学会近畿地方会, 2023年3月, 大阪 ハイブリッド
- 笠山宗正, 東山眞里, 高島郁子, 三好 岳, 立花 功: 当院職員のモラル向上のための取り組み, 第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2022年8月, 大阪 (紙面開催)

研究会発表

- 橋本久仁彦: 代謝を整える糖尿病診療, 薬剤師の先生方のための糖尿病Web Meet the Expert, 2022年3月, (Web開催)
- 笠山宗正: 成人GH分泌不全症: 私の診療経験, Sandoz Medical Seminar, 2022年6月, WEB開催
- 橋本久仁彦: SGLT2阻害薬のピットフォール, 第51回糖尿病臨床検討会, 2022年12月, 大阪
- 笠山宗正: 下垂体前葉機能低下症の移行期医療, 第10回関東移行期医療の会, 2023年2月, WEB開催
- 松尾剛明: 内因性分泌が枯渇した2型糖尿病に対して, 間歇的持続血糖モニタリングを行うことにより, インスリン投与

のタイミングを各食事ごとに設定した1例, 第35回インスリン治療研究会, 関西, 2023年3月, 大阪

- 笠山宗正: 新型コロナウイルスの感染対策と今後の医療の動向, 大阪府研究開発型企業振興会 (ORD) 講演会, 2022年6月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
大畔	森本 (尚)	三木 ***	西岡	笠山	笠山	笠山	笠山	橋本	大西	
宇都 *		橋本	橋本	橋本	高森 *	大畔	松尾			
						三木 ***	松島 ***			
						宇都 *				

※救急総合診療科所属 ※予防医学センター所属

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス
午後	部長回診	症例カンファレンス		抄読会	

表3 年度別外来・入院延べ患者数*

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度
				うち、内分泌・代謝内科		
外来	43,945	45,755	41,825	38,454	11,230	21,985
入院	17,201	20,685	23,300	24,488	3,042	5,457

※2018年~2020年は総合内科の人数。
2021年は旧総合内科計の人数、内分泌・代謝内科 (10月~) の人数を記載。
2022年度は内分泌・代謝内科の人数。

表4 2022.4~2023.3-入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	144	13
COVID-19	33	11
肺炎、病原体不詳	33	15
1型糖尿病	19	14
下垂体疾患 (下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など)	19	7
尿路系のその他の障害	17	15
その他の体液、電解質および酸塩基平衡障害	16	17
その他の副腎障害	10	6
急性腎盂腎炎	7	10
アルドステロン症	5	4

スタッフ 部長：井原祥一
副部長：甲原雄平
医 長：二宮隆介、小中八郎
副医長：廣海汐理
専攻医：田中雅樹（2022年4～6月、8月～2023年3月）、神島 望
兼 務：立花 功（院長）

1. 診療内容

2021年10月より総合内科から呼吸器・免疫内科および内分泌内科にわかれ、呼吸器・免疫内科として診療を行っている。

呼吸器内科では下気道・胸腔の臓器疾患を担当しており、原因疾患にかかわらず当該臓器に呈した異常に対して積極的な診断をおこなっている。また下気道・胸腔を由来とする疾患においてはその合併症を含め全身管理を行っている。一方、免疫内科は自己免疫疾患を担当している。自己免疫疾患は免疫というシステムの異常に伴う疾患でありその臓器特異性は低い。よって特定の臓器ではなくシステムの異常により惹起される様々な臓器の異常に配慮し全身疾患としての診療を行っている。臓器別の診療科名である“呼吸器内科”とシステムによる診療科名である“免疫内科”は異質の命名であるが免疫システムの異常が肺野の異常陰影や胸膜・心膜の異常として検出されることや免疫疾患の加療中に呼吸器に異常をきたすことはしばしば見受けられ、さらには癌治療における免疫治療の増加から癌治療中に免疫システム異常による病態を呈する症例も増加しており呼吸器内科医師・免疫内科医師が協力して呼吸器・免疫内科診療にあたっている。

対応している疾患は、悪性腫瘍・感染症・全身性結合組織疾患に分類される疾患が入院患者の上位を占めている。疾患にかかわらず、信頼できる教科書および信頼できる論文総説、さらに根本的な化学法則に基づいた知識などを論理的思考を以て運用し適切な治療を施せるよう心がけている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

病棟管理においては、40～60名程度の入院患者に対して常勤医5名・後期研修医2名が主治医師として対応を行った。さらに担当医師である初期研修医の指導を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

X線透視下気管支鏡検査：放射線部（水曜日全日）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2022年度には、呼吸器・免疫内科の外来患者として16,145名の診療にあたった。これは呼吸器・免疫内科が総合内科から分離後2021年10月から2022年3

月の6ヶ月の外来患者数7,787名と比較しても増加している。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院延患者数は、2022年度は15,961名であった。2021年10月から2022年3月の6ヶ月間の入院患者数9,148名と比較すると減少しているが、呼吸器・免疫内科入院患者が全病床の約6分の1を占めることもあり、入院を必要とする患者への対応も積極的に行っている。

3) 検査実績

気管支鏡検査は入院で施行している。検査数は343件と経年的に増加している。（2021年度272件）

免疫内科担当医師はすべて日本リウマチ学会登録ソノグラファーであり、積極的に関節超音波検査を診療に役立てている。

これら診療科専門的な検査に加え、胸水採取、心嚢液採取、髄液採取などの内科一般的検査も積極的に施行している。

4. 認定医・専門医など

日本内科医学会認定内科医

5名（立花、井原、甲原、二宮、小中）

日本内科学会内科指導医 2名（立花、井原）

日本内科学会総合内科専門医 2名（井原、甲原）

日本リウマチ学会専門医 1名（小中）

日本リウマチ学会指導医 1名（小中）

日本呼吸器学会専門医 3名（立花、井原、甲原）

日本呼吸器学会指導医 3名（立花、井原、甲原）

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

2名（立花、井原）

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 1名（立花）

日本がん治療認定医機構がん治療認定医 1名（甲原）

5. 業績

論文・著書

1. S. Ihara共著者PUBMED参照：ARDS clinical practice guideline 2021, Respiratory Investigation, 60 (4) : 446-495, 2022年

2. S. Ihara共著者PUBMED参照：ARDS Clinical Practice Guideline 2021, Journal of Intensive Care, 10 (32) :, 2022年

3. Atushi Yanagisawa, Yuhei Kinehara, Ryo Kijima, Masaki Tanaka, Ryusuke Ninomiya Ryu Jokoji, Isao Tachibana : Metastatic Lung Tumors from Colorectal Cancer with EGFR Mutations That Responded to Osimertinib, Internal Medicine, 62 (5) : 769-773, 2022年

4. S. Ihara共著者PUBMED参照：The whole blood

transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force, Nature communications, 13 (4830) : , 2022年

5. Kunimasa K. Nishino K. Sato Y. Mori M. Ihara S. Suzuki H. Nagatomo I. Kumagai T. Morishima T. Imamura F. : Fragment size and dynamics of EGFR-mutated tumor-derived DNA provide prognostic information regarding EGFR-TKI efficacy in patients with EGFR-mutated NSCLC, Scientific Reports , 12 : , 2022年
6. Tsukaguchi A. Ihara S. Yasuoka H. Minami S. : Lenvatinib-refractory thymic mucinous carcinoma with PIK3CA mutation., International Cancer Conference Journal, 12 (1) : 36-40, 2022年
7. S. Ihara共著者PUBMED参照 : DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19, Nature, 609 (7298) : 754-760, 2022年
8. Kanaoka K. Ihara S. Nakatani T. Minami S. : Rituximab for the Treatment of Anti-glomerular Basement Membrane Disease with Isolated Diffuse Alveolar Hemorrhage : A Case Report, Internal Medicine, : advance publication, 2022年
9. S. Ihara共著者PUBMED参照 : Characteristics of hospitalized patients with COVID-19 during the first to fifth waves of infection : a report from the Japan COVID-19 Task Force, BMC Infectious Disease, 22 (935) : , 2022年
10. Kadota K, Matsumoto K, Uchiyama H, Tobita S, Maeda M, Maki D, Kinehara Y, Tachibana I, Sosnowski TR, Tozuka Y : In silico evaluation of particle transport and deposition in the airways of individual patients of chronic obstructive pulmonary disease, Eur J Pharm Biopharm, 174 : 頁10-19, 2022年

学会発表

1. 廣海 汐理, 小中 八郎, 小瀬 戸昌博, 辻 成佳 : 掌蹠膿疱症性骨関節炎により中心静脈を来しグセルクマブ導入を行った一例, 掌蹠膿疱症性骨関節炎により中心静脈を来しグセルクマブ導入を行った一例, 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022年4月, 神奈川
2. 田中 雅樹, 甲原 雄平, 二宮 隆介, 立花 功 : IgG4関連疾患による胸膜炎・腹膜炎が疑われた1例, 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022年4月, 京都
3. 小中 八郎, 高松 標太, 熊ノ 郷淳 : Caspase1-mediated secretion of mitochondrial DNA-rich exosomes causes pathological inflammation in a human chronic inflammatory disorder., 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022年4月, 横浜
4. 小中 八郎, 高松 標太, 熊ノ 郷淳 : Caspase1によるエクソソームを介したmtDNAの細胞外放出はパーチェット症候群の病態形成に重要である, 第43回 日本炎症再生医学会, 2022年6月, 兵庫
5. 神島 望, 甲原 雄平, 田中 雅樹, 二宮 隆介, 井原 祥一, 立花 功 : 悪性胸膜中皮腫の治療中に肺結節病変を呈した一症例, 第100回日本呼吸器学会近畿地方会, 2022年12月, 大阪

研究会発表

1. 小中 八郎 : ヒトの免疫応答から考える膠原病診療, 此花区医師会学術講演会, 2022年5月, 大阪
2. 小中 八郎, 高松 標太, 熊ノ 郷淳 : ミトコンドリアDNA内包エクソソームによる炎症誘導と自己免疫性疾患, 第2回 Osaka synergy expert meeting in RA, 2022年8月, 大阪
3. 小中 八郎 : 病態から治療選択を考える, Next generation～そこが知りたいリウマチ診療～, 2022年9月, 大阪
4. 小中 八郎, 高松 標太, 熊ノ 郷淳 : ミトコンドリアDNA内包エクソソームによる炎症誘導とパーチェット病, Joint conference for clinical immunology 2022, 2022年10月, 大阪
5. 小中 八郎 : フィルゴチニブを用いた関節リウマチ診療～

当院の使用経験を含めて～, Immunology Remote Web Seminar in OSAKA, 2022年10月, 大阪

6. 井原 祥一 : 呼吸器内科における自己免疫疾患診療, 大阪ウエストリウマチ連携Webセミナー, 2022年11月, 大阪
7. 廣海 汐理 : 掌蹠膿疱症性骨関節炎により中心静脈閉塞を来した一例, 第5回あわぎ乾癬セミナー, 2022年11月, 大阪
8. 小中 八郎 : ヒトの免疫応答から考える膠原病診療, 大阪ウエストリウマチWebセミナー, 2022年11月, 大阪
9. 立花 功 : 当院で経験した難治性咳嗽について, 難治性咳嗽を考える会, 2022年5月, 大阪 (Web)

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
井原	井原	甲原	二宮	小中	小中	立花	立花	二宮	田中 (雅)
小中	小中		廣海	暮部*	井原	廣海	甲原	小中	

*救急総合診療科所属

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			気管支鏡 検査		
午後			気管支鏡 検査	症例検討 会・抄読会	

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
気管支鏡					○	○				

○ : 当院診察が必要

表 4 年度別外来・入院延べ患者数*

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				うち、呼吸器・ 免疫内科	
外来	43,945	45,755	41,825	38,454	7,787
入院	17,201	20,685	23,300	24,488	9,148

*2018年～2020年は総合内科の人数。

2021年は旧総合内科計の人数、呼吸器・免疫内科(10月～)の人数を記載。

表 5 2022.4～2023.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	552	14
肺炎、病原体不詳	80	15
COVID-19	51	11
その他の間質性肺疾患	51	18
全身性結合組織疾患	44	20
気胸	22	13
尿路系のその他の障害	18	15
その他の慢性閉塞性肺疾患	16	10
膿胸(症)	16	30
呼吸器結核、細菌学的または組織学的に確認されていないもの	15	13
肺および縦隔の膿瘍	12	23
その他の関節リウマチ	11	30

血液・化学療法内科

スタッフ 主任部長：川上 学（輸血管理室長、化学療法室長、がん治療センター長）
副部長：加藤るり、中江吉希
専攻医：長濱圭祐

1. 診療内容

急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患と、溶血性貧血、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患まで、血液疾患を全般的に診療している。白血球減少が高度な場合や同種造血幹細胞移植後等、免疫不全が高度な場合には無菌室で治療を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

主として外来13診で外来診療を行った。そのほか適宜必要に応じ、外来化学療法や骨髄穿刺、骨髄生検、輸血などの診療も外来化学療法室や中央処置室において行われた。

2) 病棟体制（表2）

部長含め3名の常勤医と1名の専攻医にて診療を行った。当科が開催および参加したカンファレンスのスケジュールを表2に示す。

3) 検査スケジュール

骨髄穿刺、骨髄生検は、中央処置室および入院病床で行われ、主治医が検鏡診断するとともに必要時検討会にて判定された。

4) 外来化学療法

多くの化学療法レジメンは、入院治療に引き続き外来通院でも継続され、外来化学療法室スタッフや薬剤師との協力のもと施行された。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数はのべ8,752名(昨年度比+671)であった。
外来化学療法数は、1,146件(昨年度比+167)であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院延べ数10,386名(昨年比+1319)であった。疾患の内訳を表4に示す。
同種造血幹細胞移植を12件行った。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会 総合内科専門医 3名（川上、加藤、中江）
日本血液学会専門医 血液指導医 2名（川上、中江）
日本血液学会専門医 1名（加藤）
日本造血細胞移植学会 造血細胞移植認定医 2名（川上、中江）
日本がん治療認定医機構 がん治療専門医 2名（川上、加藤）
日本老年学会 老年病専門医・指導医 1名（中江）

5. 業績

学会発表

- 阿部凌子, 川上学, 長濱圭祐, 中江吉希, 加藤るり, 廣海汐理, 水本綾, 藤田裕真, 熊ノ郷有希, 田中久仁子: 鉄欠乏とプロピルウラシル誘発性ANCA関連血管炎に伴って高度貧血を来した1例, 第236回日本内科学会近畿地方会, 2022年6月, 神戸
- 長濱圭祐, 中江吉希, 加藤るり, 森本祐太郎, 萩巢恭平, 有坂好史, 城光寺龍, 川上 学: Our experiences of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for intraabdominal lymphoma, 第84回日本血液学会学術集会, 2022年10月, 博多
- 白江惇人, 大畔健太, 長濱圭祐, 中江吉希, 加藤るり, 橋本久仁彦, 川上 学: 骨髄異形成症候群の病勢進行下において尿素窒素による浸透圧利尿に伴う高ナトリウム血症を来した1例, 第239回日本内科学会近畿地方会, 2023年3月, 大阪

研究会発表

- 長濱圭祐: 血液疾患患者におけるCOVID-19の再活性化, なにわ血液研究会, 2023年2月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
加藤 (る)	長濱	川上	川上	川上	中江	加藤 (る)		中江	川上
	中江								

表2 カンファレンススケジュール

・症例検討会	(週1回)
・抄読会	(月1回)
・血液標本検討会	(適宜)
・内科合同カンファレンス	(月1回)
・内科・地域合同症例検討会	(年1回)

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	7,066	7,481	7,649	8,081	8,752
入院	8,868	10,383	9,821	9,067	10,386

表4 2022.4～2023.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
非ホジキン〈non-Hodgkin〉リンパ腫	159	23
骨髄性白血病	63	30
骨髄異形成症候群	29	25
COVID-19	27	16
リンパ性白血病	20	33
紫斑病およびその他の出血性病態	16	39
肺炎、病原体不詳	14	22
多発性骨髄腫および 悪性形質細胞性新生物	13	38
臓器および組織の提供者〈ドナー〉	11	5
無顆粒球症	10	27

脳 神 経 内 科

スタッフ 部長：芳川浩男（特任副院長、脳機能センター長）
副部長（部長待遇）：仁科拓也
医 長：塚原彰弘 顧問（非常勤）：森 悦朗
常勤嘱託：鈴木由希子

1. 診療内容

神経内科部門は2013年4月より循環器・神経内科から分離独立し、浅野彰彦と仁科拓也の2名で発足したが、同年6月より佐藤智彦が加わり3名体制で運営していた。また2017年より前東北大学神経内科教授の森悦朗先生に特任顧問に就任いただき認知症分野の充実も図っていたが、2019年11月に前兵庫医科大学脳神経内科教授の芳川浩男が浅野彰彦の後任の主任部長となった。2021年3月末佐藤智彦が退職し、9月以降は鈴木由希子に加わり、外来診察のみを担当。2022年4月より塚原彰弘が新たにスタッフとなった。

めまいや痺れ、頭痛、もの忘れといった身近な症状の相談から、てんかん、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やアルツハイマー型認知症、パーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応してきたが、入院対象となったのは脳梗塞が最も多く、次にパーキンソン病関連疾患となっている。

脳梗塞後遺症や難病疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症など）の在宅療養においては、地域の先生による往診での訪問診療や訪問看護スタッフと連携を密にして、病状の変化に柔軟に対応しているが、今後ともより一層努力していく所存である。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

日勤帯のどの時間帯も脳神経内科医師が対応できるように分担している。救急診療要請に対しても柔軟に対応している。

2) 病棟体制

仁科・塚原医師が主治医となり運営しているが、毎週月曜日の回診と火曜日のカンファレンスで主科と共観の全患者の病状と治療方針を情報共有している。

3) 検査スケジュール

脳神経内科医師が実際に担当する検査は針筋電図のみであるが、脳波や誘発電位検査は中央臨床検査部と連携して、適宜施行している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

循環器・神経内科の一部門として計算した時期が長く、神経内科単独のデータはまだ5年目であるが、延べ外来患者数は順調に増加している。また診療内

容も一般内科疾患の割合が減少し、より神経内科疾患に特化した状況に変化している。

2) 入院診療実績（表2、3）

順調に新規入院患者数は増加し、平均在院日数はほぼ横ばいで延べ入院患者数も増加していたが、COVID-19感染症の影響で2021年度は入院総数が減少している。

3) 検査実績

CT・MRA・RIなど各種検査は部門別の統計となっており、当科単独の実績としては計算していない。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会の准教育機関としての認定を受けている。

日本内科学会認定医 4名（塚原、仁科、芳川、森）

日本内科学会総合内科専門医 1名（仁科）

日本神経学会専門医 3名（仁科、芳川、森）

日本循環器学会専門医 1名（仁科）

日本老年精神医学会専門医 1名（芳川）

日本認知症学会専門医 1名（森）

日本脳卒中学会専門医 1名（森）

5. 業績

論文・著書

1. 芳川浩男：中枢神経髄鞘蛋白MOBPを原因とする中枢神経系疾患, 日本生命病院医学雑誌, 50: 45023, 2022年

研究会発表

1. 芳川浩男：健康にいい生活習慣～よもやま話し～, 日本生命病院健康教室, 2022年5月, 大阪
2. 芳川浩男：認知症とフレイル, 日本女医会2022年度長寿社会福祉事業オンラインセミナー, 2023年1月, 東京
3. 塚原彰弘, 鈴木由希子, 仁科拓也, 芳川浩男, 田村和義, 高橋 励：血管内リンパ腫との鑑別を要したクリプトコッカス脳髄膜炎の1例, 日本神経学会第122回近畿地方会, 2022年7月, 豊中

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
芳川	仁科	芳川	芳川	仁科	芳川 (物忘れ外来) ※1	芳川	森 (脳機能 障害外来)	塚原 (初診)	
			仁科		鈴木 (物忘れ外来) ※2		芳川 ※3		
			森 (物忘れ外来)						

※1・2・4・5週 初診のみ ※2 1・3週のみ ※3 2・4週は塚原

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	6,553	6,881	6,783	7,317	7,245
入院	4,547	2,943	3,040	1,030	3,563

表3 2022.4~2023.3-入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
脳梗塞	30	19
COVID-19	17	11
肺炎、病原体不詳	12	46
パーキンソン〈Parkinson〉病	11	28
炎症性多発（性）ニューロパチ〈シ〉ー	8	57
一過性脳虚血発作および関連症候群	5	11
基底核のその他の変性疾患	4	41

スタッフ 部長：宇津 貴（副院長、内科統括、血液浄化センター長、臨床工学室長）
副部長：水本 綾
医 長：光本憲祐
専攻医：勝沼倫子

1. 診療内容

急性腎不全などの急性腎疾患、慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群から末期腎不全に至るまで、腎疾患全てを対象としている。特に、糖尿病性腎臓病に関しては、早期腎症から末期腎不全まで、血糖・血圧・脂質管理を含めた合併症予防に対する総合的な治療を行っている。

慢性腎臓病（CKD）に対しては、連携診療による進行予防に努めると共に、適切な時期に共通意思決定（SDM）により腎代替療法（血液透析、腹膜透析療法、腎移植）への導入を行うとともに、血管合併症の検査・治療を行い予後の改善に努めている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本内科学会認定医	3名（宇津、水本、光本）
日本内科学会総合内科専門医	2名（宇津、水本）
日本腎臓学会専門医・指導医	2名（宇津、水本）
日本糖尿病学会専門医	1名（宇津）
日本高血圧学会専門医・指導医	1名（宇津）
日本透析医学会専門医・指導医	2名（宇津、水本）

5. 業績

論文・著書

1. Uzu T, Mizumoto A, Mitsumoto K. : Unexpected Kidney Finding in a Patient with Anemia., *Kidney*360, 3 : 580-581, 2022年
2. 宇津 貴：糖尿病患者における高血圧診療の実状と課題, *糖尿病合併症*, 36 : P 75-78, 2022年
3. 水本 綾, 宇津 貴：.セニオール・ローケン症候群, *別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ 腎臓症候群（第3版）II*, 23 : 244-247, 2022年
4. 宇津 貴：腎代替療法の選択とShared Decision Making (SDM), *日本生命病院医学雑誌*, 50 : P 8-12, 2022年
5. Katsunuma R, Mitsumoto K, Mizumoto A, Hirai Y, Nakauchi C, Uzu T : A Case of Fanconi Syndrome Associated with Long-term Treatment with Zoledronate, *Intern Med*, doi :

<https://doi.org/10.2169/internalmedicine.0647-22>, 2022年

6. Hirai Y, Mitsumoto K, Uzu T : Reversible hypoglycemic encephalopathy in a non-diabetic patient with end-stage kidney disease, *Ther Apher Dial* : in Press
7. 宇津 貴：薬物治療のエビデンスにおけるCKDやESRDの関与について教えてくださいーACE阻害薬/ARBー, *実践理解！心腎関連症候群Q&A*, 吉原史樹, 137-141, 2022年, 日本医事新報社, 東京

学会発表

1. 森本祐太郎, 平井祐里, 勝沼倫子, 光本憲祐, 水本 綾, 加藤るり, 宇津 貴：抗腫瘍薬未使用の原発性骨髄線維症（PMF）患者に発症した急性腎障害（AKI）の1例, 第235回内科学会近畿地方会, 2022年3月,
2. 森本祐太郎, 平井祐里, 勝沼倫子, 光本憲祐, 水本 綾, 加藤るり, 宇津 貴：抗腫瘍薬未使用の原発性骨髄線維症（PMF）患者に発症した急性腎障害（AKI）の1例, 第235回内科学会近畿地方会, 2022年3月, 京都
3. 平井祐里, 勝沼倫子, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津 貴：低血糖性昏睡に伴い可逆性の脳白質病変を呈した一例, 第67回日本透析医学会学術集会・総会, 2022年7月, 横浜
4. 井門孝太, 勝沼倫子, 光本憲祐, 水本 綾, 加藤るり, 宇津 貴：著しい高カルシウム血症を伴った急性腎障害（AKI）の1例, 第237回内科学会近畿地方会, 2022年9月, 大阪
5. 勝沼倫子, 平井祐里, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津 貴：MALTリンパ腫に対するリツキシマブ治療後に寛解を得たIgA腎症の1例, 第52回日本腎臓学会西部学術大会, 2022年11月, 熊本
6. 光本憲祐, 勝沼倫子, 水本 綾, 加藤るり, 宇津 貴：健診でchance proteinuriaから診断に至ったBJP（Bence-Jones protein）型多発性骨髄腫の1例, 第52回日本腎臓学会西部学術大会, 2022年11月, 熊本

研究会発表

1. 宇津 貴：高血圧治療のエッセンスと治療抵抗性への新たな対応, *高血圧WEBセミナーin和歌山*, 2022年3月, 和歌山
2. 宇津 貴：高血圧治療のエッセンスと治療抵抗性への新たな対応, *高血圧WEBセミナーin和歌山*, 2022年3月, 和歌山市
3. 宇津 貴：昨日今日明日 変わりゆくCKD診療, *New Era in Chronic Kidney Disease*, 2022年5月, 大阪
4. 宇津 貴：MR関連高血圧を考慮した生活習慣病の血圧管理, 第21回堺腎疾患談話会, 2022年5月, 堺
5. 水本 綾：日常臨床でのカリウム管理の実際を考える, *ベイサイド腎オンラインセミナー*, 2022年6月, 大阪
6. 宇津 貴：利尿薬と循環器合併症, *血管外科懇話会*, 2022年6月, 大阪
7. 宇津 貴：CKDにおける抗凝固療法の考え方, *川崎市心疾患診療セミナー*, 2022年7月, 川崎
8. 宇津 貴：糖尿病性腎臓病と心不全, 第4回あわぎ内分・糖尿病病診連携セミナー, 2022年7月, 大阪
9. 宇津 貴：糖尿病性腎臓病予防を見据えた糖尿病診療ーSGLT2阻害薬の使い方ー, *ジャディアンス全国web講演会*, 2022年9月, 大阪
10. 宇津 貴：かかりつけ医が知っておきたい腎性貧血診療の

ポイント, かふかCKD医療連携を考える会, 2022年10月, 甲賀

11. 宇津 貴: 変わりゆくCKD診療~かかりつけ医に知っていただきたいポイント~, 中央区南医師会学術講演会, 2022年11月, 大阪
12. 宇津 貴: ARNIによる高血圧の新展開, 神戸高血圧診療カンファレンス, 2022年11月, 神戸
13. 宇津 貴: 糖尿病性腎臓病の重症化抑制とGLP-1受容体作動薬への期待, Diabetes Care Seminar, 2022年12月, 大阪
14. 宇津 貴: 連携して取り組むこれからの糖尿病性腎臓病対策, 綾部地区学術講演会, 2022年12月, 綾部

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
宇津	宇津	宇津	水本	水本	光本	光本	光本	宇津	水本	宇津
勝沼			勝沼					光本 (腹膜透析外来)		

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
腎生検				○ 診				○ 診		

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	4,268	5,476	5,410	6,107	6,839
入院	3,392	3,488	4,703	4,427	5,010

表4 2022.4~2023.3-入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
腎生検		-
透析導入		-
慢性腎不全	68	17
心臓および血管のプロステーシス, 挿入物および移植片の合併症	48	4
COVID-19	35	15
慢性腎炎症候群	20	4
肺炎、病原体不詳	14	16
ネフローゼ症候群	14	21
他に分類される疾患における糸球体障害	8	16
尿路系のその他の障害	8	20
急性腎不全	7	22
心不全	5	30
急速進行性腎炎症候群	5	56

消化器外科

スタッフ 部長：水野 均（副院長、外科統括、中央手術管理部長）
副部長（部長待遇）：生島裕文、太田英夫、永井健一（～2022年7月）
副部長：山下晋也、星野宏光（2022年8月～）

1. 診療内容

当科は、消化器外科ならびに一般外科の手術治療を中心に診療を行っている。上部消化管（生島）、下部消化管（水野、山下）、肝胆膵（太田、星野）の消化器外科のすべての領域の疾患に対応している。頻度の多い疾患としては、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌などの悪性疾患、胆石症や単径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患などである。手術は腹腔鏡手術を積極的に導入しており、虫垂炎や胆石症のみならず、食道癌、胃癌、大腸癌等の悪性疾患や鼠径ヘルニアに対しても腹腔鏡手術を第一選択として行っている。2022年4月からは結腸悪性腫瘍に対するda Vinci手術が保険収載され、当院でも2022年10月から開始している

手術以外には、緩和治療、消化器癌化学療法にも積極的に取り組んでおり、皮下埋め込み型中心静脈リザーバーを用いた外来化学療法や終末期の栄養療法を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外科外来1～3診で、表のような予定で外来診療を行っている。院内／院外からの時間内の緊急診療の依頼には原則、断らない対応をしている。

2) 病棟体制（表2）

表2の通りである。

研修医1名と常勤医5名が病棟診療を担当している。緊急の業務は、外来診察、検査、手術などの担当でない者が病棟代理として対応している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は表3の通りである。

2) 入院診療実績（表4）

入院患者数は表4の通りである。

手術症例（重複例、他科協力症例を含む）は376例で、そのうち全身麻酔が321例であった。鏡視下手術は260例であり、全身麻酔症例の81.3%が鏡視下手術であった。

主な悪性腫瘍切除手術は、食道癌2例（全例鏡視下手術）、胃癌16例（内9例が腹腔鏡手術）、結腸、直腸癌47例（内da Vinci手術4例、通常の腹腔鏡手術34例）、肝癌、肝転移9例（内5例が腹腔鏡手術）、胆嚢癌、胆管癌各1例、膵腫瘍3例（内1例

が腹腔鏡手術）、であった。

主な良性疾患手術は胆嚢摘出術が98例（内94例が腹腔鏡手術）、ヘルニア手術（単径、大腿、腹壁癒痕、閉鎖孔など）59例（内49例が腹腔鏡手術）、虫垂切除23例（うち22例が腹腔鏡手術）であった。良性疾患の手術では、患者さんの希望などにより細径鉗子を用いた手術や、単孔式手術を取り入れ、より低侵襲の手術を行っている。

3) 検査実績

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を行っている。

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医 5名（水野、生島、太田、山下、星野）

日本外科学会指導医 3名（太田、山下、星野）

日本消化器外科学会専門医 4名（生島、太田、山下、星野）

日本消化器外科学会指導医 2名（太田、山下）

日本消化器病学会専門医 3名（水野、太田、山下）

日本大腸肛門病学会専門医 1名（山下）

日本がん治療認定医機構がん治療認定医 4名（水野、太田、山下、星野）

日本内視鏡外科学会技術認定医 3名（水野、太田、山下）

5. 業績

論文・著書

1. 山下晋也, 高橋秀和, 松下和子, 永井健一, 太田英夫, 生島裕文, 小関万里, 水野 均: 経肛門的内視鏡下手術が有効であった下部直腸GISTの1切除例, 癌と化学療法, 49: 312-314, 2022年
2. 田村 聡, 潮田至英, 新垣佑里利, 藤吉恵津子, 金光麻衣, 志村寛子, 宮本真由子, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 岡藤 博, 八田幸治, 高山敬範, 城光寺龍, 水野 均, 橋本奈美子: 当院で経験した腹膜偽粘膜炎の3例, 日本生命病院医学雑誌, 50: 65-70, 2022年
3. 北田隆起, 有坂好史, 石田哲朗, 荻原恭平, 河田奈都子, 若原ちか, 田中敏雄, 中村秀次, 城光寺龍, 水野 均: 腹腔鏡下肝切除を施行した肝外突出型の限局性結節性過形成の1例, 日本生命病院医学雑誌, 50: 42-47, 2022年
4. 永井健一, 松下和子, 山下晋也, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均: 術前診断が可能であった蛋白漏出を伴う直腸癌の1例, 癌と化学療法, 49: 2010-2012, 2022年
5. Tetsuya Shiota, Kohei Murata, Mituo Kishimoto, Takashi Yao, Shingo Noura, Shunji Morita, Takashi Akiyoshi,

Shu Okamura, Mitsunobu Imasato, Tomohisa Furuhashi, Takeshi Suto, Ichiro Takemasa, Tatsushi Shingai, Masami Ueda, Hitoshi Mizuno, Yuichi Hisamatsu, Takashi Takeda, Makoto Fujii, Yoshinori Kagawa, Kenichi Sugihara : Clinicopathological features of appendiceal goblet cell adenocarcinoma in Japan : a multicenter retrospective study, Surgery Today, 53 : 174-181, 2023年

学会発表

1. 山下晋也, 松下和子, 永井健一, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均 : 当院で経験した虫垂憩室症手術症例の検討, 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022年4月, 熊本
2. Hideo Ota : A resected case of epidermoid cyst in an intrapancreatic accessory spleen mimicked mucinous cystic neoplasm in pancreatic tail, 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2022年6月, 松山
3. 太田英夫, 松下和子, 山下晋也, 永井健一, 生島裕文, 水野 均 : 鑑別診断が困難であった膵頭部に発生した多房性嚢胞性リンパ管腫の1切除例, 第77回日本消化器外科学会総会, 2022年7月, 横浜
4. 山下晋也, 松下和子, 永井健一, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均 : バリウム虫垂炎の1切除例, 第77回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022年10月, 千葉
5. 太田英夫, 北田隆起, 萩原恭平, 河田奈津子, 若原ちか, 中村秀次, 有坂好史 : ICG蛍光造影を用いた腹腔鏡下肝部分切除術により切除した肝細胞癌との鑑別が困難であった肝限局性結節性過形成の1切除例, 第44回日本肝臓学会東部会, 2022年11月, 仙台
6. 太田英夫, 星野宏光, 永井健一, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均 : 多発性内分泌腫瘍 (MEN) 1型を伴う多発膵神経内分泌腫瘍 (NET) に対し腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した1切除例, 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022年12月, 名古屋
7. 山下晋也, 植村 守, 永井健一, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均 : 馬蹄腎を伴うS状結腸癌に対して腹腔鏡下S状結腸切除術を施行した1例, 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022年12月, 名古屋
8. 生島裕文, 星野宏光, 山下晋也, 太田英夫, 水野 均 : 術前に胃Glomus腫瘍と診断しLECSにて切除した1例, 2023年2月, 札幌
9. 山下晋也, 星野宏光, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均 : 膀胱癌術後代用膀胱を伴う直腸癌の1切除例, 第19回日本消化管学会総会学術集会, 2023年2月, 東京

研究会発表

1. 太田英夫 : 肝胆膵疾患の外科治療, 第1回 大阪市西区医師会学術講演会, 2022年5月, 大阪
2. 太田英夫, 横山茂和, 久保孝介, 山下晋也, 永井健一, 生島裕文, 水野 均 : SS胆嚢癌に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術のみ施行後6年で発症した肝門部胆管癌の1例, 第44回日本癌局所療法研究会, 2022年7月, 大阪
3. 太田英夫 : 肝胆膵領域の外科治療の工夫～根治性と安全性の向上を目指して～, 第4回あわぞ消化器合同病診連携会, 2022年7月, 大阪
4. 永井健一, 松下和子, 山下晋也, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均 : 術前診断が可能であった蛋白漏出を伴う直腸癌の1例, 第44回日本癌局所療法研究会, 2022年7月, 大阪
5. 山下晋也, 松下和子, 北田隆起, 河田奈都子, 若原ちか, 永井健一, 太田英夫, 生島裕文, 有坂好史, 水野 均 : 腹腔鏡下手術を施行した術前診断に難渋した4型直腸癌の1切除例, 第44回日本癌局所療法研究会, 2022年7月, 大阪
6. 水野 均, 生島裕文, 太田英夫, 山下晋也, 星野宏光 : RALP後の非環納性巨大鼠径ヘルニアに対してTAPP出修復した1例, 第16回関西ヘルニア研究会, 2022年12月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
水野	水野	交代	交代	山下	山下	星野	交代	太田	太田
生島	生島								

表2 病棟体制

月		火		水		木		金	
午前	早朝 術後回診	早朝 術後回診	早朝 術後回診	早朝 術後回診				早朝 術後回診	
午後					部長回診、 術前術後症 例検討			消化器外科・ 消化器内科合同 カンファレンス	

表3 外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	4,403	4,761	4,819	4,878	4,622
入院	6,801	7,185	7,632	5,662	5,373

表4 2022.4～2023.3—入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
結腸の悪性新生物	58	15
胆石症	53	6
そけい (鼠径) ヘルニア	43	6
直腸の悪性新生物	27	17
急性虫垂炎	24	8
胃の悪性新生物	22	28
結腸、直腸、肛門および 肛門管の良性新生物	13	4
消化器系のその他および 部位不明確の良性新生物	12	6
麻痺性イレウスおよび 腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	10	13
胆のう (嚢) 炎	10	10
食道の悪性新生物	10	61

呼吸器外科

スタッフ 部長代行：富田栄美子

1. 診療内容

当科は2016年1月より1名体制で診療を開始した。2017年4月より常勤医2名体制となった。その後、2019年4月より再び1名体制、2020年1月より2名体制、同年9月より1名体制、2021年4月より2名体制、同年6月より1名体制となった。1名体制時は阪大病院呼吸器外科医局からの応援医師等と共に手術を行っている。

対象疾患としては肺癌が最も多く、呼吸器・免疫内科で診断及び病期判定を行った後に紹介されるケースが多いが、他院呼吸器内科からの手術依頼も増加傾向である。昨今、肺癌治療において組織採取の重要性が増しており、生検手術も積極的に取り組んでいる。

その他の疾患としては、自然気胸、転移性肺腫瘍、胸腔感染症、縦隔腫瘍などに対して胸腔鏡下手術を主体に行っている。

2021年度からは、術後合併症の予防目的に、リハビリテーション科及び手術部と協力し、コーチ2やトライボール等を使用した呼吸訓練を手術決定時から開始する取り組みを行っている。術前から器具を用いて呼吸訓練を行うことで、患者意識も高まり、術後無気肺などの発生頻度が低下している。今後も継続予定である。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医 1名（富田）
日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医 1名（富田）

5. 業績

論文・著書

1. 富田栄美子：まれな気管支分岐異常を伴った肺癌の一切除例, 第39回日本呼吸器外科学会学術集会, 2022年5月, 東京

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
				富田	富田				

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	手術	手術			
午後	手術	手術		病棟回診 カンファレンス	

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	524	508	623	760	823
入院	482	529	706	1,084	888

表4 2022.4～2023.3入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	59	10
気胸	19	6
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	7	8
中耳および呼吸器系の良性新生物	5	6
胸腺の悪性新生物	3	9
中皮腫	2	9

乳 腺 外 科

スタッフ 部 長：西田幸弘
副 部 長：中内千暁

1. 診療内容

乳癌検診に関しては、マンモグラフィと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に病理検査等を施行し1～2週間後には結果を出すシステムである。もし悪性の場合にはがん性疼痛看護認定看護師も同席し告知します。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の化学療法室にて、初回入院の後は術前・術後ともに通院での外来化学療法を行っている。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応している。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し必要に応じて再建術も施行しておます。再建術は当院形成再建外科にてすべての術式に対応できる。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検では、より確実なOSNA法を併用しより正確な診断を目指している。また乳癌の約10%を占める遺伝性乳癌に関しては原因の一つである遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)該当する患者さんに対してBRCA遺伝子検査も実施しております。診断部門では、微細な石灰化に対する診断としてステレオガイド下マンモトーム生検も実施している。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール (表1)

3. 診療実績

1) 外来診療実績 (表3)

2) 入院診療実績 (表3、4)

4. 認定医・専門医など

日本乳癌学会専門医 1名 (中内)
日本乳癌学会認定医 1名 (西田)
日本乳癌学会評議員 1名 (西田)
がん治療認定医 2名 (西田、中内)
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
マンモグラフィ 読影認定医 2名 (西田、中内)
日本外科学会専門医 2名 (西田、中内)

5. 業績

学会発表

1. 中内千暁, 西田幸弘: 腫瘍組織浸潤リンパ球の程度に伴うPDL-1 pathway上の遺伝子発現解析によるPDL-1阻害薬の効

果予測因子の検討, 第30回日本乳癌学会総会, 2022年7月, 横浜市

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
中内 (予約)	中内 (予約)	西田 (予約)	西田 (予約)	中内 (予約)	中内 (予約)			西田 (予約)	西田 (予約)

表2 外来・病棟体制

	月	火	水	木	金
午前				手術	
午後	回診 病棟カンファ		検査 超音波・ステレオ ガイド下吸引生検	検討会 抄読会	

表3 外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	4,441	4,309	4,192	4,529	4,642
入院	1,402	1,504	1,448	1,512	1,787

表4 2022.4～2023.3—入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	155	9
その他および部位不明の性状不詳 または不明の新生物	8	3
無顆粒球症	6	7
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	6	6
その他の部位の続発性悪性新生物	4	8
肺炎、病原体不詳	4	26
乳房の詳細不明の塊<lump>	3	3
リンパ節の続発性および部位不明の悪性 新生物	3	5
COVID-19	3	17

心 臓 血 管 外 科

スタッフ 部長代行：新谷 隆
医 長：山田 裕

1. 診療内容

2018年4月から「血管外科」を専門とした常勤医師による診療を開始した。下肢閉塞性動脈硬化症を主とした末梢動脈疾患に対して薬物・運動療法を第一として適応に応じて血管内治療や外科的バイパス術などの血行再建術を実施している。下肢静脈瘤に対しては低侵襲である血管内焼灼術や血管内塞栓術、従来のストリッピング術や硬化療法も行っている。また腎臓内科と連携し慢性腎不全患者の透析用血管アクセス治療も行っている。内シャント作製、修復と内シャント血管内治療も積極的に行っている。2019年度より腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を開始した。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の午前に血管外科外来を行っている。

2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本外科学会専門医 2名（新谷、山田）
日本心臓血管外科専門医 2名（新谷、山田）
日本脈管学会専門医 1名（新谷）

5. 業績

学会発表

- 新谷 隆：COVID-19肺炎治療中に発症した急性下肢虚血に対し待期的に血栓除去し得た1例，第50回日本血管外科学会総会，2022年5月，北九州
- 山田 裕：膝窩動脈外膜嚢腫の滑膜迷入説をMRIにて強く支持し得た一例，第63回日本脈管学会総会，2022年10月，横浜
- 山田 裕：カバードステントで治療を行った大腿深動脈損傷2症例の報告，第36回日本血管外科学会近畿地方会，2023年3月，大阪
- 新谷 隆：膝窩動脈の局在部位からみた手術適応の検討，第53回日本心臓血管外科学会総会，2023年3月，旭川

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
山田 (予約)				新谷 (予約)		澁谷 (予約)		新谷 (予約)	

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			カンファレンス		
午後		手術		手術	血管内治療

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	735	930	982	1,272	1,596
入院	625	938	1,335	1,704	1,194

※2017.1～心臓血管外科を新設

表4 2022.4～2023.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
アテローム（じゅくく粥）状硬化（症）	39	12
大動脈瘤および解離	33	9
下肢の静脈瘤	32	3
その他の動脈瘤	17	7
動脈の塞栓症および血栓症	4	28
心臓および血管のプロステーシス，挿入物および移植片の合併症	3	20
静脈炎および血栓（性）静脈炎	2	11
その他の末梢血管疾患	2	7

産 婦 人 科

スタッフ 部長：橋本奈美子（女性骨盤底センター長）
副部長：高山敬範、八田幸治、田中絢香
医 長：矢野悠子（～2022年9月）、邨田裕子、小和貴雄、角田沙保里、宮本真由子、志村寛子
医 員：金光麻衣
専攻医：新垣佑里香、植田真帆、北山和樹

1. 診療内容

良性腫瘍に対する内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡手術）を主として行っており、婦人科手術の半数以上を占めている。婦人科悪性腫瘍に対しては、広汎子宮全摘術・傍大動脈リンパ節郭清を含む根治手術、化学療法、放射線治療を行っている。また、子宮筋腫、子宮体癌、骨盤臓器脱に対するロボット支援手術を導入している。2021年度には、腹腔鏡下広汎子宮全摘術（子宮頸癌）に関する施設認定を受け、悪性疾患に対する低侵襲医療も積極的に行っている。

骨盤底疾患に対しては「女性骨盤底センター」にて従来の膣式子宮全摘術、膣壁形成術などに加え、メッシュを利用した腹腔鏡下仙骨膣固定術（LSC/RSC）、を行っている。

周産期においては、自然分娩を基本とし、助産師外来・母乳育児相談を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

2022年度

- ・分娩数：392件
- ・総手術総数：1,222件

腹腔鏡下手術

腹腔鏡下膣式子宮全摘術 243件

（ロボット支援28件含む）

腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術 225件

腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術 120件

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体癌）14件

（ロボット支援 6件含む）

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸癌）5件

子宮鏡下手術

子宮鏡下子宮筋腫摘出術 54件

子宮内膜ポリープ切除術 107件

開腹手術

子宮悪性腫瘍手術 13件

子宮附属器悪性腫瘍手術（卵巣癌）17件

開腹単純子宮全摘術 13件

帝王切開術 78件

骨盤臓器脱（女性骨盤底センター）

腹腔鏡下仙骨膣固定術 42件

（ロボット支援 32件含む）

膣壁形成術（膀胱瘤手術） 33件

子宮脱手術（子宮全摘術及び膣壁形成）18件

膣閉鎖 4件

腹圧性尿失禁

中部尿道スリング手術（TOT手術）7件

4. 認定医・専門医など

日本産科婦人科学会専門医 11名

（橋本、高山、八田、矢野、田中、邨田、小和、宮本、志村、角田、金光）

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 6名

（橋本、高山、八田、矢野、田中、宮本）

日本内視鏡外科学会技術認定医 4名

（橋本、高山、八田、矢野）

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 1名（橋本）

母体保護法指定医 5名

（橋本、高山、田中、小和、宮本）

日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医 5名

（橋本、邨田、宮本、小和、角田）

麻酔標榜医 1名（八田）

5. 業績

論文・著書

1. 新垣佑里香, 八田幸治, 橋本奈美子: 腹腔鏡下に癒着剥離術および深部子宮内膜症摘出により軽快した尿管子宮内膜症の1例, 日本エンドメトリオーシス学会誌, 43: 34-37, 2022年
2. 安井友紀, 田中絢香, 岡 藤博, 八田幸治, 高山敬範, 潮田至央, 橋本奈美子: 腹腔鏡下に行った子宮筋腫核出術後の分娩についての検討, 産婦人科の進歩, 74 (3): 318-323, 2022年
3. 藤吉恵津子, 新垣佑里香, 田村 聡, 金光麻衣, 志村寛子, 宮本真由子, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 岡 藤博, 八田幸治, 高山敬範, 潮田至央, 城光寺龍, 橋本奈美子: 右下腹部痛を契機に発見された成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の一例, 日本生命病院医学雑誌, 50: 71-75, 2022年
4. 田村 聡, 潮田至央, 新垣佑里香, 藤吉恵津子, 金光麻衣, 志村寛子, 宮本真由子, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 岡 藤博, 八田幸治, 高山敬範, 城光寺龍, 水野 均, 橋本奈美子: 当院で経験した腹膜偽粘液腫の3例, 日本生命病院医学雑誌, 50: 65-70, 2022年
5. 宮本真由子, 金光麻衣, 志村寛子, 邨田裕子, 田中絢香, 岡 藤博, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 潮田至央, 橋本奈美子: 妊娠12週で内膜症性嚢胞破裂を認めた1例, 日本生命病院医学雑誌, 50: 59-64, 2022年

学会発表

1. 植田真帆, 八田幸治, 新垣佑里香, 田村 聡, 藤吉恵津子, 金光麻衣, 志村寛子, 岡藤 博, 宮本真由子, 邨田祐子, 田中絢香, 矢野悠子, 高山敬範, 潮田至央, 橋本奈美子: 当院における異所性妊娠に対するメソトレキセート療法の検討, 第147回 近

産科婦人科学会, 2022年6月, 京都

2. 邨田裕子, 北山和樹, 植田真帆, 新垣佑里香, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 橋本奈美子: 帝王切開癒痕部妊娠の2症例, 第58回 日本産科婦人科学会学術集会, 2022年7月, 横浜
3. 邨田裕子, 北山和樹, 植田真帆, 新垣佑里香, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 橋本奈美子: 子宮体部原発扁平上皮癌の2症例, 第64回 日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022年7月, 久留米
4. 宮本真由子, 新垣佑里香, 田村 聡, 藤吉恵津子, 金光麻衣, 岡 藤博, 志村寛子, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 潮田至央, 橋本奈美子: 子宮体癌が疑われた原発不明癌の1例, 第64回 日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022年7月, 久留米
5. 植田真帆, 田中絢香, 橋本奈美子: 小児発症の急性リンパ性白血病の治療後に発症し, 治療に至るまで長期間を要した子宮内膜ポリープの1例, 第41回 日本思春期学会, 2022年8月, つくば
6. 田中絢香, 金光麻衣, 志村寛子, 宮本真由子, 邨田裕子, 岡 藤博, 八田幸治, 高山敬範, 潮田至央, 橋本奈美子: 直角針型電極を用いて子宮鏡下癒着剥離術を行ったAsherman症候群の3例, 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022年8月, 福岡
7. 新垣佑里香, 北山和樹, 植田真帆, 金光麻衣, 志村寛子, 角田紗保里, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 橋本奈美子: 腹腔鏡下仙骨陰固定術後に再発し, ロボット支援腹腔鏡下仙骨陰固定術を施行した1例, 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022年9月, 横浜
8. 八田幸治, 北山和樹, 植田真帆, 新垣佑里香, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 高山敬範, 橋本奈美子: 腹腔鏡下尿管剥離術が有用であった尿管子宮内膜症の1例, 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022年9月, 横浜
9. 田中絢香, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 橋本奈美子: 当院における腹腔鏡下手術での癒着防止材の使用経験, 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022年9月, 横浜
10. 邨田裕子, 北山和樹, 植田真帆, 新垣佑里香, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 橋本奈美子: TLH後に診断された血管内平滑筋腫症の二症例, 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022年9月, 横浜
11. 宮本真由子, 植田真帆, 北山和樹, 新垣佑里香, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 橋本奈美子: 当院における初期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術およびロボット支援下手術の検討, 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022年9月, 横浜
12. 志村寛子, 植田真帆, 北山和樹, 新垣佑里香, 金光麻衣, 角田紗保里, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 橋本奈美子: 46, XY/45Xの核型を有するTurner症候群に対し予防的性腺摘出術を施行し, 術後にdysgerminomaと診断された一例, 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022年9月, 横浜
13. 金光麻衣, 八田幸治, 新垣佑里香, 志村寛子, 角田紗保里, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 高山敬範, 橋本奈美子: 腹膜妊娠に対して腹腔鏡下妊娠部位除去術, 腹膜切除を行った1例, 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022年9月, 横浜
14. 新垣佑里香, 高山敬範, 北山和樹, 植田真帆, 金光麻衣, 志村寛子, 角田紗保里, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 橋本奈美子: 卵巣子宮内膜症術後に腸閉塞を発症し, 手術療法で回腸子宮内膜症と診断した1例, 第

45回日本産科婦人科手術学会, 2022年11月, 金沢

15. 八田幸治, 北山和樹, 植田真帆, 新垣佑里香, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 高山敬範, 橋本奈美子: 3孔式TLHで子宮マニピュレーターの意義を改めて考える, 第45回日本産科婦人科手術学会, 2022年11月, 金沢
16. 宮本真由子, 植田真帆, 北山和樹, 新垣佑里香, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 橋本奈美子: 当院における初期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術およびロボット支援下手術の検討, 第45回日本産科婦人科手術学会, 2022年11月, 金沢
17. 高山敬範, 山下晋也, 八田幸治, 永井健一, 太田英夫, 水野 均, 橋本奈美子: 卵巣子宮内膜症性嚢胞に対する腹腔鏡下手術後に腸閉塞を発症し診断された回腸子宮内膜症の一例, 第35回日本内視鏡学外科総会, 2022年12月, 名古屋
18. 北山和樹, 植田真帆, 新垣佑里香, 金光麻衣, 志村寛子, 角田紗保里, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 八田幸治, 高山敬範, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 日本生命病院の3年間に於ける骨盤臓器脱の治療成績と合併症の報告, 第14回 日本骨盤臓器脱手術学会学術集会, 2023年3月, 大阪

研究会発表

1. 橋本奈美子: ロボット手術導入～導入初期のTIPS & TRICKS, 大阪大学 婦人科ロボット手術セミナー, 2022年4月, 大阪
2. 橋本奈美子: 大きな子宮筋腫に対する安全なロボット支援手術を目指して, インテュイティヴ・サージカル「Robotic Hysterectomy Webinar 2 難渋症例に対しての安全実施のコツ」, 2022年5月, (Web開催)
3. 宮本真由子: 当院における初期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術およびロボット支援下手術の検討, 第10回あわぎ産婦人科病診連携懇話会, 2022年7月, 大阪
4. 志村寛子: 当院におけるジノプロストン腔内留置用製剤の使用経験, 第10回あわぎ産婦人科病診連携懇話会, 2022年7月, 大阪
5. 八田幸治, 北山和樹, 植田真帆, 新垣佑里香, 金光麻衣, 角田紗保里, 志村寛子, 宮本真由子, 小和貴雄, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 高山敬範, 橋本奈美子: 腹腔鏡下尿管剥離術が有用であった尿管子宮内膜症の1例, 第32回近畿エンドメトリオーシス研究会, 2022年8月, WEB
6. 橋本奈美子: 内膜症性嚢胞の感染と破裂～当院での経験, エンドメリオージスフォートラック, 2022年12月, 大阪
7. 橋本奈美子: 婦人科がんにおける分子標的治療薬の役割, 薬業連携セミナー, 2023年2月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
橋本	橋本	佐伯	佐伯	橋本	橋本	小和	小和	田中	田中
宮本	宮本	八田	八田	邨田	邨田	角田	角田		北山
	植田	新垣	藤吉	高山	高山				

初診・再診ともに、すべて予約が必要（紹介状をお持ちの方、妊娠されている方は11:30迄にお越しの場合、予約なしでも受診できます）

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	抄読会 周産期 カンファレンス		(部長回診)		
午後		病理/ CTGカンファ (月1回)		術前 カンファレンス	画像 カンファレンス

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
子宮鏡検査		○ 紹・予								
パッドテスト								○ 紹・予		○ 紹・予

○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	23,092	21,479	20,145	20,546	19,931
入院	12,643	11,684	11,444	11,111	10,358

表5 2022.4~2023.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	388	7
単胎自然分娩	284	7
卵巣の良性新生物	142	6
女性性器のポリープ	114	3
女性性器脱	92	7
子宮内膜症	82	7
子宮頸（部）の異形成	59	3
子宮体部の悪性新生物	56	7
既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	41	9
卵巣の悪性新生物	28	10
子宮頸(部)の悪性新生物	27	7
受胎のその他の異常生成物	27	2
女性生殖器の性状不詳または不明の新生物	26	7
卵管炎および卵巣炎	18	8

小 児 科

スタッフ 部 長：西垣敏紀（感染対策室長）
副 部 長：中長摩利子（部長待遇）、三浦夕子
医 長：巽 亜子

1. 診療内容

外来診療では、午前診は感染症を中心とした一般小児科診療、午後診は、神経・発達・代謝（月・木曜：西垣）、発育・栄養・内分泌（月・木曜：中長）、アレルギー（木曜：巽）、フォローアップ外来（金曜：三浦）の専門外来を設けて診療を行っている。神経・発達・代謝外来では、小児神経疾患（てんかん、神経筋疾患、神経発達症、知的発達症など）、代謝疾患を対象とするが、言語発達遅滞、神経発達症の受診が増えている。代謝疾患に対しては酵素補充療法を含む多様な治療に対応している。発育・栄養・内分泌外来では低身長症、思春期早発症、甲状腺疾患など広く小児内分泌疾患を扱う。また、消化器疾患に関しては消化器内科に協力いただき、年長児に対しての内視鏡検査も行っている。アレルギー外来では喘息、アレルギー性鼻炎に対してアレルギー免疫療法（ダニ・スギ）も行い、乳児湿疹やアトピー性皮膚炎ではスキンケア指導、食物アレルギーに対しては食物経口負荷試験を行い食物の摂取指導、エピペン導入も含めてアレルギー症状出現時の対処法の指導を行なっている。

当院出生児は、退院後1か月検診（水曜）を行い、必要に応じて、そのフォローアップ（金曜）も行っている。フォローアップ外来では当院出生の児を中心として新生児から乳児～幼児期にわたり、病的症候だけでなく発育発達を含めフォローアップしている。

また、基礎疾患を有する小児も含め、ワクチンを接種（火曜、BCG接種は第2金曜、HPVワクチン接種は随時）している。（大阪府でBCG個別接種が開始されたことから、2022年度から当科でもBCG接種を開始した。）

第1・3・5火曜午後には、発達の評価が必要な外来患者に対して、臨床心理士・公認心理師による心理検査を行っている。

入院診療は、感染症を中心とした急性期疾患の精査・加療に加え、内分泌負荷テスト、食物経口負荷試験、鎮静を要する画像検査など検査入院を行っている。また、院内出生新生児全員に、出生時、退院時の診察を行い、周産期の病態に応じた緊急処置、検査、加療が必要な場合、小児科入院の上対応している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2022年4月以降の外来診察スケジュールを表1に示した。午後は、専門外来、検診、予防接種、心

理検査で、原則として予約外来としている。

2) 病棟体制

8階病棟で入院診療、7階新生児室で小児科入院新生児の管理を行った。小児科カンファレンス（火曜）では、情報を共有し、治療方針を検討した。また、産婦人科との合同周産期カンファレンス（月曜）を行っている。

3. 診療実績

2022年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の全国的な流行が持続、例年みられる小児の季節感染症の流行は極めて限定的であった。小児急性疾患のほとんどが感染症であるため、外来受診患者、入院患者数にも少なからず影響がみられた。

1) 外来診療実績（表2）

感染症患者は依然少ない状態ではあったが、専門外来で対応する患者は増加した。まれな代謝疾患患者に対して、薬剤部、外来処置室の協力のもと定期酵素補充療法（ムコ多糖症1型、2型各1名）を行った。心理検査は23例に対して行った。

2) 入院診療実績（表2、3、4）

新生児を除く入院は、例年通り感染症が多かった。2021年度から、食物アレルギー患者に対する食物経口負荷試験を安全確保を考慮して入院で行うこととしている。クリニカルパスが作成され、2022年度は44名と増加した。

4. 認定医・専門医など

日本小児科学会専門医 4名（西垣、中長、三浦、巽）
日本小児神経学会専門医 1名（西垣）
ICD（インфекションコントロールドクター）
1名（西垣）
臨床遺伝専門医・指導医 1名（西垣）
小児感染症認定医 1名（巽）
日本小児栄養消化器肝臓学会認定医 1名（中長）
日本アレルギー学会専門医 1名（巽）
新生児蘇生法専門コースインストラクター 1名（三浦）

5. 業績

論文・著書

1. 山下朋代, 前川加奈美, 若原珠美, 小出竜雄, 田中裕子, 三輪谷隆史, 西垣敏紀: 典型的な頭部MRI所見を呈したL-2ヒドロキシグルタル酸尿症の小児例, 脳と発達, 54: 126-131, 2022年

1. Koide T, Nishigaki T.: A Case of Herpes Zoster Due to Varicella-Zoster Virus Vaccines in a 14-Month-old Girl, *Pediatr Infect Dis J*, 41: 860-861, 2022年

学会発表

1. 山下朋代, 若原珠美, 田中裕子, 三輪谷隆史, 岡本伸彦, 西垣敏紀: 歌舞伎症候群様の顔貌を呈し, 発達遅滞と難治てんかんを来した2番染色体長腕の部分重複と欠失を認めた1例, 第64回日本小児神経学会, 2022年6月, 高崎

研究会発表

1. 中長摩利子: 成長ホルモン治療について, JCR社内研修会, 2022年3月,
 2. 中長摩利子: 成長曲線と注意すべき疾患, こどもの成長勉強会, 2022年3月, 大阪 (Web開催)
 3. 三浦夕子: 新生児医療と虐待, 第147回日本生命病院医学セミナーUPDATE, 2022年7月, 大阪
 4. 巽 亜子: 医療機関に求められる児童虐待への対応と気づきにつなげつために, 2022年度第1回医療安全研修, 2022年10月, 大阪
 5. 大植啓史, 日衛嶋栄太郎, 井澤和司, 宮本尚幸, 仁平寛士, 本田吉孝, 山本修司, 樋口浩和, 山東奈津子, 岩田直也, 萩野諒, 平田惟子, 西谷 (伊佐) 真彦, 中長摩利子, 西小森隆太, 八角高裕, 滝田順子: A20ハプロ不全症に合併する炎症性腸疾患3例の臨床的特徴に関する検討, 日本小児IBD研究会, 2023年3月, 久留米

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
西垣	神経・発達 西垣 (予約)	巽	予防接種 (予約)	西垣	1カ月検診 (予約)	西垣	神経・発達 西垣 (予約)	西垣	フォローアップ 三浦 (予約)
中長	内分泌・ 消化器 中長 (予約)	三浦	心理検査 (第1・3・5)	巽		中長	内分泌・ 消化器 中長 (予約)	三浦	BCG 接種 (第2)
							アレルギー 巽 (予約)		

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	8,920	7,706	5,041	6,908	7,306
入院	2,657	1,843	1,013	1,458	1,472

表3 2022.4~2023.3—小児科入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
有害作用, 他に分類されないもの	40	1
肺炎、病原体不詳	20	5
急性気管支炎	12	4
二分脊椎 (脊椎披 (破) 裂)	11	1
下垂体疾患 (下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など)	10	3
喘息	9	5
急性細気管支炎	6	5
尿路系のその他の障害	6	6
甲状腺中毒症 [甲状腺機能亢進症]	3	15
喘息発作重積状態	3	6
急性腎盂腎炎	3	12
全身性結合組織疾患	3	7
急性咽頭炎	3	4
先天性水頭症	3	1

表4 2022.4~2023.3—新生児入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
新生児の呼吸窮 (促) 迫	43	6
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	27	4
妊娠期間短縮および低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの	21	6
出産時仮死	9	5
現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児および新生児	7	8
新生児の哺乳上の問題	7	6
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	5	6
周産期に特異的なその他の感染症	4	7
その他の多量の溶血による新生児黄疸	4	6

スタッフ 部 長：高橋 励
副 部 長：鈴木 由貴（部長待遇）、青木 保典
専 攻 医：金 永鈺

1. 診療内容

COVID-19感染症の蔓延がひろく認識され始めた2020年2月以後、2022年度の当科診療も、感染拡大を防止する安全な診療・実習体制に重点がおかれた。特徴的な診療分野も昨年度と同じく「認知症」、「産業精神医学」を掲げる。

まず「認知症」について、脳神経外科、脳神経内科、神経科・精神科で構成する脳機能センターの診療実数は外来を中心に維持している。指導者は芳川センター長、森悦郎先生、池田学先生で、定期的なセンターカンファレンスも行っている。当科医師では鈴木が脳機能センター業務を中心に、青木・高橋もかかわる。また当科はやまと精神医療センター、大阪大学精神医学教室による精神科専門医研修（3年間の後期研修）の協力病院であるが、今年度は大阪大学から派遣された金が1年間在籍し、珍しい神経精神医学症例を経験し報告も行った。

次に「産業精神医学」では（1）産業医、関連・連携企業、院内からの紹介診療以外に、高橋は（2）予防医学センターと連携し、当院が各企業に派遣する産業医の業務を補助するセカンド=オピニオン外来を続け、（3）当院職員に生じた精神的問題への対応や、産業医業務の補助をさせて頂いている。

昨今産業構造の変化から、社員の健康のうち特に精神状態に着目する必要があるため、精神科医産業医も増えているが、高橋は「精神状態のアセスメントのみでは不十分で、作業環境や作業に固有の物理・化学・社会的要因に神経精神医学的に着目し、総合的に企業のリスクアセスメントを行うことがのぞましい」と考え、（1）～（3）のような事例対応にとどまらず、産業保健の重要なテーマである（4）職場改善方法の開発- 代表的には、職場復帰基準・手順の適正化実践、長時間労働に対する指導実践の他、ストレスチェック=データの独自解析法の開発に取り組む。また（5）産業精神保健の研究会を、当科前部長の江川、院外の精神科医・産業医と定期的に行っている。

また高橋は、（6）日本生命傘下の特例子会社（障害者重点雇用企業）の相談・指導・健康管理を行う他、健康経営プロジェクトのプログラムを作成し、今年度は予防医学センターの関藤心理士の協力を得て実践・評価を行った。これは、将来の労働人口高齢化を見据えたトータル=ヘルス=プロモーション（THP）から、多様化を背景にした若年者・障害者向けバージョン改変

ともいえる。

有床総合病院精神科のルーティン業務（一般・専門外来診療、院内他科連携、入院診療）について報告する。

当科の一般外来では（1）うつ病・パニック障害などのうつ病圏、（2）全般的な不安障害などの神経症圏、（3）適応障害などストレス関連疾患の、診療所・院内他科からの紹介例が多い。

専門外来は一般診療の枠内で時間を確保して行っている。（4）「慢性疲労（症候群）」（高橋）では、一般の精神科では対応が難しい慢性疲労・各種の心身症（身体表現性障害）・一部の慢性疼痛などの紹介を総合病院・医療センター・大学病院等から受けてきた。（5）「認知症」は脳機能センターにかかわる医師全員が担当する。昨今は社会構造の変化を反映し、（1）～（4）に比して、認知症周辺の高齢者の精神的な問題（老年期うつ病など）の割合が著増しており、当院では精神科医が脳機能センターを兼務する枠組みにより対応できている。また高齢者の身体因性精神医学・神経精神医学的診療は院内他科との連携を通じて行うことが多い。また（6）顕在・潜在的な発達障害への対応は当科の課題であるが、症例数としてはそれほど多くない。

院内他科との連携には、（4）のように心身の問題を一元的に特定できない症例の併診（高橋）の他、コンサルテーション・リエゾン=サービス（CLS）や緩和ケアのコンサルテーション（相談）・リエゾン（直接診療）の枠組みも用いて対応している。他科入院患者が従来合併する精神疾患、せん妄・適応障害の新たな発症、高齢初発のてんかん（青木）、そして前出の「認知症」も多く、他科からの転科入院も増えている。

入院診療は、総合病院精神科の入院病床が全国的に減少しているため紹介入院先として機能している。一般医療法に基づき、他科との混合病棟体制であるため、受け入れには原則的にADLが概ね自立し行動制限の必要が無い症例との条件があるが、昨今入院患者の特性にも外来と同様（5）（6）の変化がある。（5）の入院や身体科からの転科などADL低下症例への対応スキル向上のため、特に当科は病棟・病院全体と連携する意義がある。

緩和ケア業務については、（1）がん診療拠点病院の要件である当院主催の緩和ケア研修会に、高橋・青木・丸山心理士が協力する。（2）丸山が院内緩和ケア業務に定期参加している。（3）高橋は他病院が主催する研修会の精神・心理部門講師として協力している。

2. 診療体制

神経科・精神科の主要医師は青木・鈴木・高橋（以上常勤）の3名である。専攻医として金が2022年4月～翌3月の1年間在籍した。

1) 外来診療スケジュール（表1）

2診～3診での完全予約制で行っているが、随時予約外の対応は必要であり、診察室としてはDブロックの2～3診・カウンセリング室、受け入れの円滑化をはかるために、初診患者はあったかサポートセンター経由の紹介を前提にしている。

心理検査・診療面において、脳機能センターと協働する業務も多い（脳機能センター山本）。また治療の質向上のため、完全予約制で心理士によるカウンセリングを行う症例もある（神経科・精神科丸山）。

2) 検査体制（表2）

当科では心理検査、脳波検査、脳画像検査を多用する。

まず心理検査は一般分野と認知機能分野に分かれる。一般分野では重症度（うつ状態など）の半定量的評価、性格・人格特性の定性的評価を行っている。認知機能分野では、「認知症専門」をうたう多くの病院でスクリーニングレベルの検査にとどまっているが、当院では高次機能障害や神経疾患を特定するための豊富なバッテリーを施行可能である。

次に脳波検査はてんかん診療や、他科連携における症候性・器質性病態の推定において有用である。

認知症に対する画像検査も頻用されている（頭部MRIの定量的計算・定性的評価法、脳血流SPECT、DLB/ParkinsonismへのDATscan、心筋MIBG検査など）。

神経精神医学を重視する立場から検血・検尿など一般身体検査も行う。アルツハイマー病（AD）のリスクファクターは生活習慣病のそれと大きく重なり、初期認知症や軽度認知障害（MCI）の認知機能マネージメントのため生活習慣病モニタリングは有効である。

特殊な検査として、当科では以前より認知機能低下の生理学的評価を積極的に行っている（例：パルスオキシメトリーの援用、多重注意・遂行機能測定ソフトウエアの独自開発）。青木は認知症の客観的な初期診断・病態把握を可能にする脳波分析手法を開発したが、続々と研究論文を産出している。

3) 病棟体制

非常勤医を除いて、外来での主治医が入院加療をも受け持ち、3名が13～14床を目標に加療を行っている。COVID-19感染症蔓延下で、諸般の事情により入院数は全体として減少しているが、これは市中総合病院精神科入院の特性を反映していると考えられる。

4) CLSおよび緩和ケア業務体制

青木が中心になり、緩和ケア業務とCLSを一体化

した枠組みでリエゾン（＝直接診療）を行う他、主要メンバーが随時コンサルテーション（＝相談）を受ける。丸山心理士は血液・化学療法内科と連携し「無菌室化学療法カウンセリング」を続けている。

5) 心理士業務体制

認知機能検査は2名の心理士が分担している。丸山は心理カウンセリング・一般心理検査・緩和ケア・産業精神保健・認知機能スクリーニングなど多彩な業務に従事する。山本は神経心理学を専門に研究しており、豊富な認知機能検査バッテリーを操る。

6) 教育体制の診療体制への包含

(1) 大阪大学医学部学生の臨床実習を毎年行っている。前述の業務のうち一般・専門外来診療・院内他科連携・心理検査・脳波検査)について、常勤医3名・心理士2名が、専門分野に応じて実習・講義を分担する。

(2) 精神科の前期研修は研修協力病院（水間病院・藍野病院）で行われるべき業務が殆どであるため、当科はとくに精神科を専攻したい研修医の指導のみにかかわるが、それ以外の前期研修医にとっても、院内他科連携の実務を通して得る精神科領域の経験は有意義と考えられる。

(3) 新専門医制度に関連して、学会による教育施設認定に積極的である。

①精神科を専門とする医師のための、日本精神神経学会の専門医研修認定施設（大阪大学、やまと精神医療センターとの連携型）を維持している。

②神経・社会精神医学のサブスペシャリティを目指す精神科上級医のための、日本総合病院精神医学会の専門医研修施設になっている。

③公認心理士制度に関連して、武庫川女子大学大学院の修士学生を対象に、公認心理師資格取得のための病院実習を行っている。

④脳機能センターではカンファレンスを月1回行っている。神経科・精神科内では薬物療法・臨床精神医学全般に関する勉強会を月2回程度行っている。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

COVID-19感染症の蔓延に対する安全対策を反映し、患者数はやや減少している。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院数は1)より減少傾向が大きい。これは環境調整が重要な治療技法である市中総合病院精神科入院の特性を反映しており、5類感染症への移行などにより入院環境改善がなされるまでは回復困難と見込んでいる。

なお従来、数少ない府内の市中病院の精神科病床を有効に利用するための方法論として、近医精

内科との情報交換・勉強会などネットワーク強化から紹介入院の促進に努めてきた。さらに近い将来、大学病院を中心とした総合病院精神科のネットワークも形成予定である。現在はこうした交流を通じた紹介入院もCOVID-19感染症蔓延のため縮小している。

4. 認定医・専門医など

- ・日本精神神経学会専門医 3名（高橋・鈴木・青木）
- ・同 指導医 2名（高橋・鈴木）
- ・日本総合病院精神医学会専門医 1名（高橋）
- ・同 指導医 1名（高橋）
- ・精神保健指定医 2名（鈴木・青木）
- ・日本医師会認定産業医 3名（高橋・鈴木・青木）
- ・厚生労働省 労働衛生コンサルタント 1名（高橋）

5. 業績

論文・著書

1. Yasunori Aoki, Masahiro Hata, Masao Iwase, Ryouhei Ishii, Roberto D. Pascual-Marqui, Takufumi Yanagisawa, Haruhiko Kishima, Manabu Ikeda : Cortical electrical activity changes in healthy aging using EEG-eLORETA analysis, Neuroimage : Reports, 2 : , 2022年
2. Aoki Y, Kazui H, Pascual-Marqui RD, Bruña R, Yoshiyama K, Wada T, Kanemoto H, Suzuki Y, Suehiro T, Satake Y, Yamakawa M, Hata M, Canuet L, Ishii R, Iwase M, Ikeda M : Normalized Power Variance : A new Field Orthogonal to Power in EEG Analysis, Clin EEG Neurosci, : in Press
3. Aoki Y, Takahashi R, Suzuki Y, Pascual-Marqui RD, Kito Y, Hikida S, Maruyama K, Hata M, Ishii R, Iwase M, Mori E, Ikeda M. : EEG resting-state networks in Alzheimer's disease associated with clinical symptoms., Scientific Reports, Mar 9.13 (1) : 3964. : , 2023年

研究会発表

1. 高橋 励：座長「コロナウイルス感染症の精神神経領域に及ぼす影響」, 2021年度大阪府医師会勤務医部会ブロック合同懇談会, 2022年3月, 大阪
2. 高橋 励：総合病院精神科—そのフレームワーク, 共和薬品工業（株）社内講演会, 2022年6月, 大阪
3. 高橋 励：総合病院における不眠への実践的な対応, 医療安全セミナー, 2022年6月, 大阪
4. 高橋 励：総合病院精神科のバリエーション—神経精神医学 2症例, 大阪大学和風会総合病院精神科管理職の会, 2022年6月, 豊中
5. 丸山加奈：ストレスとの付き合い方について, 第45回大阪乾癩患者友の会学習懇談会・総会, 2022年7月, 大阪
6. 高橋 励：「自分を知る」ことの難しさ, 第45回大阪乾癩患者友の会学習懇談会・総会, 2022年7月, 大阪
7. 高橋 励：ストレスチェックで「自分を知る」—どこまでわかる？ どう役立つ？, 日本生命病院院内セミナー, 2022年11月, 大阪
8. 高橋 励：ストレスチェック制度—成立から使いみち・可能性まで, ニッセイニュークリエーション社内セミナー, 2022年11月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
高橋 (勵)	鈴木 (由)	臨時 医	金	高橋	鈴木	青木	青木	高橋	高橋
青木		金		鈴木		池田* (物忘れ 外来)		鈴木	青木

※①16日、23日、30日は休診

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脳波				○ 診		○ 診		○ 診		○ 診
心理テスト	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診			○ 診	○ 診	○ 診	○ 診

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	14,193	14,848	14,482	14,612	14,754
入院	2,904	4,012	3,280	2,308	2,754

表4 2022.4～2023.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均 在院日数
うつ病エピソード	48	33
双極性感情障害<躁うつ病>	7	29
重度ストレスへの反応および適応障害	4	16
その他の不安障害	4	18
解離性[転換性]障害	4	20
てんかん	4	12
身体表現性障害	3	48
詳細不明の認知症	3	52

脳 神 経 外 科

スタッフ 部 長：田村和義（～2022年9月）、鶴菌浩一郎（2022年10月～）
田村和義（2022年10月～）

1. 診療内容

当科も2018年4月に新設されて4年が経過した。慢性硬膜下血腫、水頭症、脳腫瘍、脳出血などの治療は軌道に乗った。また、カテーテルを用いた血管内治療も大阪大学および関連施設の応援を得て、軌道に乗ったと考えている。脊椎疾患の小侵襲手術も行っており、脊髄腫瘍も整形外科と共同して手術を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2、3）

4. 認定医・専門医など

日本脳神経外科学会専門医 2名（鶴菌、田村）
日本脳卒中学会専門医 1名（田村）
日本脊髄外科学会認定医 2名（鶴菌、田村）
日本認知症学会専門医・指導医 1名（田村）

5. 業績

学会発表

- 田村和義：当院におけるLPシャントの中長期成績, 日本脳神経外科学会第81回学術総会, 2022年9月, 横浜
- 第48回日本脳卒中学会学術総会, 2023年3月18日, パシフィコ横浜 深部境界域梗塞による全失語の1例 ポスター発表 田村和義, 鶴菌浩一郎, 塚原彰弘, 仁科拓也, 芳川浩男

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
		鶴菌		田村				鶴菌	
								田村	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	690	1,089	993	1,069	1,068
入院	1,079	1,016	911	880	1,055

※2018.4～脳神経外科を新設

表3 2022.4～2023.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
水頭症	31	10
頭蓋内損傷	8	16
その他の非外傷性頭蓋内出血	6	12
脳梗塞	4	64
その他の脳血管疾患	2	2
脳実質外動脈の閉塞および狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	2	2
脳内出血	2	59
他に分類される疾患における神経系のその他の障害	2	30

整 形 外 科

スタッフ 部長：西原俊作
副部長（部長待遇）：辻 成佳、行方雅人
医 長：高見賢司
専攻医：菊池潤太

1. 診療内容

当科は、主に関節外科（股関節、膝関節）、脊椎外科、足の外科、骨折外傷を中心に診療してきた。

関節外科では股関節および膝関節の変形性関節症や関節リウマチに対して人工関節手術を施行してきた。2021年7月から筋腱温存前方アプローチ（DAA）による人工股関節置換術を開始し、脱臼のリスクをほぼなくし、従来と比較して早期の回復と早期の退院が可能となった。2021年12月から手術ナビゲーション（人工股関節）を導入し骨盤インプラント（カップ）を術前計画通りに正確に設置できるようになった。筋腱温存前方アプローチ（DAA）と手術ナビゲーションの導入により術後脱臼のリスクがほぼなくなり、初回手術においては術後の生活動作制限を撤廃した。

2022年8月から手術ナビゲーション（人工膝関節）を導入し、インプラント（大腿骨側、脛骨側）をメカニカルアライメントの通りに正確に設置できるようになった。長期耐久性や患者満足度の向上に貢献することが期待される。

脊椎外科では下肢痛、歩行困難がある腰部脊柱管狭窄症の患者さんに対して開窓術や椎体間固定術を施行している。また巧緻性障害、痙性跛行がある頸椎症性脊髄症の患者さんに対して頸椎椎弓形成術を施行している。

2022年6月から外反母趾や関節リウマチによる足部変形に対して矯正骨切り術を施行している。

外傷では高齢者の骨折が増加しており、骨粗鬆症治療とともにできるだけ早期の手術を目標としている。

また、当科はリハビリテーション室と密接に連携し、早期退院・早期社会復帰を目標に治療している。手術患者さんに対しては手術前からリハビリテーションを行うだけでなく、術後早期から運動療法を集中し早期退院を図っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

整形外科1、2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は28、常勤医4名が担当し診療を行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は前年度より増加した。

2) 入院診療実績（表4、5）

手術件数は維持したが、入院患者数は増加した。

4. 専門医・指導医など

日本整形外科学会認定整形外科専門医

3名（西原、辻、行方）

日本人工関節学会認定医

2名（西原、辻）

日本リウマチ学会指導医

1名（辻）

日本脊椎脊髄病学会指導医

1名（行方）

日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション認定医

1名（行方）

5. 業績

論文・著書

- 辻 成佳, 富田哲也: X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎におけるセクキスマップの有効性と安全性 (PREVENT試験), リウマチ科, 67: 448-453, 2022年
- Nishihara S: Comparison between freehand technique and computed tomography-based navigation in acetabular cup placement through direct anterior approach for total hip arthroplasty., Arch Orthop Trauma Surg, 142: 323-329, 2022年
- 石橋輝哉, 西原俊作, 慶元秀規, 行方雅人, 平林伸治: 大腿四頭筋腱断裂に対してsuture anchorと人工靭帯を用いて修復を行った1例, 日本生命病院医学雑誌, 50: 76-80, 2022年
- 辻 成佳: 末梢性脊椎関節炎-乾癬性関節炎, リウマチ病学テキスト, 日本リウマチ財団教育研修委員会, 日本リウマチ学会生涯教育委員会, 160-163, 改訂第3版, 2022年, 南江堂, 東京
- 辻 成佳, 富田哲也, 他42名: 掌蹠膿疱症性骨関節炎 診療の手引き202, 日本脊椎関節炎学会, 2022年, 文光堂, 東京

学会発表

- 辻 成佳, 他: ウバダシニブ投与を受けた乾癬性関節炎患者における患者報告アウトカム of 改善と疾患活動性指標との関連: 第3相試験の結果, 日本リウマチ学会総会学術集会, 2022年4月, 横浜
- 辻 成佳, 野口貴明, 橋本 淳, 大島至郎, 他: NinJa2019データベースにおけるSDAI寛解および低疾患活動性を達した関節リウマチ患者における栄養状態の評価, 日本リウマチ学会総会学術集会, 2022年4月, 横浜
- 高見賢司, 辻 成佳, 平尾 眞, 野口貴明, 橋本 淳, 大島至郎, 富田哲也: 掌蹠膿疱症性骨関節炎に対するグセルクマブの治療効果, 日本リウマチ学会総会学術集会, 2022年4月, 横浜
- 高見賢司, 辻 成佳, 平尾 眞, 野口貴明, 橋本 淳, 大島至郎, 富田哲也: 乾癬性関節炎における骨粗鬆症・骨減少症および肥満度に関する検討, 日本リウマチ学会総会学術集会, 2022年4月, 横浜
- 辻 成佳, 他: SELECT-PSA試験におけるウバダシニブによるIL-6, IL-17経路の抑制と臨床効果との関連, 日本脊椎関

節炎学会学術集会, 2022年9月, 鹿児島

6. 高見賢司, 辻 成佳, 富田哲也: 乾癬性関節炎における骨粗鬆症および肥満に関する検討, 日本脊椎関節炎学会学術集会, 2022年9月, 鹿児島
7. 高見賢司, 辻 成佳: 乾癬性関節炎における肥満度および骨粗鬆症・骨減少症についての栄養学からの考察, 日本臨床栄養学会学術総会, 2022年10月, 盛岡

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
行方 (初診)		西原 (初診)	手術			行方 (予約)	特診関節 外来	西原 (予約)	特診関節 外来
菊池 (予約)	手術	高見 (予約)	乾癬関節 高見 (予約)	手術、 臨時診察 (必要度が 高い方のみ)	手術	高見 (初診)	行方 (予約)	菊池 (初診)	西原 (予約)
			乾癬関節 辻 (予約)			脊椎関節炎 辻 (予約)	脊椎関節炎 辻 (予約)		特診関節 外来 辻 (予約)

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		術前カンファ、 カルテ回診		抄読会	
午後					

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	13,609	12,846	11,459	11,510	12,498
入院	10,207	9,648	8,166	6,103	6,239

表4 2022.4~2023.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
その他の脊椎障害	42	22
膝関節症 [膝の関節症]	42	24
大腿骨骨折	36	27
その他の変形性脊柱障害	25	17
股関節症 [股関節部の関節症]	26	18
肩および上腕の骨折	24	10
下腿の骨折、足首を含む	22	21
その他の椎間板障害	18	16
前腕の骨折	15	8
脊椎症	9	17
その他の関節リウマチ	9	25

皮 膚 科

スタッフ 部長：東山真里（特任副院長、臨床研究管理室長、乾癬センター長）
医 長：林 美沙
専攻医：井上栄美、佐藤祥奈

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹、円形脱毛症、尋常性白斑、強皮症などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。大阪大学皮膚科学教室や、その関連病院と密な連携をとり病院間及び病診連携を重視している。皮膚疾患患者のQOLを尊重し、病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。11月12日に「ニッセイ いい皮膚の日」として患者対象の学習会を皮膚科・形成外科医師と看護師で開催。スキンケアをテーマに講演した。

医療設備：薬浴室（外来、病棟とも）、全身型紫外線照射装置2機（UVA、ナローバンドUVB）、部分型紫外線照射装置、手足用ナローUVB/UVA照射装置、エキシマライト、凍結療法（スプレー式）、表在超音波装置

1. 診療内容

専門外来：【乾癬外来】年間初診患者数は尋常性乾癬が約170名、乾癬性関節炎が51名で再診は延べ1,000名余り。掌蹠膿疱症および掌蹠膿疱症性骨関節炎の初診も増加（1）治療内容 1.外用療法 2.光線療法（入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト、手足用ナローUVB/UVA照射） 3.内服療法 4.生物学的製剤。これらより個々の患者に最適な治療を選択（2）乾癬センターとして扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因や心血管系イベントを含む併存症につき関連診療科と連携して精査。（3）重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、セトリズマブ・ウスチキヌマブ、セクキヌマブ、プロダルマブ、イクセキズマブ、グセルクマブ、リサンキズマブ・ビメキズマブなどの種々の生物学的製剤を積極的に導入し特に乾癬性関節炎にも奏効。乾癬・掌蹠膿疱症に関する臨床治験や臨床研究も実施。（4）乾癬性関節炎は整形外科医と診断・治療につき連携。関節エコーを用い早期診断の向上をはかっている。（5）療養を支援する場として大阪大学 皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。【アトピー外来】重症例では光線療法やシクロスポリン療法、生物学的製剤、JAK阻害剤も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科診療科との連絡を密に総合的に診療を行う。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。重症のアトピー性皮膚炎に対して生物学的製剤を積極的に導入。【エキシマライト治療】308nmのエキシマライトを用いて難治な爪

乾癬・尋常性乾癬・アトピー性皮膚炎・尋常性白斑・環状肉芽腫などの治療を行い良好な結果を得ている。【皮膚外科手術】良性悪性腫瘍の切除術は皮膚科で可能な症例は大阪大学から皮膚外科医を週1回派遣いただき手術。ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。動脈硬化による下肢動脈狭窄症による足趾壊死や潰瘍は血管外科と密に連携して治療している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外来診療 主治医制で再診は予約制。

原則3診体制で診察。初診外来あり（月、水曜は東山担当）。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火（午前・午後）、木（午前・午後）、全予約制（ただし初診は、あったかサポートセンター経由のみ予約可）。アトピー外来は金（午前）

手術：水曜午前は局所麻酔

2) 病棟体制（表3、4）

病棟担当医は常勤医3名で、主治医となって診療を行った。新入院患者数は19.3名/月、入院患者数年間のべ患者数は2,880名、1日平均7.9名で、帯状疱疹、重症乾癬、アトピー性皮膚炎、水痘、じんま疹、蜂窩織炎、薬疹、多型紅斑、丹毒、皮膚良性腫瘍/悪性腫瘍、下腿潰瘍、自己免疫性水疱症など。乾癬パス入院や、食物アレルギー、薬疹の原因薬精査なども行った。

形成外科と協力して褥瘡回診を行っている。

3) 検査スケジュール（表2）

月曜・水曜の午後にパッチテスト・光線テスト・皮膚生検などを行っている。

表在エコー検査は随時。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2022年度の外来延べ患者数25,463名、1日平均104.4名。
紹介患者数 49.6名/月。
年間手術件数206件

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 検査実績

皮膚生検数 300件/年

4. 専門医など

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 2名（東山、林）

5. 業績

論文・著書

1. 安部正敏, 岡崎布佐子, 菅井順一, 東山眞里, 日野亮介, 南由紀恵, 根本 治: 尋常性乾癬に対する外用指導の実態調査と適切な外用指導の検討, 日本臨床皮膚科医会雑誌, 39: 412-422, 2022年
2. Saeki H, Kanai Y, Murotani K, Ito K, Miyagi T, Takahashi H, Tada Y, Higashiyama M, Hashimoto Y, Kitabayashi H, Imafuku S.: Work productivity in real-life employed patients with plaque psoriasis: Results from the ProLOGUE study, J Dermatol, 49: 970-978., 2022年
3. 今中洋子, 東山眞里, 山下千佳紗, 田中久仁子: Lichen planus pigmentosus-inversusと扁平苔癬の合併例, 皮膚病診療, 44: 894-897, 2022年
4. 井上栄美, 東山眞里, 林 美沙, 佐藤祥奈: COVID-19ワクチン接種後に皮疹悪化を認めた尋常性乾癬の3例, 皮膚病診療, 45: 62-66, 2023年
5. Mizutani Y, Kanai Y, Murotani K, Honma M, Higashiyama M, Kobayashi S, Nomura T, Seishima M, Imafuku S.: J Dermatol, 50: 319-326, 2023年

学会発表

1. 井上栄美, 田中久仁子, 林 美沙, 東山眞里: COVID-19ワクチン接種後に皮疹の悪化を認めた尋常性乾癬の2例, 日本皮膚科学会 大阪地方会 第490回, 2022年3月, 大阪 (Web開催)
2. 東山眞里: 乾癬患者の治療意欲向上をめざして, 第78回日本皮膚科学会高知地方会佐野栄紀教授退官記念ランチョンセミナー, 2022年4月, 高知
3. 田中久仁子, 井上栄美, 林 美沙, 東山眞里 (: BISモニターによる接触皮膚炎の1例, 第38回日本臨床皮膚科医会総会, 2022年4月, 鹿児島)
4. 井上栄美, 田中久仁子, 林 美沙, 東山眞里, 辻 成佳, 廣海汐理, 小中八郎: 両側胸部中心静脈閉塞症を発症した掌蹠膿疱症性骨関節炎の1例, 第122回日本皮膚科学会総会, 2022年6月, 京都
5. 井上栄美, 佐藤祥奈, 田中久仁子, 林 美沙, 東山眞里, 川上 学, 林大輔, 立石千晴, 鶴田大輔: リツキシマブとシクロスポリン含嗽が著効した腫瘍随伴性天疱瘡の1例, 115回近畿皮膚科集談会, 2022年7月, 大阪
6. 林 美沙: 乾癬センターを軸にした多職種連携による乾癬トータルマネジメント, 第86回日本皮膚科学会 東部支部学術大会 イブニングセミナー, 2022年8月, 新潟
7. 東山眞里, 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 津田雄一郎, 菅井順一: 実臨床下における配合外用薬のフォーム剤の臨床評価 (DEFENDER study), 第37回日本乾癬学会, 2022年9月, 鹿児島
8. 菅井順一, 東山眞里, 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 津田雄一郎: 開業医診療情報データベースを用いた尋常性乾癬の治療実態調査 (DEFENDER study), 第37回日本乾癬学会, 2022年9月, 鹿児島
9. 井上栄美, 佐藤祥奈, 林 美沙, 東山眞里, 柳澤 篤, 廣海汐理, 小中八郎: 皮膚筋炎を合併した尋常性関連の2例, 第37回日本乾癬学会, 2022年9月, 鹿児島
10. 林 美沙, 佐藤祥奈, 井上栄美, 東山眞里, 辻 成佳, 王 聡: BCG膀胱内注入療法施行後に急性増悪した乾癬性関節炎の1例, 第32回日本脊椎関節炎学会学術大会, 2022年9月, 鹿児島
11. 林 美沙: 尋常性乾癬外用治療の全体像とドボベツ[®]フォームの可能性, 第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会イブニングセミナー, 2022年10月, 富山
12. 東山眞里: QOL向上を目指した乾癬治療ーアンメツ・ニーズへの解決策は?, 第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会ランチョンセミナー, 2022年10月, 富山
13. 佐藤祥奈, 井上栄美, 林 美沙, 東山眞里, 清原英司: 魚鱗様皮疹を呈した菌状息肉症の一例, 第73回日本皮膚科学会中

部支部学術大会, 2022年10月, 富山

14. 井上栄美, 佐藤祥奈, 林 美沙, 東山眞里, 辻 成佳, 田中敏夫: 強直性脊椎炎と潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブ投与後に頭皮に脱毛と乾癬様皮疹を認め逆説的反応と診断した1例, 第495回大阪地方会, 2022年12月, 大阪
15. 林 美沙, 佐藤祥奈, 井上栄美, 田中久仁子, 東山眞里: デュピルマブにより脱毛をきたしたアトピー性皮膚炎の1例, 第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 2022年12月, 名古屋
16. 佐藤祥奈, 井上栄美, 林 美沙, 東山眞里: 左鼻翼部の結節型顔面肉芽腫の一例, 第495回日本皮膚科学会大阪地方会, 2023年2月, 大阪

研究会発表

1. 東山眞里: PsA治療の最前線, 大阪乾癬フォーラム, 2022年3月, 大阪
2. 林 美沙: 明日から始められる乾癬性関節炎のエコーの基本, 第1回 Woman's Conference in 東京, 2022年5月, 東京
3. 林 美沙: 尋常性乾癬治療 最新の知見, スキリージ発売3周年記念講演会, 2022年6月, 大阪
4. 東山眞里: 乾癬治療のアンメツ・ニーズスキリージをどう使う?, スキリージ発売3周年講演会, 2022年6月, 京都
5. 林 美沙: ちょっと知っていたら得する外用指導, 薬剤師さん・看護師さんのための外用指導Webセミナー, 2022年7月, 大阪
6. 林 美沙: 皮膚科医ができる 関節エコー, Psoriatic Arthritis Web Seminar, 2022年7月, 大阪
7. 林 美沙: 日本生命病院における乾癬診療の現状, Nissay Dermatology summit, 2022年9月, 大阪
8. 東山眞里: クロージングリマックス, Nissay Dermatology summit, 2022年9月, 大阪
9. 林 美沙: 乾癬とアトピー性皮膚炎診療の進歩, 第149回日本生命病院 医学セミナー Update, 2022年10月, 大阪
10. 東山眞里: 乾癬, Open horizons, 2022年10月, 東京
11. 佐藤祥奈: アトピー性皮膚炎とは, 日本生命病院 皮膚の日の催し医療講演, 2022年11月, 大阪
12. 佐藤祥奈, 井上栄美, 林 美沙, 東山眞里: 左鼻翼部に急速拡大した腫瘍の一例, 大阪症例検討会, 2022年11月, 大阪
13. 東山眞里: 乾癬センターでの乾癬治療ーオテズラをどう使う?, オテズラ錠発売5周年記念講演会, 2022年11月, 大阪
14. 佐藤祥奈, 井上栄美, 林 美沙, 東山眞里: 多発関節炎を伴った化膿性汗腺炎, 大阪西北皮膚科症例検討会, 2023年3月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金		
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
診察室	林	検査 パッチ テスト 生検 等 (予約)	乾癬 外来 東山 (予約)	乾癬 外来 東山 (予約)	平野	検査 光線 テスト 生検 (予約)	乾癬 外来 2 林	乾癬 外来 東山 (予約)	林 (初診)	検査 ・ 生検	
	紹介 初診 東山 (予約)		乾癬 外来 2 辻 (予約)	乾癬 外来 3 林 (予約)			東山 (紹介 予約)		辻 真紀		アトピー 外来 佐藤 (予約)
	佐藤		井上 (紹介初 診のみ)	乾癬 関節 外来 辻 (整形)			林		佐藤 (初診の み)		乾癬 外来 3 井上 (予約)
検査室											

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
パッチテスト 皮内テスト 光線テスト 皮膚生検		○ 診								

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	21,976	20,722	21,815	23,327	25,463
入院	3,202	2,901	3,098	2,715	2,880

表4 2022.4～2023.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
带状疱疹[带状疱疹]	86	9
蜂巣炎<蜂窩織炎>	40	11
乾せんく癬>	20	10
摂取物質による皮膚炎	8	12
丹毒	7	9
その他の紅斑性病態	7	16
外科的および内科的ケアのその他の合併症, 他に分類されないもの	6	5
じんま<蕁麻疹>	4	7

スタッフ 部 長：垣本健一（血液浄化センター副センター長）
副 部 長：湊のり子、王 聡

1. 診療内容

当科は泌尿器疾患および男性生殖器疾患を対象に診療を行なった。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、化学療法、免疫療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は、泌尿器科癌に対する新規の抗癌剤、抗アンドロゲン剤、免疫療法薬が次々と承認されて治療選択肢が増加していることが特徴である。当科でも、最新の薬物治療と他の治療を組み合わせる集学的治療を積極的に行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

泌尿器科外来1～2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制

病床数は10～20、病棟担当医は、常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表2）

膀胱鏡検査：泌尿器科膀胱鏡検査室（月～金曜日）

尿流検査：泌尿器科検査室（月～金曜日）

逆行性尿路造影、尿道膀胱造影、排尿時膀胱造影（火曜日）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は延べ10,355人であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者は延べ3,558人であった。

3) 治療実績

経直腸の前立腺生検術は95例に対して行った。前立腺癌に対するロボット技術支援の腹腔鏡下前立腺全摘除術は40例に行った。去勢抵抗性前立腺癌に対しては新規ホルモン剤であるエンザルタミド、アピラテロン、アパルタミド、ダロルタミドを使用することで治療の幅を広げ良好な治療成績を収め、また患者数も着実に増加している。

膀胱癌に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術74例、膀胱筋層浸潤のある進行膀胱癌に対する膀胱全摘除術および尿路変向術を4例に対して行った。膀胱癌、尿管癌の治療あるいは再発予防

として、BCG膀胱内注入療法（上部尿路がん症例には尿管ステント留置下）を施行した。局所浸潤膀胱癌に対しては原則、術前化学療法を施行した上で手術を行う方針とした。転移を有する尿路上皮癌症例に対してはシスプラチン（またはカルボプラチン）+ゲムシタビン療法でSD以上を維持している症例には新規承認の免疫療法薬であるアベルマブ維持療法を行い良好な効果を得た。また、アベルマブに続く3次治療として、新薬である抗体複合薬エンフォルトマブベドチンを3例に投与した。

腹腔鏡下手術は腎、副腎、腎盂尿管疾患に対して18例に行った。また、新しく保険適用となった腎癌に対するロボット支援腎摘除術、腎盂尿管癌に対するロボット支援尿管全摘除術も開始した。特に、ロボット支援尿管全摘除術は、従来の方法よりも創部が小さくできるため、術後の回復が早くメリットがあると考えられた。

尿路結石（腎結石、尿管結石、膀胱結石）に対して経尿道的尿管碎石術を39例に、経尿道的膀胱碎石術を6例に行い全例レーザーを用いた碎石を行った。腎臓の下腎杯に落ち込んだ結石に対しては最新型の細径軟性鏡を用いて良好な視野の下、破碎術を施行した。

その他、陰のう水腫根治術、精巣摘除術など陰囊内容、陰茎、尿道に関する手術が12例であった。

4. 認定医・専門医など

日本泌尿器科学会専門医	3名（垣本、湊、王）
日本泌尿器科学会指導医	3名（垣本、湊、王）
ダビンチサージカルシステム認定資格	3名（垣本、湊、王）
日本がん治療認定医機構認定医	2名（垣本、王）
日本泌尿器科学会腹腔鏡技術認定医	2名（垣本、王）

5. 業績

論文・著書

1. 湊のり子, 王 聡, 垣本健一, 金光俊行, 福井辰成: 膀胱癌 Plasmacytoid variantの2例, 泌尿器外科, 35 (3): 238-241, 2022年
1. Nezu K, Yamashita S, Kakimoto K, Uemura M, Kishida T, Kawai K, Nakamura T, Goto T, Osawa T, Nishimura K, Nonomura N, Negoro H, Shraishi T, Ukimura O, Ogawa O, Shinohara N, Suzukamo Y, Ito A, Arai Y: Association of financial toxicity with quality of life in testicular cancer survivors., Int J Urol, 29: 1526-1534, 2022年

研究会発表

1. 垣本健一: 排尿日誌の意義について, Online Seminar夜間頻尿, 2022年3月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
湊	湊 (予約)	王	垣本	金光* 深江**	手術	湊	湊	王	垣本 (予約)
交代	交代 (予約)		検査			垣本	垣本	藤田 (昌)**	手術

*1・3・5週のみ *2・4週 **1・3・5週

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
尿流検査 前立腺エコー 逆行性腎盂造影*	○ 診		○ 診	○ 診	○ 診		○ 診	○ 診	○ 診	○ 診

○: 当院診察が必要 *は火曜午後のみ

表3 泌尿器科年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	11,353	11,507	10,855	10,435	10,355
入院	3,441	3,643	3,739	3,085	3,558

表4 2022.4~2023.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	150	6
膀胱の悪性新生物	113	8
腎盂の悪性新生物	30	13
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	23	4
腎結石および尿管結石	21	5
腎盂を除く腎の悪性新生物	15	8
腎尿路の性状不詳または不明の新生物	14	6
前立腺肥大(症)	10	5
尿路系のその他の障害	10	10
急性腎盂腎炎	9	9
尿管の悪性新生物	7	8

眼 科

スタッフ 部長代行：谷井啓一
副 医 長：伊藤 潤
専 攻 医：熊ノ郷有希
主 任：天野知子（視能訓練士）

1. 診療内容

当科は日本眼科学会の研修指定病院で、大阪大学眼科学教室と連携し、白内障・緑内障・角結膜疾患・糖尿病網膜症を中心に、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。

2016年度は、大阪大学眼科教室からの非常勤医師による外来診療のみであったが、2017年8月に谷井部長代行が赴任し、常勤医体制を再開した。

最新の設備を用いた質の高い医療の提供と、患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また、病診連携を積極的に進めており、患者様の眼科 かかりつけ医との連絡を密に取っており、かかりつけ 医よりの紹介→当科での手術等の急性期治療→かかりつけ医への逆紹介という基本方針で診療を行っている。

ほぼ全ての診療科を網羅する日本生命病院の一診療科として、全身状態の不良症例や、眼科単科では対応困難な症例の眼科治療も他科・センターと連携しながら行っているとともに、ニッセイ予防医学センターとも協力し、眼底検診による疾患の早期発見・予防に努めている。また、眼科疾患の難病認定申請に関する検査および臨床調査個人票の発行や、身体障害者手帳申請に関する検査および診断書・意見書の発行、視角障害者スポーツに関するサポートも行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本眼科学会専門医 3名（谷井・辻川・伊藤）
日本網膜硝子体学会・眼科PDT研究会
光線力学療法認定医 1名（谷井）
視覚障害者用補装具適合判定医師 1名（谷井）
臨床研修指導医 1名（谷井）
日本医師会認定産業医 1名（谷井）
日本体育協会認定スポーツドクター 1名（谷井）
日本障がい者スポーツ協会認定障がい者スポーツ医 1名（谷井）

5. 業績

学会発表

1. 谷井啓一, 馬場圭太, 林 美沙, 東山真里: 持久性隆起性紅斑に伴う周辺部角膜潰瘍にジアフェニルスルホン内服が奏功した一例, 第76回日本臨床眼科学会, 2022年10月, 東京
2. 宮本浩樹: 新病院効果の究明～巷の噂の真相を紐解く～, 第76回日本臨床眼科学会, 2022年9月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
谷井	手術	伊藤	特殊 検査	谷井	手術	谷井	特殊 検査	伊藤	特殊 検査
熊ノ郷		熊ノ郷		伊藤		駒井		熊ノ郷	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金		
	午前	午後									
光 凝 固 Y A G 蛍 光 造 影 硝子体注射 ボトックス						○			○		○

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	10,452	11,418	11,444	11,711	11,775
入院	769	795	838	727	596

表4 2022.4～2023.3入院患者の疾患

疾患名	件 数	平均在院日数
白内障	283	2
2型糖尿病	2	4
心臓および血管のプロステシス、挿入物および移植片の合併症	1	4
視神経炎	1	4
眼球の障害	1	1

スタッフ 部 長：小泉敏三
 副 部 長：金澤成典（部長待遇）、中山彩子
 副 医 長：藤田裕人（～2023年2月）、松山尚平（2023年3月～）

1. 診療内容

中耳疾患（慢性中耳炎、鼓室硬化症など）、内耳疾患（突発性難聴、メニエール病、頭位めまい症など）、顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群など）、鼻疾患（慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎）、および頭頸部腫瘍・がん、等の診療に注力している。近年は頭頸部腫瘍への診療体制をととのえ、診断（PET、NBI内視鏡、即時の内視鏡下生検）、治療（抗がん剤や分子標的薬などの薬物治療、定位放射線治療、再建を含めた拡大手術）などを複数診療科と連携しながら実施している。また、耳科手術では、従来の慢性中耳炎に対する鼓室形成術に加え、メニエール病に対する内リンパ嚢開放術や顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術にも取り組んでいる。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

- 一般診療：月～金 午前
 （火：手術日のため初診のみ）
- 専門診療：腫瘍（月・水・金 午前：金澤）
 補聴器（水 午後：担当者）
 めまい（水・木 午後：小泉）
 難聴・中耳炎（水・木 午後：小泉）
 甲状腺（月・水・金 午後：金澤、中山）

初診時に原則的に耳鼻咽喉科領域の各専門の医師が診療を担当する方針としている。

2) 病棟体制

耳鼻咽喉・頭頸部外科は10床の定床数（9階病棟）で入院診療を行っている。外来診療担当医が、引き続き入院診療も主治医として診療を行っている。頭頸部がん症例については、複数医師で患者を担当している。

3) 検査スケジュール

- ・聴力検査：月～金 午前・午後
- ・めまい・平衡機能検査（カロリック、VEMP含む）：月～金 午前・午後
- ・ABR検査：随時・即時
- ・ENOG検査：随時・即時
- ・内耳造影MRI検査：水・金 全日
- ・超音波検査、鼻咽頭内視鏡検査：随時・即時
- ・嚥下内視鏡検査：随時・即時
- ・頸部造影CT：随時・即時
- ・頭頸部単純・造影MRI：随時
- ・PET：随時

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

耳鼻咽喉領域の急性難聴やめまいなどの耳疾患、頭頸部癌（口腔癌、咽喉頭癌、甲状腺癌など）については専門医が診療を担当している。他に鼻副鼻腔疾患や扁桃疾患に対しても手術体制が整っている。近隣の医療施設からの紹介や救急患者を随時受入れ、その患者の症状が安定すれば逆紹介も行っている。大阪市西区やその周辺地域の基幹病院としての役割を果たしている。まためまい専門検査は大阪府広域からの患者を受け入れている。

2) 入院診療実績（表3、4）

近年、手術件数増加に伴い入院件数の増加もみられる。また、従来から急性炎症疾患（扁桃炎、急性喉頭蓋炎など）、急性めまいや急性感音難聴、顔面神経麻痺の加療も実施している。他診療科と連携して、頭頸部がんに対する集学的治療も積極的に実施している。

3) 検査実績

- 聴力検査：1,816件
- めまいセット標準検査：128件
- VEMP・カロリック検査：241件
- 内耳造影MRI検査：65件
- 頸部超音波検査：1,258件
- 鼻咽頭内視鏡検査：1,389件

4. 認定医・専門医など

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医	2名（小泉、金澤）
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医	1名（中山）
補聴器相談医	1名（小泉）
補聴器適合検査認定医	1名（小泉）
がん治療認定医	1名（金澤）
頭頸部がん専門医・指導医	1名（金澤）
身体障害者福祉法15条指定医	2名（小泉、金澤）
めまい相談医	1名（小泉）

5. 業績

論文・著書

1. 小泉敏三, 藤田裕人, 中山彩子, 金澤成典: 鼓膜再穿孔症例に対するフィブリン糊を使わない鼓膜形成手術でのポリグルコール酸シート (ネオベール) の有用性 (原著論文), 日本生命病院医学雑誌, 50: 13-18, 2022年

学会発表

1. 藤田裕人 (日本生命病院) 伊藤妙子, 乾 洋史, 山中敏彰, 北原 紘 (奈良医大): 一側性メニエール病患者におけるストレスと水腫の関係性について, 第84回 耳鼻咽喉科臨床学会, 2022年7月, 広島市
2. 藤田裕人, 小泉敏三 (日本生命病院) 伊藤妙子, 乾 洋史, 北原 紘 (奈良医大): めまい・難聴を繰り返す疾患と内耳造影MRIによる内リンパ水腫陽性率, 第39回 耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会, 2022年8月, 京都市
3. 小泉敏三 (日本生命済生会日本生命病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科), 藤田裕人, 山中敏彰, 北原 紘: ポリグルコール酸シート (ネオベール) を用いた鼓膜形成手術 シート片の貼付枚数について, 第32回 日本耳科学会総会・学術講演会, 2022年10月, 横浜市
4. 小泉敏三 (日本生命済生会日本生命病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科), 藤田裕人, 藤田信哉, 北原 紘: ガドリニウム遅延造影による聴覚器MRI 突発性難聴および前庭神経炎の画像所見, 第81回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会, 2022年11月, 奈良

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
金澤	金澤 (腫瘍) (予約)	担当医 (初診のみ)		小泉	小泉 (めまい・顔面神経) (予約)	小泉	小泉 (難聴・中耳炎) (予約)	金澤	金澤 (腫瘍) (予約)
中山	中山 (甲状腺) (予約)	手術		金澤	金澤 (腫瘍) (予約)	中山	中山 (甲状腺) (予約)	中山	中山 (甲状腺) (予約)
宮下			松山	松山 (予約)	担当医		松山	松山 (予約)	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
聴力検査 めまい平衡機能	○		○		○		○		○	
聴性脳幹反応		○				○		○		○
内耳造影MRI					○		○			

○: 当院診察が必要

表3 耳鼻咽喉科年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	11,159	11,506	9,636	8,520	8,179
入院	1,860	2,051	3,009	2,301	2,850

表4 2022.4~2023.3入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
前庭機能障害	28	5
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	26	7
急性扁桃炎	20	6
甲状腺の悪性新生物	15	11
慢性副鼻腔炎	15	6
顔面神経障害	9	7
口腔および消化器の性状不詳または不明の新生物	9	6
喉頭の悪性新生物	7	45
中咽頭の悪性新生物	7	50
内分泌腺の性状不詳または不明の新生物	5	7
反復性および持続性血尿	4	7
化膿性および詳細不明の中耳炎	4	6
扁桃周囲膿瘍	4	5
非ろ (濾) 胞性リンパ腫	4	3
副甲状腺 (上皮小体) 機能亢進症およびその他の副甲状腺 (上皮小体) 障害	4	7

形 成 再 建 外 科

スタッフ 部長代行：宮崎裕子（～2022年7月）、大島 遥（2022年8月～）
専 攻 医：北中涼太郎

1. 診療内容

形成再建外科では体表の外傷や腫瘍、変形、異常を取り扱っている。また治らない傷や目立つ傷あと、眼瞼下垂、がんの切除およびその修復（頭頸部再建や乳房再建など）の治療も行う。疾患の根治のみでなく、整容性に配慮した治療を心がけている。

外傷については全身を対象に対応しており、特に露出部である顔面や四肢を多く治療している。擦過創、挫滅創、裂創、剥脱創、咬創、熱傷、凍傷など幅広い外傷に対応している。顔面骨骨折も変形や機能障害の程度に応じて手術をしている。皮膚、皮下腫瘍については理学所見を中心にエコー、CT、MRIなどの画像検査を組み合わせる複合的に病態を診断し、皮膚科と合同カンファレンスを行い、治療計画を立てている。また、切除した腫瘍については同カンファレンスにて病理診断の検討会を行っている。眼瞼疾患については眼瞼下垂を中心に、睫毛内反症などの治療を行っている。顔面神経麻痺においては静的再建やボトックスによる痙攣の治療を主に行っている。乳房再建では人工物や自家組織（広背筋皮弁、腹直筋皮弁、腹部穿通枝皮弁など）を用いた再建方法の中から患者に合った治療方法を選択している。褥瘡については皮膚科と合同で治療を行っており、入院患者の褥瘡治療は形成外科及び皮膚科、多職種を含めた褥瘡対策チームで対応している。糖尿病性足壊疽や重症虚血肢などの難治性創傷は他科と連携の上治療を行っている。この他にも副耳、耳瘻孔、ケロイド、腋臭症、陥入爪の治療も行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外来診察は原則1診体制。初診、再診共に1診体制で対応している。月、火曜日は大島が担当。水、金は北中が担当。また緊急の外傷も随時引き受けて対応している。

2) 病棟体制

病棟は大島、北中ともに担当。形成外科内でも情報を共有し、対応できるようにしている。共観患者に関しても同様に行っている。

3) 手術スケジュール

主には月曜日と金曜日午後に局所麻酔の手術、全身麻酔や臨時の局所麻酔の手術に関しては、全科共通枠で必要に応じ、対応している。手術は全て中央手術室で行っているが、外傷や緊急性のある小手術に対しては外来処置室にて対応している。

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表2）
- 2) 入院診療実績（表2）
- 3) 手術実績（表3）

4. 認定医・専門医など

日本形成外科学会専門医	1名（大島）
乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師	1名（大島）
乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施医師	1名（北中）
下肢静脈血管内焼灼術実施医	1名（大島）

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
大島		大島		北中				北中	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	2,911	2,907	2,406	2,645	3,148
入院	1,083	869	528	324	506

※2017.4～形成再建外科を新設

表3 2022.4～2023.3-入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
眼瞼のその他の障害	26	2
その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物	14	3
皮膚のその他の悪性新生物	13	4
乳房の悪性新生物	8	9
非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫のその他および詳細不明の型	4	2
骨髄炎	4	21
良性脂肪腫性新生物（脂肪腫を含む）	3	4

放射線診断・IVR科

スタッフ 部長：小林美登利
副部長：牧 大介、合田晴一

1. 診療内容

各種画像診断（CT、MRI、単純X線、マンモグラフィ、消化管造影、排泄性尿路造影、血管造影など）、各種IVR（肝細胞癌に対する塞栓・動注、消化管出血や産科出血などの止血、胆道穿刺・ドレナージ、膿瘍穿刺・ドレナージ、ラジオ波焼灼術、生検など）、核医学診断（SPECT、PET-CT）を行っている。

3名の放射線診断専門医（常勤）が、大阪大学ならびに大阪市立大学の専門医（非常勤）の支援を得て、質の高い画像診断とIVRを実践している。

2. 臨床実績（2022年4月1日から2023年3月31日）

- 1) 画像診断CT 16,997例、MRI 7,232例、単純X線1,552例、SPECT 668例、PET-CT 455例
- 2) 血管系IVR 6例（肝動脈塞栓術、止血術、動脈瘤塞栓術 など）
- 3) 非血管系IVR 11例（CT下生検（肺など）6例、経皮的膿瘍ドレナージ5例）

3. 認定医、専門医など

日本医学放射線学会放射線診断専門医 3名（小林、牧、合田）
日本IVR学会専門医 2名（牧、合田）

表1 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
IVR		○						○		

※放射線診断は毎日実施

表2 外来検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
単純撮影	★ 紹									
CT(単・造)	● 紹・予									
MRI(単・造)	● 紹・予									
骨塩定量	● 紹・予									
乳房撮影	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
RI	● 紹・予									
PET-CT	● 紹・予	● 紹・予			● 紹・予	● 紹・予			● 紹・予	● 紹・予

●：紹介状・予約が必要 ★：紹介状のみにて検査可

表3 年度別外来延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
放射線診断・IVR科	1,249	1,166	1,006	1,013	1,190

放射線治療科

スタッフ 部長代行：丸岡真太郎

1. 診療内容

2017年4月より「放射線治療科」を新設し、診療を開始した。

がん治療の三本柱の一つである放射線により各種がんに対する放射線治療を行っており、根治目的の放射線治療だけでなく、がんによる各種症状を和らげるための緩和的照射も行っている。2018年5月より新リニアック装置TrueBeamに機器更新を行い、体幹部定位照射をはじめとした高精度放射線治療を行っている。

2022年4月よりⅢ期肺癌に対する高精度放射線治療を開始した。

主な対象疾患は下記の通り

頭頸部腫瘍、消化器腫瘍（食道癌、膵臓癌、肝臓癌等）、泌尿器科腫瘍（前立腺癌、膀胱癌等）、婦人科腫瘍（子宮頸癌、卵巣癌等）などの悪性腫瘍に対する放射線治療、頭蓋内腫瘍、肺腫瘍、肝腫瘍に対する定位放射線治療
ケロイド等の良性疾患に対する放射線治療、骨髄移植前処置としての全身照射

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

総計239件

造血器・リンパ	44件
婦人科	13件
頭頸部	13件
乳腺	31件
消化器	20件
泌尿器	30件
肺縦隔	88件
うち	
定位照射 転移性脳腫瘍	4件
原発性肺癌・肝癌	19件
全身照射	11件

4. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線科専門医	1名（丸岡）
日本医学放射線学会放射線治療専門医	1名（丸岡）

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後								
丸岡	丸岡	立川	丸岡						

表2 年度別外来延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
放射線治療科	1,952	2,624	2,721	2,722	2,718

スタッフ 部長：花田留美（中央手術管理部部長代理）
 副部長：玉井 裕（部長待遇）、藤原 優子
 医 長：日野未来
 常勤嘱託：岡田俊樹、清水梨江

1. 診療内容

診療内容としては、主に手術麻酔管理、ペインクリニック外来、緩和医療をおこなっている。それに加えて、2022年度もひきつづきCOVID-19 罹患患者での挿管症例に対して、オンコールでの対応をしていたが、緊急での挿管対応の患者はなく経過した。

1) 手術麻酔管理

手術時の麻酔だけでなく、術前評価、手術麻酔、術後診察を一連として麻酔管理としている。

予定手術においては、外来受診可能な状態の患者の術前診察を麻酔科外来で週5日行っている。術前診察で、患者の全身状態の評価を行い、最も適した麻酔法を選択する。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・神経ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。麻酔法およびその合併症について患者さんに十分に説明し、理解していただく。信頼関係を確立するためにも術前診察は非常に重要であり、時間をかけている。

できるだけベストな状態で手術に臨めるように他部門とも連携している。まず、術前問題点を早期に把握するため麻酔科管理症例については、2017年より全例入退院センターにてスクリーニングを兼ねて麻酔科術前問診票を記入いただき、術前問題点があれば各科に連絡し、早期に手術認定看護師の介入、術前禁煙指導、呼吸器内科での治療や呼吸器リハビリ、術前体重コントロールのための栄養指導、薬剤部へ入院前の内服薬の把握などを依頼し、麻酔科での術前診察が行われるまでに問題点が少しでも改善され、周術期合併症のリスク軽減がなされるようなシステムを構築している。緊急手術では、適宜術前診察を行うが、当日緊急手術においても、迅速に効率よく手術まで行えるように手順を整理した。

術後疼痛管理も積極的に行っており、必要時はPCA (Patient Controlled Analgesia) 装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用している。2023年度からの術後疼痛管理チーム立ち上げにむけて周術期管理チーム認定制度のe-learningの術後疼痛管理研修プログラムを看護師だけでなく、CE、薬剤師にも術後疼痛管理チームスタッフとしてうけてもらい、2023年度からの実施に向けて準備した。

2) ペインクリニック外来

2022年度も週4日開設し、他科、他院からの紹介患者を主に診察している。外来では、硬膜外ブロック、エコー下ブロックなどを行い、必要時は週1～2回水曜日（月曜日）午後より、放射線科での透視下ブロックをおこなっている。2021年度までは、透視下ブロックは手術室で行っていたが、2022年度からは手術室運用見直しとともに透視下ブロックは放射線科のアンジオ室を使用させていただくこととなり、ブロックのための時間がしっかり確保できたので、水曜午後からすべて透視下ブロックの枠に変更し、透視下ブロック件数は劇的に増えた。また、ペインクリニック診療と並行して、緩和ケアチーム介入症例での外来受診時の麻薬調整などの疼痛コントロールも行っている。

3) 緩和医療

2008年2月より緩和ケアチームが発足し、入院中は依頼患者に主治医と連携しながら直接介入で対応し、主に身体症状の軽減に携わっている。チームでの回診とカンファランスは、週に1回月曜日に行い、薬剤部、認定看護師、ソーシャルワーカー、放射線治療医、臨床心理士と常に連携しよりよい症状緩和を目指している。また、緩和ケア研修会（PEACE）も麻酔科医の減少により、2015年度より中断していたが、2020年度には再開することができ、2021年2月28日に開催した。しかし、2021年度は予定した時期がちょうどCOVID-19感染の第6波の影響を受け、2021年度の開催はやむなく中止とした。2022年度は、COVID-19感染も落ちついてきたため、感染対策を十分に行い、2023年2月25日に開催することができた。

4) その他

当院のプログラムでは初期研修中の1年目の1～2ヶ月は麻酔科を研修する。初期研修中に到達すべき経験目標としての基本的手技のうち、気道確保、静脈ルート確保、腰椎穿刺、気管挿管の技術に関しては、当科にて確実に身につけさせるように指導している。また、将来どの診療科に進んでも役に立つように緩和医療にも積極的に参加してもらい、基本的な医療用麻薬の使い方やその他の症状緩和への対応などができるように、指導することを心がけている。

2022年度もひきつづきCOVID-19 への対応の影響を受けた。

手術室では、マスク換気、挿管操作などエアロゾルによる感染リスクが高いため、COVID-19 感染患者にも対応できるように、すべての全身麻酔管理症例において、挿管、抜管時は防護具の装着を2020年度からずっと継続している。

帝王切開術をはじめ、COVID-19罹患患者の麻酔をすることもでてきたため、対応について手術室看護師と手順を整理し、対応した。

そのほか、外部からの研修の受け入れは困難と判断し、2019年度まで受け入れていた救急救命士の挿管実習は2022年度もお断りした。COVID-19の感染症分類が5類に移行後は、再開を検討している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール (表1)

2) 病棟体制

2020年度からは緩和ケアチームの回診を1名/日交代で担当している。緩和ケアチーム介入患者の疼痛などの身体症状管理を緩和ケア認定看護師と連携して行っている。

3. 診療実績

新病院への移転後、2018年度、2019年度と手術件数は増加してきていたが、2020年度からはCOVID-19の影響を受けて減少傾向であったが、2022年度は2年ぶりに総手術件数3,433例、うち麻酔科管理手術件数は2104例、緊急手術は164例と予定症例は増加となり、コロナ以前の状態に徐々に回復しつつある。(2021年度は、総手術件数3,375例、うち麻酔科管理手術件数2,069例、緊急症例は172例であった。)

移転前より外科系診療科も徐々に増えて、血液浄化センターを併設していることも有り、症例も重症化、複雑化、多様化し、透析患者の手術症例も増えて来ていたが依然としてその傾向がある。

緩和ケアチーム依頼患者は、2022年度は、のべ241例〔2021年度は、のべ284例〕の患者に対応した。2021年度より減少しているが、COVID-19の影響を受けて何度も10階病棟がコロナ病棟へ変更されたこともあり、一番依頼件数の多い肺癌患者の依頼が減ったためと考えている。また、面会制限があるため、終末期の患者さんにおいてはご家族と残された時間をともに過ごせる機会が減ったり、患者家族と緩和ケアチームとの接点も持ちにくく、対応が難しかった。

非がん患者（慢性心不全、末梢血管障害、透析患者など）での症状コントロールの依頼にも引き続き対応している。

ペインクリニック外来では、2018年度より大阪大学から月曜日にペインクリニック専門医を招聘し、手術室での外来透視ブロック、超音波ガイド下ブロックなども積極的におこなってきたが、2022年度からは2週

間に1回の水曜日に西宮市立中央病院から松村陽子先生に来ていただき、午前は外来、午後からはアンギオ室での透視下ブロックの指導を行っていただくことにより技術の向上が見られ、スタッフのみでのブロック件数も徐々にふえてきている。また、ペイン患者での透視下ブロック枠があるため、緩和ケア介入患者への不定期な内臓神経ブロックなどの透視下ブロックも以前より積極的に行える体制となった。

1) 外来診療実績 (表2)

2) 入院診療実績 (表2)

4. 専門医・指導医など

日本麻酔科学会指導医・専門医

6人(花田、岡田、玉井、藤原、日野、清水)

日本緩和医療学会 認定医

1人(玉井)

麻酔科標榜医 6人(花田、岡田、玉井、藤原、日野、清水)

日本ペインクリニック学会専門医 3人(花田、清水、松村)

5. 業績

学会発表

1. 日野未来, 博多紗綾, 清水梨江, 玉井 裕, 三上麻紀子, 花田留美: オピオイド誘発性の二次性下垂体機能低下症に対してオピオイド減薬を行い, 改善した一例, 日本ペインクリニック学会第56回学術集会, 2022年7月, 東京, WEB
2. 花田留美, 三上麻紀子, 日野未来, 博多紗綾, 清水梨江, 玉井 裕: 汎発疹を伴わずに広範囲分節にアロディニアのみ出現した帯状疱疹の1症例, 日本ペインクリニック学会第56回学術集会, 2022年7月, 東京, WEB

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
岡田 (術前)	岡田 (術前)	玉井 (ペイン)	玉井 (術前)	岡田 (術前)	岡田 (術前)	藤原 (術前)	藤原 (術前)	花田 (ペイン)	花田 (術前)
清水 (ペイン)		清水 (術前)	清水 (術前)	日野 松村 (ペイン)	藤原 (術前)			日野 (術前)	日野 (術前)

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	4,410	4,704	4,296	3,600	3,728
入院	60	37	36	5	0

表3 ブロック実績

ブロック名	件数	
超音波ガイド下ブロック	95	240
透視下神経ブロック	42	124
高周波熱凝固 (パルス高周波を含む)	16	30
その他外来ブロック	118	103
	2021年	2022年

リハビリテーション科

スタッフ 部長：平林伸治（～2022年9月）、辻 成佳（2022年10月～）

1. 診療内容

当院のリハビリテーション診療の目標は、各診療科と連携し、入院患者さんを中心に最適な状態で日常生活が過ごせるように入院患者さんを中心にサポートすることであり、その目標のために理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が共同して適切なリハビリテーションの質と量で患者さんをサポートしていく体制をとっています。

リハビリテーション科診療

入院患者さんを中心に以下の業務を行っています。

- ① 急性期疾患で入院された方の回復を促進するリハビリテーション。
- ② 慢性疾患の急性増悪で入院された方に、在宅生活につなげるリハビリテーション。
- ③ 急性期から回復期・維持期へ移行する患者さんは、退院調整看護師、MSWと連携し、転院先へ繋がります。また在宅復帰される患者さんは、在院中に日常生活動作を確認し、速やかに地域包括支援センター等と連携し、在宅支援の引継ぎを推進。

リハビリテーション科・室の“ミッション”

上記の診療を行っていくうえで当院のリハビリテーション科・室では、“当科のミッション”として“患者さんの身体を癒し、心を豊かに活力のあるものにする”を掲げています。

そのための“5つの約束”を決めています。

- ① お互いに尊厳と承認の心をもって接し、働きやすい環境を作る。
- ② 医療上で不可欠な要素として、多様性を積極的に受け入れる。
- ③ リハビリテーション技師として常に最高級レベルの治療技術を目指す。
- ④ 患者さんが心から満足するサービスを常に提供する。
- ⑤ 地域社会や環境保護に積極的に貢献する。

患者さんにより良い医療サポートを提供できるよう、リハビリテーション科・室スタッフは一丸となって取り組んでいます。

代表的な対象疾患は以下の通りです。

- 運動器リハビリテーション・・・骨折、人工関節、脊椎疾患（腰、頸部）、筋・腱外傷など
- 脳血管疾患等リハビリテーション・・・脳卒中、脳外傷、水頭症、パーキンソン病、脳脊髄変性疾患など
- 心大血管リハビリテーション・・・心大血管疾患、心臓・循環器、腎臓・透析など（例）急性心筋梗塞や心臓手術後、心不全の増悪、末梢血管閉塞など
- 廃用症候群リハビリテーション・・・消化器疾患・感染症・各疾患手術後などに生じる廃用症候群。
- がん患者リハビリテーション・・・各領域のがん治療。

- 呼吸器リハビリテーション・・・肺炎、慢性閉塞性肺疾患の急性増悪、外科手術の周術期の呼吸機能障害など

下記3の診療実績に見られるように、幅広いリハビリテーションが可能になり増加しています。

2. 診療体制

外来診察スケジュール、月曜から金曜の午前中に実施。

3. 診療実績

毎日リハビリテーション室や病棟・病室にてリハ提供している人数は1ヵ月ごとに算出した平均は100人（86～115）で年間延べ人数32,867人である。初診後に新規にリハ開始した患者は1日平均8.8人（8～10）、1ヶ月平均178人（158～212）である。

2022年4月～2023年3月

運動器リハビリテーション	10,592
脳血管疾患等リハビリテーション	5,447
心大血管疾患リハビリテーション	2,791
呼吸器リハビリテーション	4,541
廃用症候群リハビリテーション	4,632
がん患者リハビリテーション	4,864
合計	32,867

2022年4月～2023年3月

リハビリテーション実施によるADL（日常生活動作）の変化	BI点数（初回）	BI点数（リハ後）	利得点数
運動器リハビリテーション	68.5	81.4	12.9
脳血管疾患等リハビリテーション	55.5	72.0	16.5
心大血管疾患リハビリテーション	69.2	85.1	15.9
呼吸器リハビリテーション	54.4	76.0	21.6
廃用症候群リハビリテーション	51.2	70.6	19.4
がん患者リハビリテーション	76.2	87.3	11.1

BI: Barthel Index、バーセル指数はリハビリテーション領域のADLの評価方法のひとつで、100点を満点で自立としています。利得は、BI利得=(BIリハ後-BI初回)の計算で求め、高値はリハビリテーション効果を出し生活動作の各項目が自立していることとなります。

4. 担当医師 専門医・認定医など

辻 成佳（つじ しげよし）

理事：日本脊椎関節炎学会

評議員：日本リウマチ学会・日本骨関節感染症学会・日本リウマチの外科学会・日本臨床栄養学会

指導医：日本化学療法学会 / ICD

専門医：日本整形外科学会・日本人工関節学会・日本骨粗鬆学会
からだ運動器の痛み専門医療者・サルコペニアフレイル指導士

5. 業績

論文・著書

1. Noguchi T, Hirao M, Tsuji S, Etani Y, Ebina K, Tsuboi H,

Okamura G, Akita S, Okada S, Hashimoto J. : Characteristics of Intermetatarsal Angle Between the Second and Fifth Metatarsals (M2-M5A) in the Rheumatoid Foot., *Cureus*, 14 : PMID : 35693364 Free PMC article, 2022年

- Etani Y, Hirao M, Ebina K, Noguchi T, Okamura G, Tsuboi H, Miyama A, Tsuji S, Kunugiza Y, Okada S, Hashimoto J. : Improvement of Knee Alignment and Function After Corrective Surgery for Hindfoot Deformity : A Report of 3 Cases., *JBJS Case Connect*, 12 : PMID : 36099443, 2022年
- Etani Y, Hirao M, Ebina K, Tsuboi H, Noguchi T, Okamura G, Miyama A, Takami K, Nampei A, Tsuji S, Owaki H, Okada S, Hashimoto J. : Modified Scarf Osteotomy with Medial Capsular Interposition Combined with Metatarsal Shortening Offset Osteotomy : A Comparison of Patients with Noninflammatory Arthritis and Rheumatoid Arthritis of the Foot., *J Bone Joint Surg Am*, 104 : 1269-1280, 2022年
- Kishimoto M, Taniguchi Y, Tsuji S, Ishihara Y, Deshpande GA, Maeda K, Okada M, Komagata Y, Kobayashi S, Okubo Y, Tomita T, Kaname S. : SAPHO syndrome and pustulotic arthro-osteitis., *Mod Rheumatol*, 32 : 665-674, 2022年
- Kunugiza Y, Tanaka T, Hirota R, Kakunaga S, Okamoto Y, Tsuji S : Polymicrobial periprosthetic joint infection and osteomyelitis of the tibia with circumferential abscess and skin ulcer 11 years after total knee arthroplasty., *Radiol Case Rep*, 17 : 3987-3991, 2022年
- Matsubara Y, Nakamura Y, Tamura N, Kameda H, Otomo K, Kishimoto M, Kadono Y, Tsuji S, Atsumi T, Matsuno H, Takagi M, Kobayashi S, Fujio K, Nishimoto N, Okamoto N, Nakajima A, Matsui K, Yamamura M, Nakashima Y, Kawakami A, Mori M, Tomita T. : A nationwide questionnaire survey on the prevalence of ankylosing spondylitis and non-radiographic axial spondyloarthritis in Japan., *Mod Rheumatol*, 32 : 960-967, 2022年
- Ono K, Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Kawaai S, Sawada H, Matsuura M, Rodriguez VR, Proft F, Tada K, Tamura N, Taniguchi Y, Hirata A, Kameda H, Tsuji S, Kaneko Y, Dobashi H, Okano T, Haji Y, Morita A, Okada M, Komagata Y, Medina CL, Molto A, Dougados M, Hisamatsu T, Tomita T, Kaname S. : Clinical characteristics of patients with spondyloarthritis and inflammatory bowel disease versus inflammatory bowel disease-related arthritis., *Rheumatol Int*, 10 : 1751-1766, 2022年
- Fujita S, Honjo H, Takada R, Hara A, Masuta Y, Otsuka Y, Handa K, Minaga K, Tsuji S, Kudo M, Watanabe T. : Ulcerative Colitis-associated Spondyloarthritis Successfully Treated with Infliximab in the Absence of Enhanced TNF- α Responses., *Intern Med*, : PMID : 36575020, 2022年

学会発表

- 阪本拓也, 鶴谷高志, 平林伸治 : 在宅生活していた人の地域へ退院できるADLと認知機能評価, 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2022年6月, 横浜
- 安達幸恵, 泉本亮二, 白川桂, 世傳智貴, 四釜淳子, 平林伸治 : 長時間転倒したままの高齢者は退院後にどこへ帰るのか, 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2022年6月, 横浜
- P. J. Mease A, Setty K, Papp F, Van den Bosch, S. Tsuji, M. Keiserman X, Bu L, Chen R, Mccaskill E, Mcdearmon-Blondell P, Wung W, Tillett : Long-term Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients With Psoriatic Arthritis Refractory to Biologic Therapies : 2-Year Results From the Phase 3 SELECT-PsA 2 Study, *EULAR*, 2022年June月, Copenhagen
- L. Gossec N, Damjanov S, Tsuji A, Lertratanakul R, Lippe J, Patel P, Zueger K, De Vlam : Association Between Clinically Meaningful Improvements in Patient-Reported Outcomes and Stringent Measures of Disease Activity in Patients With Psoriatic Arthritis Treated With Upadacitinib Versus Placebo or Adalimumab : Results From a Phase 3 Trial, *EULAR*, 2022年June月, Copenhagen
- 泉本亮二, 安達幸恵, 世傳智貴, 石橋輝哉, 西原俊作, 平林伸治 : 大腿四頭筋断裂の回復過程を超音波検査で確認してリハビリテーション治療した1症例, 第33回日本整形外科超音波学会, 2022年7月, 広島
- 麦田盛徳, 角南ちえ子, 松村寿美, 倉本訓子, 野村暢彦, 藤田陽平, 橋本久仁彦 : 当院の糖尿病チームにおける三位一体の取り組みの意義とその役割について, 第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2022年9月, 大阪
- 廣田将史, 藤岡栄悟, 川端千里, 岸 正司, 平林伸治 : ICUにおける人工呼吸器管理のリハビリテーションの課題と取り組み, 第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2022年9月, 大阪
- 鶴谷高志, 平林伸治 : 下垂体疾患補充療法されている症例の日常生活動作について, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022年11月, 岡山
- 白川 桂, 麦田盛徳, 廣田将史, 田中 孝, 藤岡栄悟, 安達幸恵, 泉本亮二, 阪本拓也, 新井聖章, 清水晴奈, 藪田拡武, 鶴谷高志, 世傳智貴, 四釜淳子, 片岡宏一郎, 平林伸治 : 要介護認定のない入院患者の退院時phase angleと筋量, 運動機能との関連性－横断的調査－, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022年11月, 岡山
- M. Elaine Husni Philip J. Mease Joseph F. Merola Frank Behrens Ennio G. Favalli Dennis McGonagle William Tillett Shigeyoshi Tsuji Barbara Ink Deepak Assudani Rajan Bajracharya Jason Coarse Jérémy Lambert Laure Gossec : Bimekizumab Treatment Results in Improvements in Fatigue and Pain in Biologic DMARD-Naïve or TNFi-IR Patients with Active Psoriatic Arthritis : Pooled 16-Week Results from Two Phase 3 Randomized, Placebo-Controlled Studies, *ACR*, 2022年November月, Pennsylvania
- P. J. Mease R.L.Assad, S. Tsuji, P. Richette A. Setty E. Mcdearmon-Blondell T.Gao S.Ciecinski F. Van den Bosch : Efficacy of Upadacitinib in Patients With Psoriatic Arthritis and Prior Exposure to Anti-TNF Therapy in the SELECT-PsA 2 Trial Through 2 Years, *ACR*, 2022年December月, Pennsylvania
- P. J. Mease A. Setty K. Papp F. Van den Bosch, S. Tsuji, M. Keiserman X. Bu L. Chen R. Mccaskill E. Mcdearmon-Blondell P. Wung W. Tillett : Long-term Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients With Psoriatic Arthritis Refractory to Biologic Therapies : 2-Year Results From the Phase 3 SELECT-PsA 2 Study, *Annual French Congress of Rheumatology*, 2022年December月, Paris

研究会発表

- 鶴谷高志 : 顔面神経麻痺とリハビリ, 30分でよくわかる健康講座, 2023年2月, 大阪市

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
辻		辻		辻 (初診)		辻		辻	

表2 年度別外来延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	3,819	4,015	3,607	3,522	2,786

救 急 総 合 診 療 科

スタッフ 部長：岸 正司（副院長、救急総合診療センター長、集中治療室長、医療安全対策室長）
副部長：宇都佳彦（臨床研修部長代行）
副医長：暮部裕之
医員：高森啓成
専攻医：田中雅樹（2022年7月）、石田哲朗（2023年1～3月）、木下聡子（2022年8～9月）、森本尚喜（2022年9～11月）、森本祐太郎（2022年12～2023年1月）

1. 診療内容

救急外来初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、臨床研修医のプライマリケア、救急全般に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムも担っている。

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
石田 (暮部)/ 岸	暮部 (高森)/ (岸)	石田 (暮部)/ 岸	高森/ (宇都、 岸)	高森 (石田)/ 宇都	暮部 (高森)/ (宇都)	石田 (暮部)/ 岸	高森 (暮部)	石田 (暮部)/ 岸	高森 (暮部)/ (宇都)

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	3,371	3,745	5,613	6,152	5,601
入院	5,830	6,559	1,532	2,903	3,059

4. 認定医・専門医など

日本救急医学会指導医 1名（岸）
 日本救急医学会救急科専門医 1名（岸）
 日本内科学会認定専門医 1名（宇都）
 日本内科学会認定内科医 2名（宇都、暮部）
 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名（暮部）

5. 業績

学会発表

- 岸 正司, 暮部裕之：日本生命病院における中心静脈カテーテル挿入認定制度の策定, 第50回日本救急医学会総会, 2022年10月, 東京
- 政岡亜美, 宇都佳彦, 高森啓成, 暮部裕之, 岸 正司：小児四肢疼痛発作症の1成人例, 第239回内科学会近畿地方会, 2023年3月, 大阪
- 宮本紘子, 森本祐太郎, 田村有里, 暮部裕之, 宇都佳彦, 岸 正司：尿閉による腎後性腎不全およびうっ血性心不全が原因でPRESを来した1例, 第239回内科学会近畿地方会, 2023年3月, 大阪

検査診断科

スタッフ 部長：大山摩佐子（予防医学センター副センター長）

1. 診療内容

日常診療において、診断・治療を行うには、正確かつ迅速な検査が求められる。

当院は地域医療支援病院として病診連携を進める上で、高度で専門的な検査を行うことや、患者さんへの継続的なケアを安定して受けていただくために、病診連携検査（CT、MRI、消化管検査、生理検査）を行っている。

検査診断科では、特に地域のかかりつけ医の先生方へ生理検査として、各種超音波検査（頸部エコー、甲状腺エコー、心エコー、腹部エコー、血管エコー）や呼吸器、循環器、神経学的検査を病診連携検査として行っている。

地域の様々な医療機関がその機能を十分に発揮しながら相互に連携することで、地域の患者さんを総合的、効果的かつ継続的にケアし、患者さんのための医療を目指していく。

病 理 診 断 科

スタッフ 部長代行：城光寺龍

1. 診療内容

組織診断・細胞診断・病理解剖が当科の主な業務である。

日本病理学会認定登録病院、日本臨床細胞学会認定病院を取得している。病理学的診断を正確に行うために、臨床各科との密な情報交換を行い、臨床医が正確な診断と最適な治療法の選択ができるようにしている。またCPCを開催し、臨床医だけでなく研修医の教育・研修の質の向上にも取り組んでいる。

診断および検査精度の向上を図るために、日本臨床細胞学会及び日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理に参加、更に免疫組織学的および遺伝子検査手法を積極的に取り入れて、病理学的診断を正確に行うように努めている。

診療体制としては、病理診断管理加算Ⅰの算定を行なっているほか、病理部門システム（松波ガラスPathwindow）にて、標本作製過程へのバーコード導入により検体取り違い防止のための機構を導入しているほか、デジタル画像の報告書への添付も行っている。

新規診療内容としては、液状化細胞診（Thinprep）を非婦人科以外の材料へ広げ、標本作製の標準化および省力化を行っている。

一部医療機関との間で検査（免疫染色）の受託を行っている。

また診療上必要と思われる検査に関しても順次導入を行っている。

2. 診療体制

部長代行：城光寺 龍

（病理専門医、細胞診専門医、臨床研修指導医）

非常勤医師 2名（大阪大学、大阪警察病院より）

臨床検査技師（中央検査部兼任）：

6名（細胞検査士4名）

3. 診療実績

検査実績（表1）

組織診断：6,479件

細胞診断：9,752件

術中迅速診断：213件

病理解剖：5件（内科系8件、剖検率2.1%）

表1 検査実績

	組織診件数	細胞診件数 (うち予防医学センター)	術中迅速	剖検
H30	5,050	6,953(0)	134	5
R01	5,715	11,307(4,602)	124	10
R02	6,060	9,670(3,402)	195	4
R03	6,069	9,696(4,146)	171	8
R04	6,479	9,752(4,266)	213	5

2022年度はCPCの開催は8回行われ、内容は下記の如くであった。

- 第311回 5月13日：肺癌（呼吸器・免疫内科）
- 第312回 6月10日：びまん性肺胞障害（呼吸器・免疫内科）
- 第313回 8月23日：アルコール性肝硬変（血液内科）
- 第314回 10月4日：肺癌（呼吸器・免疫内科）
- 第315回 11月11日：肺癌（呼吸器・免疫内科）
- 第316回 1月6日：胃癌（内分泌代謝内科）
- 第317回 2月10日：誤嚥性肺炎（呼吸器・免疫内科）
- 第318回 3月10日：血胸（呼吸器・免疫内科）

4. 業績

論文・著書

1. Ninomiya R, Kinehara Y, Tobita S, Konaka H, Jokoji R, Shintani T, Tachibana I : Inflammatory Thoracic Aortic Aneurysm in a Patient with Advanced Lung Adenocarcinoma Treated with Pembrolizumab, Intern Med, 61 : 2339-2341, 2022年
2. Jokoji R, Tomita E : Thymofibrolipoma; a case report and review of the literature, Diag Pathol, 17 : 77, 2022年
3. 潮田至央, 岡藤博, 新垣佑里香, 藤吉恵津, 田村 聡, 金光麻衣, 志村寛子, 宮本真由子, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 合田晴一, 城光寺龍, 橋本奈美子 : 腹腔鏡手技を併用し子宮鏡下に子宮中隔切除と胎盤ポリープ切除を行った1症例, 日本生命病院医学雑誌, 50 : 54-58, 2022年
4. 藤吉恵津, 新垣佑里香, 田村 聡, 金光麻衣, 志村寛子, 宮本真由子, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 岡藤 博, 八田幸治, 高山敬範, 潮田至央, 城光寺龍, 橋本奈美 : 右下腹部痛を契機に発見された成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例, 日本生命病院医学雑誌, 50 : 71-75, 2022年
5. 北田隆起, 有坂好史, 石田哲朗, 萩巢恭平, 河田奈都子, 若原ちか, 田中敏雄, 中村秀次, 城光寺龍, 水野 均 : 腹腔鏡下肝切除を施行した肝外突出型の限局性結節性過形成の1例, 日本生命病院医学雑誌, 50 : 42-47, 2022年
6. 田村 聡, 潮田至央, 新垣佑里香, 藤吉恵津子, 金光麻衣, 志村寛子, 宮本真由子, 邨田裕子, 田中絢香, 矢野悠子, 岡藤 博, 八田幸治, 高山敬範, 城光寺龍, 水野 均, 橋本奈美子 : 当院で経験した腹膜偽粘液腫の3例, 日本生命病院医学雑誌, 50 : 65-70, 2022年
7. Yanagisawa A, Kinehara Y, Kijima R, Tanaka M, Ninomiya R, Jokoji R, Tachibana I : Metastatic Lung Tumors from Colorectal Cancer with EGFR Mutations That Responded to Osimertinib, Intern Med, 62 : 769-773, 2023年

学会発表

1. 城光寺龍 : 胸腺脂肪線維腺腫の1例, 第111回日本病理学会総会, 2022年4月, 神戸

予 防 診 療 科

スタッフ 部 長：栗波仁美
梅下光子

1. 2022年の概要

予防医学センターにて健診を行い要治療、要精密検査となった受診者に対しては主に日本生命病院の各専門診療科へ予約紹介を行っているが、専門診療科を受診する必要性が明らかでない検査異常については従来、予防医学センター兼務となっている外来医師が健診精査内科の名称で当該受診者を受け入れ再検査・追加検査を行っていた。しかしながら年々その業務の必要性が高まってきたこと、また禁煙外来を行う科としての要望もあったことから、2022年に外来診療科として予防診療科を新設した。現在は週1回水曜午後、予防医学センターからのみの紹介を受けており2022年度は初診262件、再診258件の計520件の診療を行った。予防診療科への依頼で最も多かったのは表1の通り肝機能異常70件で、SCC（腫瘍マーカー）高値35件、CEA（腫瘍マーカー）高値28件、末梢血液検査（白血球、血小板）異常26件、脂質異常および糖代謝異常の6ヶ月後再検査22件と続く。予防診療科にて再検査、精密検査を行った結果専門診療科へ紹介となったのは106件だが、うちドックや健診結果に基づくものは90件、精密検査を行った結果新たに見つかった所見について紹介したものが16件あった。予防診療科から紹介した先の診療科内訳を表2-1、2-2に示す。一番多い紹介先は消化器内科でこれは当科への依頼の第1位が肝機能異常であることと関係すると思われる。

なお2022年度は再開が叶わなかった禁煙外来であるが今後は薬剤供給の目処が付き次第行っていく予定である。

表1 予防診療科紹介内訳

NO	科への依頼内容	% (占率)	件数
1	肝機能異常	26.7%	70
2	SCC高値	13.4%	35
3	CEA高値	10.7%	28
4	末梢血液 (WBC,Plt) 異常	9.9%	26
5	脂質異常 6ヶ月後再検査	8.4%	22

表2-1 予防診療科から他科への紹介
(ドック、健診結果に基づくもの)

NO	診療科	人数
1	消化器内科	33人
2	内分泌・代謝内科	7人
3	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	6人
4	泌尿器科	5人
4	産婦人科	5人
6	呼吸器・免疫内科	4人
6	血液・化学療法内科	4人

表2-2 予防診療科から他科への紹介
(検査にて新たに見つかった所見)

NO	診療科	人数
1	消化器内科	3人
1	泌尿器科	3人
3	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2人
3	形成再建外科	2人
3	脳神経内科	2人

救急総合診療センター

スタッフ センター長：岸 正司（副院長、救急総合診療科部長、集中治療室長、医療安全対策室長）
副センター長：中川 厚（循環器内科担当部長）、西原俊作（整形外科部長）
医師：宇都佳彦、暮部裕之、石田哲朗（救急総合診療科）、高森啓成、西岡美保、
森本祐太郎、大西彩乃、松尾剛明、田中雅樹、森本尚喜（内分泌・代謝内科）、
木下聡子（循環器内科）、井口謙志、楠下萌（消化器内科）、
神島望（呼吸器・免疫内科）、長濱圭祐（血液・化学療法内科）、
勝沼倫子（腎臓内科）、菊池潤太（整形外科）、井上栄美、佐藤祥奈（皮膚科）、
北中涼太郎（形成再建外科）
看護師：酒井亜紀子、牧田佐和子、湯浅賀容子、河合洋子、黒塚恭子
薬剤師・医療技能職：玉川雄一、田中恵介（中央臨床検査部）、藤丸泰一（中央放射線部）、
坂本彩弥（栄養管理室）、足立充司（薬剤部）
事務：重谷政憲（総務人事G）、森本太輔（医事サービス部）

1. センターの概要

地域の救急医療における役割を意識しながら、その中核として円滑に機能するよう心がけている。

センター長（救急科専門医、指導医）、救急診療科スタッフのみならず、関連する診療科を代表する副センター長、内科当番医、外科系・内科系各科担当医（これらの指導の下で臨床研修医等も）が、総合力で救急患者の診療にあたっている。

2. 主な対象疾患

- ・重症度、内因・外因を問わず、当センター受診が必要と判断される急性病態
- ・紹介すべき診療科が特定しづらい病態

3. 主な検査と治療

- ・救急室における呼吸・循環管理（人口呼吸器など）
- ・ポータブル画像撮影
- ・超音波検査
- ・創傷処置
- ・小手術
- ・洗浄処置

がん治療センター

スタッフ センター長：川上 学（血液・化学療法内科主任部長、輸血管理室長、化学療法室長）
 医師：田中敏雄（消化器内科）、中原雄平、二宮隆介（呼吸器・免疫内科）、
 水野 均（消化器外科）、冨田栄美子（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、
 橋本奈美子（産婦人科）、高橋 励（神経科・精神科）、垣本健一（泌尿器科）
 金澤成典（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、小林美登利（放射線診断・IVR科）、
 丸岡真太郎（放射線治療科）、花田留美、玉井 裕、藤原優子（麻酔・緩和医療科）
 看護師：小山佐知子、玉井千春、村上弘子、西川由佳子、増田ますみ、阪井理恵、
 土井美奈子、鄭 恩愛（看護部）
 薬剤師・医療技能職：田中 孝（リハビリテーション室）、浅野正宏（中央臨床検査部）、
 矢野勝之（中央放射線部）、西本絵実（営業管理室）、宮麻紀子（薬剤部）、
 本家裕子（あったかサポートセンター）、丸山加奈（神経科・精神科）
 事務：山本 寛（予防医学センター）、岩本愛佑美（医事サービス部）、
 山口美里（あったかサポートセンター）

1. 診療内容

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

【主たる業務】

- 1) がんに関する集学的治療の充実
- 2) 緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する教育研修
- 3) がん治療に関する相談対応、情報提供
- 4) がん登録の推進

【具体的内容】

- 1) 集学的治療
 - ①多診療科・多職種が参加するキャンサー・ボードを月1回の頻度で開催した。当番診療科（表1）の経験症例を中心に、それ以外の診療科における症例や緩和ケアチームが介入した症例に関する診断・治療方針の検討を行った。
 - ②レジメン登録
化学療法運営委員会と連携し、レジメンの審査を行い、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。
- 2) 緩和ケア
 - ①緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスを開催した。緩和ケアチーム依頼件数は276件（入院：241、外来：35）であった。
 - ②緩和医療啓発のための講演会の開催
開催なし
 - ③がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく緩和ケア研修会
2023年2月25日に開催し、24名が参加した。
- 3) 相談支援
 - ①がん患者指導管理料イの算定
がんの診断を受けた患者に対して、PEACE研修会を受講した医師と有資格看護師（がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア認定看護師がん化学療法認定看護師）とが共同して指導した場合に算定できるものであるが、343件に対して行った。
 - ②がん患者指導管理料ロの算定

がん患者の心理的不安を軽減するための指導を343件に対して行った。

- ③がん患者指導管理料ハの算定
抗悪性腫瘍の投薬又は注射の必要性などについての説明を11件に対して行った。
 - ④がん相談
がん治療に伴って生じる様々な相談を2,556件受けた。治療・副作用、緩和ケア、ギアチェンジ・ACP、在宅医療・ホスピス等の療養の場、就労や医療費、アピアランス等の相談があった。
 - ⑤がんサロン（あったか茶論）の企画・運営
COVID-19パンデミックの状況であったため、開催を休止した。
- 4) がん登録
がん登録を行い、大阪府がん登録事業に参加した。

表1

開催月	当番診療科	参加人数
2022年		
4月	がん治療センター	37名
5月	麻酔・緩和医療科	20名
6月	放射線治療科	23名
7月	消化器内科	34名
8月	血液・化学療法内科	23名
9月	泌尿器科	24名
10月	呼吸器・免疫内科	17名
11月	開催なし	
12月	放射線診断・IVR科	19名
2023年		
1月	消化器外科	17名
2月	産婦人科	18名
3月	耳鼻咽喉・頭頸部外科	21名

女性骨盤底センター

スタッフ センター長：橋本奈美子（産婦人科部長）

医師：高山敬範、八田幸治、田中絢香、小和貴雄、宮本真由子、邨田裕子、角田紗保里、金光麻衣、新垣佑里香、植田真帆、北山和樹（産婦人科）、山下晋也（消化器外科）、垣本健一、湊のり子（泌尿器科）

看護師：吉岡真奈、麦田友里、藤本玲奈、久井貴美子、石井広美（看護部）

薬剤師・医療技能者：藤岡栄悟、安達幸恵（リハビリテーション室）、倉本訓子（中央臨床検査部）、山田純子（中央放射線部）、松村寿美（栄養管理室）、森岡浩子（薬剤部）

事務：津野百合香（医事サービス部）

1. 診療活動

今般日本の高齢化はますます増加傾向にあり、婦人科疾患領域では骨盤内臓器脱がその最たる疾患で、軽症まで含めると50歳以上の女性の11%が手術を受けているという報告がある。

骨盤内臓器脱は直接的な死因にはならないが、QOL（生活の質）をひどく低下させる疾患である。疾患の特徴として、婦人科または泌尿器科のどちらを受診するかを迷い、治療が遅れるという現状がある。また、腹圧性尿失禁も、比較的侵襲の低い手術によって著明に改善するものの、受診をためらう女性が多い。

当センターは、これらの疾患を治療しより良い社会生活を再び過ごすことができるよう、サポートするために設立された。

手術療法の適応とならない軽症例については、リハビリテーション室にて指導を行い、再発予防のための減量目的に主に手術患者さんを対象に栄養指導も行っている。

1) 治療部門

〈外科的治療〉

- ・骨盤内臓器脱（膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤・小腸瘤・肛門脱）：腹腔鏡下ロボット支援仙骨靭固定術（LSC,RSC）、膣式子宮全摘術、膣壁形成術、会陰形成術、ル・フォー中央陰閉鎖術 等
- ・腹圧性尿失禁：中部尿道スリング手術（TOT手術）

●LSC（腹腔鏡下仙骨靭固定術）について

2020年度診療報酬改定により、ロボット支援下手術（RSC）が保険収載予定となり、当院でも2020年3月より導入している。

【2022年度 入院手術件数】

LSC/RSC	42件
膣壁形成（膀胱瘤手術）他	33件
膣式子宮全摘（VT）	18件
TOT	7件
膣閉鎖	4件
合計	104件

〈保存的治療〉

- ・リハビリ指導（骨盤底筋体操）
- ・栄養指導（肥満等食事指導）
- ・切迫性尿失禁、過活動性膀胱（OAB）に対する薬物治療
- ・産褥尿漏れ（助産師外来）
- ・ペッサリー修復・指導

【2022年度 栄養指導件数】

合計 7 件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	1	1	0	1	0	1
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	1	1	0	0	1	0

【2022年度 リハビリ：骨盤底筋運動指導人数】合計100件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	5	9	3	13	10	10
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	17	8	6	6	3	10

2) 広報（サービス）部門

総合受付、予防医学センターでのパンフレット配布

糖 尿 病 ・ 内 分 泌 セ ン タ ー

スタッフ センター長：橋本久仁彦

(副院長、内分泌・代謝内科部長、栄養管理室長、あったかサポートセンター長)

医 師：中川 厚 (循環器内科)、住谷 哲 (~2022年6月)、大畔健太、西岡美保、大西彩乃、松尾剛明、森本尚喜 (内分泌・代謝内科)、宇都佳彦、高森啓成 (救急総合診療科)、宇津 貴、水本 綾、光本憲祐 (腎臓内科)、中長摩利子 (小児科)、垣本健一 (泌尿器科)、谷井啓一 (眼科)、大島 遥 (形成再建外科)、松島 希 (予防医学センター)

看 護 師：下山優子、角南ちえ子、秦久美子、高山由美子、町田友里、石井泉美 (看護部)

管理栄養士：松村寿美、坂本彩弥 (栄養管理室)

薬剤師・医療技能職：大嶽雄也 (中央臨床検査部)、森岡浩子 (薬剤部)、

麦田盛穂 (リハビリテーション室)

事 務：木下奈美 (医事サービス部)、熊田洋子 (あったかサポートセンター)、

藤田陽平 (総合企画部)

1. 診療内容

糖尿病・内分泌センターにおいては、糖尿病および内分泌疾患を有する患者を中心として、専門性を有する院内の各診療科医師および各部署のスタッフにより、患者個人個人に合わせたオーダーメイドの質の高い診療を展開している。

2. 診療体制

糖尿病および内分泌疾患を有する患者の中でも、過食・偏食・運動不足などの生活習慣が影響を及ぼす糖尿病・肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などを有する患者を主体に、多職種のスタッフにより患者の代謝状態を評価し生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制する診療を目指している。

1) 外来診察スケジュール

毎週月～金曜日の5日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、病態の評価および指導を行った。

2) 病棟体制

入院中の糖尿病患者を対象に、内分泌・代謝内科・腎臓内科・看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部が協力しながら、糖尿病に関する集団指導 (糖尿病ふれあい教室) を週2日実施した。またセンター長による回診 (COVID-19流行後は単独で診察) を毎週月曜日に行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績

① オーダーメイド糖尿病診療

30分枠の完全予約制で、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別

の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を実施した。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。2022年度に当センターを受診した患者数は延べ2,198名 (2021年度は2,075名) であった。

② 糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した (糖尿病合併症管理)。2022年度における実施件数は191件 (2021年度は209件) であった。

また、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による透析予防のための指導も実施した (糖尿病透析予防指導管理)。2022年度における実施件数は796件 (2021年度は672件) であった。

2) 入院患者の診療

① 糖尿病集団指導

〈糖尿病ふれあい教室講師〉

- ・内分泌・代謝内科：大畔、西岡、大西、松尾、森本 (尚)
- ・腎臓内科：宇津、光本、勝沼
- ・薬剤師：古久保、森岡、野村、小杉、内藤、宮原、奈良
- ・理学療法士：廣田、安達、新井、
- ・検査技師：浅野、倉本、玉川、徳山、南谷、大嶽、小西、大澤、山添、渡辺、鈴木
- ・管理栄養士：松村、西本
- ・看護師：高山、角南

2022年度における糖尿病ふれあい教室の参加患者数は延べ200名 (2021年度は123名) であった。

3) 活動

① 日本生命病院糖尿病フェアの開催

糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行うため、世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関す

る正しい理解のための啓発活動を実施した。当センターのスタッフを中心に、血糖測定、HbA1c測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

〈日時〉2022年11月18日（金）11：30～13：30

〈場所〉日本生命病院1F あったかふれあいホール

〈内容〉

- ・血糖測定
- ・筋肉量・握力測定
- ・血管年齢測定
- ・栄養相談
- ・服薬相談
- ・医師相談
- ・ミニセミナー など

②公開セミナーの開催

例年、患者および一般市民を対象に公開セミナーを開催しているが、2022年度は2021年度に引き続きCOVID-19感染状況から開催を中止した。

消化器内視鏡センター

スタッフ センター長：有坂好史（消化器内科主任部長）

医師：田中敏雄、若原ちか、河田奈都子、萩巣恭平、北田隆起、板東正貴、石田哲朗、井口謙志、楠下萌（消化器内科）、宇都佳彦（救急総合診療科）、水野均、生島裕文、太田英夫、永井健一（～2022年7月）、星野宏光（2022年8月～）、山下晋也（消化器外科）、栗波仁美、大山摩佐子（予防医学センター）

看護師：芳賀宣子、榎本知奈美、村上真紀、杉浦理絵、森エミ、阪井理恵、木下恵利子、西田幸子、酒井亜紀子（看護部）

薬剤師・医療技能職：浅野正宏（中央臨床検査部）、足立充司（薬剤部）、加藤千尋（臨床工学室）
事務：上田俊樹（総合企画部）、堀本政希（予防医学センター）

1. 診療内容

消化器内視鏡センターは、日本生命病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上を目指している。安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。日本生命病院での内視鏡検査、加療、ならびに予防医学センターでの人間ドック、企業健診を行い、消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療を目指す。また、地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約できるよう便宜をはかり、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本大腸肛門病学会、日本消化管学会、日本膵臓学会、日本胆道学会の指導施設としての役割を果たしている。

a. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）

内視鏡的胃瘻造設術（PEG）

超音波内視鏡（EUS）

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）

膵・胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）

内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術（ENBD・ERBD）

超音波内視鏡（EUS）

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）

超音波内視鏡下膵仮性嚢胞ドレナージ

管腔内超音波検査法（IDUS）

下部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

超音波内視鏡（EUS）

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：カンファレンス

内視鏡室の通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

血 液 浄 化 セ ン タ ー

スタッフ センター長：宇津 貴（副院長、内科統括、腎臓内科部長、臨床工学室長）
 副センター長：垣本健一（泌尿器科部長）
 医 師：吉川秀人（循環器内科）、水本 綾、光本憲祐、勝沼倫子（腎臓内科）、
 新谷 隆（心臓血管外科）、湊のり子（泌尿器科）、王 聡（泌尿器科）
 看 護 師：高崎かおり、河村理香、柏井由美子、安藤圭子、神谷香里、新部里美、
 宇埜美奈子
 薬剤師・医療技能職：池田久雄、加藤千尋、田中恵介、坂本彩弥、田口貴大
 事 務：萩原佑気

1. 診療内容

腎臓内科・泌尿器科の医師スタッフ、看護部、ME部門、薬剤部、栄養管理部などの他職種が共同して診療を行うことを特徴としている。新病院移転後は外来透析を開始し、透析ベッドも3床から20床へ増床したため、他施設での外来透析患者の入院対応など幅広く対応している。2018年4月から心臓血管外科医師も当センターのメンバーに加わり、ブラッドアクセスの造設・再検を積極的に行っている。また生理検査室の協力を得て、SPPを用いたフットケアなどにも新しく取り組んでいる。

集中治療室での血液浄化療法においても、持続血液濾過透析（CHDF）のみでなく、血液透析（HD）にも対応可能となっている。

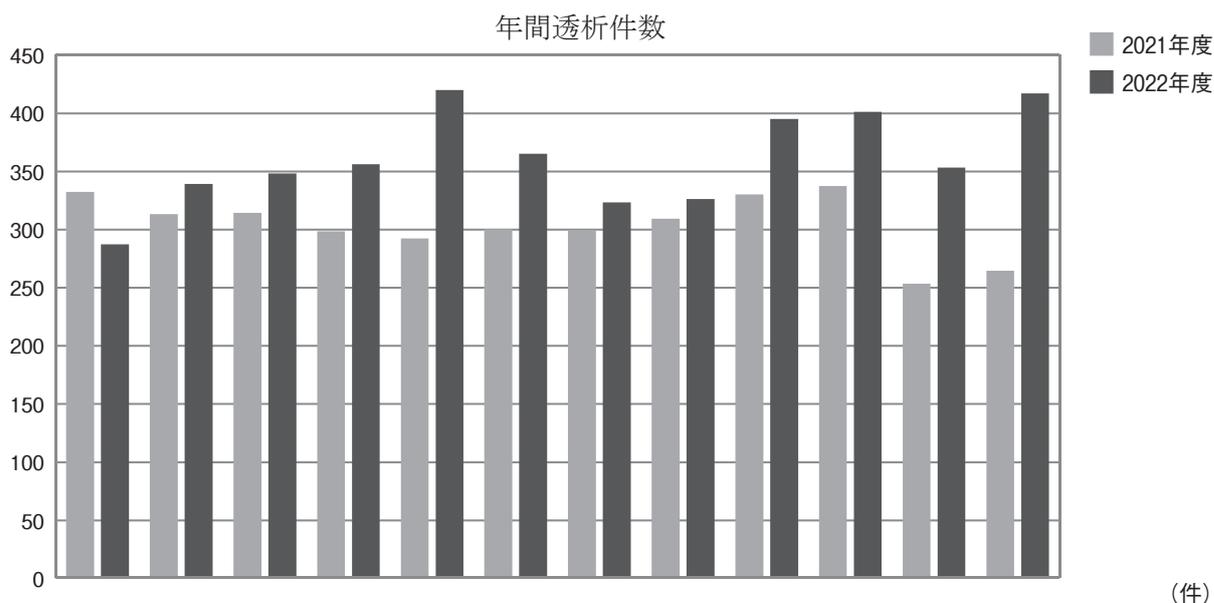
2. 診療実績

透析導入患者 34名
 内シャント手術件数 39件
 シャントPTA件数 53件

3. 専門医・指導医など

日本透析医学会専門医・指導医 2名（宇津・水本）

図1 2022年度 月別血液透析延べ件数



(件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
2021年度	333	314	315	299	293	301	300	310	331	338	254	265	3,653
2022年度	288	340	349	357	421	366	324	327	396	402	354	418	4,342

脳機能センター

スタッフ センター長：芳川浩男（特任副院長、脳神経内科部長）
顧問：森悦朗
医師：仁科拓也、塚原彰弘、鈴木由希子（脳神経内科）、高橋勲、青木保典、鈴木由貴、
金永鈺（神経科・精神科）
看護師：酒井亜紀子、森蘭祐子、井上けい子、吉村恵利子（看護部）
薬剤師・医療技能職：福庭加奈（あったかサポートセンター）、森岡浩子（薬剤部）
事務：堀本政希（予防医学センター）

1. 診療内容

新病院の新築・移転に際してはその基本構想に「高齢社会を支える診療機能の強化」「健康寿命延伸に向けた予防医療・先制医療の推進」を掲げ、認知症に係る診断・治療の強化を重点課題とした。この目的のために2017年4月に認知症疾患医療センター準備室（室長：森悦朗顧問）を新設し、具体的な検討と準備を進めてきた。

そして2018年4月に、認知症の予防・早期診断・治療を中心に脳機能障害をきたし得る疾患について幅広く診療する観点から、名称を「脳機能センター」とし、脳神経内科、神経科・精神科、脳神経外科の各診療科と看護部を中心としたチームによる体制を整備し診療を開始した。2019年11月芳川特任副院長が脳神経内科主任部長に赴任後は、笠山院長から芳川特任副院長にセンター長が変更された。

脳機能センターでは、種々の認知症性疾患や軽度認知障害（認知症前駆状態）、さまざまな原因による記憶障害、言語障害、高次脳機能障害に対する診療・セカンドオピニオン・コンサルテーションを実施してきた。治療法のみならず介護法にも原因疾患の診断と病態の把握が大きく関わるため、専門医による診察、詳細な神経心理評価、先進的な画像検査などを用いることにより原因疾患を診断することが重要である。認知症性疾患に対する治験から介護法や社会資源の利用についての指導までを含め、病態に合わせた治療を実施した。

2. 診療体制

外来診療では、脳神経内科および神経科・精神科の両診療科で、対象疾患の診療を行ってきた。特に、毎週月曜日午前と火曜日午後には神経科・精神科による「物忘れ外来」、水曜日午後には脳神経内科による「物忘れ外来」、木曜日午後には「脳機能障害外来」の専門外来を実施した。

認知症性疾患の診療においては、脳神経内科医、神経・精神科医、脳神経外科医が連携し診療を行った。3.0テスラMRI、脳血流SPECT、DATスキャン、MIBG心筋シンチグラムなどの高度医療器を用いた画像診断を行うとともに、公認臨床心理師および言語聴覚士による認知機能評価、認知症看護認定看護師による看護を実施した。

正常圧水頭症が疑われた患者については入院により精密検査を行い、適応となる患者に対しては脳神経外科でシャント手術を施行した。

3. 診療実績

アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、パーキンソン病、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、前頭側頭型認知症、原発性進行性失語症、特発性正常圧水頭症、脳血管障害や外傷性脳損傷などに伴う高次脳機能障害などの診療を中心に行ってきた。入院および外来患者数を含む診療実績は脳神経内科および神経科・精神科の項に記す。

また、1ヵ月に1～2回、脳機能センターの全体カンファレンスを実施し、診断・治療困難な症例についての検討、診療技術の向上のための勉強会および情報共有を行った。

また、レビー小体型認知症を対象とした新規薬剤の臨床治験に参加した（継続中）。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会専門医	3名（森、芳川、仁科）
日本神経学会指導医	3名（森、芳川、仁科）
日本認知症学会専門医	1名（森）
日本認知症学会指導医	1名（森）
日本老年精神医学会専門医	1名（芳川）
日本脳卒中学会専門医	2名（森、田村）
日本脳神経外科学会専門医	1名（田村）
日本精神神経学会専門医	2名（高橋、鈴木）
日本精神神経学会指導医	2名（高橋、鈴木）

5. 業績

論文・著書

1. Ito A, Yoshida K, Aoki R, Fujii T, Kawasaki I, Hayashi A, Ueno A, Sakai S, Mugikura S, Takahashi S, Mori E : The role of the ventromedial prefrontal cortex in preferential decisions for own- and other-age faces, *Front. Psychol*, 13 : 822234, 2022年
1. Suzuki Y, Suzuki M, Shigenobu K, Shinosaki K, Aoki Y, Kikuchi H, Baba T, Hashimoto M, Araki T, Johnsen K, Ikeda M, Mori E : A prospective multicenter validation study of a machine learning algorithm classifier on quantitative electroencephalogram for differentiating between dementia with Lewy bodies and Alzheimer's dementia, *PLOS ONE*, IN PRESS :

学会発表

1. 森 悦朗 : 注意障害の神経心理学と神経基盤, 日本ADHD学会 第13回総会, 2022年3月
2. 芳川浩男 : 認知症治療の現状, 認知症ケア加算対象研修会, 2022年3月, 大阪

スタッフ センター長：東山眞里（特任副院長、皮膚科部長、臨床研究管理室長）
 医 師：林美沙、井上栄美、佐藤祥奈、辻 成佳、小中八郎、友瀨彰人、北田隆起、
 橋本久仁彦、芳川浩男、宇津 貴、谷井啓一、藤田裕人、平林伸治
 看 護 師：高山由美子、丸岡 綾、秋山 麗、林恵理子
 薬剤師・医療技能職：千原亜紀子、片岡宏一郎、廣田将史、中村由美、松榮優子
 事 務：谷内千紗

1. センターの概要

乾癬は炎症性角化症に分類される難治性皮膚疾患で、約12%以上の患者に関節炎を併発する。いまだ完全に病因は解明されていない。皮膚症状、関節症状のため乾癬患者さんのQOLは身体的、精神的にも著しく障害されている。また有病率は増加傾向にあり人口の0.34%、43万人と推定される。乾癬の治療は最近10年で生物学的製剤の登場など新薬の開発も進み治療は飛躍的に進歩した。患者の重症度に応じた積極的な治療が求められる。一方近年乾癬は多くの併存症（メタボリック症候群、高脂血症、心血管系障害、糖尿病、関節炎、ぶどう膜炎、肺気腫、慢性腎不全、炎症性腸炎、骨粗鬆症、鬱病など）があり全身の炎症性疾患と認識されている。乾癬は皮膚のみならずトータルマネージメントを要する疾患である。乾癬患者のQOL及び生命予後の改善をめざして①最適な治療により早期かつ安全に皮膚症状・関節症状を寛解に導く②併存症の早期診断や治療により乾癬患者の健康状態の改善を図るとともに、合併症の発症を予防し心身ともに健全な状態に導く③大学やその他の医療機関と協力して乾癬に関する病態の解明、治療の進歩に貢献しうる臨床研究、臨床治験を行うことを目標に2019年4月に乾癬センターを開設した。当センターでは院内関連診療科、多職種の高密度な連携による乾癬のトータルマネージメントを実践している。また掌蹠膿疱症と掌蹠膿疱症性骨関節炎についても診断・治療を行っている。

2. 診療内容

1) 乾癬の皮疹の治療

適切な重症度の評価（皮疹の重症度・QOL障害・併存症）のもと、個々の患者のニーズに応じた最適な治療を患者とともに決定。外用治療、外用指導を重視し光線治療はエキシマライト、手足型光線照射機器、全身型ナロー照射機器、入浴PUVA療法などを選択。内服療法（エトレチナート・シクロスポリンA、アプレミラスト、メトトレキサート）は重症度、合併症、年齢などを考慮し選択。また既治療で効果不十分な患者には生物学的製剤も積極的に使用。

皮膚疾患ケア看護師（日本皮膚科学会認定）が、外用指導、看護相談、生物学的製剤自己注射指導も行ない、患者さんの早期寛解をサポートしている。

2) 乾癬性関節炎の早期診断・治療と掌蹠膿疱症性骨関節炎の診断と治療

辻成佳医師（整形外科・リウマチ医）が火曜日に乾癬センターで乾癬性関節炎の患者の診断と治療を行っている。皮膚科医と密な連携により治療方針を決定。乾癬性関節炎の早期診断・治療に努めている。診察・関節エコー・骨単純撮影・MRI・血液検査などを実施し診断。治療は内服薬・生物学的製剤・リハビリテーションなどを行う。

3) 併存症の早期診断・予防

1. 院内関連診療科とのチーム医療

初診時 採血（高脂血症・糖尿病・肝機能障害・高尿酸血症・腎障害・感染症）血圧・体重・身長・BMI・腹囲測定、症例により頸部動脈エコーを施行。併存疾患が疑われると院内関連診療科へ紹介。紹介頻度の高い診療科—整形外科・リハビリ科・総合内科・循環器内科・腎臓内科・耳鼻科・脳神経内科・精神科・予防医学センターなどと横断的に乾癬患者の併存症の予防と治療を行う。また定期的に関連診療科、コメディカルスタッフとのカンファレンスを開催。掌蹠膿疱症では耳鼻科と連携し扁桃炎などの病巣感染につき精査・治療を行った。

2. 外来での集団患者指導プログラム

2019年度は乾癬・乾癬性関節炎の早期改善・悪化予防・併存症の治療のため栄養指導・リハビリ指導・看護指導・看護相談・薬剤指導などを火曜日と木曜日の午後に集団で指導していたが、2022年度も2021年度と同様、感染対策のため集団指導は実施せず。指導の必要な患者にはリハビリテーション科に紹介して作業指導、運動指導を行った。看護師による生活指導や外用指導、管理栄養士による栄養指導（糖尿病・高脂血症・高尿酸血症・肥満など）も個人単位で行った。

4) 乾癬に関する乾癬に関する病態の解明、治療に関する臨床研究、臨床治験

乾癬の病態や治療については、まだ完全に解明されはしない。当センターでは大阪大学や全国の乾癬治療施設と協力して乾癬に関する病態の解明、治療に関する共同研究を行っている。また院内の他科連携により臨床研究も今後すすめて行く予定。また乾癬・乾癬性関節炎掌蹠膿疱症の新薬の臨床治験も実施した。

5) 地域医療機関との連携

2018年11月より乾癬、乾癬性関節炎に特化した、セミナーを当院で主催し、2022年11月10日に第5回「あわぎ乾癬セミナーをハイブリッド形式で開催。治療、診断について、講演や症例検討を行った。

3. 診療実績

①2022年度初診患者数

尋常性乾癬約	177名
乾癬性関節炎	51名
掌蹠膿疱症	46名
掌蹠膿疱症性骨関節炎	44名

臨床研修部

スタッフ 部長代行：宇都佳彦（救急総合診療科副部長）
医 師：中川 厚（循環器内科担当部長）、
水野 均（副院長、外科統括、消化器外科部長、中央手術管理部長）、
八田幸治（産婦人科）、岸 正司（副院長、救急総合診療科部長）
初期研修医：2年目 浅井啓亮、白江惇人、橋本紘宜、政岡亜実、宮本紘子
1年目 井上健太、中嶋七海、羽田基樹、坂東雅樹、本郷卓英、島津礼子、
井門孝太、中村優希
事務：谷由美子（総務人事G主任）

1. 活動内容

新研修制度の開始に伴い、2005年度臨床研修部が創設された。各年度当院単独型（日本生命病院研修プログラム）での定員5名に加え、大阪大学、神戸大学からの1年目たすきがけ研修医が当院で研修を行う。ローテーションの変更など、個々の研修医の要望に柔軟に対応している。2018年度より、2年目研修医に日本医療教育プログラム推進機構（JAMEP）の基本的臨床能力評価試験を受験してもらい（2021年度からは1年次・2年次共受験）、研修医の臨床能力評価と研修プログラムの評価・改善に役立てることとした。

2019年度にはより一層の研修環境の充実を目指し、卒後臨床研修評価機構（略称JCEP）を受審し、認定を受けた。

2. 実績

- 1) マッチング試験（2022年8月20日）
男性25名 女性27名、計52名が受験した。
内容：筆記試験・小論文・面接・適性検査
募集定員5名マッチし、出身大学は 大阪公立大学1名、滋賀医科大学1名、大阪大学2名、神戸大学1名であった。
- 2) JAMEP基本的臨床能力評価試験受験（2023年1月23日26日・2年次研修医5名受験、1年次研修医8名受験）
- 3) 病院見学学生
男性：80名 女性：105名 計185名。
- 4) 病院説明会への参加
レジナビフェア2022（2022年7月3日）
6年生：1名 5年生：65名 4年生：10名 計76名
近畿厚生局臨床研修病院説明会（2023年2月18日）
5年生：14名 4年生：4名

阪大病院および関連臨床研修病院による内科系
合同説明会（2023年3月4日）
5年生：10名 4年生：2名

3. 業績

学会発表

1. 井門孝太：著しい高カルシウム血症を伴ったAcute kidney injury（AKI）の1例、第237回日本内科学会近畿地方会、2022年9月、大阪
2. 羽田基樹：冠動脈穿孔に対し、カバースtentにてペイルアウトしたが、慢性期にstent内閉塞を来した1例、日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、2022年10月、大阪
3. 浅井啓亮：少量のヒドロコルチゾンにより軽快傾向を認めた下垂体炎の1例、第238回日本内科学会近畿地方会、2022年12月、大阪
4. 白江惇人：急速な増大を示し隣結核との鑑別を要した膵臓扁平上皮癌の1例、第239回日本内科学会近畿地方会、2023年3月、大阪
5. 白江惇人：骨髄異形成症候群の病勢進行下において尿素窒素による浸透圧利尿に伴う高ナトリウム血症を来した1例、第239回日本内科学会近畿地方会、2023年3月、大阪
6. 橋本紘宜：基礎疾患のない50才男性に発症した化膿性椎間板炎の1例、第238回日本内科学会近畿地方会、2023年3月、大阪
7. 橋本紘宜：掌蹠膿疱症性関節炎により両鎖骨肥大・中心静脈閉塞を来した1例、第239回日本内科学会近畿地方会、2023年3月、大阪
8. 政岡亜実：小児四肢疼痛発作症の1成人例、第239回日本内科学会近畿地方会、2023年3月、大阪
9. 宮本紘子：尿閉による腎後性腎不全およびうっ血性心不全が原因でPRESを来した1例、第239回日本内科学会近畿地方会、2023年3月、大阪
10. 井上健太：尿路感染症を契機にたこつば心筋症を発症した相対的副腎不全の2例、第239回日本内科学会近畿地方会、2023年3月、大阪
11. 中嶋七海：大腸憩室炎の経過中にセフトリアキソン（CTRX）による偽胆石が原因と考えられる急性胆道炎を併発した1例、第239回日本内科学会近畿地方会、2023年3月、大阪
12. 本郷卓英：SARS-Cov2ワクチン接種後に発症した亜急性甲状腺炎の1例、第239回日本内科学会近畿地方会、2023年3月、大阪

輸 血 管 理 室

スタッフ 室 長：川上 学（血液・化学療法内科主任部長、がん治療センター長、化学療法室長）
玉川 雄一（中央臨床検査部）

1. 診療内容

輸血管理室では、病院内で行われる輸血業務の全般を行い、管理している。業務は、厚生労働省が策定した「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）に基づいて行っている。

2. 診療体制

1) 輸血の管理体制

①担当技師

玉川が担当技師として輸血検査業務の指導を行っている。時間外・休日は、検査技師が24時間体制で輸血検査を行っているが、必要に応じて担当技師がバックアップをしている。

②責任医師

川上が責任医師として、輸血副作用や輸血業務に関するコンサルテーションに応じている。

③輸血療法委員会

院内の各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事担当）からなる委員会を2ヵ月に1回開催し、血液の使用状況調査、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握などを含め、輸血業務の効率化・安全性向上のための対策などについて検討している。

3. 診療実績

1) 血液製剤の使用状況

①赤血球液（RBC）	3,582単位
自己血	38単位
②新鮮凍結血漿（FFP）	1,882単位
③血漿交換療法におけるFFP	1,272単位
④アルブミン	1,153.7単位
濃厚血小板	9,590単位

*FFPおよびアルブミン製剤の使用量は、適正とされる基準

$$\text{FP/RBC比} = (\text{②} - \text{③}/2) / \text{①} = 0.34 < 0.54$$

$$\text{アルブミン/RBC比} = \text{④}/\text{①} = 0.32 < 2$$

を満たしていた。

2) 血液製剤の廃棄状況

RBC 64単位、FFP 48単位、PC 10単位

3) 2022年度における変更点

①電子カルテに表示される検査結果について、血液型の最終判定と併せてオモテ検査とウラ検査の凝集結果も報告することとした。

②FFPを融解するための融解装置として院内にある、ホットサンド式装置2台と湯式融解装置1台の保管場所を、前者は輸血管理室と手術室に、後者を9階病棟で保管することとした。

③血液製剤院内在庫数について O型赤血球8単位→12単位、AB型新鮮凍結血漿8単位→12単位に増やした。

④HLA適合血小板が必要な場合、大量出血で緊急に血小板輸血が必要な場合で、ABO型適合血小板製剤が得られない時は、AB型患者に対するA型・B型血小板、A型患者に対するB型血小板、B型患者に対するA型血小板の輸血を考慮することとした。

4. その他

1) 院内にて献血を2回行った。

2022年8月9日 24名

2023年3月8日 25名

の職員から献血をさせていただいた。

2) 輸血教育講演会（年1回）

2023年3月17日に以下の演題と演者で講演を行った。①許容されるABO異型輸血（血液・化学療法内科 川上 学）、②日本人の抗A、抗B抗体価について（大阪府赤十字血液センター 学術情報・供給課 楠見智子）、③看護師から見た輸血の注意点（9階病棟 氏川萌子）

参加者は63名であった。

化学療法室

スタッフ 室長：川上 学（血液・化学療法内科主任部長、がん治療センター長、輸血管理室長）
看護師：玉井千春（がん化学療法看護認定看護師）、増田ますみ、里井景子（以上看護部）
新谷聖子（事務）

1. 診療内容

外来通院での抗がん剤治療、関節リウマチなどの膠原病や乾癬などの自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与などの専用治療室として運用、外来化学療法加算を算定している。疾患や治療に対する不安が強い患者さんに対しては、がん化学療法看護認定看護師が化学療法開始前にカウンセリングを主体とする面談を行い、患者及び家族の治療に関する疑問や不安の軽減に努めている。また、入院から外来移行時にオリエンテーションを行い、滞りない外来治療への移行をサポートしている。治療中は、患者及び家族に副作用のセルフモニタリングを指導し、自宅で起こった副作用の対処は随時電話相談を受けながら、速やかに対応できる体制を整えている。また、2022年度より受付に事務職員を配置し、来室した患者さんがスムーズに治療を開始できるよう配慮している。

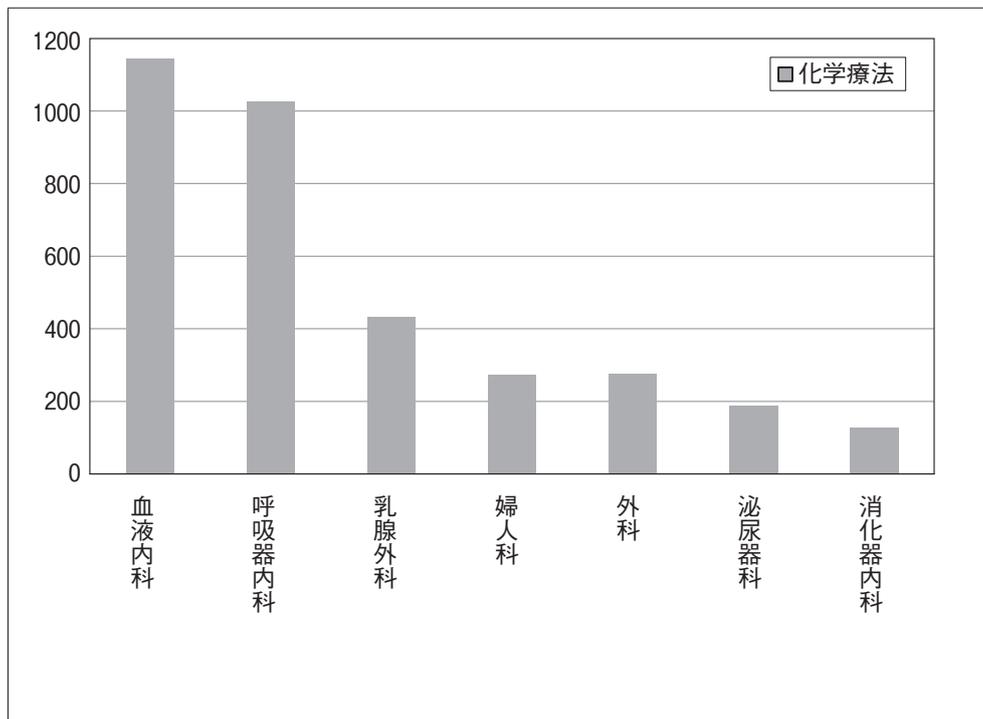
2. 診療実績

化学療法室利用者件数は、総数4,073件（前年度比+265件）で、その内化学療法加算の算定（点滴抗がん剤の投与）件数は3,763件（前年度比+222件）で、診療科別の内訳は図1の通りであった。尚、呼吸器・免疫内科、消化器内科、皮膚科の集計には、各々関節リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎、乾癬に対する生物学的製剤の投与が含まれている。

尚、個室の利用は、2件であった。

利用件数の増加に対応するため、5月からベッド数を3増やして（診察室として使用していた部屋に2ベッド新設、個室のベッドを1から2に増設）対応した。

図1 2022年度 診療科別化学療法加算算定件数



リハビリテーション室

スタッフ 室 長：平林伸治（～2022年9月）、辻 成佳（2022年10月～）
理学療法士：片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄悟、白川 桂、
安達幸恵、泉本亮二、新井聖章、藪田拓武、世傳智貴
作業療法士：鶴谷高志、阪本拓也
言語聴覚士：四釜淳子、清水晴奈

1. 診療内容

各診療科からのリハビリテーション（以下 リハ）依頼に対し、身体機能の向上を目標に理学療法士と作業療法士、言語聴覚士が連携し合いながら最良のリハ医療を提供してきた。

リハの内容は、急性期の運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・悪性疾患・循環器疾患の患者などを中心に実施し、それぞれの疾患に対応した個別のプログラムを実践してきた。運動器リハは関節の変性や炎症疾患、体幹・上・下肢の外傷や骨折、熱傷瘢痕による関節拘縮、高齢者の方の運動器不安定症などの患者が対象となり、2022年度は6901件の実績があった。脳血管疾患等リハは脳梗塞、脳出血、ギランバレー症候群等、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、皮膚筋炎、多発性筋炎などの患者が対象となり、5,443件の実績があった。呼吸器リハは肺炎、無気肺、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、全身麻酔手術をする患者の手術前後の呼吸機能訓練を要する患者が対象となり、4,507件の実績があった。がんリハは消化器疾患、呼吸器疾患、血液疾患、乳がんなどの患者に対し治療により生じた疼痛、筋力低下、障害等に対して二次的障害を予防し、運動機能の低下や生活機能の低下予防・改善を目的とする患者が対象となり、3,823件の実績があった。心大血管疾患リハは、心筋梗塞、心不全、不安定狭心症、閉塞性動脈硬化症、ペースメーカー植え込み術などの患者に対し、運動耐容能の向上や運動習慣の習得を目標とする患者が対象となり、2,790件の実績があった。廃用症候群リハは、外科の開胸開腹手術、泌尿器科手術、婦人科手術後などの廃用予防、嚥下障害、脱水症、皮膚疾患、胆のう炎などの患者が対象となり、4,613件の実績があった。

総合計件数は28,077件の実績があった。

早期リハを継続して行うために、連休を中心に休日にもリハを実施し、早期離床を促した。

地域連携としては、退院後の生活について不安を抱いている入院患者に対して退院前に自宅を訪問し、手すりなどの環境整備を確認したり、自助具の活用方法について指導を行った。退院後の生活においてADLなどの支障が出た場合は訪問看護ステーションの訪問看護師を通じて、間接的に患者に指導をすることでADLの改善に努めた。地域への情報発信として運動領域における講演を院内外で行った。

予防領域においては、ウィークエンド糖尿病・メタボ精査入院などにおいて、個々の患者に対する運動機能評価を行い、その結果をもとにオーダーメイドの運動指導を行った。

チーム医療においては、リハカンファレンスの定期的な開催や循環器内科部長回診・乳腺外科部長回診・整形外科部長回診・NST回診・RST回診や、糖尿病回診などに同行するとともに、緩和ケアカンファレンスなどへの参加を行い、ADLを阻害している現象の把握や原因の追求を行った。また、糖尿病ふれあい教室での運動指導、女性骨盤底センターからの紹介に対する骨盤底筋体操の指導など、他職種との連携を図りながらリハの専門性を発揮した。言語聴覚士による言語機能訓練や摂食嚥下機能療法を実施し、口腔機能の改善や食糧提案に向けて取り組んだ。

リハの質向上においては、院内での勉強会はさることながら院外での講習会や研修会にも自主的に参加し、最新の情報を収集し、その内容をスタッフ間で共有した。さらに心臓リハ指導士（1名）、呼吸療法認定士（3名）、糖尿病療養指導士（1名）、がんのリハビリテーション研修会修了者（15名）などの資格を有するとともに、関連学会である日本リハビリテーション医学会、日本心臓リハビリテーション学会、呼吸ケアリハビリテーション学会、ペインクリニック学会などに所属し、最良の医療が臨床の中で活かせるよう努めた。学術活動においては、病院の特性を生かした症例を対象にデータを集め、リハ医療を向上させるために関連学会にて発表や論文投稿を行った。

リハ教育分野においては、リハ関連学科の大学や専門学校から実習生を積極的に受け入れ、教育しやすい環境を整備した。

2. 施設基準

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）

3. スタッフ資格など

- ・片岡宏一郎 リハビリ室副室長 兼 技師長・理学療法士
介護支援専門員
がんのリハビリテーション研修修了
- ・麦田盛穂 次席技師長・理学療法士
修士号（健康科学：畿央大学）
認定理学療法士（代謝）
心臓リハビリテーション指導士
登録理学療法士
3学会合同呼吸療法認定士
日本糖尿病療養指導士
緩和ケア研修修了
がんのリハビリテーション研修修了
- ・廣田将史 主任理学療法士
3学会合同呼吸療法認定士
健康運動実践指導者
がんのリハビリテーション研修修了
- ・安達幸恵 主任理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・白川 桂 主任理学療法士
認定理学療法士（介護予防）
登録理学療法士
地域ケア会議推進リーダー
介護予防推進リーダー
がんのリハビリテーション研修修了
- ・泉本亮二 理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・田中 孝 理学療法士
第一種衛生管理者
衛生工学衛生管理者
がんのリハビリテーション研修修了
- ・藤岡栄悟 理学療法士
3学会合同呼吸療法認定士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・新井聖章 理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・藪田拓武 理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・世傳智貴 理学療法士
福祉住環境コーディネーター2級
がんのリハビリテーション研修修了
- ・鶴谷高志 主任作業療法士
理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・阪本拓也 作業療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・四釜淳子 言語聴覚士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・清水春奈 言語聴覚士
がんのリハビリテーション研修修了

4. 業績

論文・著書

1. Noguchi T, Hirao M, Tsuji S, Etani Y, Ebina K, Tsuboi H, Okamura G, Akita S, Okada S, Hashimoto J. : Characteristics of Intermetatarsal Angle Between the Second and Fifth Metatarsals (M2-M5A) in the Rheumatoid Foot., *Cureus*, 14 : PMID : 35693364 Free PMC article, 2022年
2. Etani Y, Hirao M, Ebina K, Noguchi T, Okamura G, Tsuboi H, Miyama A, Tsuji S, Kunugiza Y, Okada S, Hashimoto J. : Improvement of Knee Alignment and Function After Corrective Surgery for Hindfoot Deformity : A Report of 3 Cases., *JBJS Case Connect*, 12 : PMID : 36099443, 2022年
3. Etani Y, Hirao M, Ebina K, Tsuboi H, Noguchi T, Okamura G, Miyama A, Takami K, Nampei A, Tsuji S, Owaki H, Okada S, Hashimoto J. : Modified Scarf Osteotomy with Medial Capsular Interposition Combined with Metatarsal Shortening Offset Osteotomy : A Comparison of Patients with Noninflammatory Arthritis and Rheumatoid Arthritis of the Foot., *J Bone Joint Surg Am*, 104 : 1269-1280, 2022年
4. Kishimoto M, Taniguchi Y, Tsuji S, Ishihara Y, Deshpande GA, Maeda K, Okada M, Komagata Y, Kobayashi S, Okubo Y, Tomita T, Kaname S. : SAPHO syndrome and pustulotic arthro-osteitis., *Mod Rheumatol*, 32 : 665-674, 2022年
5. Kunugiza Y, Tanaka T, Hirota R, Kakunaga S, Okamoto Y, Tsuji S : Polymicrobial periprosthetic joint infection and osteomyelitis of the tibia with circumferential abscess and skin ulcer 11 years after total knee arthroplasty., *Radiol Case Rep*, 17 : 3987-3991, 2022年
6. Matsubara Y, Nakamura Y, Tamura N, Kameda H, Otomo K, Kishimoto M, Kadono Y, Tsuji S, Atsumi T, Matsuno H, Takagi M, Kobayashi S, Fujio K, Nishimoto N, Okamoto N, Nakajima A, Matsui K, Yamamura M, Nakashima Y, Kawakami A, Mori M, Tomita T. : A nationwide questionnaire survey on the prevalence of ankylosing spondylitis and non-radiographic axial spondyloarthritis in Japan., *Mod Rheumatol*, 32 : 960-967, 2022年
7. Ono K, Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Kawai S, Sawada H, Matsuura M, Rodriguez VR, Proft F, Tada K, Tamura N, Taniguchi Y, Hirata A, Kameda H, Tsuji S, Kaneko Y, Dobashi H, Okano T, Haji Y, Morita A, Okada M, Komagata Y, Medina CL, Molto A, Dougados M, Hisamatsu T, Tomita T, Kaname S. : Clinical characteristics of patients with spondyloarthritis and inflammatory bowel disease versus inflammatory bowel disease-related arthritis., *Rheumatol Int*, 10 : 1751-1766, 2022年
8. Fujita S, Honjo H, Takada R, Hara A, Masuta Y, Otsuka Y, Handa K, Minaga K, Tsuji S, Kudo M, Watanabe T. : Ulcerative Colitis-associated Spondyloarthritis Successfully Treated with Infliximab in the Absence of Enhanced TNF- α Responses., *Intern Med*, : PMID : 36575020, 2022年

学会発表

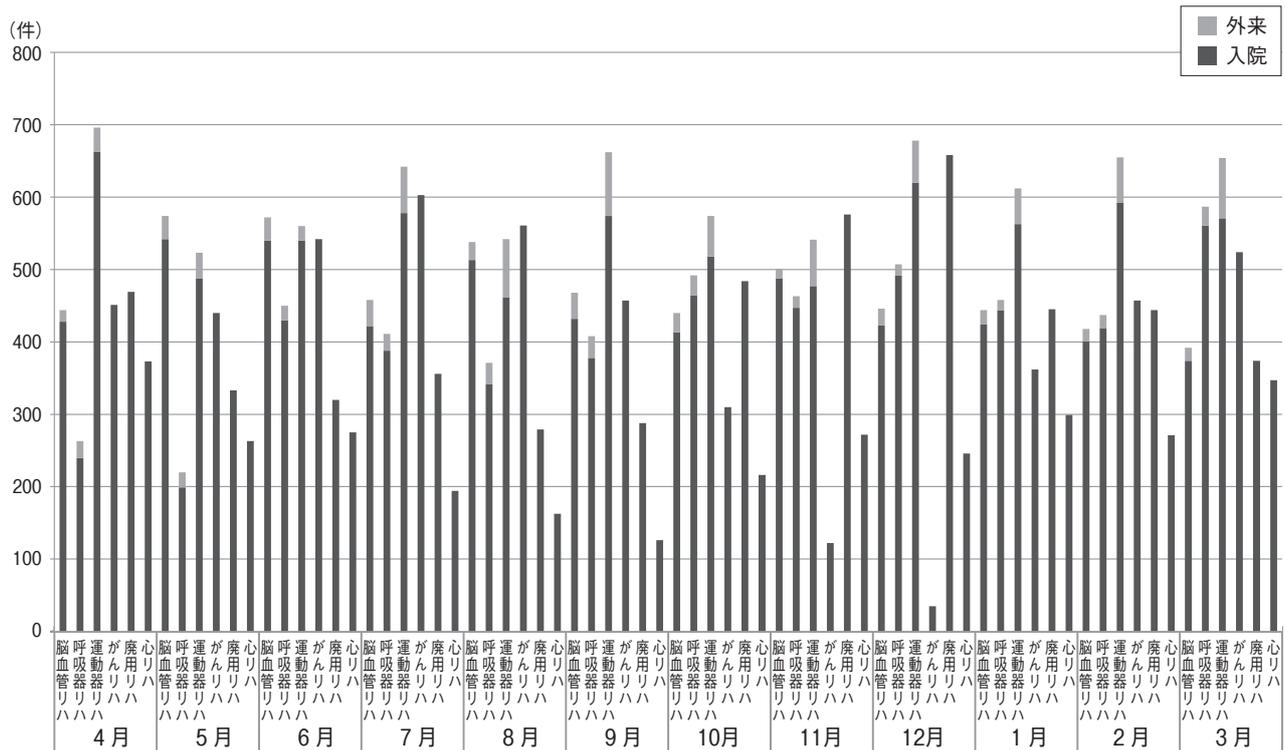
1. 阪本拓也, 鶴谷高志, 平林伸治 : 在宅生活していた人の地域へ退院できるADLと認知機能評価, 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2022年6月, 横浜
2. 安達幸恵, 泉本亮二, 白川桂, 世傳智貴, 四釜淳子, 平林伸治 : 長時間転倒したままの高齢者は退院後にどこへ帰るのか, 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2022年6月, 横浜
3. P. J. Mease A, Setty K, Papp F, Van den Bosch S, Tsuji M, Keiserman X, Bu L, Chen R, Mccaskill E, McDearmon-Blondell P, Wung W, Tillett : Long-term Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients With Psoriatic Arthritis Refractory to Biologic Therapies : 2-Year Results From

- the Phase 3 SELECT-PsA 2 Study, EULAR, 2022年June月, Copenhagen
4. L. Gossec N. Damjanov S. Tsuji A. Lertratanakul R. Lippe J. Patel P. Zueger K. De Vlam : Association Between Clinically Meaningful Improvements in Patient-Reported Outcomes and Stringent Measures of Disease Activity in Patients With Psoriatic Arthritis Treated With Upadacitinib Versus Placebo or Adalimumab : Results From a Phase 3 Trial, EULAR, 2022年June月, Copenhagen
 5. 泉本亮二, 安達幸恵, 世傳智貴, 石橋輝哉, 西原俊作, 平林伸治 : 大腿四頭筋断裂の回復過程を超音波検査で確認してリハビリテーション治療した1症例, 第33回日本整形外科超音波学会, 2022年7月, 広島
 6. 麦田盛穂, 角南ちえ子, 松村寿美, 倉本訓子, 野村暢彦, 藤田陽平, 橋本久仁彦 : 当院の糖尿病チームにおける三位一体の取り組みの意義とその役割について, 第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2022年9月, 大阪
 7. 廣田将史, 藤岡栄悟, 川端千里, 岸 正司, 平林伸治 : ICUにおける人工呼吸器管理のリハビリテーションの課題と取り組み, 第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会, 2022年9月, 大阪
 8. 鶴谷高志, 平林伸治 : 下垂体疾患補充療法されている症例の日常生活動作について, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022年11月, 岡山
 9. 白川 桂, 麦田盛穂, 廣田将史, 田中 孝, 藤岡栄悟, 安達幸恵, 泉本亮二, 阪本拓也, 新井聖章, 清水晴奈, 藪田拓武, 鶴谷高志, 世傳智貴, 四釜淳子, 片岡宏一郎, 平林伸治 : 要介護認定のない入院患者の退院時phase angleと筋量, 運動機能との関連性－横断的調査－, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022年11月, 岡山
 10. M. Elaine Husni Philip J. Mease Joseph F. Merola Frank Behrens Ennio G. Favalli Dennis McGonagle William Tillett Shigeyoshi Tsuji Barbara Ink Deepak Assudani Rajan Bajracharya Jason Coarse Jérémy Lambert Laure Gossec : Bimekizumab Treatment Results in Improvements in Fatigue and Pain in Biologic DMARD-Naïve or TNFi-IR Patients with Active Psoriatic Arthritis : Pooled 16-Week Results from Two Phase 3 Randomized, Placebo-Controlled Studies , ACR, 2022年November月, Pennsylvania
 11. P. J. Mease R.L.Assad, S. Tsuji, P. Richette A. Setty E. Mcdearmon-Blondell T.Gao S.Ciecinski F. Van den Bosch : Efficacy of Upadacitinib in Patients With Psoriatic Arthritis and Prior Exposure to Anti-TNF Therapy in the SELECT-PsA 2 Trial Through 2 Years, ACR, 2022年December月, Pennsylvania
 12. P. J. Mease A. Setty K. Papp F. Van den Bosch, S. Tsuji, M. Keiserman X. Bu L. Chen R. Mccaskill E. Mcdearmon-Blondell P. Wung W. Tillett : Long-term Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients With Psoriatic Arthritis Refractory to Biologic Therapies : 2-Year Results From the Phase 3 SELECT-PsA 2 Study, Annual French Congress of Rheumatology, 2022年December月, Paris

研究会発表

1. 鶴谷高志 : 顔面神経麻痺とリハビリ, 30分でよくわかる健康講座, 2023年2月, 大阪市

図1 2022年度 月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ・がんリハ・廃用リハ・心リハ件数



	4月						5月						6月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	428	240	663	451	469	373	542	199	488	440	333	263	540	430	540	542	320	275
外来	16	23	33	0	0	0	32	21	35	0	0	0	32	20	20	0	0	0

	7月						8月						9月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	422	388	578	603	356	194	513	342	461	561	279	162	432	378	574	457	288	126
外来	36	23	64	0	0	0	25	29	81	0	0	1	36	30	88	0	0	0

	10月						11月						12月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	413	464	518	310	484	216	488	447	477	122	576	272	423	492	620	35	658	246
外来	27	28	56	0	0	0	13	16	64	0	0	0	23	15	58	0	0	0

	1月						2月						3月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	424	444	563	362	445	299	401	419	592	457	444	271	374	561	571	524	374	347
外来	20	14	49	0	0	0	17	18	63	0	0	0	18	26	83	0	0	0

中央手術管理部

スタッフ 部長：水野 均（副院長、外科統括、消化器外科部長）
部長代理：花田留美（麻酔・緩和医療科）
医師：富田栄美子（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、新谷 隆（心臓血管外科）、
橋本奈美子（産婦人科）、田村和義（脳神経外科）、西原俊作（整形外科）、
東山眞里（副院長、皮膚科）、垣本健一（泌尿器科）、谷井啓一（眼科）、
小泉敏三（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、宮崎裕子（形成再建外科）
看護師：木下園子、二井千里
医療技能職：足立充司（薬剤部）、三木和美、佐藤栄次郎（臨床工学室）
事務：高松由夫（情報システムG）、田中大輔、梅村 匠（施設用度G）

1. 概要

中央手術管理部は手術室の効率的な運営等を目的として、2015年4月に中央管理部門の一つとして新設され、現在に至っている。2022年度の手術件数は3,434例で、このうち全身麻酔手術数は1,932例であった。

2. 診療内容

〈主たる業務〉

- 1) 医療機器、手術材料、薬剤並びに手術枱等、手術室全般の適切な運営管理
- 2) 安全で質が高くかつ効率的な手術室運営の企画実施

3. 診療実績

- 1) 毎月第2週月曜日に「中央手術管理部定例会」を開催し、効率的な運営のために各診療科の実績や要望に応じて手術枱の変更を随時行った。

2) COVID-19感染拡大を防止すべく前年度に引き続き、気管挿管・抜管時のリスク回避の為の対応を実施、またCOVID-19感染症患者の手術にも対応した。

3) 定例会以外で手術室で発生したインシデント・オカレンスの共有を行った。9月、11月、12月には術中大量出血症例に対して関係者出席のもと、手術室医療安全カンファレンスを実施し、オカレンス発生に至った経緯や対応の内容、今後向けの改善点を協議した。

4) 2022年度診療報酬改定で「術後疼痛管理チーム加算」が設けられたことを受け、当院でもチームを立ち上げ2022年11月より活動開始となった。

中央臨床検査部

スタッフ 部長：岡部太一（循環器内科部長）
精度管理担当医：永瀬寿彦
医療技能部長兼技師長：浅野正宏

1. 組織体制

常勤：32名（うち産・育休：4名）、パート・再雇用：3名（2023年3月末時点）

2. 全体の主な実績

1) 2022年度の行動テーマは、利用者価値に基づいた計画的、意図的な提供行動とした。前者については各検査のTAT；Turn Around Timeを含む運用と手順書の見直し、臨床検査ニュースによる情報の積極的な発信（38報、前年19）、各部門における精度管理調査への積極的参加を推進した。また部門間ローテーションと兼務を行い、スタッフの客観的視点の拡大と相互連携のための行動変容を図った。コロナ禍における効果的なBCP；Business Continuity Planを実践できた。

検体検査においては再検率の検証と測定項目の見直し、微生物検査では血液培養検査システムの再構築とアンチバイオグラムの推進。生理検査ではオーダリングと検査説明書の見直し、さらには肺機能検査等のポストコロナ対応を実践した。

- 2) 中央臨床検査部の主な実績として、別表「2022年度 主な実績」を参照されたい。
- 3) SARS-CoV2核酸増幅検査では、呼吸器パネル検査 Film Array（バイオメリュー）をリアルタイム測定で応じ、連休等では計画的な検査実施による臨床支援を継続できた。スタッフ増員なく、感染症法分類の5類移行を迎えようとしている。あらたに5類移行後の検査体制の再構築を検討している。
- 4) コロナ禍と世界情勢の変化に伴う生産、流通の不具合により、SARS-CoV2検査試薬、採血管などの検査資材等が出荷制限や欠品状態となり、診療に負の影響を与えた。
- 5) 遺伝学的検査に直接的・間接的に関わることから「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」（日本医学会、2022年3月改定版）をスタッフ全員が研修した。
- 6) 学術活動では学会発表が1回に止まったが、中央臨床検査部主催以外の研修会等には一人平均11.6回参加した。
- 7) 毎日、一同に会する終礼を4月より再開し、情報共有のほか、対人関係能力向上のための1分間スピーチ、1回/2週検査データを診るなど多様な研修を盛り込んだ。

8) リハ士によるベッド移乗研修を1回行った。

9) 臨床検査技師養成機関の臨地（学生）実習、2大学、1専門学校の計7名を受入れた。

3. 各部門の主な実績

検体検査：

- 1) 臨床検査情報システムCaresphere LWS（シスメックス）による自動分析機の再検率を検証した（2021年9月導入）。以下に再検実績を示す。
変更前：2021年4～8月平均（%）→
変更後：10月～2023年3月平均（%）
生化学検査分析器（ラボスペクト：日立） 11.7→4.0
免疫検査分析器（アリニティ：アボットジャパン） 17.6→9.4
同（ルミパルス：フジレビオ） 8.5→6.4
血糖・HbA1c検査分析器（アダムス：アークレイ） 3.5→1.8
血算分析器（XN：シスメックス） 28.2→20.2
検査情報システムにより、試薬・資材の経費削減を大きくすることができた。
- 2) 特殊採血管と検体処理を有する血清亜鉛は栄養、免疫、皮膚症状、味覚異常などのマーカーであり、外注検査としていたが、検体管理による偽高値の解消と早期報告より院内検査とした。
- 3) SARS-CoV2による他国のロックダウンと世界情勢による物流遅延により、採血管をはじめとする検査資材、試薬が出荷制限、欠品状態となった。中でも赤血球沈降反応；ESR専用採血管の欠品により約2ヶ月間検査不可は大きかった。
- 4) グリコアルブミン測定試薬（旭化成ファーマ）では標準化物質機構の認定を受けた試薬に変更した。
- 5) 尿中レジオネラ抗原検出検査キットの検出対象は、従来、感染頻度の高い血清1型のみであったが、血清型2から15型までを検出可能な検査キット（極東製薬）に変更した。
- 6) 血中タクロリムスの測定試薬を前処理のないルミパルスL2400（富士レビオ）用試薬に変更した。これにより移植後患者の診療にさらなる標準化と柔軟な測定体制を設けることができた。
- 7) 髄膜炎・脳炎が疑われる患者に対してMultiplex Nested PCR法による「ウイルス・細菌多項目同時検出（髄液）」細菌6種、ウイルス7種の同時検出を核酸増幅装置Film Array（バイオメリュー）を用

いた髄液中の病原体遺伝子検査を開始した。

微生物検査：

- 1) 結核菌治療薬全10種からピラジナミド；PZAを新たに加えた11種に検査チャートを変更した。
- 2) 血液培養自動分析装置をバクテアラートVirtuo（ビオメリュー）に買換えた。従来より約2倍の処理能力、アンチバイオグラムの活用を盛り込み、経費削減が大きくなった。

生理検査室：

- 1) 患者がマスクを外して検査を行う肺機能、トレッドミル、CPX；心肺運動負荷検査、経食道エコーに対する規制とその解除基準を大阪モデル（緑信号、黄色信号）に準じて策定した。またヘパフィルター2機を新設し、他の感染症防止の環境を整えた。
- 2) 腹部超音波検査オーダーを領域別に改変（上下腹部、上腹部、消化器領域のみ、泌尿器科領域のみ）分類し、さらに患者案内文書の見直しを肺機能検査と併せて実施した。
- 3) 成人家族性コレステロール血症スクリーニングに用いる超音波法によるアキレス腱厚測定検査を始めた。

病理検査室と輸血検査、予防医学センター検査室：

病理診断科と輸血管理室、予防医学センターの項を各々参照にされたい。なお輸血検査では全自動輸血検査システムオーソ・ビジョン（オーソクリニカル・ダイアグノスティクス）に買換えた。

4. 精度管理

- 1) 臨床検査の第三者評価として、日本臨床検査技師会、日本医師会、大阪府医師会、日本総合検診医学会、日本超音波検査学会、日本病理学会の精度管理調査に参加した。
- 2) 日臨技サーベイでは、リウマチ因子；RFがC判定になった。試薬特性に基づく測定器の特性である検体攪拌法と分析パラメーターである折れ線法による検量線が要因と考えられた。現在、スプライン2法等を含む改善策が検討されている。
- 3) また脳波検査の設問で不正解「D判定」となった。測定に負の影響はない、医学知識のさらなる研鑽が求められた。また日本超音波学会画像コントロールサーベイでは、心臓・血管領域の問題が不正解となった。同様の状況であり、改善・質の向上対策も同様である。
- 4) 他の精度管理調査は良好な結果が得られた。
- 5) 各種の試薬メーカーの精度管理調査のひとつであるニッターボーメディカル精度管理調査で2021年度版では低評価だったCA19-9、新規検査開始したNT-proBNP；脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N末端フラグメントは良好の評価を得た。

(件)

部門	領域	項目名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2021年度比(%)
検体検査	生化学	血糖	93,721	95,738	102,325	91,498	94,611	98,964	104.6
		HbA1c	56,101	59,658	61,959	55,165	58,438	61,064	104.5
		総蛋白	92,625	96,563	102,106	97,496	101,442	105,379	103.9
		電解質	93,818	97,629	102,163	97,155	99,856	103,282	103.4
		APTT	10,961	11,739	13,120	13,147	15,352	16,377	106.7
		血液ガス(動・静・臍帯)	3,991	5,024	6,553	6,737	8,144	7,985	98.0
	血液学	血算	121,833	127,567	128,373	111,263	123,662	129,068	104.4
		骨髓検査	227	221	254	266	267	297	111.2
	一般(尿)	尿定性	51,449	56,753	57,293	52,745	57,357	70,385	122.7
	便潜血	ヒトヘモグロビン	29,961	32,845	33,063	27,230	30,182	31,156	103.2
	免疫学	アデノウィルス(迅速抗原検出キット)	679	656	423	69	104	123	118.3
		RSウィルス(迅速抗原検出キット)	173	176	101	11	40	26	65.0
		インフルエンザウィルス(迅速抗原検出キット)	1,700	1,180	1,128	30	13	185	1423.1
		StreptA(迅速抗原検出キット)	730	669	472	89	114	109	95.6
		CEA	11,110	12,401	15,620	14,432	15,742	16,212	103.0
		CA19-9	5,480	6,386	8,124	7,949	8,387	8,322	99.2
		シフラ	728	1,557	1,988	1,942	2,173	2,564	118.0
		ProGRP	1,194	1,338	1,515	1,414	1,522	1,885	123.9
		PSA	6,296	6,566	7,338	6,761	6,548	6,624	101.2
		TSH	13,634	15,178	16,634	14,913	16,027	16,776	104.7
		インスリン	6,451	6,462	7,158	5,618	7,812	6,545	83.8
		HBsAg	13,922	15,396	15,791	13,782	15,298	15,559	101.7
		HCVAb	13,412	14,568	14,922	13,059	14,655	14,638	99.9
輸血学		血液型	5,340	6,296	6,184	5,726	6,329	6,423	101.5
	交差適合試験	1,533	1,668	1,893	1,895	2,052	2,234	108.9	
遺伝子・核酸	呼吸器パネル				606	1,782	2,118	118.9	
微生物検査	一般細菌培養	呼吸器	2,220	2,372	2,634	2,289	2,044	2,268	111.0
		消化器	744	968	931	1,010	889	880	99.0
		泌尿器・生殖器	1,948	2,390	2,388	2,741	2,717	2,703	99.5
		血液・穿刺液	3,746	4,159	4,614	5,282	5,370	5,472	101.9
		その他	1,359	1,684	1,681	1,866	1,780	1,708	96.0
生理検査	超音波	心臓	3,550	3,923	3,950	3,916	4,080	4,215	103.3
		頸動脈	1,110	1,093	1,056	942	1,049	1,349	128.6
		四肢血管(下肢静脈・下肢動脈・シャント)	956	1,369	1,252	1,092	1,184	1,262	106.6
		経食道心臓	17	14	17	8	6	2	33.3
		腹部	4,919	5,073	4,991	4,697	4,745	4,654	98.1
		腎動脈	101	197	255	277	274	264	96.4
		膵精密	136	80	92	103	34	60	176.5
		腹部造影	26	24	19	16	33	30	90.9
	体表	719	718	715	621	648	747	115.3	
	心電図	安静	11,195	12,090	12,297	11,461	12,075	12,973	107.4
		CVR-R(自律神経R-R間隔)	192	180	175	150	220	305	138.6
		マスター運動負荷試験	341	277	200	149	168	180	107.1
		トレッドミル運動負荷試験	206	126	116	136	155	138	89.0
	肺機能	一般	4,321	4,909	4,688	3,452	2,603	2,996	115.1
		呼気中一酸化窒素濃度(NO)	2,030	1,978	2,334	1,338	349	277	79.4
		精密	67	52	55	64	50	18	36.0
	他の循環器・呼吸器系生理	24時間ホルター心電図	275	257	180	203	228	227	99.6
		24時間自動連続血圧	68	35	43	24	11	12	109.1
		簡易睡眠時無呼吸(SAS)	87	92	91	76	55	58	105.5
		ABI・TBI(足関節上腕血圧比・足趾上腕血圧比)	1,394	1,332	1,136	998	1,209	1,439	119.0
		SPP/TCPO2(皮膚還流圧測定/経皮酸素分圧測定)	—	54	62	60	63	43	68.3
		CPX(心肺運動負荷試験)	8	13	33	0	2	1	50.0
	アデノシン負荷心筋シンチ	138	118	87	58	64	31	48.4	
神経系生理	神経伝導	234	234	205	190	178	178	100.0	
	脳波	274	299	305	250	235	303	128.9	
耳鼻科系生理	平衡機能検査(VOG、重心動揺、VEMP)	206	346	389	444	437	460	105.3	
	聴力検査(純音、語音、ティンパノ、OAE)	1,212	1,747	1,881	1,912	1,964	1,654	84.2	
	神経検査(ABR、味覚、ENoG)	21	25	32	20	21	17	81.0	
中央採血室 採血患者数			※ 65,829	73,514	69,682	70,073	73,134	104.4	

※旧システムにより4月分が除外されている

中央放射線部

スタッフ 部 長：小林美登利（放射線診断・IVR科部長）
担当部長兼技師長：長澤浩造
副技師長：新谷泰正
次席技師長：矢野勝之
主任：藤丸泰一、安部 弘、山田純子、中農智絵
 北埜希望、白石奈菜、芝 理賀、勘田雅浩、安藤 真、奥 昂祐、越智由知、坂田航矢、
 土山裕生、北山 瑛、草野麗夏、武内真優、山中翔太

1. 診療内容

質の高い検査・治療の提供にスタッフ全員で取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、緊急検査の充実に取り組んでいる。

2. 診療体制（機器）

CT	2台（320列・320列）
MRI	2台（3.0T・1.5T）
PET/CT	1台
RI	1台
リニアック	1台
治療計画用CT	1台（16列）
一般撮影	2台
X線TV	2台
乳房撮影	1台
骨塩定量	1台
アンギオ	2台
結石破碎	1台
外科用イメージ	3台
ポータブル	2台

4. その他

1) 取得資格

第1種放射線取扱主任者	2名
健診マンモグラフィ認定技師	5名
放射線治療専門放射線技師	3名
放射線治療品質管理士	2名
胃がんX線検診技術部門B資格	1名
放射線管理士	2名
放射線機器管理士	1名
X線CT認定技師	3名
臨床実習指導教員	1名
診療放射線技師実習施設指導者	9名

3. 診療実績（2022年度 検査件数）

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
CT	1,333	1,390	1,504	1,390	1,429	1,437	1,486	1,480	1,541	1,389	1,317	1,568	17,264
MRI	577	578	687	591	630	626	624	607	622	554	526	662	7,284
RI	43	57	64	71	59	51	47	41	55	59	61	66	674
PET/CT	34	35	32	36	48	30	45	36	34	39	42	47	458
単純X線	2,432	2,670	2,964	2,584	2,598	2,689	2,626	2,489	2,687	2,506	2,453	2,915	31,613
MMG	107	107	118	105	100	92	102	114	104	95	96	109	1,249
リニアック（新患）	10	19	15	20	18	19	23	17	23	26	25	24	239

栄 養 管 理 室

スタッフ 栄養管理室長：橋本久仁彦（副院長、内分泌・代謝内科部長、糖尿病・内分泌センター長、
あったかサポートセンター長）

スタッフ：松村寿美、坂本彩弥、中村由美、西本絵実

*栄養サポートチーム（NST） 水野 均、森山綾乃、藤井克至、中村由美、西本絵実

1. 診療内容

糖尿病、腎臓病、心臓病、脂質異常症など食事療法を必要とする患者に対する個別食指導及び集団食事指導を実施している。

また、入院患者には、栄養管理計画書を作成し、栄養管理によって疾患の治療に貢献できるように努めている。栄養サポートチーム（NST）ラウンドを通して、必要な患者に対して低栄養の改善、食事内容の見直し、栄養補給法について検討している。

2. 診療体制

1) 指導スケジュール（表1）

各病棟で入院食事栄養指導、栄養指導室で外来個別栄養指導、糖尿病・内分泌センターで外来個別栄養指導と透析予防指導を行っている。また、乾癬センター、腎臓病、糖尿病は集団栄養指導を実施している。

2) 病棟体制（表2）

病棟を担当制として、受け持ち病棟の対象患者を中心に食事指導を行った。

3. 診療実績

各診療科で栄養指導を行い件数増加に繋がった。

1) 外来個別栄養指導の実績（表3）

95件/月

2) 入院個別栄養指導の実績（表3）

113件/月

3) 集団栄養指導の実績（表3）

6件/月

4) 診療科別個別栄養指導の実績（表4）

前年度に比して内分泌内科の指導件数は増加し、消化器内科、皮膚科は横ばいで安定してきた。

5) 入院食事提供の実績

表5参照

6) 2022年度NST活動実績（加算件数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人	25	25	37	43	21	34	54	40	53	37	56	52	487

・主治医のほか病棟、医療スタッフからの依頼で対応経腸栄養剤を一部リニューアルした。

7) 病棟での取り組み

患者給食について、選択食のアレルギー表を作成し掲示した。

院内約束食事箋・食品構成表を改定した。

8) 新しい取り組み

・入院外来：腎臓病集団指導（毎月第3月曜日）

・NST加算開始（2020年7月～）

・周術期栄養管理加算開始（2022年5月～）

9) その他 活動

1. 2022年9月26日

日本生命病院所属保健師・看護師研修

「栄養素の役割/日本人の食事摂取基準/症例紹介/質問に対する回答集」坂本彩弥

2. 2022年9月30日

褥瘡対策委員会×褥瘡リンクナース×NSTリンクナースの会主催

「患者さんに最適な栄養療法を提供するために～栄養管理の基本と創傷治癒に有効な栄養剤～」中村由美

3. 2022年11月18日 糖尿病フェア

「栄養相談」「栄養に関する掲示」栄養管理室

4. 2023年3月10日 世界腎臓デー

「減塩のコツ、教えてください。」坂本彩弥

*院外敷地内阿波座大食堂とのコラボ事業

昼食メニュー「バランス定食」監修を毎月

（献立内容、献立・栄養バランス、栄養価計算を含む）

*あったかサポート通信 年3回 執筆

10) イベント食と行事食カードおすすめメニューの提供

・行事食に加え、食育イベント食と行事食カードを提供した。それに加えておすすめメニューといって検食した医師におすすめのメニューを選んでもらいそれについてコメントを記載した内容のカードを添付しイベント食を充実させた。

4. その他

1) 所属学会

日本病態栄養学会 2名
日本臨床栄養代謝学会 2名
日本栄養士会 1名

2) 取得資格

日本糖尿病療養指導士 3名
栄養サポートチーム（NST）専門療養士 2名

5. 業績

研究会発表

- 坂本彩弥：今日からできる 減塩のコツ,市民健康セミナー, 2022/3/18, 大阪
- 坂本彩弥, 松村寿美, 西本絵実, 中村由美：昼食メニュー「バランス定食」監修（献立内容・栄養価計算）院外敷地内あわぎ大食堂とのコラボ事業, 2018/5～2022/3, 大阪

表1 個別食事指導スケジュール

	月	火	水	木	金
外来 栄養指導室	西本	中村	松村	坂本	松村
病棟	坂本 松村	松村 西本	坂本 中村	中村 西本	中村 西本
糖尿病・内分泌 センター	中村	坂本	西本	松村	坂本

回診業務 木曜午前 (NST) 午後 (褥瘡/口腔ケア)

表2 担当病棟

病棟	担当
HCU	中村
7階	松村
8階	中村
9階	松村
10階	松村
11階	西本
12階	坂本
13階	西本
14階	坂本

表3 個別・集団栄養指導実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	前年平均
入院個別	121	105	126	147	120	98	94	120	113	100	104	113	1,361	113	1,272	106
外来個別	95	98	104	89	93	89	101	102	94	101	72	104	1,142	95	1,131	94
DM外来個別	88	86	95	91	86	89	102	81	114	82	83	95	1,092	91	1,066	89
DM透析予防	53	63	56	54	56	46	52	50	55	40	52	57	634	53	692	58
栄養サポートチーム加算	25	25	37	43	21	34	54	40	53	37	56	52	477	40	528	44
周術期栄養管理実施加算		5	19	18	24	17	14	25	16	17	19	19	193	16		
集団	6	3	3	6	12	4	4	10	4	3	3	8	66	6	46	4
合計	388	385	440	448	412	377	421	428	449	380	389	448	3,604	300	3,463	289

疾患別個別栄養指導件数 (集団指導含まず)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	前年平均
がん						2	3	8	10	3	0	2	28	2	0	0
胃腸病	37	43	57	75	63	49	41	58	57	48	59	56	643	54	446	37
肝臓病	3	4	3	4	2	4	1	2	4	4	2	4	37	3	33	3
糖尿病	69	74	66	69	74	65	71	47	60	55	47	69	766	64	784	65
腎臓病	33	38	43	34	25	16	33	58	25	44	27	43	419	35	389	32
高血・心臓・高脂	63	40	47	39	40	31	23	27	28	31	26	19	414	35	636	53
膵臓食	9	1	5	6	6	5	6	6	6	0	5	7	62	5	58	5
貧血食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
肥満症	0	0	0	0	0	13	16	9	14	14	6	14	86	7	0	0
母子栄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
嚥下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
低栄養	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	1	7	1		
アレルギー	0	0	0	0	0	1	0	5	0	1	4	2	13	1		
その他	2	0	9	9	3	1	0	0	1	0	0	0	25	2	57	5
合計	216	200	230	236	213	187	195	222	207	201	176	217	2,500	208	2,403	200

表4 診療科別個別栄養指導実績（糖尿病内分泌センター・集団含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均
循環器内科	26	15	20	20	10	14	18	18	13	18	14	20	206	17
消化器内科	41	45	54	68	61	42	45	59	52	50	55	55	627	52
内分泌内科	39	39	44	35	32	29	39	26	30	33	25	44	415	35
呼吸器内科	8	8	5	5	6	2	8	10	5	4	2	6	69	6
血液内科	6	7	8	6	6	5	4	6	7	9	5	7	76	6
腎臓内科	27	27	35	24	19	16	20	23	24	22	19	19	275	23
脳神経内科	3	3	1	1	2	1	1	1	0	0	0	1	14	1
消化器外科	9	6	12	20	16	17	8	17	24	5	13	10	157	13
整形外科	0	4	0	1	3	1	2	4	1	1	2	3	22	2
精神科	2	0	0	1	1	1	2	0	0	0	1	0	8	1
皮膚科	13	12	16	14	15	11	6	16	13	13	10	14	153	13
泌尿器科	7	5	3	3	0	4	3	2	1	0	0	1	29	2
産婦人科	16	20	19	17	25	27	30	21	23	26	15	18	257	21
乳腺外科	3	0	1	5	2	1	2	3	4	2	2	2	27	2
救急診療科	1	0	1	0	0	2	0	1	0	0	1	2	8	1
小児科	5	4	6	5	10	2	5	7	5	6	8	9	72	6
耳鼻咽喉科	3	4	1	3	2	3	1	2	1	4	0	3	27	2
麻酔科	1	1	0	1	0	2	1	1	2	1	1	0	11	1
呼吸器外科	2	1	0	3	1	3	2	1	0	2	1	2	18	2
形成外科	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	5	0
その他	4	2	3	3	1	4	1	3	2	5	2	1	31	3
合計	216	203	230	236	213	187	199	222	207	201	176	217	2,507	209

表5 患者給食数

患者給食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年累計
常食	7,047	6,735	7,641	7,914	7,787	7,186	8,351	8,055	8,479	7,536	6,729	8,558	92,018	96,309
軟菜食	3,654	3,319	4,071	4,853	5,593	4,319	4,807	4,276	4,979	5,301	4,326	4,197	53,695	44,208
特食	8,459	7,808	7,704	8,185	7,069	7,305	7,114	7,611	7,916	8,532	7,346	7,562	92,611	92,405
合計	19,160	17,862	19,416	20,952	20,449	18,810	20,272	19,942	21,374	21,369	18,401	20,317	238,324	232,922
調乳本数	1,133	1,974	2,028	1,758	1,239	1,797	2,873	2,207	1,863	1,836	1,072	2,064	21,844	29,430
特食加算率	44%	44%	40%	39%	35%	39%	35%	38%	37%	40%	40%	37%		

薬 劑 部

スタッフ 薬剤部長：足立充司
課 長：池田久雄
主 任：古久保有希子、宮麻紀子、平田貴宏
薬 劑 師：六車裕一、千原亜紀子、平田亜紀、森岡浩子、内藤 陸、小寺由香、藤井克至、
宮原阿友美、神原弘和、藤田真弓、奈良味菜子、野村暢彦、窪田由夏、徳力麻希、
神村真由、清水 咲
パート薬剤師：辻 俊美、中野静香
事 務 員：岩城淳子

1. 業務内容

本年度は、医薬品に関する運用について、薬剤師のみならず、医師、看護師など多職種チームのもとに策定し、安全でかつ確実な運用を実現した。医薬品の適正な在庫管理、法令を遵守した保管管理のもと調剤、病棟業務を通して、医薬品の安定供給、適正使用、チーム医療へ参画に継続的に取り組んだ。4月の診療報酬改定で薬剤師が算定取得可能な「周術期薬剤管理加算」「術後疼痛管理チーム加算」に対して体制作りに取り組み、算定が可能となった。

手術決定時の入院前服用薬の確認業務で、手術決定後、入院前に術前休薬必要薬を確認することで、手術を安全に行えるように支援した。医薬品安全管理について、職員への医薬品安全管理の講演や、医師を含む多職種をメンバーとした医薬品安全管理ワーキングによる院内ラウンドの実施、疑義照会の一元管理可能なデータベース化による、問題点の把握と共有など、業務改善ができる取組みを継続した。DIニュースの定期的な発行で院内の情報発信が円滑に行うことができた。また最適使用推進ガイドラインの遵守確認、糖尿病、ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策などのチーム医療への参画により医薬品の適正使用を図った。

後発医薬品使用体制加算1算定要件85%の使用率を目標とし、90%以上の高い水準を確保した。

癌化学療法レジメンの登録と円滑な運用を行った。新規申請レジメン38件（一部変更申請レジメン4件）の承認審査並びに登録を行うと共に、オーダ内容の確認・承認、抗癌剤の調製から、被曝・拡散防止など、安全で安心な薬物療法の更なる向上に努めている。また算定要件に伴い、抗がん剤レジメンを病院ホームページへ公開し定期的な更新を行った。

製剤は院内特殊製剤の調製、供給に取り組んでいる。申請のあった特殊製剤について倫理委員会に諮り使用についての有用性や安全性を確認している。製造物責任法に対応するため、日本病院薬剤師会より公示された指標に従って院内製剤の倫理上の検討も行った。新規市販された同効製品の購入にも積極的に関わり、製剤業務量の軽減・効率化を引き続き図った。

薬品管理上、採用薬品、削除薬品の審議を薬事管理委員会に諮り、採用品目数は前年度並で推移している。

採用医薬品の製品回収（クラスⅡ）や特に後発医薬品

メーカーにおける出荷調整が今年度も発生し、回収に伴う院内の対応、運用の変更や他メーカーへの切り替えなど調剤薬局との連携を図りながら患者様の不利益にならないよう十分な配慮を行いながら対応した。

医療外業務として薬学部5年次学生1期（11週）3～4名の病院実務実習の受け入れ体制を継続した。

コロナ専用病棟の運用時は、感染対策を考慮した院内の薬剤搬送、病棟業務を継続して行った。治療薬の管理や一部調製を行った。COVID-19ワクチンの管理、調製作業を行いスタッフが安全に実施できるよう対応した。

今後も、医薬品情報の有用かつ適時な情報管理の強化により、安心で安全な薬物療法の実践を更に深化する組織体制を発展させると共に、常に「患者さんのために何ができるか」を考えて行動できる人材育成を行う。

2. 業務体制

1) 人員配置 2023年3月時点

人員：薬剤師23名（パート2名を含む）、事務員1名
配置：調剤・製剤業務11名、薬剤管理指導業務9名
DI（薬品情報室） 1名
臨床研究管理室（事務局） 1名
薬品管理 事務員 1名
外来薬剤指導 1名

2) 病棟体制

新病院より専任薬剤師8名とし病棟業務実施加算体制を継続した。手術予定患者の入院前持参薬の確認、薬剤管理指導（服薬指導）、保険診療に定められた病棟業務を実施し、適正かつ、安心・安全な薬物療法に努めた。

周術期薬剤管理加算を維持継続するため担当者1名を配属し病棟専任薬剤師と周術期に必要な薬学的管理を実践した。

3. 活動内容

1) 日常業務

外来処方箋枚数 213枚/日（外来注射処方を含む）
入院処方箋枚数 237枚/日
入院注射処方箋枚数 852枚/日
服薬指導件数 775件/月（薬剤管理指導業務）
抗癌剤調製件数 450件/月

2) 院内学術活動（講演）

医療安全講演会・医薬品安全管理講習会、

よくわかる健康講座

3) 院内広報活動

医薬品情報（安全性情報）	8通
DSU（医薬品安全対策情報）	8通
新規採用薬情報	5通
お薬ニュース	7通

4. 認定薬剤師など

日本医療薬学会専門薬剤師	2名
がん薬物療法認定薬剤師	3名
感染制御認定薬剤師	2名
抗菌化学療法認定薬剤師	1名
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士	6名
日本緩和医療薬学会麻薬教育認定薬剤師	1名
認定実務実習指導薬剤師	4名
日本病態栄養学会認定NST研修終了者	1名
日本臨床栄養代謝学会認定NST研修終了者	1名
日本麻酔科学会認定術後疼痛管理研修終了者	1名

(2023年3月31日現在)

5. 論文・学会発表など

学会発表

1. 六車裕一, 藤田真弓, 宮原阿友美, 小寺由香, 宮麻紀子, 池田久雄, 足立充司: アナモレリン塩酸塩を投与した入院患者における摂食状況及び体重の変化に関する検証, 第32回日本医療薬学会年会, 2022年9月, 群馬
2. 山崎由夏, 神原弘和, 野村暢彦, 池田久雄, 足立充司: オレキシン受容体拮抗薬による悪夢発現頻度の比較検討, 第32回日本医療薬学会年会, 2022年9月, 群馬
3. 徳力麻希, 森岡浩子, 古久保有希子, 神原弘和, 池田久雄, 足立充司: 分娩誘発・微弱陣痛に対するオキシトシンの使用状況調査, 第32回日本医療薬学会年会, 2022年9月, 群馬
4. 平田貴宏, 池田久雄, 平田亜紀, 足立充司: 小児に対する外来での経口抗菌薬の処方状況調査, 第32回日本医療薬学会年会, 2022年9月, 群馬
5. 宮麻紀子, 足立充司, 千原亜紀子, 川上 学, 玉井千春: 当院におけるがん化学療法施行患者のB型肝炎再活性化予防に対する対応と検討について, 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022, 2022年11月, 静岡

研究会発表

1. 足立充司: ジェネリック医薬品・バイオシミラーを取り巻く環境と今後, 日本生命病院医学セミナーUpdate (第150回), 2022年11月, 大阪
2. 足立充司: 経口抗がん薬使用中の患者に対する服薬管理とマネジメント, 薬業連携研修会, 2022年12月, 大阪
3. 六車裕一: がん化学療法における皮膚障害, 薬業連携研修会, 2023年2月, 大阪

薬剤関係件数

摘 要			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計	
処方箋	外来	枚数	枚数	3,863	4,055	4,313	4,633	4,547	4,225	4,305	4,478	4,525	4,471	4,005	4,533	51,953	51,295
			件数	5,319	5,506	5,696	6,214	6,108	5,609	5,679	6,097	6,045	6,281	5,332	6,109	69,995	71,849
		1日当り	枚数	193	213	196	232	207	211	215	224	215	235	211	206	2,559	2,537
			件数	266	290	259	311	278	280	284	305	288	331	281	278	3,449	3,552
	入院	総数	枚数	6,755	6603	7040	7050	7501	6978	7240	7134	7932	7722	6869	7725	86,549	80,843
			件数	11,391	10862	11505	11249	12250	11594	11712	11672	13224	13136	11304	13066	142,965	137,773
		1日当り	枚数	225	213	235	227	242	233	234	238	256	249	245	249	2,846	2,659
			件数	380	350	384	363	395	386	378	389	427	424	404	421	4,700	4,531
注射	入院	総数	枚数	26,380	24,874	23,830	25,815	27,168	26,121	26,445	25,910	26,795	27,131	25,182	25,273	310,924	299,476
		1日当り	枚数	879	802	794	833	876	871	853	864	864	875	899	815	10,227	9,855

摘 要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定	735	757	916	813	788	763	795	776	741	712	666	833	9,295	8,125
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)	298	315	284	267	317	303	269	300	248	279	281	310	3,471	3,326
(入院化学療法)	168	105	162	152	170	124	156	174	141	194	182	203	1,931	1,959
TPN調製件数	31	55	32	33	53	62	77	36	32	43	39	15	508	641

摘 要			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
麻薬処方箋	外来	内 用	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10
		外 用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		注 射	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
	入院	内 用	86	82	150	111	128	116	130	141	177	108	113	140	1,482	1,719
		外 用	8	10	15	9	19	37	15	6	6	17	27	18	187	170
		注 射	422	398	423	420	429	399	384	424	399	385	353	416	4,852	4,515

製剤室

摘 要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
一般製剤	件数	13	18	23	16	20	15	12	19	18	16	18	28	216	316
無菌製剤	件数	7	7	8	8	6	6	5	9	8	8	7	10	89	138

[薬剤部]

臨床工学室

スタッフ 室長：宇津 貴（副院長、内科統括、腎臓内科部長、血液浄化センター長）
次席技師長：田中恵介
主任：加藤千尋、三木和美
岡崎浩也、宮崎理恵、田口貴大、吉岡佑太、地田 紬、北濱知美、佐藤栄次郎

1. 診療内容

臨床工学室は、2017年4月より中央臨床検査部から独立し新設された。現在10名の臨床工学技士が様々な臨床業務に関わり、医師・看護師や各種医療技術者と共に治療に携わっている。

2. 診療体制

1) 臨床業務

主に下記の臨床業務に関わっている。

①手術室

手術支援ロボット手術、血管外科による血管内治療、術中自己血回収術

②血管造影室

心臓カテーテル検査・治療、心臓ペースメーカーの植込み・ジェネレーター交換、植込み型心臓モニタの植込み、心臓電気生理学的検査、血管内治療

③集中治療室

血液浄化（血液透析、持続血液濾過透析法、血漿交換療法）、補助循環業務（IABP・ECMO）

④血液浄化センター

血液透析・オンラインHDF、特殊血液浄化（顆粒球除去療法、血漿交換療法、LDL吸着療法、末梢血幹細胞採取、顆粒球採取）

⑤外来

ペースメーカー外来、ペースメーカーMRI対応

⑥その他

腹水濾過濃縮、術前術後・緊急時のペースメーカーチェック、人工呼吸器・経鼻高流量酸素療法（HFNC）使用時対応、RST（呼吸サポートチーム）ラウンド

2) 医療機器の保守・修理・点検業務

外来・病棟や手術室・集中治療室などで使用する様々な医療機器の保守・修理・点検を行い、医療機器がいつも清潔で安全に使用できるよう管理運用している。

医療機器のトラブルや不具合に院内で対応し、医療機器のダウンタイムを削減している。

看護師に向けて医療機器に関する勉強会を定期的に行い、医療機器を安全に正しく使用出来る環境作りに努めている。

「臨床工学室のお知らせ」として年に4回程度、医療機器に関する様々な情報発信を行っている。

3. 認定資格

透析技術認定士	7名
心血管インターベンション技師	3名
3学会呼吸療法認定士	5名
臨床ME専門認定士	1名
第1種消化器内視鏡技師	1名

臨床研究管理室

スタッフ 室 長：東山真里（特任副院長、皮膚科部長、乾癬センター長）

CRC（臨床研究コーディネーター）：谷口真理子

松谷憲一（主任、臨床検査技師）

川上奈緒美（主任 看護師）

寺西由加里（臨床検査技師）

事務局：千原亜紀子（薬剤師）（～2022年5月）、藤田真弓（薬剤師）（2022年6月～）、小原秀子（ソラスト）

1. 活動内容

臨床研究管理室では、治験審査委員会・倫理委員会の事務局として治験、臨床研究、製造販売後調査の窓口業務を行っている。新規治験受託に関しては、受託可能な疾患を調査し病院HPに公開している。また治験依頼者（製薬会社）へ直接打診したり、日本医師会治験促進センターからの治験案件調査を各該当診療科と協同しながら案件を受託している。すでに契約しているSMO（治験施設支援機関）からも治験案件の紹介を受けている。今回、SIP（Shared Investigator Platform）に登録することによりSIP加盟外資系依頼者へ治験受託可能施設及び治験実施可能疾患の手あげをし、院内全体の治験件数の増加に向けて取り組んでいる治験受託時に、治験依頼者との調整が円滑に運べるよう病院HPには施設情報チェックリストも公開している。

今年度より治験審査委員会委員・倫理委員会委員に対してのe-learningによる研修を開始した。IRBの業務効率化と書類のペーパーレスに向けて治験文書管理の電磁化に向けて検討した。

日常業務では、CRCが治験受託時から治験終了まで、安心・安全で質の高い治験・臨床研究が提供できるよう被験者対応、治験依頼者対応、治験責任医師・分担医師への対応を行っている。また、院内各部署との調整を行い、工夫・改善しながらチームとして治験が滞りなく推進出来るよう行っている。今年度は、当院のみで行う医師主導治験（リハビリテーション科）の受託に向けて検討・準備を始めた。COVID-19感染拡大により、治験依頼者の訪問が規制されていたため、Web会議を実施し業務が滞らないようにした。

また、臨床研究管理室会議を1回/月開催し、運営等について協議している。

治験標準業務手順書、事務局マニュアル、CRC業務マニュアルの改訂も行った。

2. 活動実績

1. 治験審査委員会（IRB） 12回開催
倫理委員会 11回開催
2. 年間治験実施件数 19件
（前年度からの継続実施14件、2021年度新規受託5件）
3. 製造販売後調査 新規契約22件
4. 臨床研究 実施件数38件

新規受託件数は5件であり前年より上回った。昨年まではCOVID-19感染拡大により治験依頼者が新薬及び新機器開発を保留としていたが、次第に通常に戻ってきており、紹介案件も増加してきた。

年間治験実施件数は19件であり、2017年から2022年までの6年間をみると多少増減はあるもののほぼ横ばいである。臨床研究実施件数、製造販売後調査新規契約は前年と比べ減少している（図1）。治験における被験者対応人数が多少増加しているのは、新規案件の被験者は来院間隔が短く、来院回数が多くなるためである。また、モニター対応時間に関しては、COVID-19感染拡大によりモニターの来院が制限されたことにより減少している事と、依頼者からリスクの低い治験実施施設として評価を受けている為でもある。（図2）。

3. 認定

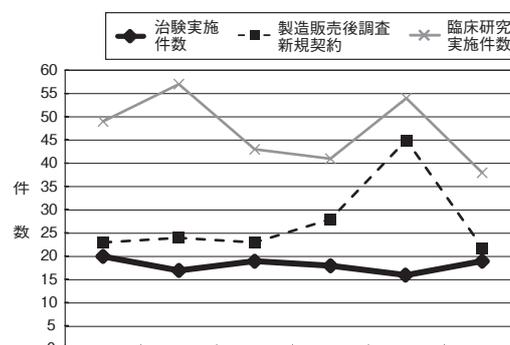
日本臨床薬理学会認定CRC

2名

（谷口真理子）

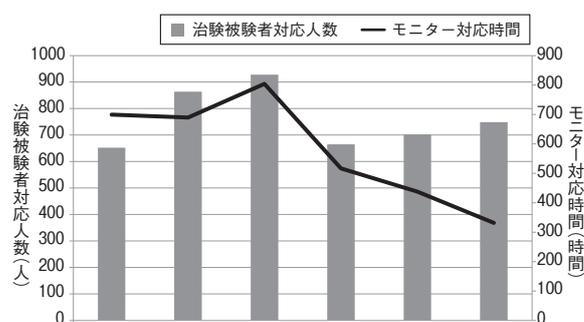
（寺西由加里）2023年1月1日～

【図1（治験・臨床研究等実施状況）】



年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
治験実施件数	20	17	19	18	16	19
製造販売後調査 新規契約	23	24	23	28	45	22
臨床研究実施件数	49	57	43	41	54	38

【図2（治験被験者対応人数・モニター対応時間）】



年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
治験被験者対応人数	652	864	928	665	702	749
モニター対応時間	699.5	689.75	804	517	438	331.5

医 療 安 全 対 策 室

スタッフ 室 長：岸 正司（副院長、救急総合診療科部長、救急総合診療センター長、集中治療室室長）

医療安全管理者：賀戸ひとみ（看護師長）

室 員：足立充司（薬剤部長）、近石克也（医事サービス部長）

1. 概要

インシデント・アクシデントレポート及びオカレンスレポートについての分析・情報共有を「医療安全ミーティング」として医療安全対策室で週単位に実施、再発防止策を検討した。また多職種によるワーキング活動を引き続き行っている。医療安全対策地域連携加算Ⅰを継続した。

の分析、事例の検討を毎週1回開催した。さらに、2017年度11月より合併症の報告促進を目指して導入したオカレンス報告は2021年度は31件、2022年度は35件の報告があり、検討を行った。

◆インシデント・アクシデント報告の推移 (2020年度～2022年度)

	薬 剤	転 倒 ・ 転 落	輸 血	治 療 ・ 処 置	ド レ ン ・ チ ュー ブ	検 査	医 療 機 器	療 養 上 の 世 話	そ の 他	合 計
2020年度	517	404	15	85	149	152	41	144	100	1,607
2021年度	447	349	7	61	150	119	44	89	107	1,373
2022年度	450	375	12	44	188	113	35	105	118	1,440

2. 活動内容

- 1) 以下の医療安全管理マニュアルの見直し、改訂
 - ①「はじめに」
 - ②中心静脈カテーテル挿入の認定・手技に関する指針
 - ③VTE予防マニュアル
 - ④頭部外傷の初期診療マニュアル
- 2) 医療安全管理者の育成
看護部安全対策委員会では、毎月、事例の共有及び検討を行った。看護管理者のリスクのとらえ方や医療安全管理に対する意識が高まるように働きかけた。
- 3) 医療安全対地域連携加算Ⅰ
 - ①Ⅰ－Ⅰ連携 JCHO大阪みなと中央病院
・12月14日JCHO大阪みなと中央病院から当院へ訪問審査
・1月16日JCHO大阪みなと中央病院を訪問審査
 - ②Ⅰ－Ⅱ連携 大野記念病院
・3月8日 大野記念病院を訪問審査
- 4) ワーキング・チーム活動
医療安全管理委員会では、下部組織として2017年度より、医薬品安全管理ワーキング、転倒・転落防止ワーキング、2019年度にVTE予防ワーキング、2020年度CVC認定ワーキングという4つの実働的な多職種ワーキンググループを設置、活動を開始した。医薬品安全管理ワーキングでは、定期的なラウンドを行い、薬剤に関するインシデント事例の検討等を行った。転倒・転落防止ワーキングでは、毎月病棟のラウンドを行い、療養環境の確認、薬剤やりハビリの情報共有、看護計画の見直し等を行った。VTE予防ワーキングでは、入院患者のリスク評価を行うと伴に、医師、看護師への周知、看護師向けの勉強会を開催した。CVC認定ワーキングでは、6月23、24日に、CVC認定の為の講習会を開催し、21名が参加した。また、新たに4名のCVC認定の承認を行った。
また、2021年度より虐待対策チームを設置し10月4日に研修を行い、職員への周知を図った。
- 5) 医療安全ミーティング
週単位でのインシデント・アクシデントレポート

- 6) 医療安全研修
 - 【第1回】2022年10月4日（金）17：15～18：15
1.テーマ：「医療機関に求められる児童虐待への対応と気づきにつなげるために」
講師：巽 亜子先生
 - 2.テーマ：「機器と安全と私」
講師：臨床工学室 次席技師長 田中恵介
参加者：214名
(医師 32名、研修医 9名、薬剤師 10名、看護師 76名、コメディカル 35名、事務職 52名)
総合評価：「良い」99%
 - 【第2回】2023年1月27日（金）17：00～18：15
1.テーマ：「電子カルテの医薬品アレルギーの登録と閲覧方法」
講師：薬剤部部長 足立充司
 - 2.テーマ：「虐待対策チーム 活動報告」
講師：MSW 福庭加奈
 - 3.テーマ：『医療安全の観点から チーム医療の「手がかり・足がかり」とは』
講師：大阪医科薬科大学病院 医療安全推進室 室長 新田雅彦先生
参加者：199名
(医師 33名、研修医 6名、薬剤師 10、看護師 66名、コメディカル 35名、事務職 49名)
総合評価：「良い」99%

*いずれも未受講者に動画による追加研修を実施した。

感 染 対 策 室

スタッフ 室 長：西垣敏紀（インフェクションコントロールドクター、小児科部長）
副 室 長：大野典子（感染症看護専門看護師）
薬 剤 師：池田久雄（抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師）
看 護 師：堤 早苗
検査技師：佐古大輔

1. 活動内容

感染対策室は病院の理念に基づき「最良の医療サービス」を目標に日々の感染症予防と感染が発生した場合の拡大防止、感染症の診断及び治療、適切な抗菌薬使用支援といった役割を担う。

2022年度は感染対策向上加算1の要件が変更され、感染対策の強化、地域との綿密な連携が必要となった。本年度も2021年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）パンデミック下、感染防止策の徹底と環境整備、外来トリアージを強化、職員の不安・負担の軽減、日常診療機能が維持できるよう支援した。また、パンデミック以降最も病床が逼迫する中、少しでも多くのCOVID-19患者を受け入れられるよう、関連部署と調整した。感染者及び濃厚接触者となる職員の増加に対しても各部門と相談しつつ勤務前PCR検査の導入など、日常の診療体制の維持に努めた。

ラウンドではカンファレンス結果に基づいた診療支援、とICTリンクナースをはじめとする現場からの質問や提案などの確認評価、時に微生物検査や抗菌薬使用状況に関する情報を提供した。

結果として、限られた病棟でCOVID-19が複数人かつ連続して発生したことがあったがクラスターの発生はなく、耐性菌の拡大などはなかった。

社会的活動としてはCOVID-19によるクラスターが発生した医療福祉施設への訪問、地域に向けた学習会の企画開催、地域医療機関からの相談の受け付けなどを行った。

2. 活動体制

感染対策室は医師、看護師、薬剤師、微生物検査技師、事務職員から構成されるAST/ICTと連携し、感染症診療や感染防止に関する支援・介入を速やかに開始できる体制となっている。

また、患者の最も近くで感染リスクを評価しているICTリンクナースが、異常を察知すれば速やかに感染対策室へ報告できる体制をとっている。

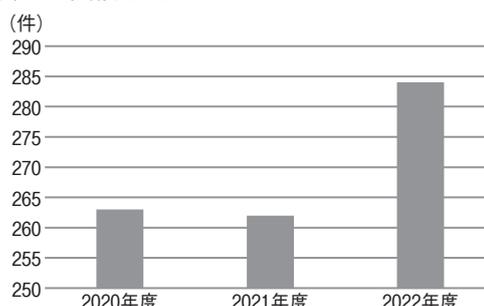
ICT/AST、ICTリンクナースでは対応が困難と判断した場合は、臨時の開催を召集し早急な対応が可能な体制をとっている。

3. 活動実績

【感染症診療の支援】

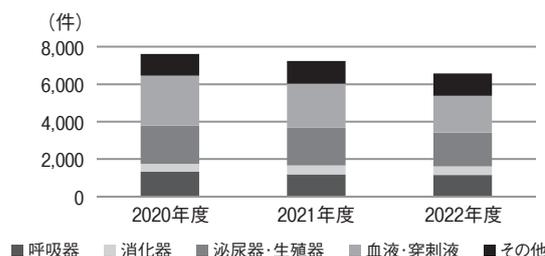
ICT/ASTの介入件数は284件（COVID-19対応除く）（平均24件/月）であった。介入内容は、届け出抗菌薬の長期使用、治療における抗菌薬の選択と効果判定などであった。今年度のCOVID-19の入院患者は286名、

外来患者は881名で、疑い患者含め感染防止策や退院基準に関して支援した。

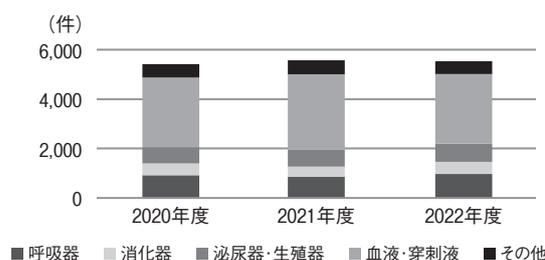


(図1) ICT介入件数 (COVID-19除く)

感染症診療において重要な指標となる微生物検査では、入院患者において全体項目で減少し、外来患者は前年同様だった。(図2-1, 2-2)

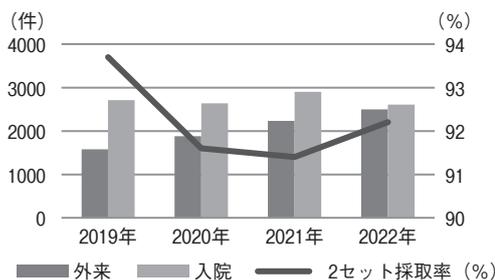


(図2-1) 微生物検査数 入院



(図2-2) 微生物検査数 外来

血液培養検査は5133検体、血液培養以外は7667検体で、血液培養の占める割合の増加は続き(図3)、2セット率は90%以上を維持している。



(図3) 血液培養検査検体数 セット率

【耐性菌検出抑制、集団感染防止に対する取り組み】

本年度もβラクタマーゼ産生菌はじめその他の耐性菌の孤発症例はあったが、同一部署・診療科での集積はなかった。抗菌薬関連下痢症の起因菌となる*Clostridioides difficile*陽性数は13件/139検体（2021年8件/129検体）だった。

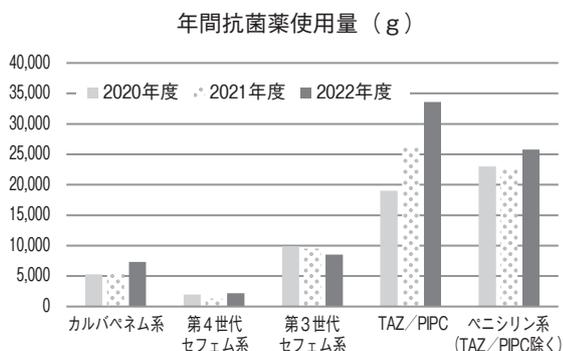
【COVID-19職員の罹患状況と入院患者数】

延べ330名の職員がCOVID-19に罹患したがクラスターが発生することなく全て孤発例であった。

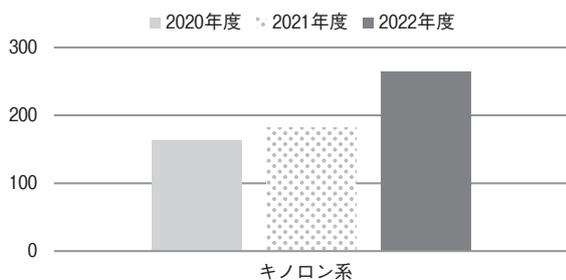
【抗菌薬適正使用に対する取り組み】

当院では、外来・入院ともに大腸菌に対するキノロン系抗菌薬の感受性率が低下傾向にある。

届出抗菌薬の年間総使用量はカルバペネム系抗菌薬7,344g（2021年度5,349g）、タゾバクタム・ピペラシリン33,581g（2021年度26,165g）、ペニシリン系抗菌薬25,797g（2021年度26,165g）と増加、第三世代セファロスポリン系抗菌薬8,529g（2021年度9,506g）は減少した（図3）。キノロン系抗菌薬は264g（2021年度182g）（図5）と増加した。



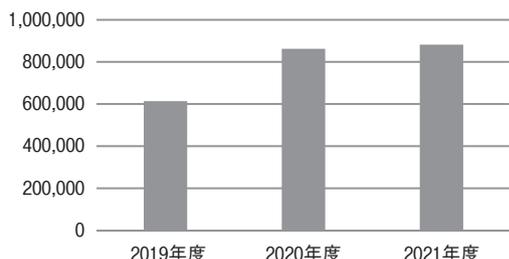
(図4) 全抗菌薬（キノロン系除く）使用量 (g)



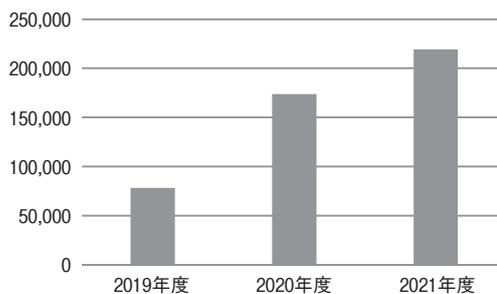
(図5) キノロン系抗菌薬年間使用量 (g)

【手指衛生徹底への取り組み】

入院外来部門ともに手指消毒剤の使用量は増加し（図6）、初診外来を有する外来・診療部門の使用量は昨年度よりさらに増加した。（図6，7）。



(図6) 擦式手指消毒剤年間購入量 (ml)



(図7) 外来・診療部門擦式手指消毒剤年間購入量 (ml)

【地域連携施設における取り組み】

本年度は地域の診療所への感染対策支援を開始し、医師会とも連携し、感染対策や抗菌薬適正使用に関連した研修会を企画開催、西区内の感染対策向上加算1取得の3病院と連携し「ICT便り」を発刊した。感染対策向上加算1取得病院との相互ラウンドは11月、12月に2施設を訪問した。感染対策向上加算2取得の病院との合同カンファレンスは新設された加算3取得の病院が加わり5施設と計4回開催した。

大阪市感染対策支援ネットワーク（OIPC）では西部ブロックの幹事病院として5年目を迎え、COVID-19が発生したブロック内の医療機関、福祉施設を延べ4施設訪問し診療および感染対策を支援した。

【職員教育】

- ・第46回院内感染対策委員会教育講演（2022年10月4日）輸入感染症とマスクギャザリング，りんくう総合医療センター 倭正也：出席者601名（対象者671名）出席率89.6%
- ・第47回院内感染対策委員会教育講演（2023年3月7日）血液培養検査について，中央臨床検査室兼感染対策室 佐古大輔：出席者726名（対象者810名）出席率89.6% 経口抗菌薬の適正使用について，薬剤部兼感染対策室 池田久雄：出席者726名（対象者810名）出席率89.6%
- ・新採用者研修 堤 早苗：出席者48名（対象者49名）出席率97.9%
- ・リハビリテーション室勉強会，手指衛生と个人防护具の実際（11月18日）大野典子 堤早苗：10名以上
- ・予防医学センター勉強会，感染防止のためにお伝えしたいこと（2023年3月27日、29日）大野典子：46名

4. 業績

論文・著書

1. 大野典子：COVID-19（疑い）患者への対応と動き方（動線）の注意点は？，月間ナーシング，142：38-40，2022年

あったかサポートセンター

スタッフ センター長：橋本久仁彦

(副院長、内分泌・代謝内科部長、糖尿病・内分泌センター長、栄養管理室長)

部長：近石克也 担当部長：吉川克巳

(1) 地域医療サービスグループ

看護師：久留明子

事務員：西岡千幸、山下智咲、谷内千紗、山口美里、熊田洋子、久次米ちひろ、
真宮恭子 (2022年12月～)、渡辺喜代美、谷川志津香

(2) 入退院支援センター

看護師：阿部恭子 (統括師長)、小山佐知子、土井美奈子、湯阪久美子、田村千穂、
中田宏美 (2022年7月～)、清山深雪 (~2022年7月)、田畑文子、岩本真澄、
八尾みゆき

事務員：小谷五月、幸得明美、高山あゆみ

(3) 医療福祉相談グループ (入退院支援センター兼務)

医療ソーシャルワーカー：本家裕子 (社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員)、
(Medical Social Worker:MSW) 松榮優子 (社会福祉士・介護支援専門員)、
福庭加奈 (社会福祉士・精神保健福祉士)、
黒川曜子 (社会福祉士)、大島友貴 (社会福祉士)、
菊池蒔子 (社会福祉士・精神保健福祉士)、
今井あすか (社会福祉士)、浅井菜摘 (社会福祉士)

※患者サポートスタッフ：浜田麗美 (~2022年11月)、中野敬子、藤原裕美子

1. 地域医療サービスグループの活動内容

1) 医療連携

- a. 地域の医療機関からの診療・検査予約
- b. 紹介患者の受付
- c. 紹介患者の受診結果報告
- d. かかりつけ医の紹介 (歯科含む)
- e. 病診連携フォーラム・懇話会等の開催、開催協力
- f. 登録医、緊急時入院受入医療機関、在宅患者緊急時入院希望の登録・契約手続き
- g. 開放型病院登録医の共同診療時の対応
- h. 病院紹介冊子の作成

- i. 地域医療NETWORKの開設
 - j. セカンドオピニオンの受付・他院への申込
- ### 2) サービス広報
- a. 医療機関向け診療案内の発行
 - b. 登録医への診療日程案内・情報提供
 - c. 患者向け広報誌「あったかサポートセンター通信 Saisei Rimin」の発行
 - d. 市民健康セミナー等の開催、開催協力
 - e. 地域医療機関等の情報収集・調査
 - f. 患者の声、意見収集等を踏まえた患者サービス体制管理

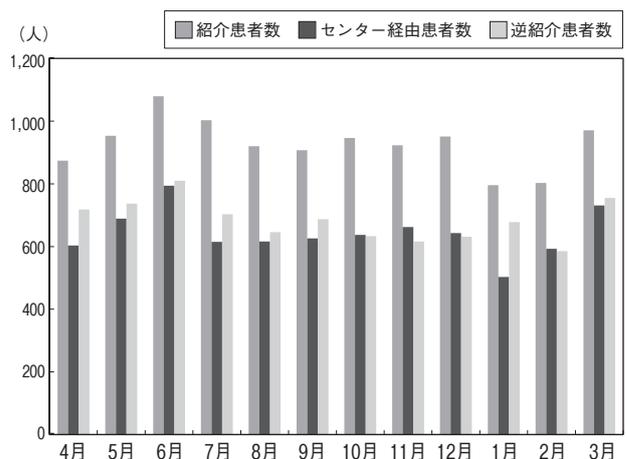
■ 2022.4～2023.3 診療科別紹介数、あったかサポートセンター経由患者数

(年間)

科 別	紹介患者数* (救急車搬入患者含む)	センター 経由患者数	逆紹介 患者数
循環器内科	363	336	556
消化器内科	647	660	640
内分泌・代謝内科	362	187	522
呼吸器・免疫内科	749	665	452
血液・化学療法内科	203	182	347
脳神経内科	270	254	247
腎臓内科	164	169	599
消化器外科	105	82	235
呼吸器外科	22	27	73
乳腺外科	141	126	148
心臓血管外科	102	119	149
産婦人科	1,871	1,251	1,669
小児科	306	243	160
神経科・精神科	179	189	188
脳神経外科	33	32	67
整形外科	457	398	673
皮膚科	595	470	273
泌尿器科	302	281	279
眼科	124	132	297
耳鼻咽喉・頭頸部外科	619	428	311
形成再建外科	289	173	40
放射線診断・IVR科	991	1,183	14
放射線治療科	10	14	18
麻酔・緩和医療科	8	7	24
救急総合診療科	2,197	87	218
リハビリテーション科	0	0	0
検査診断科	17	17	0
合計	11,126	7,712	8,199

※紹介患者数は初診算定数。

(月別)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	874	953	1,079	1,003	920	907	946	923	951	796	803	971
センター経由患者数	603	689	794	615	616	626	637	662	643	503	593	731
逆紹介患者数	718	737	810	703	646	687	633	616	631	678	585	755

- g. 院内イベント企画・開催、開催協力
- h. 図書・情報コーナーの管理
- i. ボランティアの受付・調整

2. 入退院支援センターの活動内容

2016年より入退院支援センターを開設し7年目となった。入退院支援センターは、入院決定時から各職種が連携して安心して入院生活が送れるよう支援すること、入院時から退院後の生活をふまえた退院支援を実践し、より質の高い医療サービスを提供することを目的としている。

1) 業務内容

- a. 医事部門・入院受付
 - ①入院申し込み・入院当日の入院手続き・病室の希望の把握、入院生活のご案内
 - ②無料低額診療事業等の紹介
- b. 看護師
 - ①入院センター：患者基礎情報の収集、術前オリエンテーション、クリニカルパスの説明
 - *従来の対象は、手術（全身麻酔・腰椎麻酔）を受ける患者であったが、「入院前から始める退院支援」及び対応患者数の増加を目指して活動を始めた。各診療科部長への入院センターについての説明、予約時間枠の作成に取り組み、入退院支援センター運用マニュアルの作成に着手した。
 - ②入院受付：入院時間調整、ベッドコントロール
 - ③医療連携：紹介患者の受診・入院の受け入れ調整

- ④退院調整看護師：退院支援・退院調整
- ⑤がん相談・緩和ケアチーム：がん治療センター参照
- c. 薬剤師
 - ①術前内服確認
- d. MSW
 - ①退院支援・退院調整
 - ②ソーシャルワーク業務

2) 活動実績

時間内の入院患者数は、月平均586件（昨年度572件）であった。

※10階病棟をコロナ専用病棟とした期間

- ・2022年1月14日～5月23日
- ・2022年7月13日～10月22日
- ・2022年11月28日～2023年2月23日

入院センターでの患者対応件数は、月平均175.2件（昨年度158.3件）であった。術前以外の患者対応は、年間90名、月平均7.5名（前年度は34名、月平均2.8名）で若干ではあるが増加した。

入退院支援加算1は、月平均194.3件（昨年度192.8件）で、入院時支援加算2は、月平均53.1件（昨年度41.9件）であった。

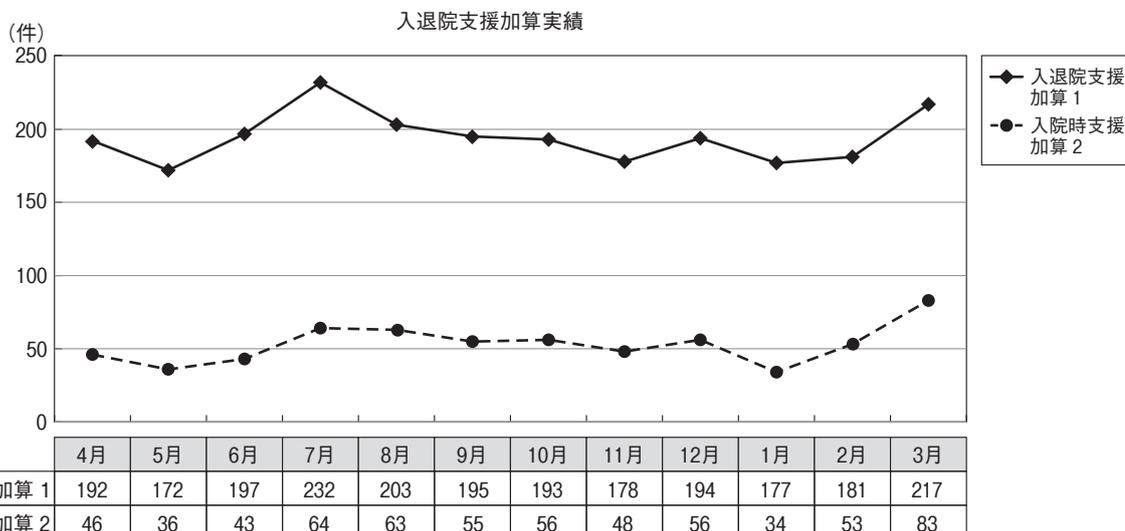
3. 医療福祉相談グループの活動内容

1) 相談援助

- a. 相談援助総件数
 - 2022年度は、総数17,983件（1日平均68.1件、月平均1498.6件）の相談を受けた。COVID-19対応の病棟

■入退院支援センター 活動状況（2022.4～2023.3）

月	時間内 入院実数 (8:30～17:00)	時間内入院患者数		入院センター		
		予定分	予定外 (緊急)	術前 オリエンテーション	術前以外	計
4月	542	381	161	156	3	159
5月	559	383	176	163	5	168
6月	657	498	159	187	3	190
7月	629	464	165	177	7	184
8月	620	453	167	170	2	172
9月	555	403	152	158	2	160
10月	613	439	174	159	3	162
11月	579	419	160	168	4	172
12月	556	366	190	145	9	154
1月	562	413	149	165	8	173
2月	560	401	159	173	25	198
3月	600	424	176	191	19	210
平均	586	420.3	165.7	167.7	7.5	175.2



編成による入院患者数減少の影響にて一時減少したが、再び増加に転じた。

- b. 新規相談
2022年度の新規相談は4,752件（昨年は4,313件）であった。紹介経路別にみると、看護師（1,352件）、医師（780件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの支援依頼が50.9%（昨年は46.6%）を占め、本人（760件）と家族（593件）からの相談が28.5%（昨年は30.9%）であった。
- c. 相談援助内容
相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選定援助）が42.6%と最も多く、次いで無料・低額診療に関する相談援助（17.5%）、介護保険、身体障がい者手帳、指定難病、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（15.3%）、受診・受療に関する問題調整（9.8%）となった。

2) 地域活動

- a. 近隣施設（医療機関、介護老人保健施設等）への訪問等による連携の促進
- b. 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区障がい者・高齢者虐待防止専門部会へ参画による地域の高齢者施策等への貢献
- c. 西区在宅医療・介護連携推進会議等に参画し、地域の在宅医療の普及と医療・介護連携の推進
- d. ニッセイケアプランセンター介護支援専門員（ケアマネジャー）兼務による在宅生活の支援
- e. 大阪市子ども虐待医療支援検討会、大阪府児童虐待防止医療ネットワーク事業連絡会参加による各関係機関との児童虐待対応の連携強化
- f. 脳卒中地域連携パス、大腿骨頸部骨折地域連携パスへの参画、脊椎椎体骨折地域連携パスの活用による円滑な地域医療連携の促進

■ 医療福祉相談グループ

〈相談援助件数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科	114	99	110	105	153	131	105	97	105	93	110	128	1,350	1,321
消化器内科	59	42	73	109	163	171	122	117	130	127	132	73	1,318	644
内分泌・代謝内科	80	78	96	81	111	126	89	64	99	99	93	104	1,120	2461
呼吸器・免疫内科	312	305	310	291	278	267	255	256	275	254	212	262	3,277	
血液・化学療法内科	156	113	110	140	160	147	153	102	153	174	123	150	1,681	1,428
脳神経内科	98	101	142	117	124	126	171	105	90	113	115	126	1,428	578
腎臓内科	136	131	92	94	159	90	59	53	94	128	76	64	1,176	965
消化器外科	58	55	61	59	59	78	68	44	40	41	47	74	684	518
呼吸器外科	2	0	14	4	6	8	15	12	4	4	0	4	73	39
乳腺外科	28	41	62	43	53	30	40	49	49	22	19	13	449	233
心臓血管外科	8	6	11	21	5	3	2	14	6	4	1	6	87	221
脳神経外科	16	15	8	17	30	13	13	47	34	30	14	7	244	243
産婦人科	36	30	63	41	48	49	27	26	29	25	34	53	461	497
小児科	41	26	16	7	13	33	43	44	35	15	24	44	341	357
神経科・精神科	58	90	90	84	105	84	63	71	57	31	40	39	812	915
整形外科	88	74	99	73	90	115	76	92	99	62	77	60	1,005	995
皮膚科	37	30	47	34	52	50	39	49	54	36	23	18	469	357
泌尿器科	31	28	33	19	47	45	41	38	41	13	34	36	406	461
眼科	4	1	2	7	22	6	6	6	3	2	1	5	65	66
耳鼻咽喉・頭頸部外科	23	24	24	36	33	30	24	30	28	29	30	38	349	290
形成再建外科	4	5	12	7	4	8	5	2	1	0	1	5	54	38
放射線診断・IVR科	0	0	0	3	0	0	2	0	0	2	0	0	7	3
放射線治療科	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3	0
麻酔・緩和医療科	4	1	0	3	1	0	1	3	5	1	0	0	19	19
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急診療科	45	59	33	41	24	72	33	26	44	39	27	57	500	349
不明・その他	22	27	38	37	72	79	65	75	36	21	32	101	605	547
合計	1,460	1,381	1,546	1,474	1,812	1,761	1,517	1,423	1,512	1,365	1,265	1,467	17,983	13,545

※2021年10月～総合内科より内分泌・代謝内科、呼吸器・免疫内科へ分科

〈新規相談件数（紹介経路別）〉

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	外来	入院	他																					
本人	34	22	3	40	12	0	53	10	1	73	15	0	132	12	2	50	10	0	39	8	0	54	5	0
家族	37	5	0	13	15	4	39	5	0	43	13	0	76	16	0	51	9	0	43	7	1	53	8	1
医師	31	35	0	34	35	0	48	39	1	29	34	0	21	43	0	22	41	0	30	35	0	31	31	0
看護師	18	90	1	21	91	1	32	94	0	14	92	0	19	91	0	24	119	0	24	96	0	19	89	1
その他院内職員	9	21	0	14	16	0	11	14	0	13	5	0	12	21	0	11	16	0	8	11	0	8	15	1
保健福祉関係機関	9	20	0	13	14	0	10	9	1	9	9	0	12	8	1	6	15	0	6	15	1	11	11	0
医療機関	13	5	0	8	4	1	9	12	0	12	12	1	9	0	0	3	9	0	9	8	0	8	3	0
福祉施設	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0
介護保険施設・事業所	24	17	1	18	8	0	18	12	0	21	18	0	24	30	0	21	23	2	20	37	2	19	30	0
その他	1	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	2	1	1	0
小計	177	215	5	162	195	6	222	198	4	214	198	1	306	221	3	191	243	3	179	218	6	204	194	3
総合計	397			363			424			413			530			437			403			401		

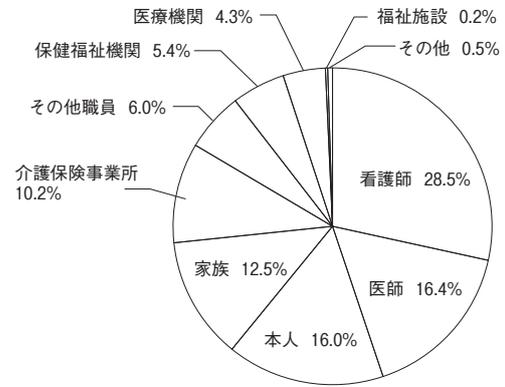
	12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他									
本人	46	5	0	27	15	0	37	16	3	33	3	0	618	133	9	620	99	5
家族	33	11	1	25	12	1	23	7	0	33	8	0	469	116	8	457	149	1
医師	22	32	0	23	50	0	22	32	0	26	33	0	339	440	1	314	336	0
看護師	24	99	0	18	71	0	16	86	0	22	80	0	251	1,098	3	182	959	0
その他院内職員	12	15	0	12	8	0	8	10	1	8	6	0	126	158	2	105	108	1
保健福祉関係機関	8	10	0	7	12	0	7	13	1	14	6	0	112	142	4	104	170	12
医療機関	8	15	0	13	9	0	10	2	0	15	6	0	117	85	2	105	77	8
福祉施設	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3	7	1	7	7	0
介護保険施設・事業所	9	28	3	12	24	0	18	19	0	11	16	0	215	262	8	232	218	3
その他	1	0	0	2	1	1	0	0	0	2	1	1	13	5	5	17	10	7
小計	163	216	4	140	202	2	141	186	5	164	160	1	2,263	2,446	43	2,143	2,133	37
総合計	383			344			332			325			4,752			4,313		

〈相談援助件数(年度比較)〉

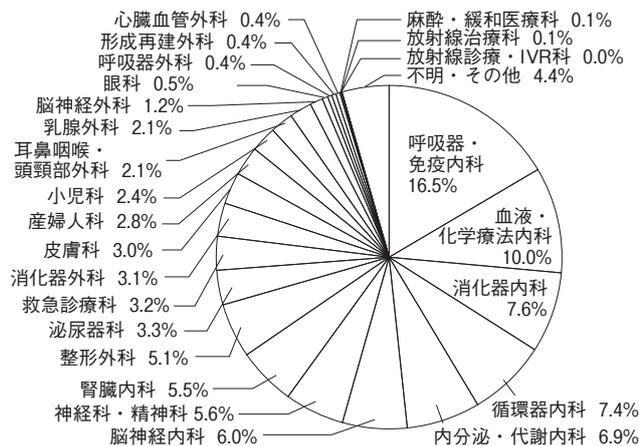
	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
循環器内科	1,350	1,321	940	541	557
消化器内科	1,318	644	589	502	565
内分泌・代謝内科 ^(※1)	1,120	2,461	2,733	1,684	1,635
呼吸器・免疫内科 ^(※1)	3,277				
血液・化学療法内科	1,681	1,428	1,232	1,170	818
脳神経内科	1,428	578	928	1,012	985
腎臓内科	1,176	965	990	416	342
消化器外科	684	518	629	407	296
呼吸器外科	73	39	60	34	44
乳腺外科	449	233	314	195	189
心臓血管外科	87	221	132	63	33
脳神経外科 ^{※1}	244	243	185	194	145
産婦人科	461	497	553	498	446
小児科	341	357	481	373	335
神経科・精神科	812	915	885	748	483
整形外科	1,005	995	1,238	747	1,024
皮膚科	469	357	254	301	270
泌尿器科	406	461	544	353	152
眼科	65	66	69	86	82
耳鼻咽喉・頭頸部外科	349	290	406	256	188
形成再建外科	54	38	32	31	75
放射線診療・IVR科	7	3	14	1	15
放射線治療科	3	0	0	2	0
麻酔・緩和医療科	19	19	14	23	13
リハビリテーション科	0	0	1	1	13
救急診療科	500	349	170	548	610
不明・その他	605	547	708	579	570
合計	17,983	13,545	14,101	10,765	9,885

※1 2021年10月～総合内科より分科

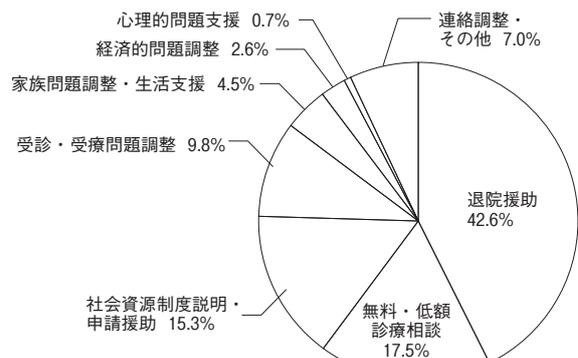
〈新規相談(紹介経路別)〉



〈新規相談(診療科別)〉



〈相談援助内容〉



登録医一覧(467名)

[敬称略](2023.3.31現在)

西 区 89	近江眼科クリニック	近江 源次郎
	健クリニック	三木 基子
	やまもとクリニック	山本 忍
	すぎた内科クリニック	杉田 潔
	医療法人 敬詢会 永田医院	永田 昌敬
	京町堀整形外科	牧野 正
	大谷クリニック	大谷 眞一郎
	藤野歯科医院	藤野 明
	えのもとクリニック	榎本 準
	奥町内科	奥町 富久丸
	ISクリニック	糸原 房宣
	福中クリニック	福中 道男
	阿波座診療所	藤井 省治
	なかむら皮フ科	中村 敏明
	AMAKATA CLINIC	天方 義人
	かおるレディースクリニック	岡本 薫
	(医)良和会 松浦内科クリニック	松浦 良和
	あわざこどもクリニック	田中 篤志
	うつぼ本町キッズクリニック	辰巳 貴美子
	クリスタル本町クリニック	田中 健太郎
	九間クリニック	九間 祥一
	ながお医院	永尾 尚子
	王内科胃腸科クリニック	王 康義
	藤本クリニック	藤本 聡
	曲淵ペインクリニック	曲淵 達雄
	医療法人翠真会 桃源会クリニック	駒倉 啓大
	新町クリニック	濱田 和哉
	弘清会 四ツ橋診療所	安井 潔
	弘清会 四ツ橋診療所	安井 浩一
	弘清会 四ツ橋診療所	安井 博規
	耳鼻咽喉科さとうクリニック	佐藤 一雄
	大阪きづがわ医療福祉生活協同組合	蒲生 健
	ふじわら整形外科	藤原 桂樹
	めぐみ耳鼻咽喉科・アレルギー科	巽 恵美子
	やだクリニック	矢田 知恵
	さゆり女性クリニック	後安 聡子
	西長堀やましたクリニック	山下 正真
	(医)天野医院	天野 良男
	(医)天野医院	天野 祥子
	いぬい小児科	乾 一郎
	坪井眼科	坪井 俊児
	木下皮フ科クリニック	木下 香里
	上嶋内科消化器科クリニック	上嶋 弾
	耳鼻咽喉科 みやざきクリニック	宮崎 裕子
	四ツ橋 腎泌尿器科 こじまクリニック	児島 康行
	北堀江奏でレディースクリニック	寺田 裕之
(医)治生会 石村クリニック	石村 順治	
耳鼻咽喉科岸本医院	岸本 勝	
西長堀医院	則武 正三	
いとう消化器クリニック	伊藤 裕之	
(医)三慧会 IVFなんばクリニック	森本 義晴	
島野医院	島野 直人	
下條内科クリニック	下條 信雄	
(医)丹生医院	丹生 純一	
(医)丹生医院	丹生 真理子	
じっしょう内科	實正 哲	

西 区 89	平山眼科クリニック	平山 優子
	(医)長谷川耳鼻咽喉科	長谷川 進
	本城整形外科	本城 昌
	はらだこどもクリニック	原田 由利香
	渋谷内科クリニック	渋谷 孝裕
	後藤こころのクリニック	後藤 康人
	(医)佐々木会 佐々木内科クリニック	佐々木 敏作
	吉川病院	吉川 守
	ほりかわ泌尿器科	堀川 直樹
	勝瀬クリニック	勝瀬 健
	北川医院	北川 久能
	回生会 河野外科	河野 実
	医療法人 佐々医院	佐々 仁美
	医療法人 佐々医院	佐々 成太郎
	さかさきこどもクリニック	坂崎 弘美
	(医)杉本眼科	杉本 英之
	(医)フジイ内科クリニック	藤井 繁樹
	藤田外科胃腸科	藤田 宗行
	整形外科 おうクリニック	王 正道
	くらち皮フ科クリニック	倉知 貴志郎
	坂井医院	坂井 貴子
	九条サクラ診療所	中川 真宗
	ほりえキッズクリニック	山下 純英
	京町堀内科外科クリニック	矢田 章人
	かもめクリニック第3	米虫 良允
	医療法人福仁会ウエナ産婦人科	大川 貴之
	本町ファミリークリニック	河合 茂明
	本町ふしたに内科・消化器内視鏡クリニック	伏谷 英朗
	慶生会クリニック大阪	奥田 由佳
	医療法人悠千会 めぐみ皮膚科・アレルギー科	巽 一啓
	みよし眼科	三好 秀幸
	つじもと眼科クリニック阿波座院	西村 瑤子
		福中 いづみ
	(医)生野内科クリニック	生野 善康
	(医)前田診療所	前田 勉
	(医)頼医院	頼 明信
	脳神経外科たかせクリニック	高瀬 卓志
	塩見医院	塩見 啓二
	天斗会 中山医院	中山 富雄
	北代診療所	北代 勇夫
	北代診療所	北代 修司
	みなと生協診療所	倉澤 高志
	(医)大和医院	大和 直久
	(医)信愛会大和診療所	大和 宗久
	義元診療所	義元 徳祥
	えさきクリニック	江崎 秀和
いはら内科	井原 義二	
野洲クリニック	野洲 武司	
医療法人社団悠久会 辻クリニック朝潮橋分院	辻 孝教	
かもめクリニック	中濱 瑛太郎	
かもめクリニック	石本 英之	
かもめクリニック	木下 啓太	
大沢診療所	大澤 理	
坂元内科クリニック	坂元 一夫	
医療法人喜多クリニック 弁天町クリニック	喜多 紀人	
香山医院	香山 仁志	
(医)西診療所	西 紀	
澤田内科クリニック	澤田 光孝	

港 区 63	聖愛会 山村耳鼻咽喉科	山村 聖眞	
	南労会 松浦診療所	新井 孝和	
	太田整形外科クリニック	太田 信彦	
	しん眼科クリニック	秦 尚修	
	溝口内科	溝口 理映子	
	島崎診療所	島崎 久美子	
	大塚医院	大塚 穎宏	
	大塚医院	大塚 欣敏	
	岸医院	岸 良治	
	(医) 小嶋整形外科	小嶋 博司	
	山田医院	山田 卓	
	(医) ゆうあい会 宮岡クリニック	宮岡 哲郎	
	社団緑龍会 内藤医院	内藤 龍彦	
	社会福祉法人 秀生会ザイオン診療所	中山 秀雄	
	金谷内科医院	金谷 英夫	
	(医) 大奈会 やすだ耳鼻咽喉科	安田 大作	
	やぎクリニック	八木 隆	
	しらはま内科クリニック	白浜 健太郎	
	(医) 隆明会 やぎ眼科クリニック	八木 明恵	
	笹尾医院	出雲谷 剛	
	(医) 堀井耳鼻咽喉科	堀井 睦	
	谷内医院	石井 登志枝	
	(医) 尚信会 整形外科河村医院	河村 禎人	
	(医) 喜馬外科	喜馬 秀樹	
	(医) 鈴木医院	鈴木 稔也	
	土田クリニック	土田 茂	
	西山眼科	西山 和夫	
	やながクリニック	弥永 邦彦	
	大阪医院	大阪 正視	
	賀来医院	賀来 清高	
	龍神堂会 龍神堂医院	谷内 幹弘	
	金田クリニック	金田 眞一	
	古林内科	古林 芳範	
	北村医院	北村 雅哉	
	(医) ほのぼの会 にいつクリニック	新津 建樹	
	徳寿会 金山記念クリニック	津久井 優	
	(医) 三愛会 中山整形外科	中山 博堯	
	あや内科クリニック	篠原 亜弥	
	大 正 区 45	医療法人邦明会 櫻原クリニック	櫻原 秀一
		アダチ眼科医院	郡 千栄
		(医) 田邊耳鼻咽喉科医院	田邊 修一
		横山医院	横山 正博
		足立医院	足立 俊之
(医) 秀盛会 さくらクリニック		小松 重幸	
考優会 五味クリニック		五味 正裕	
北新会 藤原耳鼻咽喉科医院		藤原 隆行	
加納レディースクリニック		加納 英男	
よしむら整形外科		吉村 弘治	
しまもとクリニック		島本 敬三	
しまもとクリニック		島本 里絵	
柿原医院		柿原 幸司	
西平診療所		西平 守也	
西平診療所		西平 香代	
西平診療所		西平 守和	
中川耳鼻咽喉科クリニック		中川 浩伸	
大阪きづがわ医療福祉生活協同組合		鈴木 昇平	
香山会 山北内科クリニック		山北 哲也	
香山会 山北内科クリニック		山北 直子	

大 正 区 45	一ノ名医院	一ノ名 正
	小正医院	小正 尚裕
	(医) 良仁会 西村外科	西村 良彦
	山北整形外科	山北 真也
	ひらいけ内科	平池 豊
	石村整形外科	石村 俊信
	船井医院	船井 俊彦
	(医) 松原皮膚科医院	松原 爲明
	(医) 健人会 弘田医院	弘田 俊行
	港南会 金城外科脳神経外科	金城 康夫
	北村診療所	北村 彰英
	久志会 黒川眼科	志水 一夫
	(医) 得伊会 中山診療所	中山 秀雄
	(医) 吉祥会 藤吉医院	藤吉 庸雅
	本山診療所	本山 忠
	本山耳鼻咽喉科	本山 壯一
	安井整形外科クリニック	安井 明
	にしもと耳鼻咽喉科	西幹 二郎
	荘田診療所	荘田 静
	荘田診療所	荘田 容志
	マツオ整形外科	松尾 澄治
	光風会 江口医院	江口 隆
	ほんしょう内科クリニック	本庄 尚謙
	医療法人結新会 結新会ホームケア鈴木クリニック	鈴木 昇平
	よし内科クリニック	山田 義明
	医療法人薫風会 落合耳鼻咽喉科	落合 薫
	佐久間医院	佐久間 靖博
	本田クリニック	本田 秀明
	井上医院	井上 宏之
	川田医院	川田 信哉
	(医) 沢井眼科	澤井 貞子
	竹中医院	竹中 秀裕
	耳鼻咽喉科 中村クリニック	中村 泰久
	木田内科消化器科クリニック	木田 徹
	なんば山田クリニック	山田 郁子
	なんば胃腸科内科クリニック	山口 貴也
	小池クリニック	小池 洋志
	えびす診療所	久保田 泰弘
	橋村医院	橋村 直隆
	医療法人理秀会 なんば南藤吉医院	藤吉 理夫
	笹岡医院	笹岡 英明
	入野医院	入野 宏昭
	(医) 瑠香会 あーべいんクリニック	池田 秀博
かねだクリニック	金田 高次	
おおの耳鼻咽喉科	大野 聡史	
(医) 菱川クリニック	菱川 秀夫	
(医) 岡藤会 岡藤クリニック	岡藤 龍正	
医療法人 孝尽会 透析クリニック大正橋	杉浦 清史	
(医) 満領会 有田医院	有田 繁広	
(医) 徳田クリニック	徳田 修	
(医) 徳田クリニック	徳田 好勇	
桜川よしえクリニック	金子 良恵	
福 島 区 23	林クリニック	林 為仁
	泌尿器科 やまなかクリニック	山中 幹基
	成基会 相坂クリニック	相坂 章爾
	田仲循環器科・内科医院	田仲 輝光
	福島アイクリニック	桑山 泰明
医療法人優幸会 中村クリニック	中村 幸生	

福島区	医療法人臨研会 今川クリニック	福本 素由己
	まさこレディースクリニック	霞 雅子
	江頭医院	江頭 明盛
	よこいクリニック	横井 秀保
	(医) 愛幸会 くまだ内科・小児科クリニック	木畑 正彦
	森山眼科	森山 穂積
	福島医療生活共同組合 野田診療所	小濱 譲次
	ちもりメディカルクリニック	千森 弘子
	あおやま医院	青山 晃子
	クダラ医院	百濟 尊彦
	猿渡レディースクリニック	猿渡 善治
	松下医院	松下 正幸
	中島小児科診療院	中島 滋郎
	イシイ内科クリニック	石井 誠剛
	阪神野田駅前ファミリークリニック	衣畑 成紀
	森山眼科	辻川 睦
住之江区	医療法人好輝会 梶本クリニック	岡田 倫之
	てづか内科クリニック	宇津 典明
	医療法人 桑江クリニック	桑江 秀樹
	長谷川内科	長谷川 精一
	長谷川内科	長谷川 浩司
	(医) 中島クリニック	中島 静一
	岡村クリニック	岡村 弘光
	はなのまちファミリークリニック	杉本 匡弘
	森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニック	久保 忠彦
	医療法人西山産婦人科医院	西山 勇一
中央区(東)	中道眼科	中道 明
	財団法人洪庵記念会 産婦人科	緒方 高志
	かただクリニック	堅田 明浩
	ながわ中之島クリニック	中川 晶
	(医) 西恵会 西川婦人科内科クリニック	西川 吉伸
	岩間クリニック	岩間 令道
	大阪婦人子供既製服健康保険組合	間島 行春
	船場森野クリニック	森野 高晴
	うづら医院	卯津羅 祥子
	一般財団法人大阪府結核予防会 大阪健康相談所	寺坂 邦広
中央区(東)	塩野義製薬株式会社	秋岡 壽
	トミタクリニック	富田 忠宏
	日本生命健康管理所	石神 真人
	医療法人政明会 春次医院	春次 智三郎
	小川眼科	小川 憲治
	ラ・クオール本町クリニック	瀧野 敏子
	しもむら本町レディースクリニック	下村 陽祐
	本町 林クリニック	林 宏明
	医療法人アクア アクアメディカルクリニック	石黒 伸
	なかむらクリニック	山本 昌弘
中央区(東)	医療法人紀映会 レディースクリニック北浜	奥 裕嗣
	(医) 高折医院	高折 和男
	たがや内科	多賀谷 昌史
	森ノ宮胃腸内視鏡ふじたクリニック	藤田 実
	こうむら女性クリニック	甲村 弘子
	なかじまあき内科クリニック	中嶋 千晶
	山口あきこクリニック	山口 晶子
	よどやばしメディカルクリニック	田中 基幹
	大織診療所	藤原 大美
	前久保クリニック	前久保 邦昭
中央区(東)	ウイメンズクリニック本町	藤野 祐司
	浅田クリニック	浅田 洋造

中央区(東)	こもれびレディースクリニック大阪本町	萬代 喜代美
	医療法人 むらのクリニック	村野 実之
	医療法人 むらのクリニック	村野 直子
	医療法人佳樹会 のりおかクリニック	則岡 直樹
	(株)大林組大阪診療所	高島 義嗣
	(医) 山田医院	山田 洋
	(医) 田中小児科医院	田中 祥介
	医療法人 松本内科クリニック	松本 淳
	きむ医療連携クリニック	金 永進
	岩佐クリニック	岩佐 厚
中央区(南)	谷口レディースクリニック	谷口 幸一
	河合皮フ科医院	河合 公子
	(医) 岩佐診療所	岩佐 真人
	なんぼくろとびハートクリニック	黒飛 俊哉
	寺内クリニック	寺内 勇
	心斎橋いぬい皮フ科	乾 重樹
	春木レディースクリニック	春木 篤
	大須賀内科	大須賀 康文
	東迎クリニック	東迎 高意
	益田クリニック	益田 元子
中央区(南)	さとう皮フ科クリニック	瀧北 知子
	さとう皮フ科クリニック	佐藤 誠紀
	みつもとレディースクリニック	光本 隆吉
	すとうレディースクリニック	周藤 雄二
	廣田整形外科皮膚科内科クリニック	廣田 龍二
	ふじたクリニック	藤田 富雄
	(医) 大生會 さくま診療所	佐久間 航
	小島クリニック	小島 昭重
	創正会 イワサキ眼科医院	岩崎 直樹
	大島内科医院	大島 久明
北區	安田クリニック	安田 光隆
	川崎皮膚科医院	川崎 紀彦
	早川クリニック	早川 謙一
	早川クリニック	早川 潤
	松澤呼吸器クリニック	松澤 邦明
	医療法人晴愛会 大阪リウマチ・膠原病クリニック	西本 憲弘
	湖崎眼科アクティ大阪分院	湖崎 亮
	(医) 豊仁会 荻野レディースクリニック	荻野 瑠美
	北中レディースクリニック	北中 孝司
	田中内科	田中 裕也
北區	(有) 阪神労働衛生コンサルタント	廣部 一彦
	医療法人聖授会フェスティバルタワークリニック	八木 美佐子
	中之島フェスティバルタワー・さくらクリニック	苗村 敏
	HORACグランフロント大阪クリニック	森本 義晴
	(医) ケイズ会 茶屋町レディースクリニック	井手 一夫
	志村ウイメンズクリニック	志村 研太郎
	天満SORAクリニック	森田 哲史
	堂山レディースクリニック	本間 裕朗
	本出診療所	本出 肇
	ふくだあやレディースクリニック	福田 綾
北區	南森町レディースクリニック	平井 光三
	天神橋ゆかこレディースクリニック	南 裕佳子
	鈴木クリニック	鈴木 隆男
	江川メンタルクリニック	江川 功
	双日株式会社大阪診療所	中村 秀次
	小西統合医療内科	小西 康弘
	ほその耳鼻咽喉科	細野 研二
	てんじん整形外科リウマチ科	史 賢林

	加納内科	加納 康至
旭区	(医) 圭香会 梅崎クリニック	梅崎 圭吾
	うつのみやクリニック	宇都宮 健弘
3	医療法人昭征会 新森透析クリニック	神原 直樹
城東区	つくもクリニック	新開 健司
	金井産婦人科	金井 宏之
	医療法人島田クリニック クローパーククリニック	荒木 良守
4	かねみつクリニック	金光 俊行
東成区	山崎診療所	連 美知子
	中山医院	津久井 伸一
	中山医院	津久井 幾奴子
	いながきレディースクリニック	稲垣 実
	古武診療所	古武 敏彦
天王寺区	上本町ヒロミレディースクリニック	橋本 弘美
	おおさき内科クリニック	大崎 匡
	遠藤クリニック	遠藤 友一郎
	(医) 瑞穂会 ともの木クリニック	三浦 一浩
	ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
	東産婦人科 眼科	東 芳賢
	池田クリニック	池田 光慶
	宮原レディースクリニック	宮原 義良
	おおつかレディースクリニック	大塚 志郎
	小出内科神経科	小出 泰道
	夕陽ヶ丘佐藤クリニック	佐藤 利彦
	てんのうじ ちひろウイメンズクリニック	宇垣 弘美
	みぞぐち循環器クリニック	溝口 裕規
	ゆきこ&ようこレディースクリニック	岡本 由記子
生野区	岸田内科	岸田 泰弘
	(医) 協同診療所	稲次 征人
	医療法人祐星会 桃クリニック	後藤 克子
4	医療法人弘善会 弘善会クリニック	伊藤 章
阿倍野区	湖崎眼科	湖崎 亮
	(医) 柏蔭会 柏原医院	柏原 紀美
	医療法人心明会レディースクリニックさわだ	澤田 育子
	れいこ眼科クリニック	杉本 麗子
6	よりおか胎児クリニック	依岡 寛和
	医療法人平治会 SALALレディースクリニック	榎田 充彦
	(医) 山口クリニック	山口 時雄
3 東住吉区	山田医院	山田 和彦
	にしかわクリニック	西河 潤
2 平野区	元林産婦人科内科	元林 和彦
	日野レディースクリニック	日野 晃治
此花区	栗栖クリニック	栗栖 孝一
	(医) 奥見診療所	奥見 敏彦
	(医) 良純会 朝日橋胃腸科内科小児科診療所	木下 隆弘
	こじまクリニック	小島 研太郎
	医療法人微生会 村上内科	村上 毅
	柳本産婦人科医院	柳本 時廣
	牧野レディースクリニック	牧野 滋
	(医) 森内科	森 滋喜
	木本会 鈴木産婦人科	鈴木 勲
	大庭眼科医院	大庭 省三
	(医) 板東医院	板東 博志
	はやしだ診療所	林田 嘉彦
	医療法人 松井クリニック	松井 清明
	(医) 小山医院	小山 高澄
	(医) 小山医院	小山 貴子
	谷本医院	谷本 尚穂
5 淀川区	医療法人医誠会 新大阪医誠会クリニック	横田 甚
	希咲クリニック	山分 ネルソン祥興

5 淀川区	かわばたレディスクリニック	河端 良一
	なかにしキッズクリニック	中西 康詞
	医療法人良樹会T内科クリニックよどがわ院	徳嶋 良輔
1 東淀川区	医療法人 タツミ医院	巽 壽一
	西淀川区	じくはら医院
医療法人 福田診療所		福田 弥一郎
(医) 北野クリニック		北野 英基
医療法人 若杉診療所		若杉 太郎
(医) 善心会 いせき整形外科		井石 聡
7	(医) 松仁会 大和田診療所	藤原 久義
	高岡診療所	高岡 均
	西成区	イワタ医院
腎・泌尿器科 安本クリニック		安本 亮二
医療法人ばばやクリニック		馬場谷 勝廣
4	(医) 純和会 竹本診療所	八木 純
	1 住吉区	桂診療所
1 都島区		祐クリニック

大阪市外

豊中市	ふなこし呼吸器内科	船越 俊幹
	(医) 上宮医院	上宮 正直
	槇野クリニック	槇野 淑子
	(医) 廣仁会 直原ウイメンズクリニック	直原 廣明
	ポプラクリニック	山内 菜都美
5	やまだクリニック	山田 祥晴
	松崎産婦人科クリニック	松崎 昇
2 池田市	たてかわ内科クリニック	立川 豊史
	1 吹田市	中尾内科クリニック
2 茨木市		大河内医院
	1 高槻市	なかにし産婦人科クリニック
1 寝屋川市		森田医院
	1 大東市	松下診療所
東大阪市		医療法人三慧会 IVF大阪クリニック
	由仁会 岡本眼科	岡本 仁史
	(医) 近藤医院	近藤 和秀
	森産婦人科	森 政雄
	医療法人弘和会 いわさきクリニック	岩崎 弘登
	永井医院	山崎 章子
	田路医院	田路 秀明
	西岡ファミリークリニック	西岡 宏彰
	西岡医院	西岡 良泰
1 松原市	医療法人光仁幸会 西本産婦人科	西本 関男
	3 八尾市	なかじまレディースクリニック
萩原クリニック		萩原 正久
きくちレディースクリニック		菊池 知之
1 藤井寺市	数尾診療所	数尾 展
	1 狭山市	たかはしクリニック
4 堺市		清水レディースクリニック
	典子エンジェルクリニック	船越 典子

4	堺市	医療法人俊仁会 きららファミリークリニック 小野クリニック	吉良 俊彦 小野 晃範
	1	岸和田市	医療法人仁睦会 岡森医院 岡森 仁昭

他府県

奈良県	4	宇山内科クリニック	宇山 宏和
		田中泌尿器科医院	田中 雅登
		久産婦人科・内科	久 靖男
		久産婦人科・内科	久 裕
兵庫県	7	宮本内科	宮本 裕之
		黒田医院	黒田 昌男
		にしな内科・糖尿病内分泌クリニック	仁科 周平
		玉田クリニック	玉田 大介
		玉田クリニック	北村 哲宏
		風川医院	安田 雄紀
		(医)社団 ふかみレディースクリニック	深見 和之

ニッセイ訪問看護ステーション

スタッフ 常勤看護師：丸山洋子（訪問看護ステーション師長、ケアプランセンター兼務）
水上洋子（訪問看護ステーション調査役、ケアプランセンター調査役）
酒井希代子（リンパ浮腫療法士） 吉井好夏、渡部美沙、小森奈緒子
非常勤看護師：山内祐子、永田悦子、笹内 舞、巽 陽子
青木絵里子、小島加津代（介護支援専門員有資格）
田 弓子（保健師・介護支援専門員有資格） 岡村 要
訪問リハビリ：（日本生命病院リハビリテーション科兼務、理学療法士）
片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将司、田中 孝、藤岡栄悟、白川 桂、
安達幸恵、泉本亮二

1. 活動報告

地域医療支援病院併設の訪問看護ステーションとして、「予防から治療、在宅まで一貫した総合的な医療サービス」を提供するとともに、地域住民の暮らしを繋ぐ役割を担う医療者として、地域の行政、他機関、多職種と連携を図りながら、住民に寄り添う医療体制を整備し、地域から必要とされる看護が提供できるよう効率的で質の高い訪問看護を提供し、地域の人々の健康維持に努めた。

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象とし、医療依存度の高い利用者や、がん・非がんの終末期、認知症、精神疾患など重度化・多様化・複雑化する医療ニーズに対応するために、訪問看護師と訪問リハビリテーションが協働して自立機能の維持とQOLの向上に配慮した在宅療養の継続に努めた。

月平均利用者数は168名、月平均訪問回数は988件（リハビリテーション0件）であった。介護保険利用者は月平均111名（介護予防16名 介護95名）、医療保険利用者は月平均60名であった。（表1） 退院後の在宅移行期の医療的ケアの取得及び介護体制の整備や病状の悪化等により、特別指示書が発行された件数は月平均4件であった。

日本生命病院を主体としつつ、西区を中心とした西部医療圏において多くの医療機関や居宅介護支援事業所と連携を図っている。利用者の居住地は西区が最も多く、次いで港区、大正区の順であった。（表2）

新規利用者の約半数が、日本生命病院から依頼を受け、主治医及び病棟看護師、あったかサポートセンターとの協働による切れ目のない医療・看護の提供及び連携強化に努めた。（表3）

看取りを含め、安心して在宅療養が継続できるよう緊急時及び24時間対応体制を充実させ約6割の利用者が契約している。また、医療機関及び在宅療養診療所との連携、日本生命病院における救急外来との連携や後方支援病院としての入院病床の確保などを行ない日本生命済生会全体として地域の在宅医療の推進に努めた。在宅での看取り件数は36件/年であった。

2. 訪問体制

1) 営業日及び営業時間

月曜日～金曜日：午前9時～午後4時（但し、国民の祝日、年末年始は除く）

また状況に応じては、主治医の指示に基づき、営業日・時間以外も対応している。

希望者には電話等により24時間常時電話連絡が可能な体制を整備し、事業所の電話以外に法人契約の携帯電話2台で対応している。

2) 通常の実施地域

大阪市西区、浪速区、港区、大正区、中央区、福島区、此花区

概ね事業所より、半径3km圏内

3. 地域包括ケアシステムへの貢献

地域に開かれた訪問看護事業所として人材育成や教育機関として多機能化への取り組みと地域ネットワーク事業への参画に尽力した。

1) 教育機能

(1) 看護学生の実習受け入れ：森ノ宮医療大学、大阪福祉専門学校、大阪医専

(2) 日本生命病院看護部退院支援研修：講義及び訪問看護ステーション実習

(3) 大阪府訪問看護実践研修（教育ステーション）事業として地域の訪問看護ステーションや介護事業所を対象に研修を実施

①災害研修

②自己評価ガイドライン研修

③在宅医療推進のための研修

(4) 訪問介護事業所への喀痰吸引指導

2) 地域ネットワーク事業への参画

(1) 西区在宅医療連絡部会、西区在宅医療・介護連携相談支援事業、認知症等高齢者支援地域連携事業連絡会、認知症初期集中支援事業に参画し地域の高齢者施策へ貢献

表1 保険種別割合 (n=168)

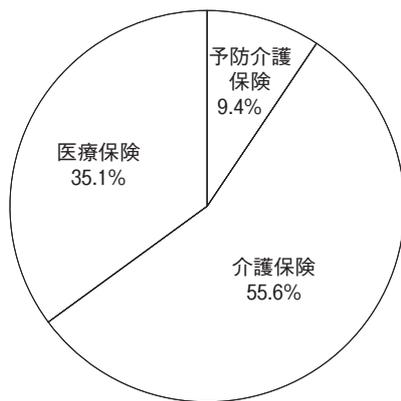


表2 利用者の住居地別割合 (n=168)

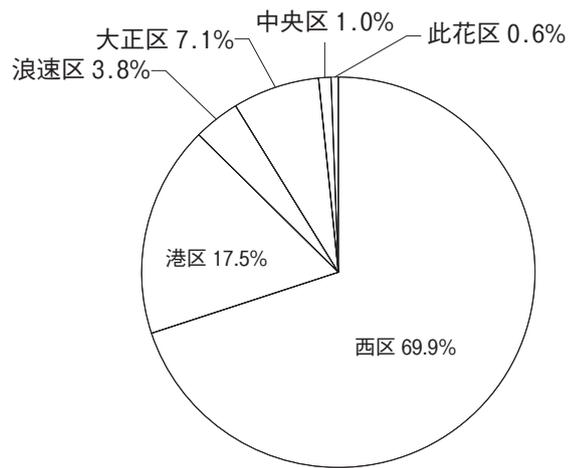


表3 新規利用者 (n=90)

依頼経路		人	割合	
日本生命病院	医師	5	5.6%	40%
	あったかサポートセンター	31	34.4%	
他医療機関医師		10	11.1%	12.2%
他医療機関相談員		1	1.1%	
行政・地域包括支援センター		1	1.1%	
本人・家族		5	5.6%	
訪問看護師		0	0%	
ケアマネジャー・相談支援センター		37	41.1%	
計		90	100%	

ニッセイケアプランセンター

スタッフ 管 理 者	水上洋子：保健師・介護支援専門員 (訪問看護ステーション調査役兼任) 丸山洋子：看護師 介護支援専門員 (訪問看護ステーション師長兼任)
常勤スタッフ	本家裕子：社会福祉士・精神保健福祉士、介護支援専門員 (あったかサポートセンター医療福祉相談グループ副部長兼務) 松栄優子：社会福祉士・介護支援専門員 (あったかサポートセンター医療福祉相談グループ兼務)

地域医療支援病院併設の居宅介護支援事業所として、医療ニーズの高い利用者への医療と介護と福祉の連携強化ができるよう地域の医療機関や介護サービス提供機関との連携を図り、「自立支援」と「尊厳の保持」を尊重し、要介護状態の悪化の予防と維持改善を図るケアプランの立案を行っている。

1. 活動状況

①基本的には、当院にて入院中からの関わりの中で、他者との関係性の構築が困難なケースや、在宅療養期間が明らかに短いと予想されるケースなどを担当し利用者本位の自立とQOLの向上を目指したケアプランの作成を徹底した。新規の相談に対し、対応困難な場合には、医療依存度及び在宅での生活状況に応じ、公平・中立性の高い適切な居宅介護支援事業所を選択し紹介した。

- ②介護サービス提供機関との連携強化に努めるとともに、地域における2ヶ月に1回の西区の居宅介護支援事業所連絡会に参加し、ネットワークづくりや情報の共有に努めた。
- ③地域包括ケアシステムの実現に向けて、医療・介護連携事業、在宅医療部会連絡会、認知症高齢者初期集中チームの多職種連絡会への出席により、地域ネットワーク事業に参画した。

看護部

スタッフ	看護部長	二艘舟浩子		
	副看護部長	(感染管理室副室長)	大野典子	
	統括看護師長	(医療安全担当)	賀戸ひとみ	
	統括看護師長	島津庸子		
	調査役	前川明子		
	7階病棟看護師長	依田恵美	11階病棟看護師長	森菌祐子
	8階病棟看護師長	大和由紀子	12階病棟看護師長	下山優子
	9階病棟看護師長	篠部郁	13階病棟看護師長	石井広美
	10階病棟看護師長	戸田陽子	14階病棟看護師長	神谷香里
	集中治療室看護師長	千嶋しおり	手術室統括看護師長	木下園子
	外来・救急外来統括看護師長	高崎かおり・酒井重紀子		
	入退院支援センター看護師長	阿部恭子		

1. 看護部の理念

(公財)日本生命済生会の基本理念『済生利民』に従い、一人ひとりの状態と立場と気持ちに沿った看護を提供します。

- 1) 患者さんの生命の尊厳と人権を尊重し、心のもった看護を提供します。
- 2) 患者さんの生活環境を整え、安全で確実な看護を提供します。
- 3) 患者さんの視点に立って業務改善や効率化をはかり個々の職務満足度を高めるよう努めます。
- 4) 専門職としての自己研さんに努め、自律した看護職を目指します。
- 5) 地域医療に貢献する急性期病院としての役割を担い、地域住民から信頼される看護サービスの向上を目指します。

2. 2022年度看護部目標

2022年度は、前年度の活動の振り返りとともに、済生会と看護部を取り巻く環境の変化等を分析し一人ひとりの患者さんに寄り添った看護の提供と一人ひとりの看護職の成長を目指し4つの目標を掲げた。目標達成に向けては看護師長会・看護部安全委員会を拠点とし、教育委員会、看護記録委員会、看護基準・手順委員会、広報委員会を編成した。それぞれの委員会は看護部の目標のもとにケアの質向上、地域との連携強化、チーム医療・多職種協働の推進などを各看護単位と協働し活動した。

看護部目標

- 1) 患者の療養の場が変わっても一貫した看護が提供できるように地域のニーズを捉える
 - ①研修会、学会への参加を促進する
 - ②医療・福祉の専門職と連携するシステム作り
- 2) 患者とその周囲の家族を生活者として支えられる看護実践能力の向上
 - ①次の療養の場を見据えた情報収集や必要なケアの

実施

- ②外来・病棟での看護サマリーの充実
- 3) 日本生命病院の看護師として、自らの看護と行動に責任を持つ
 - ①組織の一員として自分にできることを考えて行動する
 - ②いきいき、きらきら働ける職場の風土作り
 - ③専門職としての教育と自己研鑽を推進する
- 4) いつでも医療が提供できるように場を整える
 - ①公平で透明性のある業務の推進
 - ②気持ちよく受け入れられる看護の体制作り

3. 看護部の概要

施設基準：急性期一般入院料 1 7：1
夜間看護体制加算 12：1
急性期看護補助体制加算 25：1
看護体制：二交代制（夜勤時間16時間）
看護方式：固定チームナーシング（ペアナース制）
受け持ち制

4. 看護職員数（2023年3月31日現在）

看護師・助産師・准看護師：350名
看護補助者：34名

5. 研修参加状況

- 1) 院内研修（別表）
- 2) 院外研修（別表）
- 3) 論文発表 3題 学会発表 15題

6. 看護基礎教育、認定・専門看護師実習受け入れ状況

- ・甲南女子大学；慢性期、母性
- ・森之宮医療大学；成人I急性期、老年、母性、主題I
- ・関西医療大学；慢性期、母性
- ・四條畷学園大学；母性
- ・南大阪看護専門学校（3年課程）；小児

- ・大阪医専（3年課程）；成人Ⅰ急性期、成人Ⅱリハビリ期、成人Ⅲ慢性期、老年Ⅱ、小児、統合
- ・大阪保健福祉専門学校（3年課程）；成人Ⅰ慢性期、母性
- ・大阪府病院協会看護専門学校（3年課程）；成人Ⅲ慢性期Ⅱ、母性
- ・日本看護協会（神戸）認定看護師教育課程；がん薬物療法看護課程
- ・日本看護協会（神戸）認定看護管理者教育課程；サードレベル

7. 看護フェア

前年度に引き続きCOVID-19感染拡大防止措置として、デジタルサイネージによる当院の看護のPRを行った。

9. 病棟、外来の状況

2023.3.31.現在

	定床	2022年度 平均患者数	平均病床稼働率	平均在院日数	看護師配置数 内（ ）パート	入院基本料1（7：1）	
						平日日勤配置	夜勤配置（12：1）
7階	41	36	87.5	5.5	29	12～14	4
8階	44	38	86.1	7.5	27	12～13	3～4
9階	43	38	87.8	16.2	26	12～13	3～4
10階 ※COVID-19専用運用含む	42	16	39.0	13.5	26	11～13	3～4
11階	43	38	88.6	15.5	27	12～13	3～4
12階	44	37	85.1	14.7	24	12～13	3～4
13階	43	35	81.8	9.4	28 (1)	15～16	3～4
14階	42	36	86.1	11.5	28	12～13	3～4
ハイケアユニット 看護配置（4：1）	8	4	46.4	19.9	22	6	3
外来救急診療センター	-	-	-	-	61 (14)		
手術室	7室	-	-	-	24 (1)		
計	350	278.4	79.6	10.3	322(16)		

10. 委員会活動

1) 教育委員会 大和 由紀子

〈目標〉

- ①臨床に活かせる研修企画を作成する。
- ②けんすいチームと連携し、OJTを推進する。
- ③研修実施後に研修評価を確認し、次年度の研修企画を考える。

〈活動報告〉

- ①研修企画を行い、実施と評価を行った。新型コロナウイルス感染症により、延期や中止した研修はあったが、概ね実施することができた。（中止した研修は、4年目の院内留学。延期した研修は、新人リスク対策、2年目人工呼吸器装着中の看護、5年目急変時シミュレーション研修）臨床に活かせたかどうかの評価をすることは難

8. 日本生命病院地域連携看護セミナー

第11回 2022年6月24日（参加者64名）

「糖尿病患者を守る自己注射の観察ポイント
～明日から患者さんと一緒に確認したくなる3つのこと～」

糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子

第12回 2022年12月16日（参加者61名）

「おだやかな看取りのために大切にしていること」

緩和ケア認定看護師 土井美奈子

第13回 2023年3月24日（参加者115名）

「バイタルサインで見極める！～今すぐ救急受診？
それとも明日の診察？～」

救急看護認定看護師 牧田佐知子

しいが、研修中の研修生の発言が臨床での経験に基づく意見や質問であり、研修内容は妥当であったと考える。

- ②けんすいチームと連携し、各部署でのOJTの進捗状況や状況の確認を行った。
- ③研修実施後の評価に基づき次年度の研修企画を行った。その他には看護研究計画書発表会、看護研究発表会の開催、CVポートのロックと抜針の講習を行った。

2) 看護記録委員会 高崎 かおり

〈目標〉

- ①アセスメントのために収集した情報を記載することが出来る
- ②行った看護がわかる看護記録ができる
- ③外来から退院までの看護過程の見える記録がで

きる

〈活動報告〉

- ①毎月の委員会の中で入院診療計画書や日々の記録を振り返り、適切に情報が記載できているか看護記録監査をし、今年度の監査率は83%であった。その中で、抜けやすい項目を洗い出しスタッフへの指導を行った。
- ②1ヶ月1症例担当部署を決め症例検討・監査用紙を使用した質的監査を行った。入院から退院・転院時要約を作成した症例や長期入院患者の看護計画、看護記録について監査し、評価方法を共有した。
- ③退院・転院時看護要約の外来との連携方法について1病棟で紙運用から電子カルテを使った連絡をモデルケースとして運用したが課題が残り今後、他の方法を検討していく

3) 基準・手順委員会 神谷 香里

〈目標〉

- ①看護業務基準・手順の追加、修正をする。
- ②インシデント事例より手順の妥当性を検討する。
- ③ナーシングメソッドの活用を推進する。
- ④クリニカルパス委員と協働しクリニカルパスの見直しと新規作成を支援する。

〈活動報告〉

- ①「同種造血幹細胞移植」の基準及び手順を新たに作成した。
- ②インシデント事例の振り返りで「経口与薬」「転倒予防具」の手順を新設、「ペン型インスリン注射」「血液培養」の手順の修正を行った。
- ③ナーシングメソッドの視聴を定着させるために、新人研修の内容に合わせて視聴テーマを選択し、部署全体で視聴する機会を作った。
- ④クリニカルパスについては各部署、科での対応となっていたため、委員会としての活動はなかった。

4) 広報委員会 森蘭 祐子

〈目標〉

- ①認定・専門看護師と連携し、地域のニーズに応じた地域連携看護セミナーや看護フェアを企画・運営・評価をする。
- ②社会情勢や学生のニーズに合わせた就職説明会、病院見学会の企画・運営と評価をする。

〈活動報告〉

- ①今年度もCOVID-19感染症の影響で看護フェアは認定・専門看護師と連携しデジタルサイネージを使用して6月に2週間掲示を行った。外来に来られた方からの直接的な反応を得ることはできなかったが、足を止めて見て頂いている方もおられた。
- ②地域連携看護セミナーは3回開催した。(詳細は9. 日本生命病院地域連携看護セミナー参照) いずれも、ハイブリッド形式で実施した。研修

後のアンケート結果では、参加者の7～8割が日常業務に活用できる、満足のいくものであったとの回答が得られた。

- ③「NISSAY NURSE TIMES」は、5月に地域連携看護セミナーの開催報告、8月に新しいスタッフの紹介、9月に摂食・嚥下障害看護認定看護師の活動紹介、1月に新ユニフォームの紹介、2月に認知症看護認定看護師の活動紹介、3月に緩和ケア認定看護師から緩和ケアに関するトピックスとがん薬物療法看護認定看護師の紹介を行った。
- ④病院見学会に使用するパワーポイントの修正とコロナ禍で実際に病棟見学を行えない状況であったため、それに代わる動画を作成し、1月21日、3月4日、3月25日、4月8日の計4回実施した。参加人数は合計62名であり、当日は2～5年目の病棟看護師が質疑応答に対応した。学生の反応は実際に勤務しているスタッフに話しを聞いたり動画で職場の雰囲気を見たりしたことでイメージでき、良い印象を持ってくれたようであった。
- ⑤2月5日に開催されたマイナビ主催の合同就職説明会に参加し、病院の概要や看護部の紹介を行った。139名の学生が当院の説明に参加した。

11. 業績

論文・著書

- 1. 長瀬亜岐：第1章若年性認知症をとりまく実情 4. 若年性認知症の家族・支援者に行った訪問調査から、認知症plusシリーズ認知症plus 若年性認知症-多職種協働で取り組む生活支援, 山川みやえ・繁信和江・長瀬亜岐・竹屋 泰, 初版, 2022年, 日本看護協会出版会, 東京

2022年度 看護部継続教育実績(院内)

研修会名	年月	内容	講師	参加者数
1年目 研修	2022年4月	医療職としての接遇・マナー	あったかサポートセンター 西岡	32
	2022年4月	防災、非常時・緊急時の対応	統括師長 島津 総務人事G 阪本	32
	2022年4月	看護部理念・目標、看護部の組織、看護職の責任と役割、職業倫理、看護サービス	看護部長 高島	32
	2022年4月	医療安全管理体制と安全管理の技術	医療安全管理者 阿部	32
	2022年4月	クリニカルパスの基本	クリニカルパス委員	32
	2022年4月	安全な薬剤管理	薬剤部部長 足立	32
	2022年4月	薬剤・放射線暴露防止	がん化学療法看護認定看護師 玉井 放射線科 技師長 長澤	32
	2022年4月	「院内感染対策指針」 「標準予防策：演習」 感染経路別予防策	感染対策室 副室長 ICTリンク ナース 大野	32
	2022年4月	看護部の教育体制について 新人年間教育について	教育担当 師長 田畑	32
	2022年4月	看護記録	記録委員 神谷	32
	2022年4月	コミュニケーション	11階病棟 次席師長 柱本	32
	2022年4月	自然排泄への援助	10階病棟 次席師長 戸田	32
	2022年4月	安全・確実な与薬の方法	12階病棟 次席師長 秦	32
	2022年4月	安心・安全な採血	外来次席 師長 野口	32
	2022年4月	安心・安全な注射	11階病棟 次席師長 岡部 救急看護 認定看護師 牧田	32
	2022年4月	褥瘡予防・スキンケア	皮膚・排泄 ケア認定 看護師 田中 岩崎	32
	2022年4月	呼吸ケア	10階病棟 次席師長 宮田 外来次席 師長 新部	32

研修会名	年月	内容	講師	参加者数
1年目 研修	2022年4月	輸液ポンプ・シリンジ ポンプ	臨床工学室 岡崎	32
	2022年4月	ポジショニング・移動・移送・体位変換	リハビリテーション室 田中 藤岡	32
	2022年5月	フィジカルアセスメントの基礎	救急看護認定看護師 牧田	32
	2022年5月	抗菌薬・抗ウイルス薬の理解	薬剤部 池田	32
	2022年5月	失禁ケア	皮膚・排泄 ケア認定 看護師 田中	32
	2022年6月	導尿・膀胱留置カテーテル	13階看護師 吉岡	32
	2022年6月	ヒューマンエラー	医療安全管理者 賀戸	32
	2022年6月	輸血時の看護	9階病棟 次席師長 伊勢	32
	2022年6月	ストレス・マネジメント・リラクゼーション方法	精神科臨床 心理師 丸山	32
	2022年7月	心電図の装着、見方、アラーム時の対応	14階病棟 次席師長 源	32
	2022年7月	BLS	救急看護認定看護師 牧田	32
	2022年7月	輸液療法に必要な薬剤の知識	薬剤部 神原	32
	2022年7月	糖尿病ケア・インスリン療法と看護	糖尿病看護認定看護師 角南	32
	2022年7月	重症度、医療・看護必要度	11階病棟 次席師長 柱本	31
	2022年7月	認知症看護の基本	認知症看護認定看護師 井上	31
	2022年7月	緩和ケア	緩和ケア認定看護師 土井	31
	2022年7月	麻薬の取り扱いと主作用・副作用	薬剤部 宮原	31
	2022年9月	食を考える	摂食・嚥下認定看護師 森山	30
	2022年9月	看取りのケア	緩和ケア認定看護師 土井	30
	2022年9月	リフレッシュ研修	看護部 教育委員	31
2022年10月	恐れずに多重課題に取り組み	看護部 教育委員	30	

研修会名	年月	内容	講師	参加者数	
1年目研修	2022年12月	リスク対策（転倒転落・DVT・せん妄予防）	13階看護師長石井 手術看護認定看護師二井 認知症看護認定看護師井上	30	
	2022年12月	臨床倫理Ⅰ 看護師としての意思決定	がん性疼痛認定看護師小山	30	
	2023年2月	自分の心に残った看護場面	看護部現任教育委員	30	
2年目研修	2022年5月	フォローアップ	13階病棟次席師長石井	22	
	2022年5月	事例の書き方	10階看護師宇垣	22	
	2022年5月	IVナース認定研修	看護部教育委員	22	
	2022年6月	心電図を理解する	12階病棟次席師長源	21	
	2022年6月	フィジカルアセスメント（4つのショックISBARC）	救急看護認定看護師牧田	21	
	2022年7月	皮膚排泄ケアⅡ	皮膚排泄ケア看護認定看護師岩崎	21	
	2022年7月	インシデント事例から考えよう	12階看護師長下山	21	
	2022年9月	看護過程・病態理解を深める	13階看護師長石井	22	
	2022年10月	臨床倫理Ⅱ	がん性疼痛認定看護師小山	21	
	2023年1月	人工呼吸器装着中の患者の看護	臨床工学室岡崎 集中治療室次席師長赤地	20	
	2023年2月	事例発表会	看護部教育委員	20	
	3年目研修	2022年6月	リーダーシップ研修	統括師長島津	24
		2022年6月	質の高いレポートを書こう	老年看護専門看護師長瀬	24
2022年6月		チーム医療を学ぶ（入退院支援）	MSW副部長本家 訪問看護ST師長丸山 退院支援看護師湯阪	23	
2022年8月		訪問看護研修	ニッセイ訪問看護ステーション看護師	24	

研修会名	年月	内容	講師	参加者数
3年目研修	2022年10月	急変に強くなろう!	救急看護認定看護師牧田	24
	2022年11月	臨床倫理Ⅲ	がん性疼痛看護認定看護師小山	24
	2023年1月	事例発表会	看護部教育委員	22
4年目研修	2022年6月	事例の書き方（リフレクション）	9階病棟師長篠部	23
	2022年7月	アサーションで看護業務を円滑に	8階病棟師長大和	20
	2022年8月	キャリアデザイン	8階病棟師長大和	21
	2022年9月	臨床倫理Ⅳ	がん性疼痛看護認定看護師小山	21
	2022年11月	急変時シュミレーション	救急看護認定看護師牧田	21
	2022年12月	事例発表会	看護部教育委員	19
	5年目研修	2022年5月	より良いケアの見つけ方	8階病棟師長大和
2022年6月		臨床倫理Ⅴ	がん性疼痛看護認定看護師小山	17
2022年11月		急変時シュミレーション	救急看護認定看護師牧田	15
2022年11月		事例発表会	看護部現任教育委員	12
サポートナース研修		2022年4月	新人看護職員研修制度と新人サポート体制の考え方	看護部教育委員
	2022年8月	コーチングとファシリテーション	11階病棟次席師長柱本	4
	2022年9月	サポートナース会	看護部現任教育委員	6
臨地実習指導者研修	2022年6月	指導者ってなんだろう、自分を見直してみよう	14階病棟次席師長宇壁	11
	2022年7月	現代の看護学生の気質とコミュニケーション事例を通して効果的な指導を考える	11階看護師林	11
	2023年3月	看護学生との関わりを通しての学び	看護部教育委員	10
管理者研修	2022年12月	新任看護管理者研修Ⅰ～基礎知識編～	看護部長二艘舟	21
	2023年1月	新任看護管理者研修Ⅱ	看護部長二艘舟	14

2022年度 看護部教育実績(院外)

主催	研修テーマ	部署	氏名	研修期間
全日本病院協会主催	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	12階	下山優子	8月17日
全日本病院協会主催	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	外来	高崎かおり	8月17日
全日本病院協会主催	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	8階	大和由紀子	8月22日
全日本病院協会主催	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	9階	篠部 郁	8月22日
全日本病院協会主催	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	11階	森蘭祐子	8月22日
全日本病院協会主催	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	13階	石井広美	2月22日
全日本病院協会主催	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	7階	依田恵美	2月27日
日本臨床看護マネジメント学会	'22「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修6,512	7階	依田恵美	8月31日
日本臨床看護マネジメン学会	'22「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修6,512	12階	下山優子	8月31日
大阪府看護協会	大阪市看護職員認知症対応力向上研修	7階	角扶希子	11月12日
大阪府看護協会	大阪市看護職員認知症対応力向上研修	10階	宇垣政江	11月12日
大阪府看護協会	大阪市看護職員認知症対応力向上研修	11階	合田全司	11月12日
大阪府看護協会	大阪市看護職員認知症対応力向上研修	13階	上村優子	11月12日
大阪府看護協会	大阪市看護職員認知症対応力向上研修	外来	野口夕香子	11月12日
大阪市	大阪市看護職員認知症対応力向上研修	11階	前田歩美	3月15日
大阪市	大阪市看護職員認知症対応力向上研修	13階	石井広美	3月15日
大阪市	大阪市看護職員認知症対応力向上研修	13階	吉岡真菜	3月15日
大阪府看護協会	eラーニング活用型医療安全管理者養成研修	11階	森蘭祐子	12月8日

主催	研修テーマ	部署	氏名	研修期間
大阪府看護協会	2022年度 セカンドレベルサードレベルフォローアップ研修	管理室	島津庸子	2月5日
大阪府看護協会	2022年度 セカンドレベルサードレベルフォローアップ研修	外来	高崎かおり	2月5日
管理者	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	7階	依田恵美	12月6日～1月31日
管理者	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	救急外来	牧田佐和子	12月6日～1月31日
管理者	認定看護管理者教育課程セカンドレベル	14階	神谷香里	5月31日～8月10日
管理者	認定看護管理者教育課程セカンドレベル	外来	高崎かおり	8月30日～11月9日
指導者	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	9階	一川万里也	5月24日～7月5日
指導者	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	7階	有村真裕美	1月6日～2月16日

国 際 室

スタッフ 室 長：前田俊哉（事務局長兼事務管理部長兼任）
副 室 長：陶 彬毅（国際医療コーディネーター）
中国語医療通訳：飯田 香（常勤）、倉員郁絵（非常勤）

概要：

在日・訪日外国人の増加に伴い、言語の壁を無くし、日本語の不自由な患者さんが安全・安心な医療を受けられるように、2017年から非常勤中国語医療通訳を採用、中国語のサポートを開始した。更に、2019年4月から国際医療コーディネーターを配置するなど対応体制を充実し、中国語と英語のサポートを開始した。同年5月には、「大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関」に選定され、対応患者数が増加してきたため、医療の国際化への対応を推進すべく、同年10月に国際室を新設した。

2022年12月に遠隔通訳を導入し、対応言語は中国語と英語以外、韓国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語の7言語に拡大した。

2023年2月には、外国人患者受入れに適した医療機関として「ジャパンインターナショナルホスピタルズ（JIH）」推奨病院の更新を受審し、同年4月に認証された。

1. 業務内容

1) 言語サポート

日本語の不自由な患者さんが受診する際に、言語サポートを行っている。

①対面通訳

原則として、外来診療日の診療時間内では、中国語と英語の対面通訳が対応できる体制を整えている。

②ビデオ通訳

中国語・英語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語（24時間365日）
ベトナム語・ネパール語（平日9：00～17：30）

③電話通訳

英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語・タイ語・ロシア語・フランス語・タガログ語・インドネシア語・ドイツ語・イタリア語・マレー語・クメール語・ミャンマー語・モンゴル語・シンハラ語・ヒンディー語・ベンガル語の21言語（24時間365日）

④その他のツールの活用

- ・各現場に合わせ、オリジナルのコミュニケーションツール（指差しボード）を作成・活用している。
- ・通訳のニーズが高い部署には翻訳機器（ポケットク、74言語対応）を配置し、簡単なコミュニケーションが現場で取れるようにしている。

2) 医療の国際化に対応する院内体制の整備

院内表示や院内書類の多言語化など、日本語の不自由な患者さんがスムーズに受入れられる環境を整備している。

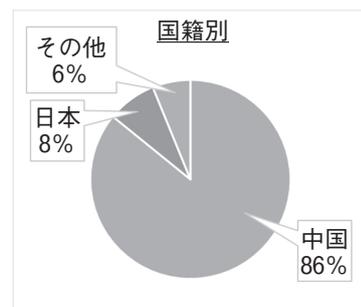
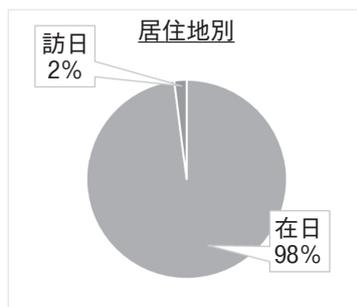
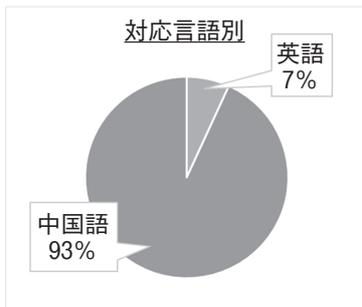
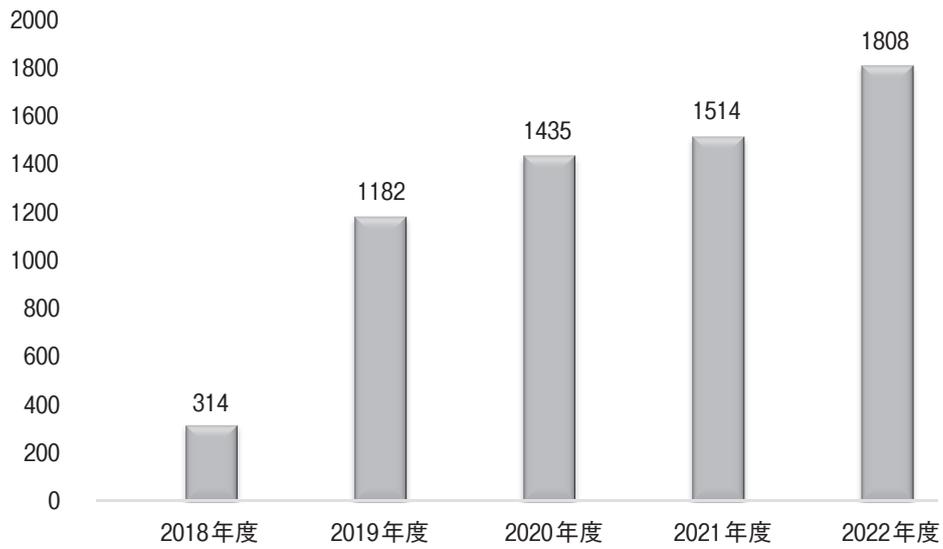
3) 国際関係の連絡窓口

日本語・中国語・英語での診療問合せ等（電話・メール）に対応している。

2. 業務実績

2022年度、国際室が対応したLJP患者の延べ件数は1,808件となり、コロナ禍でも過去最高となった。

年度別対応件数推移



ニッセイ予防医学センター

スタッフ センター長：栗波仁美

副センター長：大山摩佐子

常勤医師：泉由紀子、浅野彰彦、梅下光子、松島希、吉田好機、笠山宗正（名誉院長）、
中村秀次（顧問）、三木俊治、住谷哲

1. 2022年の概要

予防医学センターは2018年4月30日に新築開院した日本生命病院に移転後、人間ドックおよび定期健診受診者数は増加傾向にあったが、2019年に始まったコロナ禍により受診者数は減少、2021年の人間ドック受診者総数は13,409名、定期健診受診者も22,754名であった。

しかし2022年は、コロナ感染拡大期の第7波、第8波があったにもかかわらず、人間ドック受診者総数は13,841名と前年を上回る結果となった。なお定期健診受診者は巡回健診数を絞った結果21,050に止まった（表1）。

健診の質および快適な受診環境の維持・向上を目指して、専門医師による診察、内視鏡検査、読影、診断、およびダブルチェック体制を維持し、看護師による専門的なケア、保健師による指導、放射線技師、臨床検査技師による専門的検査を行うようにしている。また人間ドックの午前3診体制を平日毎日実施するとともに、午後の診察も平日毎日実施し、受診者ニーズに応えるよう取り組んだ。上部消化管内視鏡検査は消化器内視鏡センターと緊密に連携しながら対応し、火曜日午後にも検査を行える体制を組んだことから4,366件となった。当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科検診を平日毎日実施するとともに、レディースデイを月2回、2診体制としている。こうした取組みにより、2022年度の受診者リピート率は人間ドック全体で84.8%と2021年を上回った。メンタルヘルスサポート事業では、産業医受託企業を中心に37社、1万名弱のストレスチェックを実施し、そのうち17社で集団分析を実施し報告した。精神科医師、公認心理師によるコンサルテーションも実施し、メンタルサポート体制をより充実させ、産業医も含めてストレスチェックの実績は着実に積みあがっている。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として19施設、入所者854名を対象として無料健診を継続実施した。また、8月に行ってきた母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を2022年度も実施した。

日本生命と共同で開発し最新の情報通信技術を活用して遠隔指導を行う「糖尿病予防プログラム」に加え、2021年度からは「血糖変動チェックプラン」の提供を開始している。日本生命職員や地方自治体職員等を対象に実施し指導結果が判明している団体データでは体重や血糖値などで着実な改善が認められた。

2022年度人間ドック受診者の解析結果を以下に示す。人間ドック受診者の要治療率、要精密検査率は総計で

13.0%、48.8%であり、昨年度とほぼ同率であった。年代別、性別の要治療（D1）率、要精密検査（D2）率を表2に示す。要治療率は、男性は40～50歳未満が高く、女性は50～60歳未満が高い。要精密検査率では、男性は40歳未満では39.0%だが、50歳未満は41.0%、50歳以上では50.7%、60歳以上で62.1%と年齢とともに増加傾向がみられた。女性の要精密検査率については、40歳未満は37.3%で、やはり年齢とともに上昇して60歳以上では53.6%であった。要治療（治療中を含む）、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。要治療では、男性はTop5すべてが今年度も生活習慣病であり、1～5位まで昨年と同じであった。1位は高血圧で26.2%、2位は高コレステロール血症で19.8%、3位は高中性脂肪15.1%であった。4位は糖尿病で10.9%、5位は高尿酸血症で10.4%であった。女性も1～5位まで昨年と全く同じであった。高尿酸血症が女性では少なく男性で多いのは飲酒の影響と考えられた。また、女性で認められる血液疾患は貧血が多いことがその要因と考えられた。要精密検査では、眼科疾患が男女とも1位でそれぞれ31.1%、19.9%であった。男性では肝機能疾患が2位で15.8%、3位が腎・尿路疾患、4位は肛門・大腸疾患、5位が心電図異常であった。女性では昨年同様で婦人科疾患が2位、3位が腎・尿路疾患、4位が乳房疾患、肝機能疾患が5位であった。

D1、D2判定者で日本生命病院各診療科に紹介した人間ドック受診者の内訳を表4に示す。各専門診療科の協力によりコロナ禍においても病院の受診者数は1,467名おり、眼科、消化器内科、内分泌・代謝内科、産婦人科、予防診療科、乳腺外科が上位を占めた。精密検査の確実な実施を含めたD1、D2フォロー体制を強化するため、1か月後フォローの実施と3か月フォローの複数回勧奨を定着させ、人間ドック診察説明時の対応も工夫し、要治療要精検者の病院受診率の向上に努めている。

表1 定期健康診断・人間ドック受診者数(運営会議資料抜粋)

	2022年度	対前年	備考
	名	%	
定期健康診断	21,050	93%	
人間ドック (日帰り)	7,444	104%	標準コースの 人間ドック
人間ドック (生活習慣病)	6,330	104%	協会けんぽなどの 簡易ドック
専門ドック (脳・肺ドック)	67	62%	
人間ドック 合計	13,841	103%	

表2 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療と要精密検査の頻度

	要治療 (D1)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	6.8%	21	7.5%	28	7.2%	49
40-49歳	15.4%	120	14.8%	151	15.1%	271
50-59歳	13.5%	182	15.1%	205	14.3%	387
60歳以上	11.5%	108	10.9%	79	11.2%	187
総計	12.8%	431	13.3%	463	13.0%	894

	要精密検査 (D2)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	39.0%	120	37.3%	140	38.1%	260
40-49歳	41.0%	320	42.5%	433	41.9%	753
50-59歳	50.7%	683	49.7%	676	50.2%	1,359
60歳以上	62.1%	584	53.6%	389	58.4%	973
総計	50.6%	1,707	47.1%	1,638	48.8%	3,345

※健診システム(タック)より日帰り人間ドックコースのみ、判定D1(要治療)、D2(要精密検査)を抽出
 %は年齢別要治療・要精密検査数/年齢別全受診者数*100
 総計の%は性別総計数/全受診者数*100

表3 性別による要治療(治療中含)・要精密検査の上位5項目(日帰り人間ドック受診者)

NO	男性			NO	男性		
	要治療(D1)	%	人数		要精密検査(D2)	%	人数
1	高血圧	26.2%	885	1	眼科疾患	31.1%	1,047
2	高コレステロール血症	19.8%	669	2	肝機能疾患	15.8%	535
3	高中性脂肪血症	15.1%	510	3	腎・尿路疾患	6.5%	218
4	糖尿病	10.9%	368	4	肛門・大腸疾患	5.0%	164
5	高尿酸	10.4%	351	5	心電図	4.5%	151

NO	女性			NO	女性		
	要治療(D1)	%	人数		要精密検査(D2)	%	人数
1	高コレステロール血症	16.4%	569	1	眼科疾患	19.9%	688
2	高血圧	11.6%	402	2	婦人科疾患	13.3%	343
3	高中性脂肪血症	9.8%	338	3	腎・尿路疾患	6.2%	214
4	眼科疾患	5.0%	174	4	乳房疾患	6.8%	195
5	血液疾患	4.0%	140	5	肝機能疾患	5.3%	185

※各検査項目の数値・判定より抽出(センター医師による判断)
 要治療・要精密検査項目は治療中Eを含む
 %は各検査要治療数/各検査受診者数*100 %は各検査要精密検査数/各検査受診者数*100

表4 要治療・要精密検査判定者の日本生命病院への紹介(運営会議資料より抜粋)

総数	1,467人	
眼科	410人	呼吸器・免疫内科 70人
消化器内科	341人	腎臓内科 30人
内視鏡センター	5人	泌尿器科 19人
内分泌・代謝内科	203人	脳神経外科 12人
産婦人科	133人	耳鼻咽喉科 1人
予防診療科	96人	
乳腺外科	74人	
循環器内科	73人	

表5 2022年度 人間ドック・協会けんぽリポート率

	前年リポート数	リポート率
人間ドック(日帰り)	6,313	84.8%
協会けんぽ(生活習慣病)	5,469	86.4%

※リポート率は前年リポート数/人間ドック(協会けんぽ)総受診者数*100

1. 日本生命病院医学セミナーUpdate

開催月日	テ ー マ	講 師		参加人数
2022年5月13日	「人工関節の進歩」	整形外科部長	西原 俊作	69名
2022年6月3日	「喘息の診断と治療」	呼吸器・免疫内科部長	井原 祥一	82名
2022年7月8日	「新生児医療と虐待」	小児科副部長	三浦 夕子	82名
2022年9月2日	「IRって?～日本生命病院におけるIR～」	放射線診断・IVR科	合田 晴一	61名
2022年10月7日	「乾癬とアトピー性皮膚炎診療の進歩」	皮膚科副部長	林 美沙	68名
2022年11月4日	「ジェネリック医薬品・バイオシミラーを取り巻く環境と今後」	薬剤部部長	足立 充司	45名
2022年12月2日	「肺癌と高精度放射線治療」	放射線治療科部長代行	丸岡真太郎	60名
2023年1月6日	「治りにくい創傷（慢性創傷）への局所アプローチ～創傷領域における特定行為の実際～」	皮膚・排泄ケア認定看護師	田中 敬子	49名
2023年2月3日	「脊椎関節（SpA:Spondyloarthritis）および掌蹠膿疱症性関節炎について」	リハビリテーション科部長兼整形外科副部長（部長待遇）	辻 成佳	69名

2. 1年目研修医オリエンテーション

日程	時間	場所	研修内容	担当
4月3日(月)	8:30~8:45	5階 大会議室2	辞令交付	総務人事G
	8:45~9:00	5階 大会議室1	大会議室1 設営	総務人事G
	9:00~10:05		研修医の就業規則、入会書類説明、その他 ①	総務人事G
	10:05~10:20		写真撮影	総務人事G
	10:20~11:05		研修医の就業規則、入会書類説明、その他 ②	総務人事G
	11:05~11:20		ロッカー案内	総務人事G
	11:20~12:00		勤務管理システム	総務人事G
	13:00~	1階 あったかふれあいホール	入会式・オリエンテーション	
	14:00~16:30		社会・地域に求められる当院の役割と機能 済生会におけるリスク管理・個人情報保護など に関わるマニュアル、他 就業規則・手続き	事務長 事務担当者 総務人事G
	16:30~17:10	5階 大会議室1	研修プログラム説明・4月オリエンテーション 説明・ローテーション作り方	臨床研修部長
17:15~18:15	1階 あったかふれあいホール	進発式	総合企画部・総務人事G	
4月4日(火)	8:30~9:50	1階 あったかふれあいホール	医療職としての接遇・マナー	あったかサポートセンター
	10:00~11:10		当院のネットワークシステムと電子カルテシステムの概要、サイボウズの使い方とマナー	情報システムG
	11:20~12:00		個人情報保護、著作権、SNSについて	総合企画部
	13:00~13:20		防犯・防災・非常時・緊急時の対応	総務人事G
	14:30~16:00		各職種への関連部署案内	部署所属長
	16:00~17:00		関連部署案内後の意見交換会	看護部教育委員会
4月5日(水)	8:30~17:00	1階 あったかふれあいホール	院内感染対策	感染対策室/看護部
4月6日(木)	9:00~9:50	5階 会議室2	レセプト、医療費など	医事サービス部
	9:50~10:30		リハビリり依頼について	リハビリテーション室
	10:30~	3階 予防医学センター	健康診断(女)	予防医学センター
	15:00~15:50	5階 会議室2	医療倫理：ヘルシンキ宣言、リスボン宣言 (人間の尊厳、守秘義務、倫理的ジレンマ、利益相反、ハラスメント、不法行為の防止 等)	臨床研修部
4月7日(金)	8:30~9:30	1階 あったかふれあいホール	医療安全について	医療安全対策室
	9:40~12:30		チーム医療について	看護部教育委員会
	13:30~14:30		安全な薬剤管理	薬剤部
	14:40~15:40		放射線暴露防止	放射線科
	15:50~17:00		薬剤暴露防止	がん化学療法認定看護師
4月10日(月)	9:00~9:50	5階 大会議室2	栄養指導	栄養管理室
	10:30~	3階 予防医学センター	健康診断(男)	予防医学センター
	13:00~13:50	5階 大会議室2	薬剤処方	薬剤部
	14:00~14:50		退院支援・医療福祉相談・地域包括ケア	医療福祉相談G
	15:00~15:50	5階 会議室3	インフォームド・コンセント	臨床研修部
	16:00~17:00		時間外診療について	臨床研修部
4月11日(火)	9:30~10:20	5階 会議室2	抗菌薬適正使用	感染対策委員会
	10:30~12:00	1階 あったかふれあいホール	臨床倫理 I	小山がん性疼痛看護認定看護師
	13:00~17:00		静脈採血法と血糖測定	看護部次席師長
4月12日(水)	8:30~12:00	1階 あったかふれあいホール	注射法(筋肉・皮下・静脈内)	看護部次席師長、 牧田救急認定看護師
	13:00~13:30	4階 中央臨床検査部	生化学・免疫学・血液学、輸血検査	中央臨床検査部
	13:30~14:00		剖検、CPC	病理診断科
	14:00~17:00		血液ガス分析	中央臨床検査部
生理学検査(心電図) 腹部・心エコー検査 微生物(グラム染色)、病理検査				
4月13日(木)	9:00~10:00	5階 大会議室1	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療情報管理室
	10:10~10:50		病診連携	あったかサポートセンター
	11:00~12:10		電子カルテ基本操作	情報システムG
	14:00~14:50		造影CT検査	放射線・IVR科
	15:00~15:50		救急診療	救急総合診療科
	16:00~17:00	1階 あったかふれあいホール	死亡診断書、その他	臨床研修部
4月14日(金)	8:30~17:00	1階 あったかふれあいホール	親睦を深める研修	看護部教育委員会
4月21日(金)	16:00~17:00	5階 技術トレーニング室	皮膚縫合	消化器外科

3. 実習生等受け入れ

部門	学校名	期間	人数
呼吸器・免疫内科	大阪大学(4・5年次)	2022.5.9～2022.5.20	1名
		2023.1.30～2023.2.10	1名
		2023.2.13～2023.2.24	1名
血液・化学療法内科		2022.6.20～2022.7.1	2名
泌尿器科	大阪大学(6年次)	2022.6.27～2022.7.1	1名
呼吸器内科		2022.9.26～2022.10.7	1名
神経科・精神科		2022.6.27～2022.6.30	2名
血液・化学療法内科		2022.9.26～2022.10.7	2名
循環器内科	兵庫医科大学(6年次)	2022.5.9～2022.6.3	1名
血液・化学療法内科	兵庫医科大学(5年次)	2023.3.13～2023.3.24	1名
産婦人科	神戸大学(6年次)	2022.7.4～2022.7.15	1名
消化器内科		2023.2.6～2023.3.3	2名
循環器内科	大阪医科薬科大学	2022.4.4～2022.4.28	2名
		2022.6.6～2022.7.1	1名
		2023.2.6～2023.3.3	2名
		2022.3.6～2023.3.31	2名
救急総合診療科	大阪市消防局(救急救命士)	2023.1.12～2023.1.31	1名
薬剤部	大阪大谷大学	2022.8.22～2022.11.6	2名
	近畿大学	2022.5.23～2022.8.7	2名
	武庫川女子大学	2022.5.23～2022.8.7	1名
		2022.8.22～2022.11.6	1名
	2022.11.21～2023.2.12	2名	
	神戸学院大学	2022.5.23～2022.8.7	1名
	京都薬科大学	2022.11.21～2023.2.12	1名
2022.8.22～2022.11.6	1名		
中央臨床検査部	大阪医療技術専門学校	2022.6.23～2022.9.9	3名
	関西医療大学臨床検査学科	2022.9.26～2022.12.2	1名
	森ノ宮医療大学保健医療学部	2022.10.3～2022.11.30	2名
中央放射線部	森ノ宮医療大学	2023.1.16～2023.3.15	2名
	大阪物療大学	2022.9.26～2022.12.12	2名
	大阪行岡医療専門学校	2022.6.1～2022.6.30	2名
		2022.6.1～2022.9.30	1名
		2022.6.1～2022.10.31	2名
		2022.7.1～2022.7.29	2名
		2022.7.1～2022.10.31	1名
2022.10.3～2022.12.12	2名		
栄養管理室	甲子園大学	2022.9.5～2022.9.16	2名
	相愛大学	2022.11.7～2022.11.18	2名
リハビリテーション室	宝塚医療大学	2021.5.17～2021.6.27	1名
	森ノ宮医療大学作業療法科	2021.5.10～2021.6.4	1名
	森ノ宮医療大学	2023.2.6～2023.2.10	1名
	大阪医専	2022.10.3～2022.10.29	1名
	藍野大学	2022.11.7～2022.12.3	1名
	大阪リハビリテーション専門学校	2022.4.4～2022.4.22	1名
	宝塚医療大学	2022.5.16～2022.6.24	1名
		2023.1.30～2023.2.26	1名
関西医療学園専門学校理学療法学科	2023.2.20～2023.3.10	1名	

部門	学校名	期間	人数	
ニッセイ訪問看護ステーション	国立病院大阪医療センター	2022.6.27、2022.7.4、2022.7.21	各日1名	
	福島病院	2022.6.20	1名	
	大阪保健福祉専門学校(通信教育科)	2022.9.8～2022.9.9	2名	
		2022.9.12～2022.9.17	2名	
		2022.9.15～2022.9.16	2名	
		2022.9.26～2022.9.27	2名	
	大阪医専	2022.9.29～2022.9.30	2名	
		2022.5.16～2022.5.26	2名	
		2023.1.10～2023.1.19	2名	
		2023.2.6～2023.2.16	2名	
	2023.2.27～2023.3.9	2名		
	看護部	南大阪看護専門学校	2022.5.9～2022.9.13	102名(合計)
		日本看護協会	2022.11.1～2022.12.2	2名
大阪保健福祉専門学校		2022.6.16～2022.6.23	5名	
		2022.6.28～2022.7.5	5名	
		2022.7.7～2022.7.14	5名	
		2022.8.1～2022.8.8	4名	
		2022.8.12～2022.8.18	4名	
2023.1.11～2023.1.27		5名		
森ノ宮医療大学		2022.5.16～2023.3.3	389名(合計)	
大阪府病院協会看護専門学校		2022.5.30～2022.8.4	120名(合計)	
		2022.10.1～2023.3.3	115名(合計)	
四条畷学園		2023.1.16～2023.1.20	4～5名	
		2023.1.23～2023.1.27	4～5名	
		2023.1.30～2023.2.3	4～5名	
関西医療大学		2021.10.12～2021.10.29	9名	
		2021.11.2～2021.11.5	5名	
		2021.11.16～2021.11.18	4名	
	2021.11.29～2021.12.17	10名		
甲南女子大学	2022.5.24～2022.6.2	7名		
関西医療大学保健医療学部	2022.8.29～2022.12.15	521名(合計)		
関西医療大学保健医療学部	2022.9.20～2022.11.22	234名(合計)		
大阪医専	2022.5.9～2023.3.8	547名(合計)		

4. 講演会・研修会

【院内職員対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
7月12日	2022年度第1回人権研修 「外国人住民の人権課題 日本生命病院の事象を例に考える」 NPO法人 多民族共生人権教育センター 理事兼事務局長 文 公輝（ムンゴンフィ）	総務人事G	あったか ふれあい ホール
10月4日	2022年度第1回医療安全研修 「医療機関に求められる児童虐待への対応と気づきにつな げるために」 小児科 医長 巽 亜子 「機会と安全と私」 臨床工学室 次席技師長 田中 恵介	医療安全管理委員会	あったか ふれあい ホール
10月4日	個人情報保護に関する研修 「個人情報保護に向けた留意点及び漏洩懸念時の対応」 総合企画部 部長 福井 一博	総合企画部	あったか ふれあい ホール
11月10日	ストレスチェックに関する講演（委員会） 「ストレスチェックで自分を知るとどこまでわかる？どう役 立てる？」 神経科・精神科 部長 高橋 励	安全衛生委員会	あったか ふれあい ホール
12月20日	2022年 保険診療講習会	医事サービス部	あったか ふれあい ホール
12月22日	2022年第2回人権研修 「LGBT（性的マイノリティ）について」 大阪企業人権協会 堀井悟	総務人事G	あったか ふれあい ホール
12月5日	医療ガスの安全な取り扱い研修会 ・酸素ボンベの取扱いについて ・医療ガスのヒヤリハット事例 ・医療ガスでの事故事例	医療ガス 安全管理委員会	あったか ふれあい ホール
1月27日	2022年度第2回医療安全研修 1. 「電子カルテの医薬品アレルギーの登録と閲覧方法」 薬剤部 部長 足立充司 2. 「虐待対策チーム 活動報告」 MSW 虐待対策チーム 福庭加奈 3. 「医療安全の観点からチーム医療の「手がかり・足が かり」とは」 講師：大阪医科薬価大学病院 医療安全推進室 室長 新田雅彦	医事サービス部	あったか ふれあい ホール

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
3月6日	<p>I 第42回 看護研究発表会</p> <p>①「挿管チューブ固定器具使用による皮膚損傷発生に関する要因」 ～挿管チューブ固定器具とテープ固定を比べて～ 集中治療室 看護師</p> <p>②「再入院になった慢性心不全患者の事例を通じた指導方法の検討」 14階病棟 看護師</p> <p>③「新型コロナウイルス感染症流行に伴う褥婦の心理状況の変化」 ～第1回緊急事態宣言前後におけるエジンバラ産後うつ病自己評価票の比較～ 7階病棟 看護師</p> <p>④「救急外来受診後に入院せず帰宅する高齢患者への看護実践」 救急総合診療センター 看護師</p> <p>⑤「経乳頭部胆管ドレナージ術を受けた患者の治療への参加を目指して」 8階病棟 看護師</p> <p>⑥「頭頸部放射線治療による口腔内乾燥のある患者の口腔ケア」 ～個別性のある看護介入を目指して～ 9階病棟 看護師</p> <p>⑦「整形外科病棟看護師の下肢整形外科手術後の機能訓練に対する意識調査」 12階病棟 看護師</p> <p>⑧「急性期病棟看護師の経験年数による終末期ケアに対する困難感の違い」 13階病棟 看護師</p> <p>⑨「無麻酔下で体感する二種類の側臥位固定による苦痛とその要因」 中央手術室 看護師</p> <p>II 看護部委員会活動報告会</p>	看護部	5階大会議室
1月11日	<p>認知症ケア加算対象研修会 「脳機能センターの活動と認知症ケア」 講師：芳川特任副院長</p>	脳機能センター	5階大会議室
2月17日	<p>輸血療法講演会 「許容されるABO異型輸血」 血液・化学療法内科 主任部長 川上 学 「日本人の抗A、抗B抗体価について」 大阪府赤十字血液センター 学術情報・供給課 楠見智子 「看護師から見た輸血の注意点」 看護部 9階病棟看護師 氏川 萌子</p>	輸血療法委員会	あったかふれあいホール
2月21日	<p>研修医発表会 2年目研修医臨床研究発表会</p>	臨床研修部	あったかふれあいホール
2月28日	<p>院内感染対策委員会 第47回教育講演会 「血液培養検査について」 中央臨床検査部 微生物検査室 (ICT) 佐古 大輔 「外来の急性気道感染症における経口抗菌薬の適正使用について」 薬剤部 (AST) 池田 久雄</p>	感染対策委員会	あったかふれあいホール
3月2日	<p>1年目研修医症例報告会</p>	臨床研修部	あったかふれあいホール

【医療関係者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
6月24日	第11回日本生命病院地域連携看護セミナー 「糖尿病患者を守る自己注射の観察ポイント～明日から患者さんと一緒に確認したくなる3つのポイント～」 看護部 糖尿病看護認定看護師 角南 ちえ子	看護部	あったかふれあいホール
7月23日	第23回 あわぎフォーラム 病診連携学術講演会 I. 講演会 ①「結核の話」 呼吸器・免疫内科 部長 井原 祥一 ②「下肢痛・歩行困難に対する整形外科の手術加療～人工関節、脊髄手術」 整形外科 部長 西原 俊作 II. 特別講演 「これからの循環器医療の展望：超高齢化社会とDX（デジタルトランスフォーメーション）」 大阪医科薬科大学 内科学講座 内科学Ⅲ教室 教授 星賀 正明先生	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
2月4日	第15回日本生命病院産業医セミナー 「保険指導を通じての生活習慣病予防」 予防医学センター 保健師 阪井 理恵 「産業医のための心不全ステージA/Bにおけるリスク管理」 循環器内科部長 岡部 太一 「高血圧管理からの産業保健」 大阪大学大学院医学系研究内科学講座 老年・総合内科学 教授 樂木 宏美	予防医学センター	あったかふれあいホール

【一般・患者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
4月15日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「認知症やがんの早期発見ができるRI検査って何？」 中央放射線部 藤丸 泰一	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
5月13日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「健康にいい生活習慣～よもやま話～」 特任副院長兼脳神経内科部長 芳川 浩男	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
6月3日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「のぼそう健康寿命～血圧が気になる人のために」 副院長兼腎臓内科部長 宇津 貴	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
7月8日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「サルコペニアって何？～健康寿命を伸ばすための予防策～」 ニッセイ予防医学センター センター長 栗波 仁美	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
9月9日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「よりよい人生を送るための緩和ケアで大切なこと」 看護部 緩和ケア認定看護師 土井 美奈子	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
10月7日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「めまいはどうしたら良いのしょう？ ～すぐに病院に行くべきなのでしょうか？～」 脳神経外科 田村和義	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
11月11日	日本生命病院 いい皮膚の日 講演会 『アトピー性皮膚炎について』 皮膚科医師 佐藤 祥奈 『キズの治し方 ～洗浄しか勝たん～』 形成再建外科医師 北中 涼太郎 『アトピー性皮膚炎のスキンケア』 外来看護師 『爪のケアについて』 病棟看護師 医療・看護相談	皮膚科 あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
11月18日	西区健康セミナー日本生命病院 糖尿病フェア Ⅰ 各種測定・相談 ・血糖値・HbA1c測定 ・血管年齢測定 ・筋肉量・握力測定 ・栄養相談 ・お薬相談 ・簡易医師相談 Ⅱ 医師によるミニセミナー 「「糖尿病」ってどんな病気？」 内分泌・代謝内科 西岡 美保	糖尿病・内分泌 センター あったかサポート センター 看護師 臨床検査技師 理学療法士 管理栄養士 薬剤師 医師	あったか ふれあい ホール
12月9日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「かんたんな、血液と尿検査のみかた」 中央臨床検査部 医療技能部長兼技師長 浅野 正宏	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
1月13日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「白内障とその手術について」 眼科部長 谷井 啓一	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
2月3日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「顔面神経麻痺とリハビリ」 リハビリテーション室 鶴谷 高志	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
2月24日	臨床倫理講習会 「臨床倫理の考え方とアドバンス・ケア・プランニング」 大阪大学 古結 敦士	倫理委員会・ 教育委員会	あったか ふれあい ホール
2月28日	よくわかる健康講座「腎臓をまもろう」 講演会 『慢性腎臓病（CKD）って何ですか？』 腎臓内科 副部長 水本 綾 『腎臓を守るために気をつけることは？』 腎臓内科 医長 光本 憲祐 『腎臓病にはどんな薬がありますか？』 腎臓内科 部長 宇津 貴 『減塩のコツ、教えてください』 栄養管理室 栄養士 坂本 彩弥	皮膚科 あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール

5. 日本生命病院医学賞・医学奨励賞

日本生命病院医学賞

該当者無し

日本生命病院医学奨励賞

所属	氏名	受賞内容
呼吸器・免疫内科	二宮隆介	進行性肺癌に対してPembrolizumab療法中に生じた炎症性胸部大動脈瘤
リハビリテーション室	白川 桂	サルコペニアの摂食嚥下障害が疑われた症例の長期経過およびPhase Angleの経過

6. 地域活動

事業等	出務場所	出務日	講師／出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	1月8日(日) 10:00~17:00	巽 亜子	小児科担当
	中央急病診療所	5月11日(水) 22:00~翌2:00	宇都佳彦	内科担当
		1月20日(金) 22:00~翌2:00	宇都佳彦	内科担当
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	9月26日(月) 13:45~	小泉敏三	
		3月27日(月) 13:45~	小泉敏三	
BCG接種	西区保健福祉センター	隔月第4金曜日 13:15~	三浦夕子	出務月は4・6・8・10・12・2月です
大阪西地域産業保健センター 労働健康相談	西区民センター	8月18日(木) 17:30~19:30	高橋 励	産業医による小規模事業所の労働健康相談
西区医師会 第1回学術講演会 講演2「肝胆膵疾患の外科治療」	リーガロイヤルホテル (WEB配信あり)	5月28日(土) 16:30~18:00	太田英夫	西区医師会主催の学術講演会
講演会 「認知症を理解する」	西区民センター	11月12日(土) 14:00~15:30	鈴木由貴	「認知症等高齢者支援地域連携事業」の市民対象の講演会

7. ボランティアについて

地域に開かれた病院としてボランティアを一般市民から受け入れ、地域との信頼関係を強化し、より一層地域社会に貢献したい。

また、ボランティアは職員と協力し、患者さんが安心して治療を受けられるよう一人一人の患者さんにきめ細かいサービスを提供し、より良い療養環境を作り上げるよう努めていく。

コロナウイルス感染拡大に伴い活動を休止していたが、2022年12月より一部の活動を再開した。

■概要

名 称 「あったかサポートクラブ」

発 足 2001年（平成13年）

登録人数 12人（男性1人、女性11人）

活動内容

案内ボランティア

初再診手続きのサポート、車いす患者の介助、診察・検査等場所の案内

図書ボランティア

外来図書コーナー、病棟図書コーナーの管理

ものづくりボランティア

患者さんや、図書の寄付者へのプレゼント作り

ガーデンボランティア

ニッセイ四季彩ガーデンの手入れ

8. 広報関係（各種メディア、表彰等）

(1) 表彰

- ・「癒しと安らぎの環境賞」（「癒しと安らぎの環境賞」フォーラム2022）



医学情報誌 「集中」 当院掲載ページ

(2) 監修（日本生命関連）

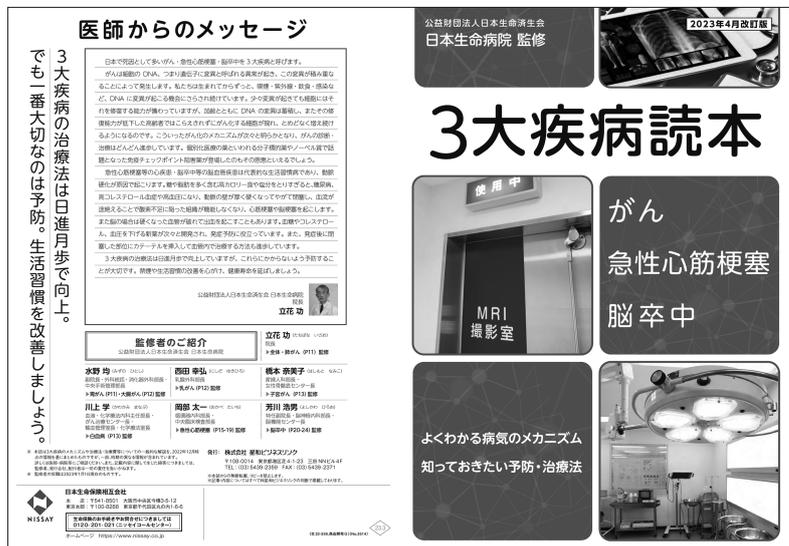
- ・3大疾病読本（2023年度版）
- ・NISSAYデータブック（2023年度版）
- ・日本生命職員向け番組「ナイスネット」



日本生命営業職員向け番組「ナイスネット」の様子



NISSAYデータブック（2023年度版）



3大疾病読本（2023年度版）

9. 院内行事

〈2022年〉

4月1日	・2022年度新入職員入会式
4月1日	・2022年度進発式
4月15日	・よくわかる健康講座(4月15日、5月13日、6月3日、7月8日、8月19日、9月9日、10月7日、12月9日、1月13日、2月3日、3月10日)
4月20日	・CS・ES進発
5月9日	・監査法人トーマツによる会計監査(5/5~5/18、6/30、11/14~11/17、2/20~2/24、3/16~3/17、3/31)
5月13日	・日本生命病院 医学セミナーUpdate(~2/3まで全10回)
5月13日	・CPC(5月13日、6月10日、10月4日、11月11日、1月6日、2月10日、3月10日)
6月2日	・日本生命済生会理事会
6月6日	・ニッセイ看護フェア(デジタルサイネージにて 6/6~6/20)
6月20日	・日本生命済生会評議員会
6月21日	・日本生命病院 地域医療支援運営委員会(6/21、9/20、12/20、3/14)
6月21日	・2021年度決算報告会ならびに度表彰式
6月24日	・日本生命病院 地域連携看護セミナー(6/24、9/16、3/24)
7月1日	・日生稲荷神社・日生白玉神社 神事(稲荷祭)
7月12日	・第1回人権研修「外国人住民の人権課題」
7月23日	・第23回あわぎフォーラム(特別講演:大阪医科薬科大学医学部内科学講座内科学Ⅲ教室 星賀正明教授)
7月23日	・開放型病院登録医総会
7月23日	・開放型病院運営委員会
7月25日	・安否確認訓練(7/25、11/14)
8月21日	・日本生命病院JMECC(8/21、2/26)
8月21日	・母子家庭の母親を対象とした第13回「無料乳がん検診・健康診査」
9月2日	・大阪880万人訓練
9月9日	・消防・防災訓練(9月9日、11月25日)
9月28日	・新入職員リフレッシュ研修
10月4日	・医療安全研修、個人情報保護に関する研修
10月18日	・院内感染対策委員会 第46回教育講演
10月21日	・2022年度下期進発式、日本生命病院医学賞・医学奨励賞表彰式、永年勤続表彰
11月9日	・篤志解剖者慰霊祭
11月10日	・ストレスチェックに関する講演
11月11日	・日本生命病院 いい皮膚の日
11月18日	・西区健康セミナー 糖尿病フェア
12月5日	・医療ガスの安全な取扱い研修会
12月7日	・保健所立ち入り検査
12月20日	・保険診療講習会「適時調査について」
12月22日	・人権研修会「LGBTについて」

〈2023年〉

1月4日	・新年互礼会
1月11日	・認知症ケア研修会
1月27日	・第2回医療安全研修
1月30日	・適時調査（近畿厚生局）
2月4日	・日本生命病院 産業医セミナー
2月13日	・ジャパンインターナショナルホスピタルズ 認証審査
2月15日	・地域薬業連携研修会
2月17日	・輸血療法講演会
2月21日	・2年目研修医 臨床研修発表会
2月25日	・日本生命病院 緩和ケア研修会
2月28日	・院内感染対策委員会 第47回教育講演
3月2日	・1年目研修医 症例報告会
3月10日	・世界腎臓デー市民健康講座
3月20日	・日本生命済生会理事会・評議員会

公益財団法人 日本生命済生会

日本生命病院年報

公第11巻（通算第22巻） 2023年12月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院 年報WG
発 行 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院
住 所 〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番54号
T E L (06) 644-33-446（代表）
U R L <https://www.nissay-hp.or.jp/>